

一般国道9号線改築工事（駆馳山バイパス）に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県岩美郡岩美町

# 小畠古墳群

2002

財団法人 鳥取県教育文化財団

## 鳥取県教育文化財団調査報告書75

一般国道9号線改築工事(馳山バイパス)に係る

## 埋蔵文化財発掘調査報告書

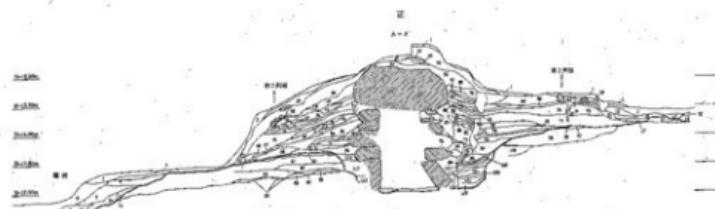
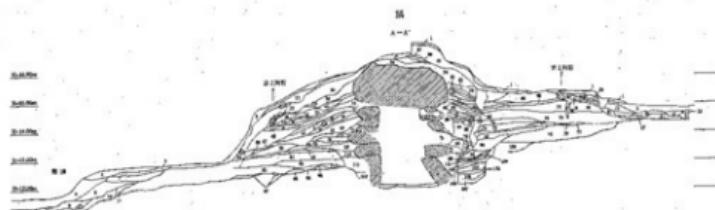
鳥取県岩美町『小畠古墳群』

2002 鳥取県教育文化財団

## 正誤表

お手数ですが、以下の通り訂正の上、ご活用ください

| ページ   | 行          | 誤                  | 正                                   |
|-------|------------|--------------------|-------------------------------------|
| 挿図目次  | 挿図15       | 4号墳北西側外護列石立面図      | 4号墳北西側外護列石平・立面図                     |
| 図版目次  | PL.59      | 2.SX1 碑検出          | 2.SX1 割石検出                          |
| 3     | 14行目       | (7月1日~14年3月31日)    | 削除                                  |
| 5     | 27行目       | 岩美町教育委員会           | 岩美町教育委員会(1991)                      |
| 6     | 遺跡地図       | 8、11、32、47、56      | 左記範囲網かけ                             |
| 16    | 8行目        | ガラス小玉1、管玉1、耳環2     | ガラス小玉1、ガラス葉玉5、水晶製切子玉1、碧玉斜管玉1、耳環2    |
| 16    | 16行目       | 石棺床石羨道部左側の         | 石棺手前側の                              |
| 17    | B-B'注記     | 58 黒褐色粘質ローム        | 58 黒褐色粘質土                           |
| 17    | C-C'断面図    | 石棺床石               | 石棺底石                                |
| 17    | C-C'注記     | 7 黄灰褐色土 ローム        | 7 黄灰褐色土                             |
| 55    | A-A'断面図    | 地山を示す太線の位置<br>下図参照 | 7、8、11層の下面、60、76~78、109層の上面<br>下図参照 |
| 76    | 33行目       | Po34~60は道状造構や      | Po34~60は前庭部(道状造構)や                  |
| 90    | Po154      | S=1/6スケール          | 削除                                  |
| 91    | 13行目       | Po154は大型窓である。      | Po154は中型窓である。                       |
| 91    | 32行目       | 182が横に張り出しで、Po181は | 182が横に張り出し、Po181は                   |
| 94    | 28・31・34行目 | 杯                  | 壺                                   |
| 96    | 4・5行目      | 杯                  | 壺                                   |
| 97    | 1行目        | 杯                  | 壺                                   |
| 105   | 19行目       | 鉤部                 | 鉤部                                  |
| 108   | 14行目       | 下端は欠損するが吊り金具が付く    | 下端は欠損するが鉤部が付く                       |
| 149   | 20行目       | 7世紀台まで使用           | 7世紀代まで使用                            |
| 150   | 22行目       | 地山直上に葬り            | 地山直上に葬り                             |
| PL.59 |            | 2. SX1 切石検出(北西から)  | 2. SX1 割石検出(北西から)                   |
| 報告書抄録 | コード・遺跡図    | 1-7(6号墳)           | 1-7(7号墳)                            |
| 報告書抄録 | コード・遺跡図    | 1-8(7号墳)           | 1-8(6号墳)                            |



一般国道9号線改築工事（駆馳山バイパス）に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県岩美郡岩美町

# 小畠古墳群

2002

財団法人 鳥取県教育文化財団



石室内出土 馬具

CPL.2 小烟 4号填



石室内出土 马具



1. 6号填石室内出土 馬具(革金具・表)



2. 4号填石室内出土 馬具(鐵金具・表)

CPL.4 小烟古填群



6号填



3号填



4号填



5号填



6号填

石室内出土 刀装具，棺金具，装身具



1. 調査区遠景（南から）



2. 調査区遠景（東から）

CPL.6 小畠5号墳



1. 墳丘土層（北西から）



2. 墳丘土層（南東から）



3. 南西側墳丘土層（北西から）



4. 北東側墳丘土層（南東から）



5. 北西侧墳丘土層（南西から）



6. 南西側墳丘土層（北西から）

小畠5号墳 CPL.7



1. 墳丘全景（西から）



2. 墓道遺物出土状況（北西から）

CPL.8 小畠4・6号墳



1. 4号墳 墓丘土層（南東から）



2. 6号墳-4号墳間 墓丘土層（北西から）



1. 4号墳-6号墳間 墓丘土層（南東から）



2. 4号墳 北東側墓丘土層（南東から）

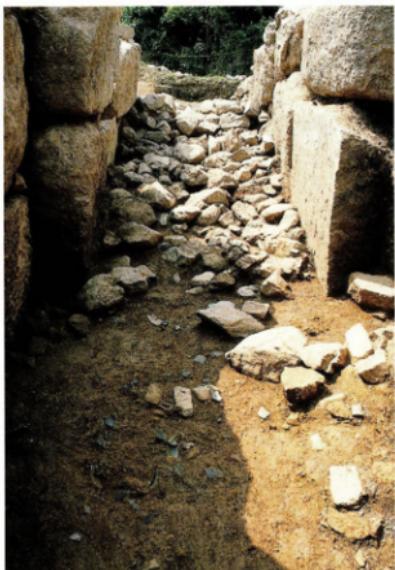
CPL.10 小畠 3号墳



1. 玄室内 遺物出土状況（南から）



2. 玄室内 遺物出土状況（西から）



1. 玄門 遺物出土状況（南東から）



2. 玄室 遺物出土状況（南東から）



3. 玄門 遺物出土状況（北東から）

## 序

岩美町は、風光明媚な山陰海岸国立公園を擁するだけでなく、原始・古代遺跡も多い歴史に恵まれた環境にあります。近年の発掘調査では、縄文時代以降の多くの資料が報告されており、古墳時代には町内各地に多数の古墳群が確認されています。また、白鳳時代には岩井廃寺（弥勒寺）があり、その塔跡は国の史跡に指定されています。この地域が因幡国と但馬国とを結ぶ交通の要所であったであろうことが充分に推察されます。

このたび、一般国道9号の改築工事に伴い、平成12年度から13年度の2カ年にわたり、小畠古墳群の発掘調査を行いました。

鶴馳山裾部には多くの古墳があり、昭和54年にはこの中の小畠8号墳が調査され、ほぼ7世紀初頭の築造と報告されています。また小畠1号墳は「穴観音」と呼ばれ、因幡地方でも最大級の横穴式石室をもつ古墳です。

今回は小畠3・4・5・6・7号墳が調査され、いずれも県内屈指の規模の石室をもつものでありました。また、家形石棺をはじめとする多くの遺物が出土し、畿内政権とのつながりを窺わせるせる貴重な資料を知ることができました。また、町内ではまだ数少ない縄文時代の遺構・遺物も確認できました。

近年、各種開発事業に伴い多くの発掘調査が行われ、先人の残した文化的遺産としての埋蔵文化財も大きく影響を受けています。この貴重な歴史資料を残し後世に伝えることは、私達の責務であると考えます。今回、このように調査成果を報告書にまとめることができましたが、本報告書が教育および学術研究のため広く活用され、郷土の歴史を解き明かしていく一助になるよう期待するとともに、文化財に対する理解や認識がより深まれば幸いです。

終わりに、今回の発掘調査を実施するにあたり、国土交通省中国地方整備局鳥取工事事務所ならびに地元の方々をはじめとする関係各位の多大なるご指導、ご協力に対し感謝を捧げるとともに、発掘調査に従事していただいた皆様へ、厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

財団法人 烏取県教育文化財団  
理事長 有田博充

## 序 文

国土交通省が直轄管理する一般国道9号は、京都市を起点として福知山・豊岡を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、中国山地を越えて下関に至る延長約691kmの幹線道路であり、西日本の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち国土交通省中国地方整備局鳥取工事事務所では、岩美郡岩美町（鳥取・兵庫県境）から気高郡青谷町までの約48.5kmを管理しており、広域交流を進める道づくり、くらしを豊かにする道づくり等各種の道路整備事業を実施しています。その一つに一般国道9号の交通混雑を緩和するため、勝駒山バイパスの整備を進めています。

このルートには周知の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき文化庁へ通知した結果、事前に発掘調査を行い記録保存することとなりました。

平成12年度から平成13年度にかけて、「小畠古墳群」について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査委託契約を締結し、発掘調査が行われました。本書はこの調査結果を、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する理解を深め、広く活用されることを望みますとともに、国土交通省としても、道路事業の実施にあたっては文化財保護に深い关心をもち、記録保存に努力していることに対して皆様に理解いただけることを期待するものであります。

終わりに、事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の作成に至るまでご尽力いただいた鳥取県教育委員会および財団法人鳥取県教育文化財団の関係者各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成14年3月

国土交通省中国地方整備局  
鳥取工事事務所長 廣川 誠一

## 例　　言

1. 本報告書は、「一般国道9号改築工事（鷹馳山バイパス）に係る埋蔵文化財調査」として実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本報告書に収載した遺跡の所在地は、以下のとおりである。  
岩美郡岩美町大谷字小平野1,237-1~4、1,240、1,240-1、1,245~1,262、1,257-1~4、1,255-1、1,260-1、1,231、1,233、1,233-1・2・5、1,234、1,235-1~3
3. 本報告書で使用した方位、座標値は平面直角座標V系に據る。レベルは海拔高を示す。
4. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図「浜坂」を使用した。
5. 本発掘調査に当たり、考古学的現地指導を立命館大学の和田晴吾氏に、石室石材鑑定、地質学的現地指導を放送大学の赤木三郎氏に、出土品の保存処理指導を独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所の肥塙隆保氏、高妻洋成氏にお願いした。
6. 本報告にあたり、現地の基準点測量、地形測量、空中写真撮影、遺構の写真測量・手計測、出土した赤色顔料の自然化学分析を専門業者にそれぞれ委託した。
7. 遺物の実測・浄書は室内整理作業員が行った。
8. 掲載図面は、調査員が作成したものを室内整理作業員が浄書を行った。
9. 現場での遺構写真撮影は調査員が行い、遺物の写真撮影は奈良文化財研究所の牛嶋茂氏、杉本和樹氏に依頼した。
10. 発掘調査によって作成された図面、写真等の記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
11. 本報告書の作成は、調査員の協議に基づいて執筆及び編集した。
12. 現地調査及び報告書の作成に当たっては上記の方々のほか、多くの方々からご指導、ご助言及びご支援いただいた。明記して深謝いたします。(敬称略)

稻田 孝司 大谷 晃二 金関 恕 岸本 直文 木場 幸弘 柳原 博英 佐古 和枝  
佐原 真澤 一則 鈴木 一有 辻 信広 中野 知照 名越 勉 西尾 克己  
西村昭次郎 藤田 憲司 前坂 尚志 前田 彰 松尾 充晶 山内 紀嗣 渡辺 貞幸  
岩美町教育委員会

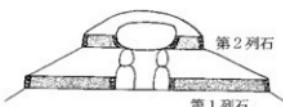
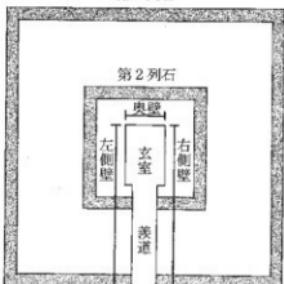
## 凡　例

1. 遺跡名の略号はOBとして、図面、出土遺物に注記している。これは調査中に遺跡名を [OBATAKE] と呼称していたためである。
2. 本報告書における遺物番号は次のように記す。  
Po : 土器 M : 金属製品 S : 石器 J : 玉類
4. 本報告書における遺構番号は次のように記す。  
SK : 土坑 SX : 性格不明遺構 P : ピット
5. 本文中、挿図中及び写真図版中の遺物番号は一致する。
6. 土器実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、瓦質土器は網掛け、それ以外は白抜きで表した。
7. 金属製品実測図は断面を網掛けした。鉄止めなどの部品を組み合わせた部分は、構造をわかりやすく示すために黒塗りを用いた。
8. 石器実測図の網掛け範囲は、磨石、砥石の使用面、研磨面を表す
9. 遺物実測図中における記号は以下のとおりである。  
→ : ケズリの方向 ← → : 石器使用痕跡範囲
10. 遺物観察表については以下のとおりとする。
  - (1) 土器についての法量は、口径、胴部径、底径、器高を記載している。径値は復元値を含む。
  - (2) 石器についての法量は、最大長、最大幅、最大厚、質量を記載している。
  - (3) 玉類についての法量は、最大径、最大厚、最大孔径を記載している。
11. 発掘調査時の遺構名は報告書掲載時に変更を行っているものがある。対照表を以下に掲載した。

| 新遺構名 | 旧遺構名         | 新遺構名 | 旧遺構名          | 新遺構名  | 旧遺構名 | 新遺構名  | 旧遺構名 |
|------|--------------|------|---------------|-------|------|-------|------|
| SK5  | SK6-1        | P150 | SK8           | 3-P7  | P165 | 3-P13 | P170 |
| SK6  | SK6-2        | P151 | SK9(D11グリッド)  | 3-P8  | P166 | 3-P14 | P171 |
| SK7  | SK9(B7グリッド)  | P152 | SK10          | 3-P9  | P167 | 3-P16 | P173 |
| SK8  | SK11(B7グリッド) | P153 | SK11(D11グリッド) | 3-P10 | P168 | 3-P17 | P174 |
| P148 | SK5          | P154 | SK12          | 3-P11 | P169 |       |      |
| P149 | SK7          | P155 | SK13          | 3-P12 | P172 |       |      |

12. 古墳の各部名称は以下の図のとおりとする。石室内の空間呼称は、入り口から石室内部に向かって右・左、前方を奥とする。(例: 右袖、奥壁、左側壁)

第1列石



古墳模式図・各部名称

## 総 目 次

カラー図版

序

序文

例言

凡例

目次

### 第1章 調査の経緯

|               |   |
|---------------|---|
| 第1節 発掘調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査の経過と方法  | 2 |
| 第3節 調査体制      | 2 |

### 第2章 位置と環境

|           |   |
|-----------|---|
| 第1節 地理的環境 | 4 |
| 第2節 歴史的環境 | 4 |

### 第3章 小畠古墳群の調査

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 第1節 遺跡の概要と調査の方法 | 7   |
| 第2節 調査地内の堆積     | 8   |
| 第3節 古墳時代の調査     | 15  |
| 第4節 古墳時代以外の調査   | 75  |
| 第5節 古墳時代の遺物     | 78  |
| 第6節 古墳時代以外の遺物   | 123 |

|              |     |
|--------------|-----|
| 小畠古墳群出土遺物観察表 | 131 |
| 石棺計測表        | 143 |
| 小畠古墳群一覧表     | 144 |
| 天井石重量表       | 145 |
| 小畠古墳群変遷表     | 146 |

### 第4章 まとめ

|              |     |
|--------------|-----|
| 第1節 小畠古墳群の歴史 | 147 |
| 第2節 古墳群の変遷   | 148 |
| 第3節 墳丘と石室構造  | 149 |
| 第4節 おわりに     | 152 |

図版

## 挿図目次

|   |    |   |     |
|---|----|---|-----|
| 挿図1 小畠古墳群調査区位置図<br>及び古墳位置図                  | 1  | 挿図38 5号墳石棺出土状況図                             | 62  |
| 挿図2 周辺の遺跡                                   | 6  | 挿図39 5号墳埴丘上遺物出土状況図                          | 62  |
| 挿図3 小畠古墳群調査前地形測量図                           | 9  | 挿図40 7号墳埴丘平面図                               | 64  |
| 挿図4 調査区基本層序                                 | 10 | 挿図41 7号墳埴丘土層・石室内土層断面図                       | 67  |
| 挿図5 小畠古墳群調査後地形測量図                           | 11 | 挿図42 7号墳石室半・立面図                             | 69  |
| 挿図6 各古墳立地図                                  | 13 | 挿図43 7号墳石室・掘形平面図                            | 71  |
| 挿図7 3号墳埴丘平面図                                | 14 | 挿図44 7号墳石棺出土状況図                             | 72  |
| 挿図8 3号墳埴丘土層・石室内土層断面図                        | 17 | 挿図45 7号墳石室内遺物出土状況図                          | 73  |
| 挿図9 3号墳石室半・立面図                              | 19 | 挿図46 SX1                                    | 75  |
| 挿図10 3号墳石室・掘形平面図                            | 21 | 挿図47 SK1                                    | 76  |
| 挿図11 3号墳石棺出土状況図                             | 22 | 挿図48 SK2~8                                  | 77  |
| 挿図12 3号墳石室内遺物出土状況図                          | 23 | 挿図49 3号墳玄室内・羨道出土土器                          | 79  |
| 挿図13 3号墳前部遺物出土状況図                           | 25 | 挿図50 3号墳羨道出土土器                              | 80  |
| 挿図14 4・6号墳埴丘平面図                             | 26 | 挿図51 3号墳出土土器                                | 81  |
| 挿図15 4号墳北西側外護列石立面図(上図)<br>外護列石周辺遺物出土状況図(下図) | 29 | 挿図52 3号墳石室外出土土器                             | 82  |
| 挿図16 4号墳北東側外護列石半・立面図                        | 30 | 挿図53 3号墳周溝南西側出土土器                           | 83  |
| 挿図17 4号墳埴丘土層・石室内土層断面図                       | 31 | 挿図54 4号墳石室内出土土器                             | 85  |
| 挿図18 4号墳石室半・立面図                             | 33 | 挿図55 4号墳石室内出土土器・土鍤                          | 86  |
| 挿図19 4号墳石室・掘形平面図                            | 35 | 挿図56 4号墳石室内出土土器                             | 87  |
| 挿図20 4号墳石室内遺物出土状況図(1)                       | 36 | 挿図57 4号墳石室内出土土器                             | 88  |
| 挿図21 4号墳石室内遺物出土状況図(2)                       | 37 | 挿図58 4号墳石室内一括出土土器                           | 89  |
| 挿図22 4号墳排水施設実測図                             | 38 | 挿図59 4号墳石室外出土土器                             | 90  |
| 挿図23 6号墳埴丘土層・石室内土層断面図                       | 41 | 挿図60 6号墳石室内出土土器                             | 92  |
| 挿図24 6号墳石室半・立面図                             | 43 | 挿図61 6号墳石室内出土土器                             | 93  |
| 挿図25 6号墳石室・掘形平面図                            | 45 | 挿図62 5号墳石室外出土土器                             | 95  |
| 挿図26 6号墳石室内遺物出土状況図(1)                       | 46 | 挿図63 5号墳石室内出土土器                             | 96  |
| 挿図27 6号墳石室内遺物出土状況図(2)                       | 47 | 挿図64 5号墳石室内・石室外出土土器                         | 97  |
| 挿図28 6号墳排水施設実測図                             | 48 | 挿図65 7号墳石室内出土土器                             | 98  |
| 挿図29 5号墳埴丘平面図                               | 51 | 挿図66 7号墳石室外出土土器                             | 99  |
| 挿図30 5号墳埴丘立面図(北西側)                          | 53 | 挿図67 小畠古墳群出土土器                              | 100 |
| 挿図31 5号墳埴丘立面図(北東側)                          | 53 | 挿図68 小畠古墳群出土石器<br>(礫石器、磨製石斧、砥石)             | 101 |
| 挿図32 5号墳埴丘立面図(南西側)                          | 54 | 挿図69 3号墳出土馬具(轡)                             | 103 |
| 挿図33 5号墳埴丘土層・石室内土層断面図                       | 55 | 挿図70 3号墳出土馬具<br>(鞚、障泥吊り金具、鐙、銅具)             | 104 |
| 挿図34 5号墳石室半・立面図                             | 57 | 挿図71 3号墳出土馬具(革金具)                           | 105 |
| 挿図35 5号墳石室・掘形平面図                            | 59 | 挿図72 4号墳出土馬具(辻金具、杏葉・鏡板、<br>礪金具、銅具、革金具、吊り金具) | 106 |
| 挿図36 5号墳石室内遺物出土状況図(1)                       | 60 |   |     |
| 挿図37 5号墳石室内遺物出土状況図(2)                       | 61 |   |     |

|      |   |     |
|------|---|-----|
| 挿図73 | 4号墳出土馬具                                       | 118 |
|      | (州浜金具、礪金具、障泥吊り金具) ..... 107                   |     |
| 挿図74 | 6号墳出土馬具(鞍、鉸具、革金具) ..... 108                   | 120 |
| 挿図75 | 5号墳出土馬具(障泥吊り金具、鐙、<br>鞍、鉸具、革金具、吊り金具) ..... 109 | 120 |
| 挿図76 | 7号墳出土馬具<br>(轡、鐙、鞍、鉸具、飾紙) ..... 110            | 120 |
| 挿図77 | 7号墳出土馬具(革金具) ..... 111                        | 124 |
| 挿図78 | 3・4・5・6・7号墳出土武具(大刀),<br>生產用具(刀子、鎌) ..... 113  | 125 |
| 挿図79 | 3・6・7号墳出土武具(鐵鎌) ..... 114                     | 126 |
| 挿図80 | 3・4・6号墳出土裝身具(銅製耳環) ..... 115                  | 128 |
| 挿図81 | 3・4・6号墳出土裝身具(玉類) ..... 115                    | 129 |
| 挿図82 | 3・7号墳出土釘 ..... 116                            | 153 |
| 挿図83 | 3・5・6号墳出土棺金具 ..... 117                        | 155 |
| 挿図84 | 3号墳出土石棺 ..... 118                             | 157 |
| 挿図85 | 3号墳出土不明石材(棺10) ..... 120                      |     |
| 挿図86 | 5号墳出土石棺材 ..... 120                            |     |
| 挿図87 | 7号墳出土石棺 ..... 120                             |     |
| 挿図88 | SK1・3・6遺構外出土攏文土器 ..... 122                    |     |
| 挿図89 | SK1出土石器(石鎌・磨製石斧) ..... 124                    |     |
| 挿図90 | SK1・3・6出土石器(石錐・礪石器) ..... 125                 |     |
| 挿図91 | 小畠古墳群出土石器(石鎌) ..... 126                       |     |
| 挿図92 | 小畠古墳群出土石器(石鎌) ..... 127                       |     |
| 挿図93 | 小畠古墳群出土弥生土器・土錐 ..... 128                      |     |
| 挿図94 | 小畠古墳群出土中世土器・陶磁器・古錢<br>..... 129               |     |
| 挿図95 | 小畠8号墳実測図・各古墳略測図 ..... 153                     |     |
| 挿図96 | 小畠古墳群築造規格図 ..... 155                          |     |
| 挿図97 | 各古墳平面プラン規格図 ..... 157                         |     |

## 図版目次

|         |  |  |
|---------|--|--|
| CPL. 1  | 3・4号墳 石室内出土 馬具   | 2. 4号墳 玄室 遺物出土状況                             |
| CPL. 2  | 4号墳 石室内出土 馬具   | 3. 4号墳 玄門 遺物出土状況                             |
| CPL. 3  | 1. 6号墳 石室内出土 馬具(革金具・表)<br>2. 4号墳 石室内出土 馬具(礪金具・表)   | PL. 1 調査範囲(航空写真)                             |
| CPL. 4  | 3~6号墳 石室内出土 刀装具・金具・<br>装身具   | PL. 2 1. 3号墳 調査前<br>2. 3号墳 天井石除去前            |
| CPL. 5  | 1. 調査区遠景<br>2. 調査区遠景   | PL. 3 1. 3号墳 天井石除去前<br>2. 3号墳 墳丘全景           |
| CPL. 6  | 1. 5号墳 墳丘土層<br>2. 5号墳 墳丘土層<br>3. 5号墳側墳丘土層<br>4. 5号墳北東側墳丘土層<br>5. 5号墳北西側墳丘土層<br>6. 5号墳南西側墳丘土層 | PL. 4 1. 3号墳 前庭部<br>2. 3号墳 前庭部 土器出土状況        |
| CPL. 7  | 1. 5号墳墳丘全景<br>2. 5号墳羨道遺物出土状況   | PL. 5 1. 3号墳 家形石棺出土状況<br>2. 3号墳 家形石棺出土状況     |
| CPL. 8  | 1. 4号墳 墳丘土層<br>2. 6号墳-4号墳間 墳丘土層  | PL. 6 1. 3号墳 石棺前 遺物出土状況<br>2. 3号墳 玄門 鉄製品出土状況 |
| CPL. 9  | 1. 4号墳-6号墳間 墳丘上層<br>2. 4号墳 北東側墳丘土層   | PL. 7 1. 3号墳 玄室袖部 遺物出土状況<br>2. 3号墳 羨道 遺物出土状況 |
| CPL. 10 | 1. 3号墳 玄室内 遺物出土状況<br>2. 3号墳 玄室内 遺物出土状況   | PL. 8 1. 3号墳 羨道 閉塞状況<br>2. 3号墳 羨道 閉塞状況       |
| CPL. 11 | 1. 4号墳 玄門 遺物出土状況   | PL. 9 3号墳 石棺床材と玄室底面ピット検出状況                   |
|         |  | PL. 10 1. 3号墳 石室玄門<br>2. 3号墳 石室奥壁            |
|         |  | PL. 11 1. 3号墳 石室全景                           |
|         |  | PL. 12 2. 3号墳 玄室底面ピット                        |
|         |  | PL. 13 1. 3号墳 玄室底面ピット                        |

|       |        |                |       |            |             |
|-------|--------|----------------|-------|------------|-------------|
|       | 2. 3号墳 | 玄室底面ピット        | PL.29 | 6号墳        | 排水施設 檜出状況   |
|       | 3. 3号墳 | 玄室底面ピット        | PL.30 | 1. 6号墳     | 羨道 排水施設     |
|       | 4. 3号墳 | 玄室底面ピット        |       | 2. 6号墳     | 前庭部 排水施設    |
|       | 5. 3号墳 | 石室石材除去後        |       | 3. 6号墳     | 右袖部ピット内須恵器  |
| PL.14 | 1. 4号墳 | 調査前            |       | 4. 6号墳     | 排水施設 支流1    |
|       | 2. 4号墳 | 調査前            |       | 5. 6号墳     | 排水施設 支流2    |
| PL.15 | 1. 4号墳 | 天井石除去前         | PL.31 | 1. 排水施設    | 蓋石除去後       |
|       | 2. 4号墳 | 側壁石材崩壊状況       |       | 2. 排水施設    | 蓋石除去後       |
| PL.16 | 1. 4号墳 | 墳丘全景           |       | 3. 6号墳     | 石室羨門        |
|       | 2. 4号墳 | 北東・北西側外護列石転落状況 | PL.32 | 1. 6号墳     | 石室玄門        |
| PL.17 | 1. 4号墳 | 南西側周溝内礫出土状況    |       | 2. 6号墳     | 石室奥壁        |
|       | 2. 4号墳 | 南東側周溝内礫出土状況    | PL.33 | 1. 6号墳     | 羨道 右側壁      |
|       | 3. 4号墳 | 北東側外護列石        |       | 2. 6号墳     | 羨道 左側壁      |
| PL.18 | 1. 4号墳 | 北東側外護列石        |       | 3. 6号墳     | 玄室 左側壁      |
|       | 2. 4号墳 | 北東側外護列石        |       | 4. 6号墳     | 玄室 右側壁      |
| PL.19 | 1. 4号墳 | 北東側外護列石        |       | 5. 6号墳     | 石室奥壁の背部     |
|       | 2. 4号墳 | 羨道 閉塞状況        | PL.34 | 1. 6号墳     | 南西側盛土断面     |
| PL.20 | 1. 4号墳 | 羨道 閉塞状況        |       | 2. 6号墳     | 北東側盛土断面     |
|       | 2. 4号墳 | 閉塞石中須恵器出土状況    | PL.35 | 1. 6号墳     | 石室掘形        |
|       | 3. 4号墳 | 閉塞石下須恵器出土状況    |       | 2. 6号墳     | 石室掘形        |
|       | 4. 4号墳 | 羨道 排水施設検出状況    |       | 3. 6号墳     | 石室掘形        |
|       | 5. 4号墳 | 玄門 須恵器出土状況     |       | 4. 4号墳・6号墳 | 石室掘形        |
| PL.21 | 1. 4号墳 | 排水施設 蓋石除去後     | PL.36 | 1. 5号墳     | 調査前         |
|       | 2. 4号墳 | 石室と北西側外護列石     |       | 2. 5号墳     | 墳丘全景        |
| PL.22 | 1. 4号墳 | 石室羨門           | PL.37 | 1. 5号墳     | 墳丘全景        |
|       | 2. 4号墳 | 石室奥壁           |       | 2. 5号墳     | 墳丘全景        |
|       | 3. 4号墳 | 石室玄門           | PL.38 | 1. 5号墳     | 南西側外護列石転落状況 |
| PL.23 | 1. 4号墳 | 玄室左奥           |       | 2. 5号墳     | 南西側周溝内礫出土状況 |
|       | 2. 4号墳 | 玄室右側壁          | PL.39 | 1. 5号墳     | 玄室 調査前      |
|       | 3. 4号墳 | 玄室右袖部          |       | 2. 5号墳     | 羨道 閉塞状況     |
|       | 4. 4号墳 | 玄室左袖部          | PL.40 | 5号墳        | 家形石棺出土状況    |
| PL.24 | 1. 4号墳 | 石室掘形           | PL.41 | 1. 5号墳     | 羨道 閉塞状況     |
|       | 2. 4号墳 | 南西側周溝内 ピット群    |       | 2. 5号墳     | 家形石棺出土状況    |
|       | 3. 4号墳 | 石室掘形           |       | 3. 5号墳     | 家形石棺出土状況    |
| PL.25 | 6号墳    | 墳丘全景           |       | 4. 5号墳     | 天井石除去後      |
| PL.26 | 1. 6号墳 | 表土除去後          | PL.42 | 1. 5号墳     | 石室奥壁        |
|       | 2. 6号墳 | 側壁石材崩壊状況       |       | 2. 5号墳     | 石室玄門        |
| PL.27 | 1. 6号墳 | 左側壁            | PL.43 | 1. 5号墳     | 玄室 左側壁      |
|       | 2. 6号墳 | 玄室             |       | 2. 5号墳     | 玄室 右側壁      |
| PL.28 | 1. 6号墳 | 閉塞石            |       | 3. 5号墳     | 羨道 右側壁      |
|       | 2. 6号墳 | 玄室礫床と石棺材       |       | 4. 5号墳     | 羨道 左側壁      |
|       | 3. 6号墳 | 左袖礫床           |       | 5. 5号墳     | 羨道 左側壁      |

|       |                     |        |                   |
|-------|---------------------|--------|-------------------|
|       | 6. 5号墳 羨道 右側壁       | PL.65  | 3号墳澳道部出土土器        |
| PL.44 | 1. 5号墳 墳丘除去後        | PL.66  | 3号墳出土土器           |
|       | 2. 5号墳 墳丘内列石検出状況    | PL.67  | 4号墳出土土器           |
| PL.45 | 1. 5号墳 墳丘内列石        | PL.68  | 4号墳出土土器           |
|       | 2. 5号墳 石室壁面加工痕      | PL.69  | 4号墳石室内出土土器        |
|       | 3. 5号墳 石室掘形         | PL.70  | 4号墳澳道部出土土器        |
| PL.46 | 1. 7号墳 天井石除去前       | PL.71  | 4号墳出土土器           |
|       | 2. 7号墳 天井石除去前       | PL.72  | 4号墳出土土器           |
| PL.47 | 1. 7号墳 家形石棺出土状況     | PL.73  | 4号墳石室内出土土器        |
|       | 2. 7号墳 家形石棺出土状況     | PL.74  | 4号墳出土土器           |
| PL.48 | 7号墳 石室内 遺物出土状況      | PL.75  | 4号墳玄門部出土土器        |
| PL.49 | 1. 7号墳 左側壁際 須恵器出土状況 | PL.76  | 4号墳石室内出土土器        |
|       | 2. 7号墳 左側壁際 遺物出土状況  | PL.77  | 4号墳石室内出土土器        |
|       | 3. 7号墳 右側壁際 馬具出土状況  | PL.78  | 6号墳石室内出土土器        |
|       | 4. 7号墳 右袖部 馬具出土状況   | PL.79  | 6号墳出土土器           |
| PL.50 | 7号墳 前庭部             | PL.80  | 6号墳石室内出土土器        |
| PL.51 | 1. 7号墳 家形石棺         | PL.81  | 6号墳石室内出土土器        |
|       | 2. 7号墳 棺材縄掛突起       | PL.82  | 6号墳出土土器           |
|       | 3. 7号墳 棺材縄掛突起       | PL.83  | 5号墳出土土器           |
| PL.52 | 7号墳 家形石棺 配置状況       | PL.84  | 5号墳石室内出土土器        |
| PL.53 | 1. 7号墳石棺下櫛床 檢出状況    | PL.85  | 5号墳石室内出土土器        |
|       | 2. 7号墳 石棺下櫛床        | PL.86  | 5号墳石室内出土土器        |
| PL.54 | 1. 7号墳 石室玄門         | PL.87  | 5号墳出土土器           |
|       | 2. 7号墳 石室奥壁         | PL.88  | 7号墳出土土器           |
| PL.55 | 1. 7号墳 羨道 左側壁       | PL.89  | 7号墳出土土器           |
|       | 2. 7号墳 羨道 右側壁       | PL.90  | 7号墳出土土器           |
|       | 3. 7号墳 玄室 右側壁       | PL.91  | 7号墳出土土器           |
|       | 4. 7号墳 玄室 左側壁       | PL.92  | 7号墳出土土器           |
|       | 5. 7号墳 玄室左奥         | PL.93  | 縄文土器              |
|       | 6. 7号墳 玄室右奥         | PL.94  | 4号墳出土 障泥吊り金具      |
| PL.56 | 1. 7号墳 石室と周溝        | PL.95  | 3号墳出土 緋           |
|       | 2. 7号墳 石室掘形         | PL.96  | 6号墳出土 革金具(裏)      |
| PL.57 | 7号墳丘下検出 SK3・4・5・6   |        | 4号墳出土 磁金具(裏)      |
| PL.58 | 1. SK1 遺物出土状況       | PL.97  | 3号墳出土 越金具・鉸具類     |
|       | 2. 5号墳北東側 ピット群      |        | 5号墳出土 馬具・棺金具      |
| PL.59 | 1. SX1 土層断面         | PL.98  | 3号墳出土 曹・鉸具・棺金具    |
|       | 2. SX1 櫛検出          | PL.99  | 3号墳出土 革金具         |
| PL.60 | 3号墳玄室内出土土器          | PL.100 | 7号墳出土 革金具         |
| PL.61 | 3号墳出土土器             | PL.101 | 7号墳出土 馬具          |
| PL.62 | 3号墳出土土器             | PL.102 | 3号墳出土 鐵鍊          |
| PL.63 | 3号墳出土土器             | PL.103 | 3・4・6号墳出土 武具・生產用具 |
| PL.64 | 3号墳出土土器             | PL.104 | 3・7号墳出土 武具・鐵釘     |

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 発掘調査に至る経緯

本発掘調査は、国道9号改築工事（駒馳山バイパス）を原因とし、岩美郡岩美町大谷地内の工事予定地内に存在する埋蔵文化財の記録を目的としたものである。大谷地内の工事予定地には周知の遺跡である小畠古墳群が存在し、古くは大正13年に発刊された鳥取県史頤勝地調査報告に、横穴式石室をもつ古墳として記録されている。

平成10年8月、工事に先立って岩美町教育委員会が、鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センターとともに現地踏査を行ったところ、小畠古墳群の古墳数基が工事範囲内に確認された。10月から岩美町教育委員会が国庫及び県補助金を得て試掘調査を行った結果、須恵器、弥生土器、近世陶磁器などの遺物と、5基の古墳の石室と周溝を検出し、古墳の規模と遺跡の範囲を確認した。

これを受けて国土交通省（当時建設省）中国地方整備局鳥取工事事務所は鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知を文化庁長官に提出した。その上で、記録保存のための発掘調査の指示を得た国土交通省中国地方整備局鳥取工事事務所は、発掘調査を財團法人鳥取県教育文化財団に委託した。これにより平成12年度から東部埋蔵文化財調査事務所が調査を担当することとなり、財團法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター所長から文化庁長官に文化財保護法第57条第1項に基づく発掘届を提出した。



挿図1 小畠古墳群調査区位置図及び古墳位置図

## 第2節 調査の経過と方法

調査は当初単年度で計画された。地権者の承諾と立木の伐採・搬出を待ち、6月5日から発掘作業に着手した。古墳は畑地に開墾されていて、5基中4基（3、4、6、7号墳）の古墳は、調査前から石室の天井石と側壁外面が露出し、半壊していた。現状での内部調査は危険を伴うため、4基の古墳については天井石、側壁石材の除去後に内部調査を、残り1基（5号墳）は墳丘が残り、石室が崩落を免れていることから、そのまま内部調査を行うこととした。

立木の伐採で露となった石室の姿は調査開始直後から地域住民の方々の関心を集めていた。岩美町教育委員会からの要望に応えて、地元の人たちを対象とした遺跡見学会を石材除去前に開催した。見学会のもようは報道され、小畠古墳群の調査は広く世間に知られることとなった。その後、3号墳石室からは家形石棺が出土し、5号墳が外護列石を伴う方墳であり、石室の保存状態がよいことが判明してきた。学識研究者の間では遺跡の保存を求める声が上がっていた。鳥取県は文化財保護審議会を開き、国土交通省と協議を重ね、3号墳と5号墳の移築保存が決定した。

古墳が露出していたのは上半に過ぎず、下半は周溝も含めて、向かい合う古墳どうしの空間までが後世の客土によって埋め立てられていることが判明した。予定以上の魔土の搬出に追われ、墳丘の検出に手間取り、單年度の調査終了・報告は困難な状況にあった。さらに10月6日に発生した鳥取県西部地震は調査地にも強い揺れをもたらした。余震発生のおそれもあり、現状での5号墳石室内発掘調査は安全面から見合わせざるを得なくなった。10月13日、鳥取県教育文化財団、鳥取県教育委員会事務局文化課、国土交通省中国地方整備局鳥取工事事務所の三者間で協議が行われ、1年間の調査延長が決定した。また、5号墳石室内調査は墳丘盛七、天井石、側壁石材除去後に行うことになった。12年度の調査は移築保存対象の3号墳・5号墳に重点を絞って行った。12月28日に12年度の発掘調査を終了した。

13年度は4月1日から発掘調査を再開し、前年度に継続して3号墳石室内調査、5号墳天井石除去後に石室内調査、4、6、7号墳は墳丘を検出し、石室内調査を行った。墳丘盛土と石室石材はすべて除去し、古墳を完掘した。古墳の下層で縄文時代の遺物包含層を確認し、縄文土器、石器を作う土坑を検出した。12月28日に発掘調査を終了し、翌年1月15日に調査後地形測量、現場機器撤収作業も含めたすべての現場作業を終了した。

## 第3節 調査体制

平成12年度

調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

|      |                     |
|------|---------------------|
| 理事長  | 有田 博充（鳥取県教育委員会教育長）  |
| 常務理事 | 関 敏之（鳥取県教育委員会事務局次長） |
| 事務局長 | 岡山 宏徳               |

財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 所長     | 古井 喜紀（鳥取県埋蔵文化財センター所長） |
| 次長     | 八木谷 一昇                |
| 調整係長   | 山樹 雅美                 |
| 文化財主事  | 高垣 陽子                 |
| 主任事務職員 | 矢部 美恵                 |
| 事務職員   | 田中 陽子                 |

調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター東部埋蔵文化財調査事務所駒山バイパス関係

|        |       |
|--------|-------|
| 所長（兼務） | 八木谷 升 |
| 調査員    | 家塙 英詞 |
| 調査員    | 森本 健弘 |
| 補助員    | 佐藤 謙  |

平成13年度

調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

|      |                     |
|------|---------------------|
| 理事長  | 有田 博充（鳥取県教育委員会教育長）  |
| 常務理事 | 関 敏之（鳥取県教育委員会事務局次長） |
| 事務局長 | 岡山 宏徳               |

財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

|         |                      |
|---------|----------------------|
| 所長      | 中村 登（鳥取県埋蔵文化財センター所長） |
| 次長      | 小林 勉（6月末まで）          |
| 次長兼調整係長 | 加藤 隆昭（7月1日～14年3月31日） |
| 文化財主事   | 高垣 陽子                |
| 主任事務職員  | 矢部 美恵                |
| 事務職員    | 大川 秋子                |

調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター東部埋蔵文化財調査事務所駒山バイパス関係

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 所長（兼務） | 小林 勉（6月末まで）          |
| "      | 加藤 隆昭（7月1日～14年3月31日） |
| 調査員    | 家塙 英詞                |
| 調査員    | 中村 康子                |
| 補助員    | 佐藤 謙                 |

調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

和田 晴吾（立命館大学）、赤木 三郎（放送大学）

下記の方々に発掘作業、整理作業に従事、協力いただいた。

|       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 飯野 見  | 稻村 良一 | 上嶋 徹  | 太田 弘道 | 奥山 光子 | 川口きみ子 | 川部 征男 |
| 川部 富子 | 小林 友宏 | 澤 司   | 澤 ヒサエ | 澤 裕子  | 澤 美津代 | 澤 洋子  |
| 澤 凱夫  | 澤 善巳  | 澤 賴光  | 高瀬 稔  | 土堂美代子 | 中尾 篤廣 | 西村 經男 |
| 橋本やえ子 | 濱田吉之助 | 樹本ふじの | 丸山 雄史 | 宮本よし子 | 村島 永治 | 森下 稔雄 |
| 山内 薫吉 | 山本 吉春 | 米沢 文喜 | 伊藤恵美子 | 福田八千代 | 井上 通子 | 松本美佐子 |

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

小畠古墳群が所在する岩美町は鳥取県東端に位置し、北は日本海に面し、南は岩美郡国府町、東は兵庫県美方郡浜坂町及び同郡温水町、西は岩美郡福部村に接している。南部・東部の山地は急峻で北に面する海岸線にも山塊がせまっている。町域の南東から北西に向かって流れる蒲生川は南部より北流する小田川と合流し、日本海に注いでいる。小畠古墳群は蒲生川の西部、駒馳山南東麓に位置し、砂丘後背地を見下ろす丘陵上に立地している。町内の地形を大別すると侵食された中国山地、河谷谷高原、海岸部の花崗岩ブロック、駒馳山、蒲生川を中心とした沖積平野と海岸砂丘に分けられる。

駒馳山（314m）は中国山地から北西方向に日本海へと延びる支脈の先端部にそびえる。中新世から鮮新世（2400万年～170万年前）にかけての火山活動で形成され、同時期に产出された火成岩を包含する崖縫上に小畠古墳群は立地する。3号墳は洪積世末（4万年前）の火山活動により堆積した大山倉吉磐石層（DKP）と呼ばれるテフラの上に築造される。

交通の面から見ると、大谷から駒馳山の南を経て福部村細川に至る道、近世では但馬往来、現在は国道9号線のルート上に位置している。

### 第2節 歴史的環境

小畠古墳群が所在する岩美町の遺跡を概観すると、旧石器時代の遺跡は確認できず、縄文時代の遺跡がその初見である。蒲生川上流域に立地する鳥越沢尻遺跡では縄文土器が採取され、その約1.5km下流の山ノ神遺跡では、縄文前期の土器片や石礫・石斧が出土している<sup>1)</sup>。蒲生川中流域では沖積平野上に立地する岩井庵寺下層遺跡が見られ、縄文晩期の深鉢形土器が出土している<sup>2)</sup>。同じ中流域の三嶋谷遺跡では、縄文後期の土器片を伴った石器工房跡が検出されている<sup>3)</sup>。下流域では今回の発掘調査で縄文中期の土器を伴った土坑が確認され、この地域にも縄文時代の遺跡があることがわかつてきた。

弥生時代に入ると、蒲生川中下流域及び小田川中流域の沖積平野上に立地する遺跡が顕著になる。当時蒲生川は小田川と合流せず北に流路をとっていたと考えられ<sup>4)</sup>、その中流域河床に立地する新井遺跡では、弥生中～後期の土器の他に太型蛤刃石斧・石包丁などの石製品が出土している。新井遺跡の北側丘陵中腹の上屋敷遺跡では流水文銅鐸が出土している。弥生時代の墳墓としては、新井三鷲谷遺跡に新井三鷲谷1号墳丘墓（方形貼石墓）・2号墳丘墓（方形墳丘墓）が存在する。発掘調査の成果から2基とも弥生時代後期初頭の築造で、特に新井三鷲谷1号墳丘墓は、南北約26.5m・東西約18m・高さ最大約3mで同時期の墳墓の中でも全国最大規模のものである<sup>5)</sup>。

小田川中流域の上太夫谷遺跡からは、弥生時代後期の堅穴住居跡や木棺墓群が検出されている。南接する上ミツエ遺跡からは弥生中期の土器が出土している。また新井51号墳の墳丘盛土中からは弥生後期の変形土器・器台形土器が出土している<sup>6)</sup>。

古墳時代には、山間部の丘陵上や河川中下流域の沖積平野周辺にも、多くの古墳が築造されるようになり、岩美町内では、約450基の古墳が存在し20余りの古墳群が確認されている。前期の古墳は町内では確認されておらず、最も古い時期の古墳としては、南谷3号墳が挙げられる。この第1主体部では副室を持つ組み合わせ式石棺が検出され、土器枕に転用された上師器高壇は4世紀後半に比定されている<sup>7)</sup>。

古墳時代後期（6～7世紀）には古墳の築造が町内各地で展開し、その多くが横穴式石室を内部主体とする群集墳である。

この時期には鳥取県下では地域的な特徴を持った横穴式石室が見られるようになり、千代川以東地域においては玄室の天井を一段高く架構するいわゆる中高式天井を採用している古墳が多くなる。なかでも高野坂8号墳は6世紀後半の築造であり中高式天井の初源形態を示すものとして注目されている。また岩美町における横穴式石室の特色として、狭長な石室を持つことが挙げられ、代表的なものとしては全長11.3mの小畠1号墳（穴観音古墳）、10.7mの満願寺谷1号墳、10.2mの弥長古墳がある。今回発掘調査された小畠3～7号墳はいずれも10mを越える石室であった。なお周辺地域には、石室に線刻壁画が施された鳥取市坊ヶ塚古墳、多角形墳で彩色壁画を持つ国府町梶山古墳などが中高式天井を有する。

石室内の埋葬形態のあり方をみると、家形石棺・柱状節理の石材を利用した箱式石棺・胸棺などに分けられる。家形石棺は、鳥取県内では今回出土したものを含め14例を数える。この内小畠古墳群の3例（3号墳・5号墳・7号墳）を含め、11例が千代川以東で見られ、岩美町内でも、高野坂古墳群で3例（2号墳・9号墳・10号墳）、満願寺谷古墳群で2例（18号墳、常智院境内）が確認されている。高野坂10号墳の家形石棺は、蓋部分が厚く作られ、長側辺に6本の縄掛突起を有していた<sup>8)</sup>。

また石室内埋葬に家形石棺を採用する古墳とは別に、柱状節理の石材を利用した箱式石棺を採用している古墳も見られる。浦富3号墳は、横穴式石室内に安山岩の柱状石を並立させ組み上げた箱式石棺を内包していた。<sup>9)</sup>

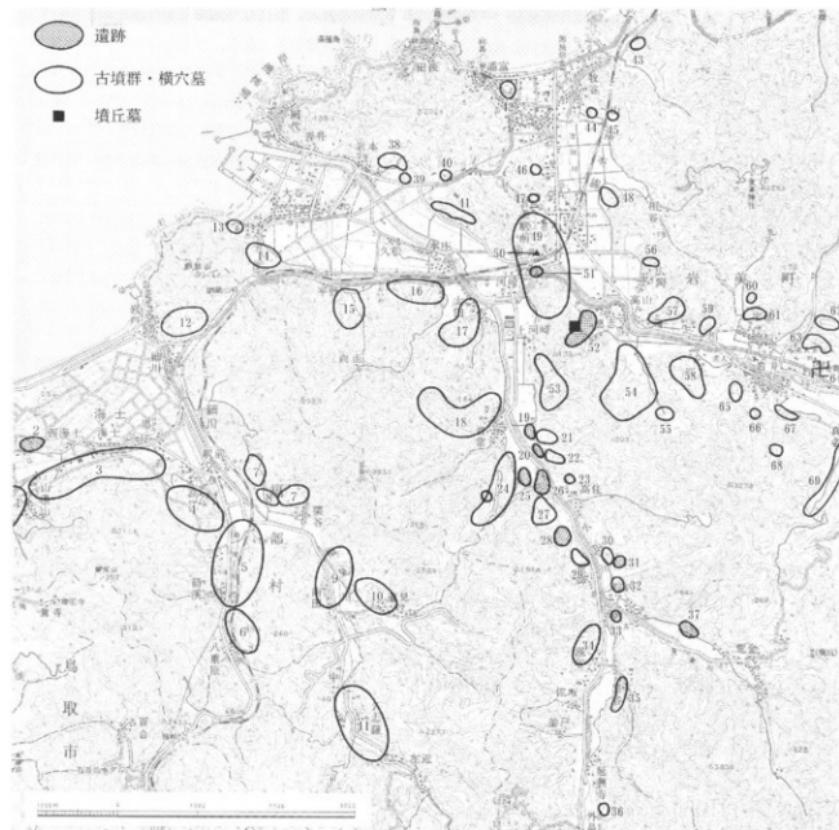
他に柱状節理の石材を埋葬施設に採用した例としては、小畠8号墳、坊谷横穴群、新井1号墳（堅穴式石室）が見られ、周辺地域では福部村海士25号墳にも見られる。

陶棺は福石遺跡で出土している。他に高野坂古墳群から藏見越を越えた南西約1kmに所在する福部村藤見の藤見3号墳でも陶棺が出土している。この陶棺は、蓋上面の両端部に鷦尾が付設されていたこと、多角形墳であることが注目されている<sup>10)</sup>。

古墳時代終末期から奈良時代になると、有力な氏族集団は寺院を建立するようになる。町内では、蒲生川中流域右岸に岩井庵寺が建立される。岩井庵寺は白鳳時代後期の創建で、現在でも塔心礎が残っている。

集落跡として、掘立柱建物跡が検出された小田川中流域左岸に所在する上ミツエ遺跡・上太夫谷遺跡が挙げられ、上ミツエ遺跡では掘立柱建物跡とともに多量の円面鏡・転用鏡を始め、輪羽口・鉄滓・銅滓等が出土している。<sup>11)</sup>これらの遺跡の南東約3km、荒金の広庭遺跡では、規格性を持った堀立柱建物跡が検出され、転用鏡や瓦片が出土している。広庭遺跡は、上ミツエ遺跡・上太夫谷遺跡などとともに銅鏡や交通を掌握する官衙的な要素を併せ持った遺跡であると考えられる<sup>12)</sup>。

- 
- 1) 「山ノ神5号墳発掘調査報告書」（岩美町文化財報告書第15集）岩美町教育委員会
  - 2) 「岩井庵寺跡発掘調査報告書」（岩美町文化財報告書第4集）岩美町教育委員会 1986
  - 3) 「新井三鴨谷遺跡発掘調査報告書」（岩美町文化財報告書第21集）岩美町教育委員会 2001
  - 4) 「新井三鴨谷塚丘墓発掘調査報告書」（岩美町文化財報告書第22集）岩美町教育委員会 2001
  - 6) 前掲（4）
  - 5) 「新井51号墳」（岩美町文化財報告書第3集）岩美町教育委員会 1986
  - 7) 前掲（3）
  - 8) 「高野坂古墳群」（岩美町文化財報告書第17集）岩美町教育委員会 1992
  - 9) 「浦富3号墳発掘調査報告書」（岩美町文化財報告書第10集）岩美町教育委員会 1988
  - 10) 「藤見古墳群発掘調査報告書」（福部村文化財調査報告書第11集）福部村教育委員会 1997
  - 11) 「上ミツエ遺跡発掘調査報告書II」（岩美町文化財報告書第7集）岩美町教育委員会 1987
  - 12) 「広庭遺跡」（岩美町文化財報告書第11集）岩美町教育委員会 1989



- |            |             |              |               |
|------------|-------------|--------------|---------------|
| 1 湯湯古墳群    | 19 宮の前遺跡    | 37 広庭遺跡      | 55 恩志奥の谷古墳群   |
| 2 直派遺跡     | 20 福石遺跡     | 38 岩本古墳群     | 56 高山狹間遺跡     |
| 3 海土古墳群    | 21 岩常猪ノ谷古墳群 | 39 岩本横穴墓群    | 57 高山上ノ山古墳群   |
| 4 高江古墳群    | 22 岩常城山古墳群  | 40 劝谷横穴墓群    | 58 板上古墳群      |
| 5 箭渓古墳群    | 23 柿ヶ谷横穴墓   | 41 濱富日ヶ崎古墳群  | 59 恩志寺山谷古墳群   |
| 6 八重原古墳群   | 24 高野坂古墳群   | 42 濱富古墳群     | 60 宇治蛇ヶ谷古墳群   |
| 7 栗谷古墳群    | 25 上太夫谷遺跡   | 43 牧谷横着古墳群   | 61 宇治宮下屋敷古墳群  |
| 8 栗谷遺跡     | 26 上ミツ工遺跡   | 44 牧谷横穴墓群    | 62 宇治市浜衛谷古墳群  |
| 9 南田古墳群    | 27 高住古墳群    | 45 牧谷下竹頬古墳   | 63 岩井宮の谷古墳群   |
| 10 薙見古墳群   | 28 東森谷遺跡    | 46 岩美病院裏横穴墓群 | 64 岩井廢寺跡      |
| 11 上野遺跡    | 29 長郷古墳群    | 47 新井第1遺跡    | 65 岩井奥山古墳群    |
| 12 細川古墳群   | 30 長郷猪ノ谷古墳  | 48 高山下猪山古墳群  | 66 岩井南塚谷古墳    |
| 13 弥長古墳群   | 31 長郷遺跡     | 49 新井古墳群     | 67 岩井荒神下古墳群   |
| 14 小畑古墳群   | 32 院内岡遺跡    | 50 上屋敷遺跡     | 68 岩井太郎右門谷古墳群 |
| 15 平野古墳群   | 33 院内古墳群    | 51 新井遺跡      | 69 真名古墳群      |
| 16 本庄古墳群   | 34 池谷古墳群    | 52 新井三鶴谷遺跡   |               |
| 17 太田古墳群   | 35 池谷粉山古墳群  | 53 横座古墳群     |               |
| 18 満願寺谷古墳群 | 36 円興寺城山古墳  | 54 恩志古墳群     |               |

挿図2 周辺の遺跡

## 第3章 小畠古墳群の調査

### 第1節 遺跡の概要と調査の方法

蒲生川とその支流の小田川流域には数多くの古墳が存在し、古墳群を形成している。駿駒山峯から大谷平野へ下る丘陵の裾野に立地する小畠古墳群もその内の一一群であり、横穴式石室を持つ8基の古墳が確認されている。2つの溜め池を挟んで1・8号墳は駿駒山側に、2～7号墳はその対岸に立地する。1号墳は狭長で天井の高い鳥取県内で最大級の規模とされる横穴式石室を持つ古墳として知られている。古くから穴觀音と呼ばれ、かつてはその名の通り石室内に石仏が安置されていた。8号墳は1号墳よりも約15m上方に立地していた。国道9号から分岐する現在の国道178号の改築工事に伴い、昭和54年（1976年）に発掘調査が行われ、撤去された。2～7号墳は緩斜面上の狭い範囲に群がるように立地する。石室の天井石が地表面に露出し、その姿から地元では「いしがま」と呼称されていた。道路工事予定地内には3～7号墳が含まれているため、今回の調査ではこれらの古墳とその周辺地が発掘調査対象となった。

調査区域の土地利用状況は畑地扱いであったが、実際の調査前の状況は、うっそうと草木が生い茂り、方向感覚を失う程の雑木林であった。5基の古墳のうち、5号墳を除く4基が天井石と側壁を露出させていた。3号墳は天井石がほとんど落ちていて、石室内部に土砂が充満していた。4・6号墳は玄室右壁の石材が失われていて、天井石が右側へ傾き、崩壊寸前であった。7号墳は玄室の天井石が陥没したような状況だった。5号墳は楕円形の高まりを確認したが、大きな地形変形が認められ、内部の状況は全く予測がつかなかった。いずれの古墳も渓底は土砂によって塞がれていた。石室には巨木が根を張り、それがじわじわと石室を破壊し、また崩壊を踏みとどめているようであった。調査に入る前にはまず草木の伐採と、古墳の立地を知るための地形測量が必要であった。発掘調査計画の中で、半壟した石室の天井石除去が冒頭に組み込まれており、その作業を行なうラフターグレーンの進入路と作業場を作る必要があった。この道は先行して伐採樹木の搬出に使用されることになっていたため、あらゆる調査、記録を行う前に調査区内に敷設された。この作業道は「仮設道」と呼称され、調査中の重機進入路として使用し、作業の進捗にあわせて撤去していく（挿図3の2点鎖線白抜き範囲）。

基準点測量、調査前地形測量は測量会社に依託して行った。調査に入る前は、小畠古墳群は全て円墳という報告が出されていた。完成した地形測量図を見ると、調査区内は全面が段々畑に変更されていることが分かり、古墳は当時の形状を止めていないかに思えた。ただ、5号墳周辺の等高線が方形を形作ることから、方墳の可能性を見据えて調査を行う必要が生まれた。果たして調査の結果、3～7号墳の5基全てが方墳であった。墳丘を削つて窪地を埋め立て、方墳の地形を活かして古墳群は段々畑に開墾されていたことがわかった。地形測量と並行して行った上層の堆積状況確認トレンチ調査の結果、3号墳と4号墳の間の平坦な地形は、須恵器の出土する層に至るまでの、2mもの厚さの土層中から、幕末～近代の陶器片（挿図94 Po327～329）が出土したことから、後世の造成によるものと判断した。4～6号墳の墳丘上には拳大の礫が堆積していた。6・7号墳で礫は天井石を被覆しており、その状況から積石塚の可能性も想定した。5号墳の西側に伸びる段状地形にトレンチを入れたところ、磁器片が出土し、後世の造成によるものであることが分かった。この後Ⅱの造成土を除去すると5号墳の石室渓門が現れた。しかし、入り口部分は天井石まで拳大～小兒頭大の礫で充填されていた。墳丘を覆う礫とも類似し、当初は閉塞石が残っているものと期待されたが、この礫の下層から磁器片が出土したことからこの礫もやはり後世の造成によるものであることが確認できた。後には閉塞石の隙間から北宋銭（挿図94 M216）が出土したことから壹缗を確信した。7号墳の石室内部にも同様の礫が充満していて、やはり磁器片が出土した。墳丘上や石室内に堆積する礫は、地山に包含されている礫と同じことから、石室の部分が周辺での畠地耕作中に出てくる礫の捨て場になったために、塚のように積みあがっていったものと判断した。礫の大半は角礫だが、7号墳周辺では、河原礫のような丸まった石が散見され、疑問に感じていた。加工痕、使用痕もないため、古墳に伴わ

ないものとして処理したが、これがこの後の縄文時代の調査の伏線となっていた。

石室から離れた地区的表土を重機で除去した後、測量会社に依託して10m画の方眼測量を行った。方眼は平面直角座標にあわせて設定し、X軸（東西）を北からA、B、C・・・、Y軸（南北）を西から1、2、3・・・と呼称して、1区画（グリッド）の北西隅の交点のアルファベットと数字の組み合わせをそのグリッドの名称とした。交点には杭を打ち、これらの杭を検出した造構・遺物の測量の基準とした。測量には主に光波トランシットを使用した。測量については省力化を図るために、当初から業者依託による石室の測量が調査計画に組み込まれ、3～5号墳の天井石平面図、3号墳の石室展開図・閉塞石平・立面図、5号墳の墳丘測量図・外護列石平・立面図・石室展開図を写真測量で、4・5号墳の石室平面図、4号墳の外護列石平・立面図を手計測で行った。その他の測量は調査員が手計測にて行った。

試掘調査の段階でD10グリッド近辺から弥生時代後期の土器が出土しており、弥生時代の造構検出も見据えて調査を行ったが、6号墳の墳丘盛土下および耕作土中から上器が、3号墳周溝から石斧が出土したが、遺物を伴う造構は検出できなかった。

6号墳の南東側、D7グリッドで墳端と盛土の確認のトレーンチ調査を行った。その時に地山に類似する層中から縄文土器が出土した。当時はこの層までが盛土であり、縄文土器は混入遺物と判断した。しかし、6号墳の本格的調査を経て、墳丘盛土除去を行ったところ、4・5号墳も含めて、墳丘の下に縄文遺物包含層が存在していることが分かった。7号墳周辺では特に多くの遺物が出土し、墳丘下および南東側の斜面で土器、石器などの遺物を伴う土坑を検出した。

新しい時代の造構では、5号墳の北東側、G8、F9グリッドの範囲で数多くのピットを検出したが、この中には白磁、羽釜といった中世の遺物が出土するものを含んでいる。また4・6・7号墳の石室内からは鍋が出土している。5号墳から出土した北宋銭もあわせて、中世には集落が存在していたと考えられる。また、6号墳からは狭道から玄室にかけての分厚い炭化物と灰の層の上面および中から陶磁器片、寛永通宝、キセル、釘が出土した。焦土面を複数検出し、紅皿も出土したことから、近世には火葬を伴う墓として利用されたと考えられる。

## 第2節 調査地内の堆積

調査地内の地山は崖錐堆積物であり、火成岩、溶岩の角礫を多く含む。崖錐とは急斜面の下に半円錐にできた地形のことであり、岩石が風化した斜面では、岩が弱くなり、割れ目沿いに崩れて崩落したものが崖錐堆積物になる。これとは別に3号墳周辺では、鳥取砂丘の新砂丘と古砂丘の間層でもある、大山倉吉輕石層（DKP）の堆積を確認した。崖錐堆積物とDKPとの層序については確認できなかったが、角礫の包含状況から、崖錐堆積物がDKPを被覆していると考えられる。3号墳玄室内堆積土は礫を含まない土であったことから、墳丘盛土に周辺のDKPを用いていたのであろう。

4～7号墳の位置する範囲の崖錐堆積物層の上面には縄文遺物包含層が堆積する。面としての連続性は確認していない。地山として扱った層にくらべるとやや暗い程度で、土質に関してはほとんど変わりがないものであつた。縄文遺物包含層もまた、ある時期の崖錐堆積物層のうちの1層とも考えられる。4・6号墳の掘形の壁面に現れた土層では、包含層以下で2～3層のブラックバンドを確認した。しかし遺物を伴わないため、面的調査は行わなかつた。

4～6号墳は縄文遺物包含層を地山として築造される。盛土中や裏込土中から縄文土器、黒曜石片が出土することから、掘形と周溝の掘削で出た土砂を盛土に転用したと考えられる。

後世の造成による掘削および埋め立ては調査地内全域で認められた。3号墳と4号墳の間、4号墳の南西側および6号墳の北西側にはDKPで埋められていた。4号墳の南東側については、石室右側壁を露出させるまで墳丘を掘削した後、DKPを使って穴を埋めたており、石室入り口も塞いでいる。このDKPを用いた造成土の下からは陶磁器片が出土する。4号墳の周溝の南西側および6号墳の東側の一帯は、かなり大掛かりに手を加えられている。斜面を削って耕作地に改変したためか、縄文遺物包含層は検出できなかった。調査地の東側は礫の多い地帶であり、伏流水が流れている。北東側は水はけが悪く、地山は調査地外の湿地帯の底へ潜っていくものと考えられる。

小畠古墳群調査前地形図

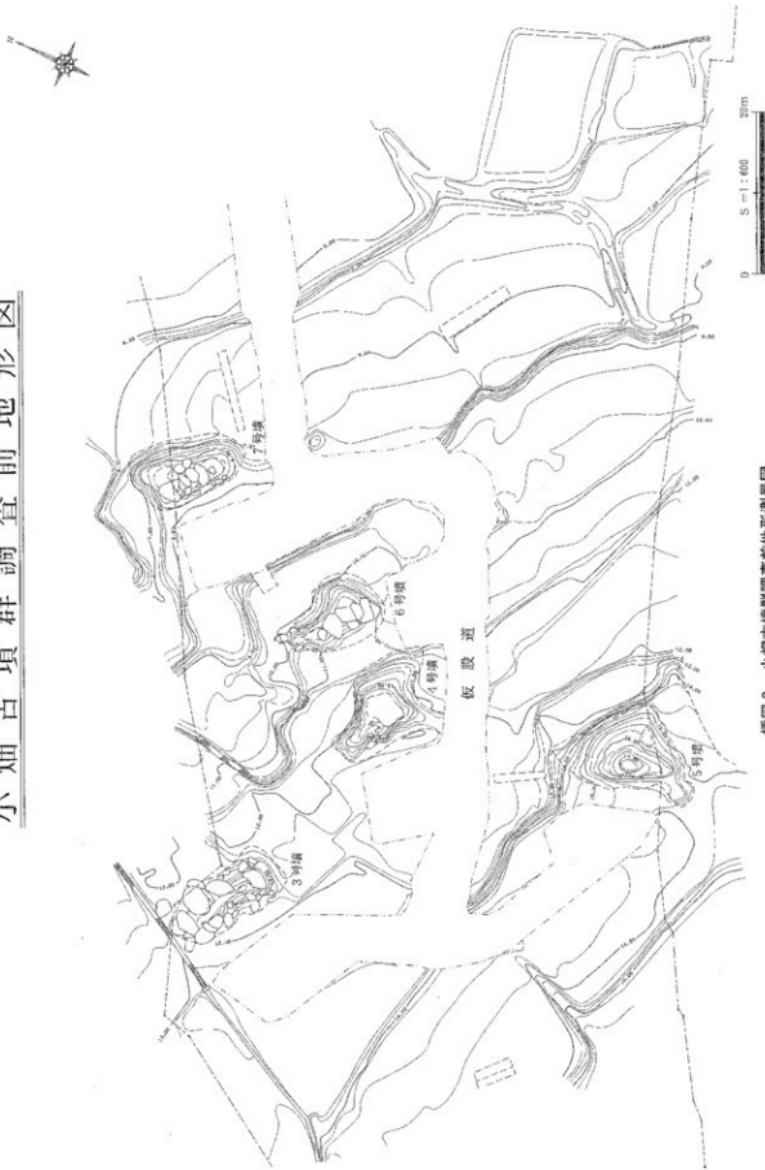
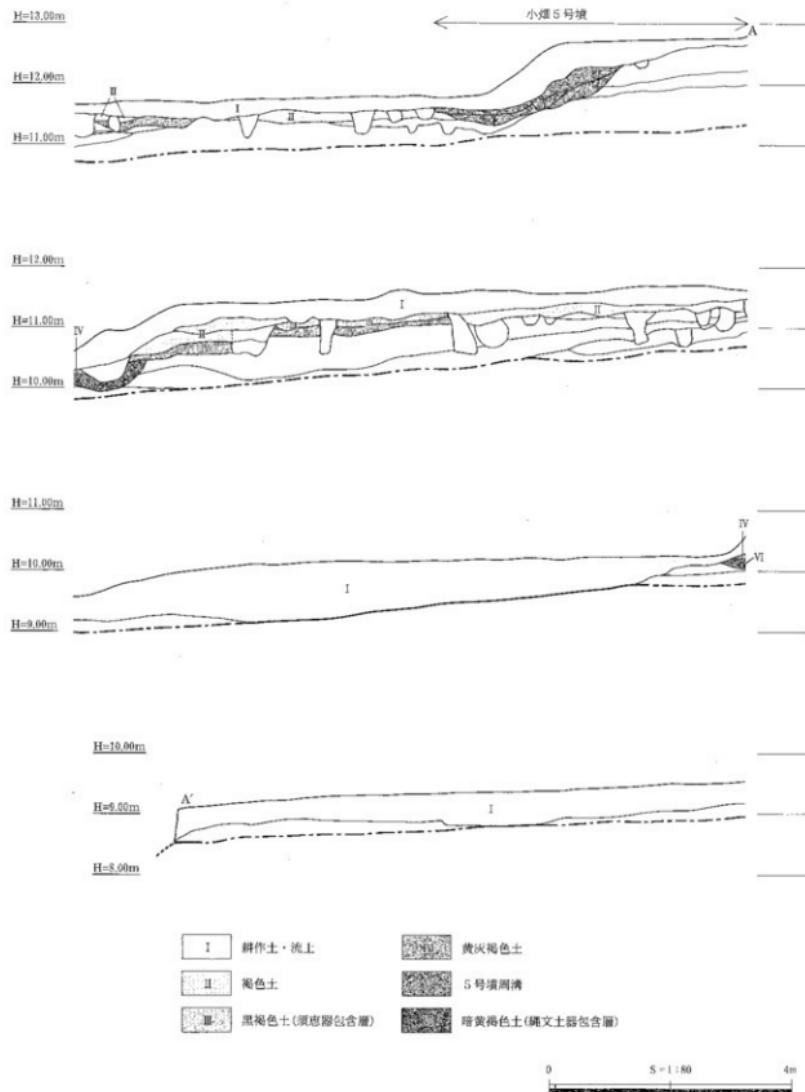


図3 小畠古墳群調査前地形測量図



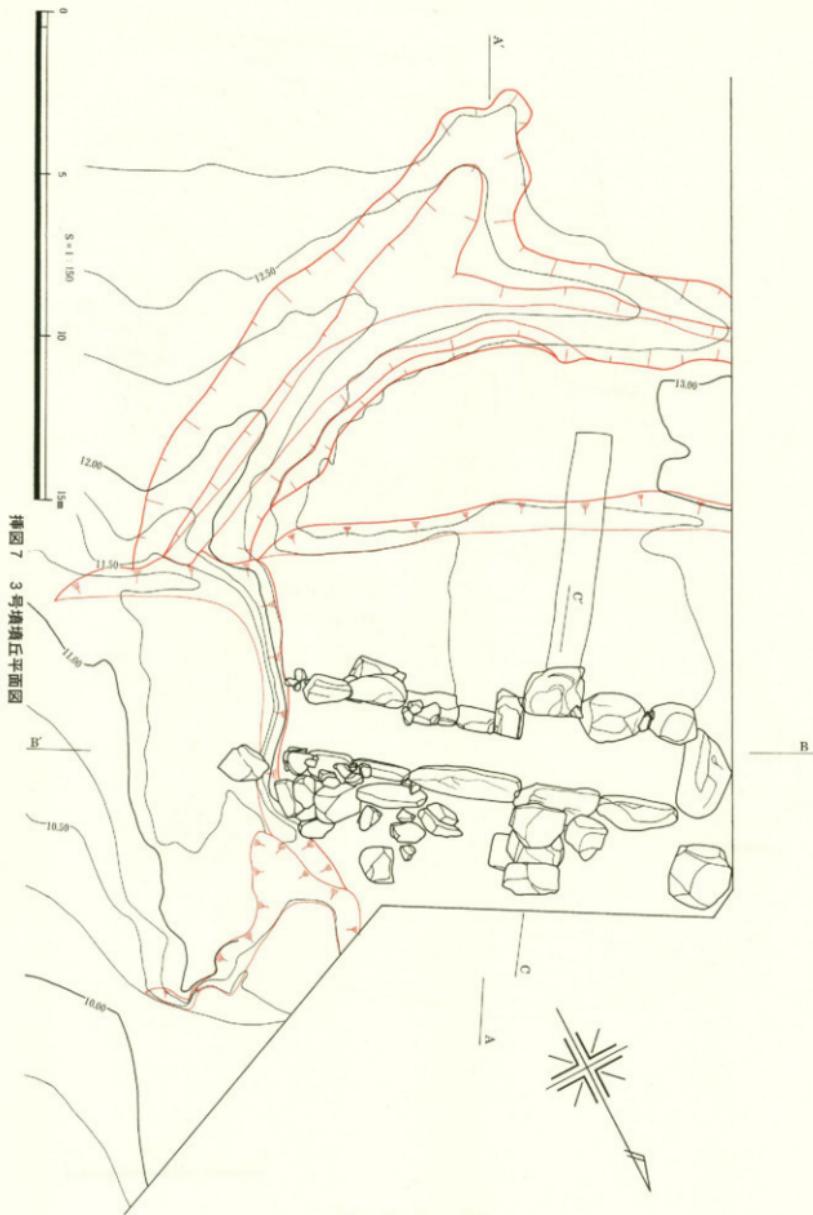
挿図4 調査区基本層序



図5 小畠古墳群調査後地形測量図



挿図6 各古墳立地図



## 第3節 古墳時代の調査

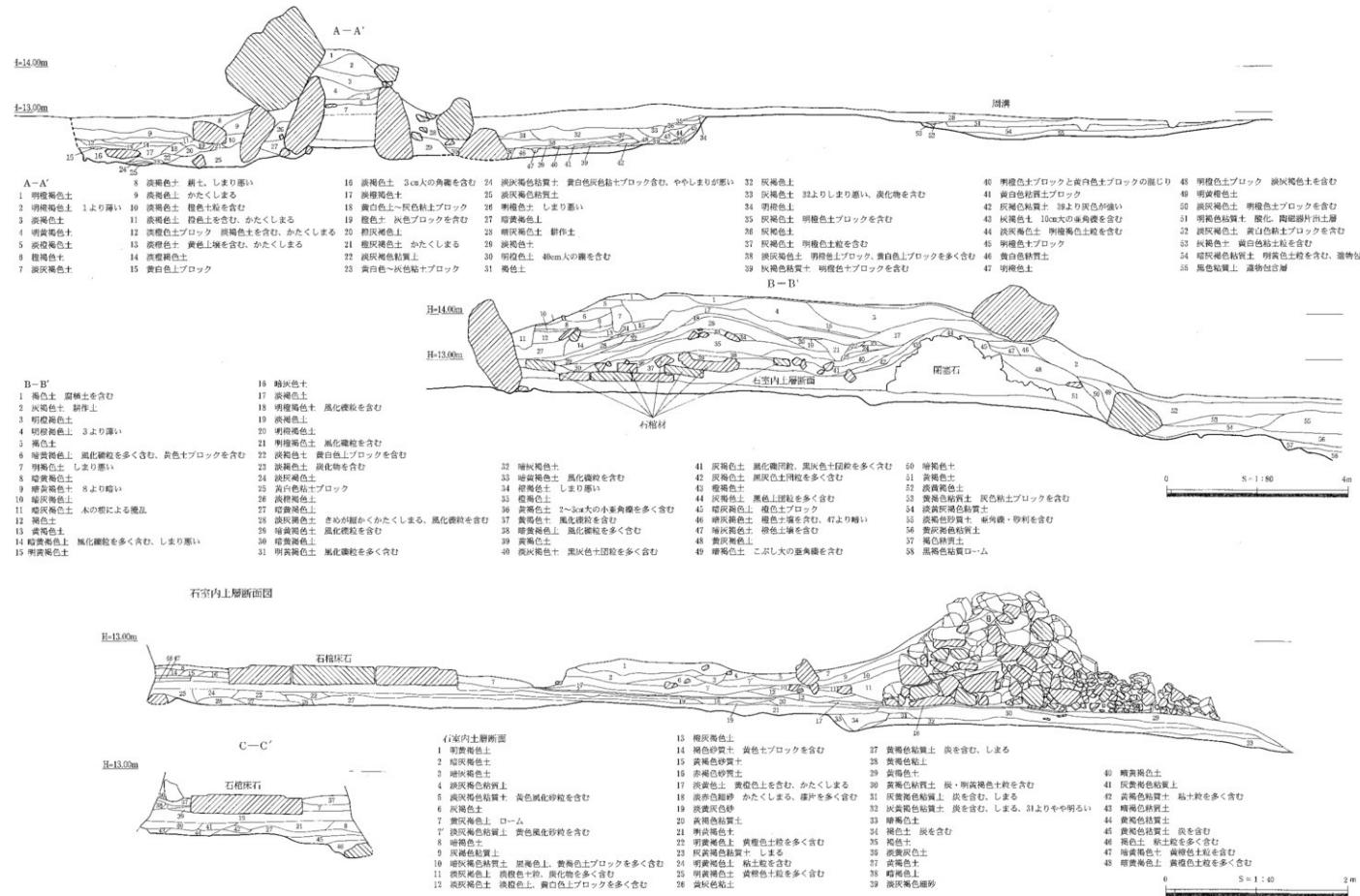
小畠3号墳（挿図7～13、49～53、68～71、78～85 図版CPL.1, 4, 10, PL.2～13, 60～66, 95, 97, 98, 102～104）

| 形態・規模 |  | 構築技法の特徴   |
|-------|--|---|
| 立地    | ・北東に延びる丘陵部の平坦地に立地  | ・テフラ（DKP）の上に立地。<br>・4・6号墳西側の墓道を挟んで向かい側、2号墳（未発掘）と隣接して築造されている。  |
|       | ・方墳（推定）<br>・一边27m（復元値）<br>・高さ 計測不能<br>・床面標高 12.65m                             | ・封土は失っているが、墳丘南西側に残る周溝の形から方墳と判断した。<br>・削平は地山面まで達する。  |
| 丘溝    | ・南西側で検出<br>・幅 3.0m<br>・深さ0.4m  | ・地山（DKP）を掘り込む。<br>・埋土は2層に分かれ、上層で暗灰褐色粘質土、下層は黒色粘質土で、須恵器が出土している。   |
|       | ・石室全体の掘形は検出しなかつたが、個々の石材を据えるための掘形を検出した。   | ・地山を平坦に整形し、基底部腰石を据える場所を15～45cm掘りこんで根石を置いている。<br>・底面レベルは奥壁から羨道閉塞際までなだらかに低くなっている。<br>・床面ラインが羨道部分で落ち込むのはピット3-P13が断面ラインにかかるからである。<br>・石室プラン内部で検出したピット群（3-P7～17）は石室構築に関わるものと推定される。   |
| 内室部   | ・片袖式<br>・石室全長12.2m<br>・主軸N-54.5°-W<br>・石材 商輝石安山岩<br>流紋岩質溶岩<br>凝灰角礫岩<br>・自然石を使用 | ・天井石は最大幅2～4mの石材を使用しているが、すべて転落しており、元位置を保っていない。<br>・天井部の形態は不明だが、玄室周辺の転落石材の状況から中高式天井を有していた可能性が強い。<br>・玄室の腰石は奥壁1石・右側壁2石・左側壁が3石で構成され、高さ1.5～2.5mの石材を使用し、平坦面を内側に並べる。<br>・奥壁石材が後に、玄室側壁石材のうち2石が内側に大きく傾く。<br>・腰石とその充填石材以外は残存せず、2段目以上は転落している。<br>・袖石は左側壁に据えられ、0.9×2.1mの石を縦位に置く。<br>・羨道の右側壁は腰石が4石、袖部より2石が1段・他は2段積みである。袖から開口部に向かうほど小さくなっていく。<br>・羨道の左側壁は腰石が4石、2段積みである。 |
|       | ・長方形プラン<br>・長さ5.1m<br>・幅 2.2m<br>・高さ2.1m                                       |   |
| 体     | ・長さ7.1m<br>・幅 1.5m（玄門部）<br>1.8m（最大幅）<br>・高さ1.5m                                |   |
|       | ・埋葬面は1面<br>・玄室四隅の砂層下面でピット（玄室底面ピット：3-P1～6）を検出。                                  | ・地山の上に黄褐色系の土を入れて整地し、その上に砂を約10cm敷き詰めて床面を形成。石棺を安置し、さらに石棺底石の周囲には赤色顔料（酸化鉄）を敷いている。<br>・3-P1・P2の埋土は床面の砂と同一。3-P3～6は褐色系で整地層土に類似し、樹根の可能性あり。  |
| 閉塞    | ・玄門より2.6m程入口側で検出   | ・長さ約3.8m・高さ約1.5mにわたって検出された。<br>・0.1～0.6mの石を密に積む。<br>・除去後の床面から遺物が出土していることから、追葬の可能性が考えられる。  |

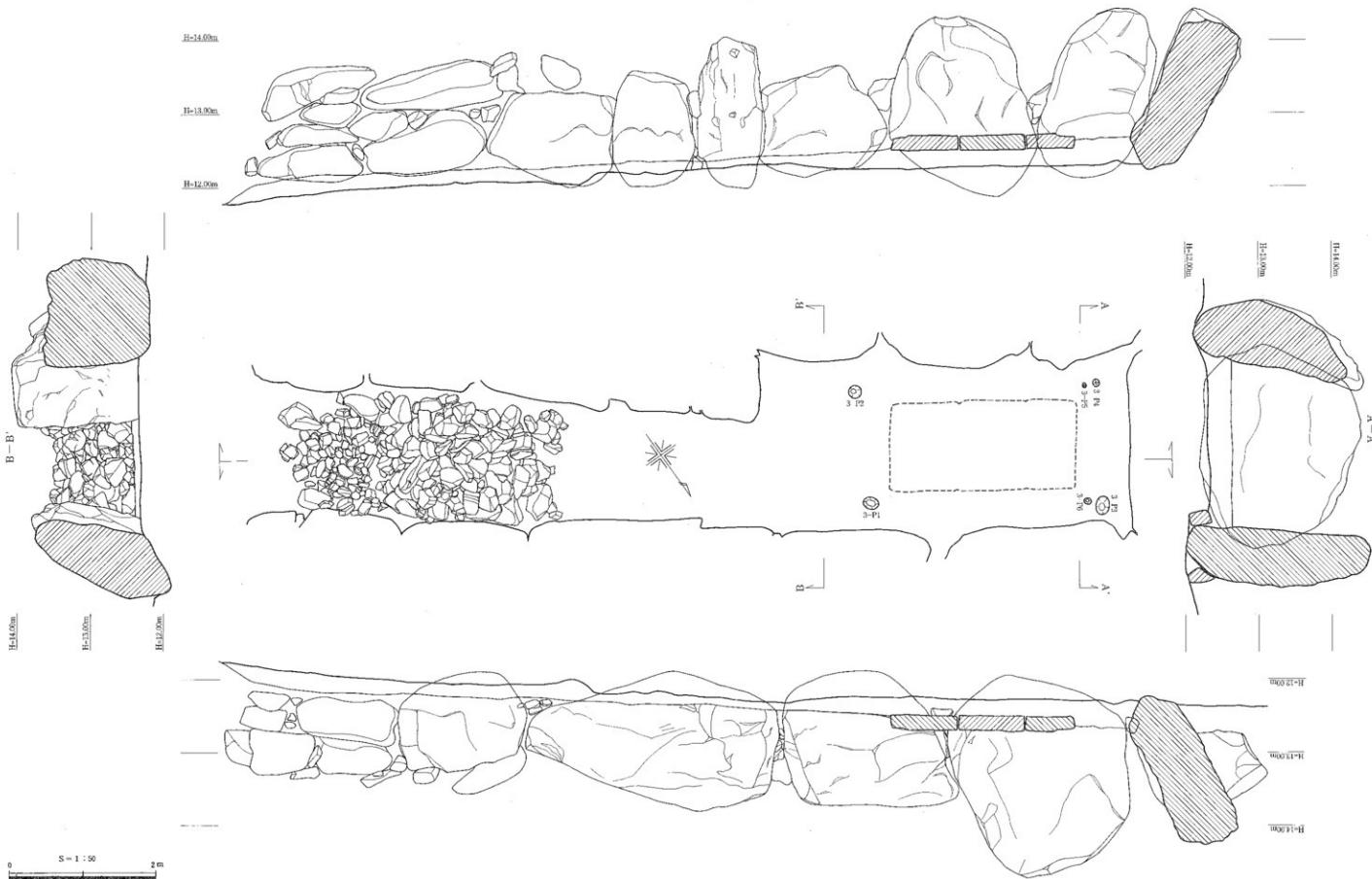
| 出 土 遺 物 (数字は掲載点数) |  |
|-------------------|--|
| 内 容               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・石棺1 (組合せ式家形石棺、側壁棺材4面のうち1面分が欠如する)</li> <li>・須恵器 石室内 (坏蓋13、坏身6、坏1、蓋1、高台坏坏身2、つまみ付蓋1、高坏3、短頸壺1、壺1、脚付長頸壺1、長頸壺1)</li> <li>石室外 (坏身13、高台付坏身2、坏蓋23、無蓋高坏7、有蓋高坏1、脚付長頸壺2、長頸壺1、壺4、大型壺1、提瓶1、横瓶1、碗1)</li> <li>・土師器 (碗1、壺1)</li> <li>・装身具 (ガラス小玉7、管玉1、耳環2)</li> <li>・武具 (鐵鎌30) ・生産用具 (刀子3、鏃1)</li> <li>・馬具 (轡2、鞍4、障泥吊り金具1、鉄具1、鏡吊り金具3、鐙1、革金具11)</li> </ul>   |
| 出 土 状 況           | <p>・石室天井石のすべてが転落し、石棺材の破碎及び散乱状況からも激しい盗掘を受けたものと考えられ、玉類などの装身具はあまり出土しなかったが、土器は相当数が完形品で出土した。</p> <p>・遺物の分布状況は奥壁側の一群、玄室西壁側の一群、玄門から玄室前面に広がる一群、玄門付近の鐵鎌群、羨道から閉塞石に掛けての一群とに分けられる。</p> <p>・奥壁側では鐵鎌を中心とした遺物である。</p> <p>・石棺床石差度部左側のPo2出土地点周辺では赤色顔料 (酸化鉄) の残りが良好であった。</p> <p>・玄門から玄室前面では、坏身・坏蓋などの須恵器、鐵鎌・馬具が出土している。</p> <p>・玄門付近埋葬面あるいはその上層には鐵鎌片・漆片が多く出土していることから、鐵鎌を漆塗りの駆まと容器のようなものに納めて置いていたと考えられる。</p> <p>・羨道部では壁際から完形の須恵器 (坏蓋・高坏・壺・長頸壺等) ・馬具などが出土していることから、追葬あるいは盗掘の際に整理されたものと思われる。</p> <p>・羨道右壁の閉塞石跡から出土した上顎器皿 (Po32) は体部が穿孔され、内面に赤色顔料 (酸化鉄) が付着していた。これは玄室内に赤色顔料を敷き詰める際に使用されたものと思われる。</p> <p>・閉塞石の下層からも遺物が出土しているが、これは追葬時の搔き出しによるものと考えられる。</p> <p>・石室前底部で多量の須恵器が完形状態や破碎された状態で出土したことから、墳丘で何らかの祭祀が行われたことが推察される。</p> |

| 検 出 面                 | 長径×短径×深さ (cm) | 埋 土          | 備 考               |
|-----------------------|---------------|--------------|-------------------|
| 3-P1<br>玄室床面<br>砂層除去後 | 18×17-34      | 淡黄灰色砂        | 床面形成後の石棺設置に関わるものか |
| 3-P2 同上               | 22×16-36      | 同上           | 同上                |
| 3-P3 同上               | 25×18-24      | 褐色系土         | 同上                |
| 3-P4 同上               | 10×8-11       | 褐色系土         | 同上                |
| 3-P5 同上               | 7×5-8         | 褐色系土         | 同上                |
| 3-P6 同上               | 10×11-25      | 褐色系土         | 同上                |
| 3-P7 挖形底面             | 径27、深さ未記録     | 黄褐色土         | 掘形掘削後の石室構築に関わるものか |
| 3-P8 同上               | 26×18-8       | 灰褐色土         | 同上                |
| 3-P9 同上               | 32×30-19      | 同上           | 同上、ピット内に石が3石入る    |
| 3-P10 同上              | 30×28-29      | 橙褐色土         | 掘形掘削後の石室構築に関わるものか |
| 3-P11 同上              | 38×30-26      | 淡黄色土 (緋まり悪い) | 同上                |
| 3-P12 同上              | 28×22-17      | 灰色粘質土        | 同上                |
| 3-P13 同上              | 24×22-20      | 淡黄色土 (緋まり悪い) | 同上                |
| 3-P14 同上              | 38×28-30      | 淡黄褐色土        | 同上                |
| 3-P15 同上              | 108×70-31     | 褐色土          | 同上                |
| 3-P16 同上              | 54×46-44      | 淡黄褐色土        | 同上                |
| 3-P17 同上              | 52×40-28      | 橙色土          | 同上                |

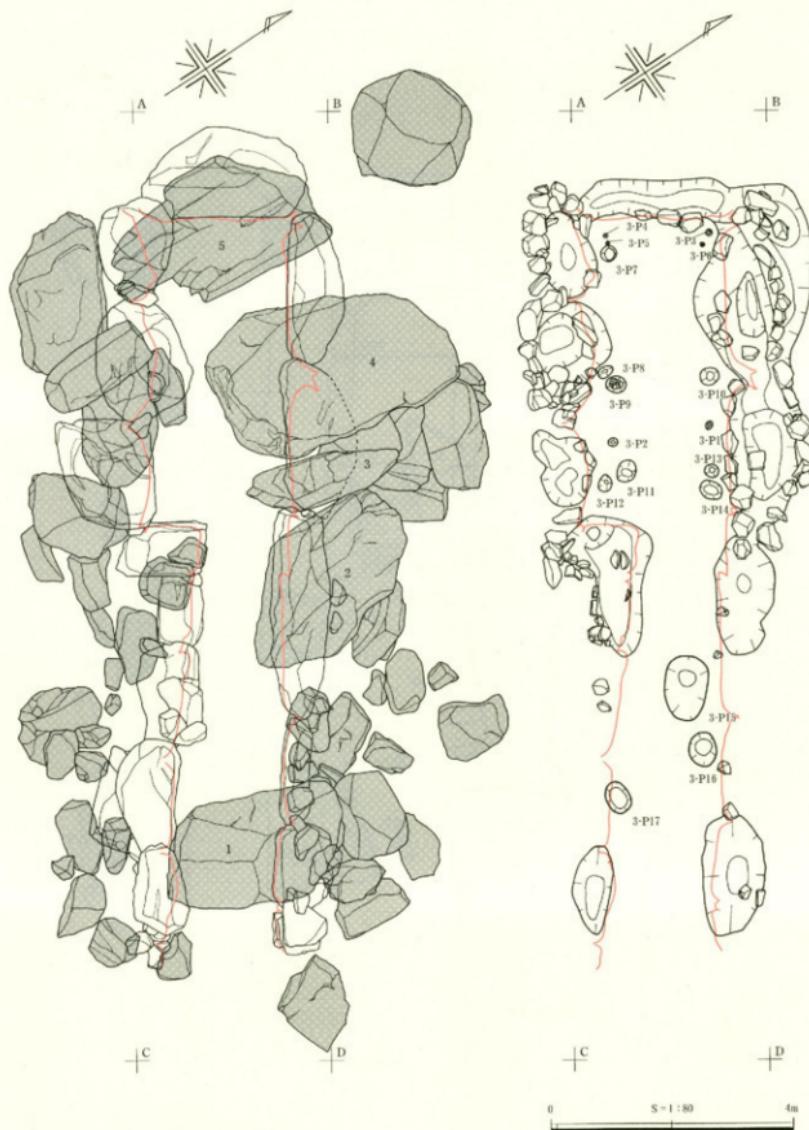
3号墳掘形底面・整地面検出ピット一覧 (挿図9・10)



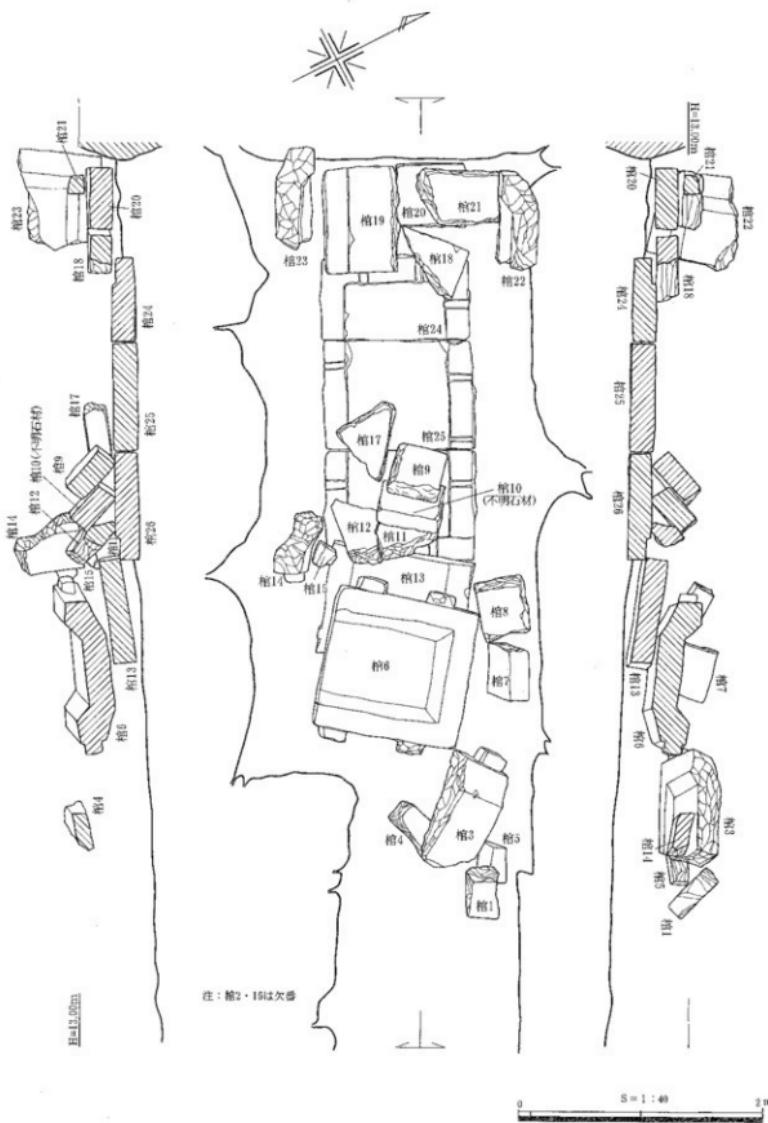
挿図 8 3号墳墳丘土層・石室内土層断面図



挿図9 3号填石室平・立面図



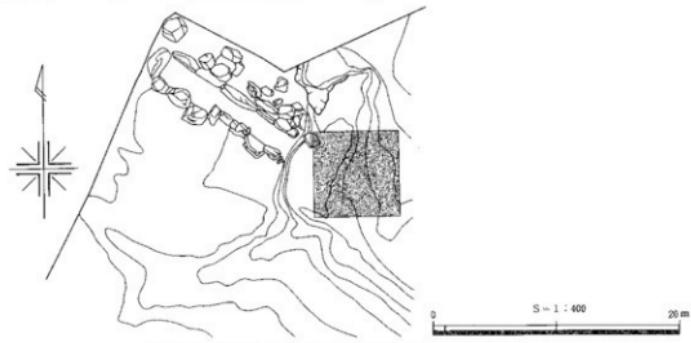
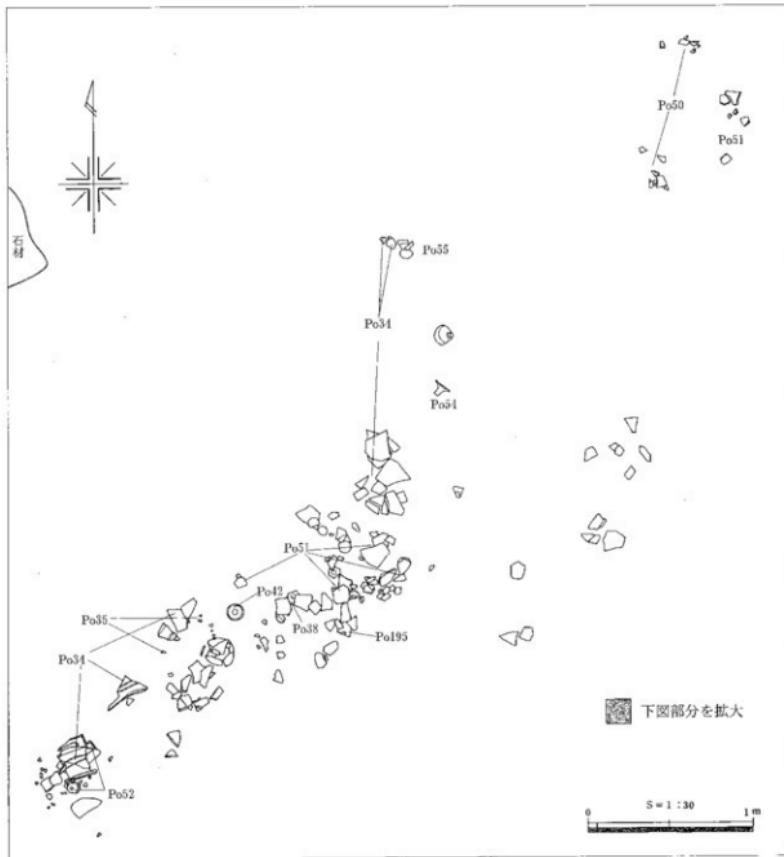
挿図10 3号墳石室・掘形平面図



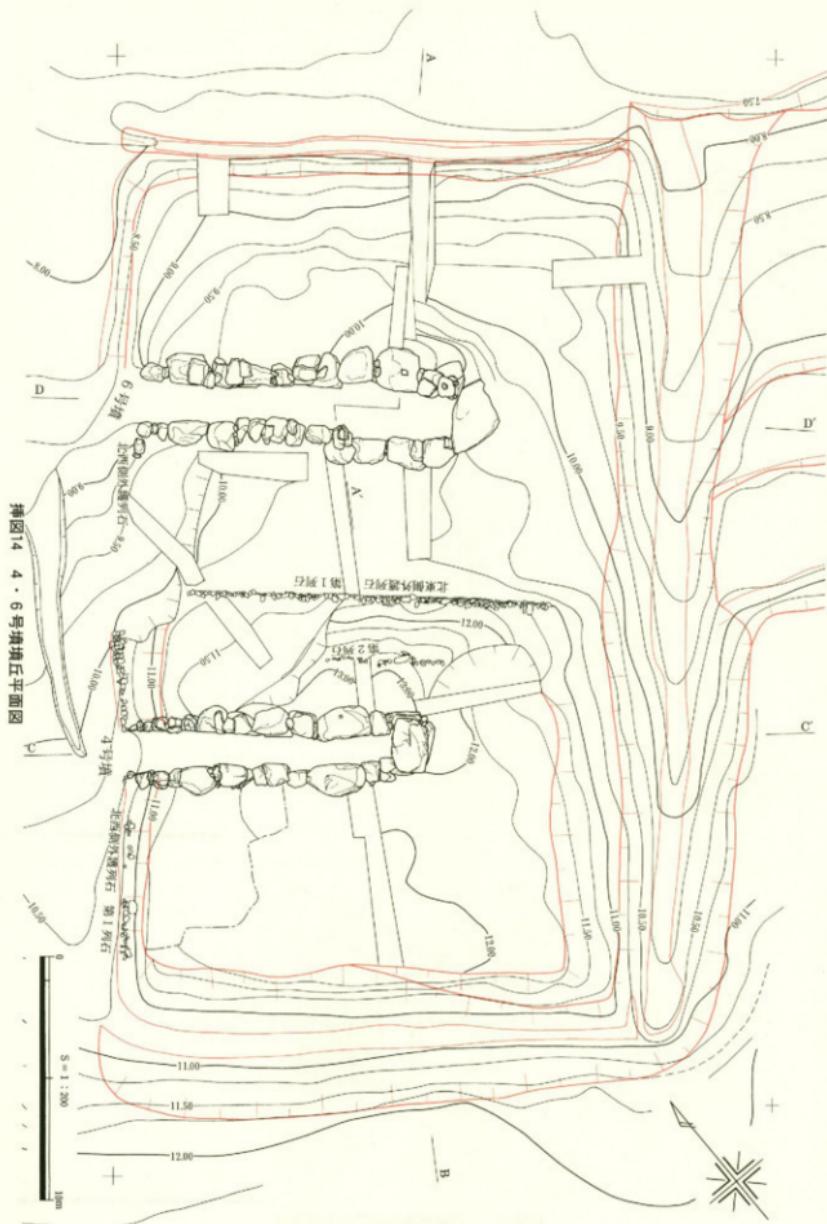
挿図11 3号墳石棺出土状況図



挿図12 3号墳石室内遺物出土状況図



挿図13 3号墳前庭部遺物出土状況図



小畠4号墳（挿図14～22, 54～59, 68, 72, 73, 78, 80, 81 国版CPL1～4, 8, 9, 11 PL14～24, 67～77, 94, 96, 103）

|       |   | 形態・規模   | 構築技法の特徴 |
|-------|---|---|---------|
| 立地    | ・北東に延びる丘陵裾部の緩斜面上に立地   | ・3号墳と5号墳の間に構築される。   |         |
| 墳丘・封土 | ・2段築成の方墳<br>・一边22.0m（南西側）<br>・高さ3.4m<br>(床面より天井石まで)<br>・床面標高10.4m<br>・唐尺使用か？  | ・墳丘築造以前の旧表土面は確認できなかった。<br>・墳丘築成は、石室の腰石を据えた後、黄褐色系の裏込め土を入れる。さらに石室の構築に並行して順次、疊混じりの淡褐色・灰褐色土・黄褐色系の土を互層状に積み重ねていく。暗黄褐色土層（挿図17A'-B, 65）は砂利層で、石材移動のために敷かれた可能性がある。堅く叩きしめた様子はみられなかった。南西側の封土は削平されていた。   |         |
| 丘外護列石 | ・北東側、北西側で検出<br>・北東側<br>第1列石<br>幅15.0m 高さ0.9m<br>第2列石<br>幅4.8m 高さ0.3m<br>（残存最大値）<br>・北西側<br>第1列石<br>幅13.7m 高さ0.5m<br>（残存最大値） | ・外護列石は4辺とも削平を受けており、完存しない。<br>・10～50cm大の角礫を乱雜に積み上げる。中には横方向に目地を通す部分も見られるが、作業中の施工単位と思われる。<br>・列石は、上段から順次築成されたと推定される。墳丘をある程度造成した後、石を入れる部分をL字形にカットし、石を据えながら裏込め土で固定する。<br>・北西側第1列石は、石室羨道部最前石から始まり墳裾を巡る。右側に比べて左側の幅が狭い。6号墳の造営に関係する可能性がある。   |         |
| 周溝    | ・南東側<br>幅5.4m 深さ1.0m<br>・南西側<br>幅6.6m 深さ1.4m  | ・地山（淡灰褐色土）を掘り込む。<br>・6号墳周溝との切り合いは確認できなかった。<br>・周溝埋土下層の黒色土層（10～40cmの礫を含む）からは、外護列石の転落と考えられる角礫とともに須恵器の破片が出土した。   |         |
| 内掘形   | ・長さ14.3m<br>・幅 4.3m<br>・深さ 北東側0.7m<br>南西側1.3m   | ・地山（淡灰褐色土）を掘り込んでつくる。<br>・基底部は平坦である。<br>・一部腰石を据えるために根石を置いている。  |         |
| 部石主室  | ・両袖式<br>・全長12.15m<br>・石材<br>自然石、割石を使用<br>流紋岩質角礫岩<br>角礫凝灰岩<br>石英安山岩質溶岩<br>・主軸N-51°-W   | ・右側壁の石材が崩落していたため、玄室の天井石は元位置から右に傾いていた。<br>・天井石は8枚の石材で架構される。羨道、奥壁側より徐々に持ち送られ、中央部で高くなる中高式天井である。中高部分は玄室入口付近にあたる。<br>・天井石は1.5～2m前後の石材を使用し、隙間は小石で充填する。<br>・奥壁は1段積みで、1.7m大の石材を縦位に組む。<br>・右、左側壁は、奥壁の高さに目地を據え、腰石を含めて2～3段積みする。さらには上は、架構される天井石の厚さに合わせ、50～70cm大の小振りな石を横位に2～5段積む。<br>・腰石は1.2～1.7m大の石を使用し横位に組む。<br>・側壁は弱い持ち送りが見られる。 |         |
| 玄室    | ・長方形プラン<br>・長さ5.35m<br>・幅 1.7～1.95m<br>・高さ2.5m前後<br>（床面から中高部分まで）  |   |         |

|                  |      | 形態・規模  | 構築技法の特徴   |
|------------------|------|--|---|
| 内<br>部<br>主<br>体 | 羨道   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長さ 6.8m</li> <li>・幅 1.35~1.7m</li> <li>・高さ 1.5m</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・羨道部の側壁は2段積みである。1.2~2.0m大の石を基底に据え、2段目は1.2~1.6m大の石を横位に積む。</li> <li>・羨道入口部の段積みは開口方向に向かって低くなり、開口部の石組みは0.1~0.7m大の小振りな石を使用する。</li> </ul>  |
|                  | 床面   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・埋葬面 2面を確認した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1次埋葬面は黄灰褐色粘質土、橙灰褐色粘質土で整地した後、3号埴周辺に堆積する明橙色粘質土（ローム層）を20cm程度焼き詰め形成する。</li> <li>・第2次埋葬面は玄室中央よりやや玄門側で検出した。第1次床面より低いレベルとなるが、出土した土器型式等から第2次埋葬面とした。</li> <li>・赤色顔料（酸化鉄）が玄室の中央部に敷かれていたが、どの段階の埋葬に伴うものかは不明である。</li> </ul> |
|                  | 閉塞   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・玄門部から羨道入口で検出</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・10~70cm大の角礫を使用。</li> <li>・褐色粘質土、黒色粘質土の2層を確認したが埋葬時の閉塞状況はとどめない。</li> </ul>  |
|                  | 排水施設 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・玄門より1.5m入口側で検出</li> <li>・長さ5.7m</li> <li>・幅 0.4~0.9m</li> <li>・深さ10cm</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・羨道中央部に一一条設置。</li> <li>・地山を掘り込んだ素掘りの溝に10~50cm大の角礫を横位に据える。その上部に20~60cm大の石材を蓋石としてのせ、溝の中を中空状態にする。</li> <li>・溝内には、黄褐色土、暗褐色土（1~3cmの砂利を含む）が堆積。</li> <li>・調査時には雨後、排水溝からの排水を認める。</li> </ul>                              |
|                  |      |  |   |

|                  |                | 出土遺物 (数字は掲載点数)   |
|------------------|----------------|--|
| 内<br>容           | 須恵器91点         | 石室内83（坏蓋15、蓋17、坏身18、碗4、長頸瓶6、高坏13、平瓶4、甕4、甕2）<br>石室外8（坏蓋2、坏身2、高坏2、平瓶1、甕2）  |
|                  | 土鍾3点           |  |
|                  | 装身具66点         | （ガラス小玉3、ガラス粟玉41、銅製耳環2）   |
|                  | 武具1点           | （刀装具1）   |
|                  | 馬具29点          | （辻金具6、礪金具3、鞍具2、花形杏葉・鏡板5、革金具5、吊り金具2、州浜金具2、障泥吊り金具3、縁金具1）   |
|                  | 生産用具6点         | （刃子6）<br>・その他 鉄釘（未掲載）  |
| 出<br>土<br>状<br>況 | 遺物             | は玄室の中央から玄門側付近で検出されたが、その多くは小破片で検出された。踏み荒らされたような状態で、元位置を保つ遺物は少ないと思われる。玄室内と羨道部の遺物で接合された個体が多く見られる。   |
|                  | 元位置を保つと考えられる遺物 | は、玄門付近（Po126~146）と羨道側の閉塞石下（Po114~125）から出土したものである。これらの遺物は、その出土状況から一括遺物である可能性が高い（挿図20・21）。玄門付近と羨道側の遺物は出土レベルに差があり、須恵器にも型式差が見られる。それぞれ、玄門側が第2次埋葬面、羨道側が第1次埋葬面に対応する遺物であると推測される。 |
|                  | 閉塞石中から         | 多くの須恵器が出土した。   |
|                  | 北西側第1列石周辺      | （挿図15）、南西側周溝内から須恵器を検出、墳丘上で祭祀が行なわれたものと考えられる。  |

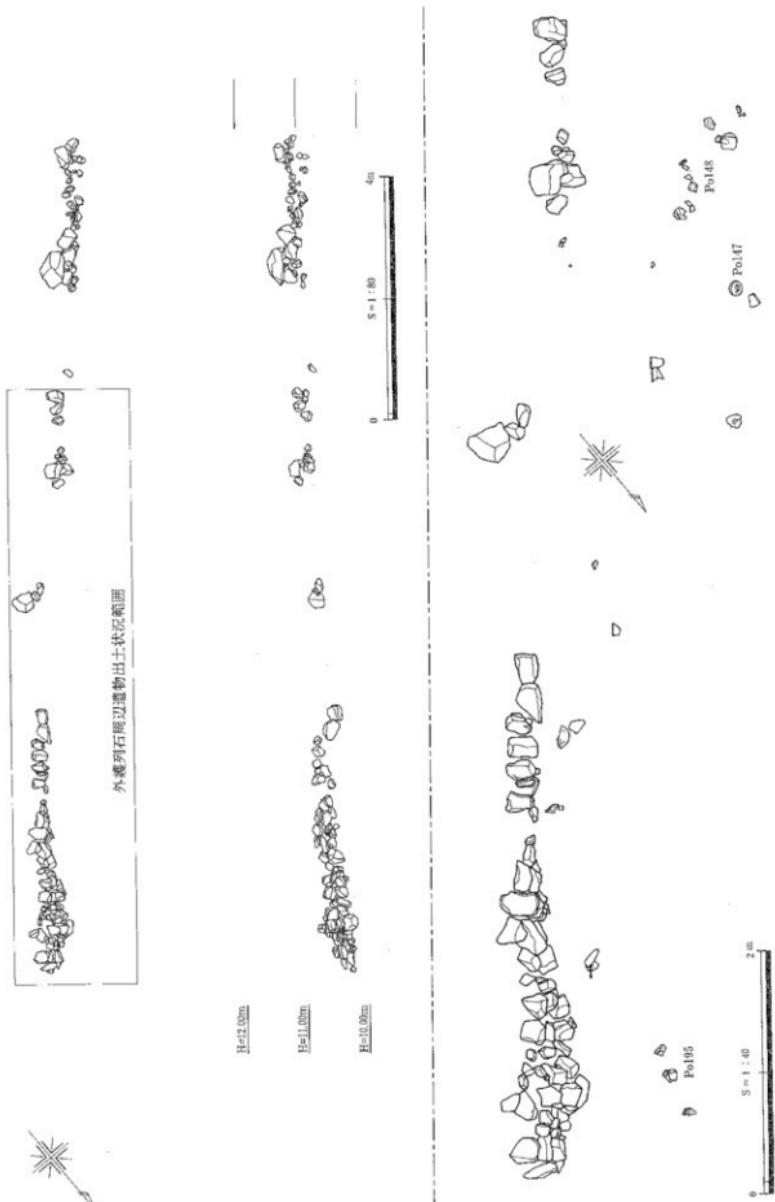
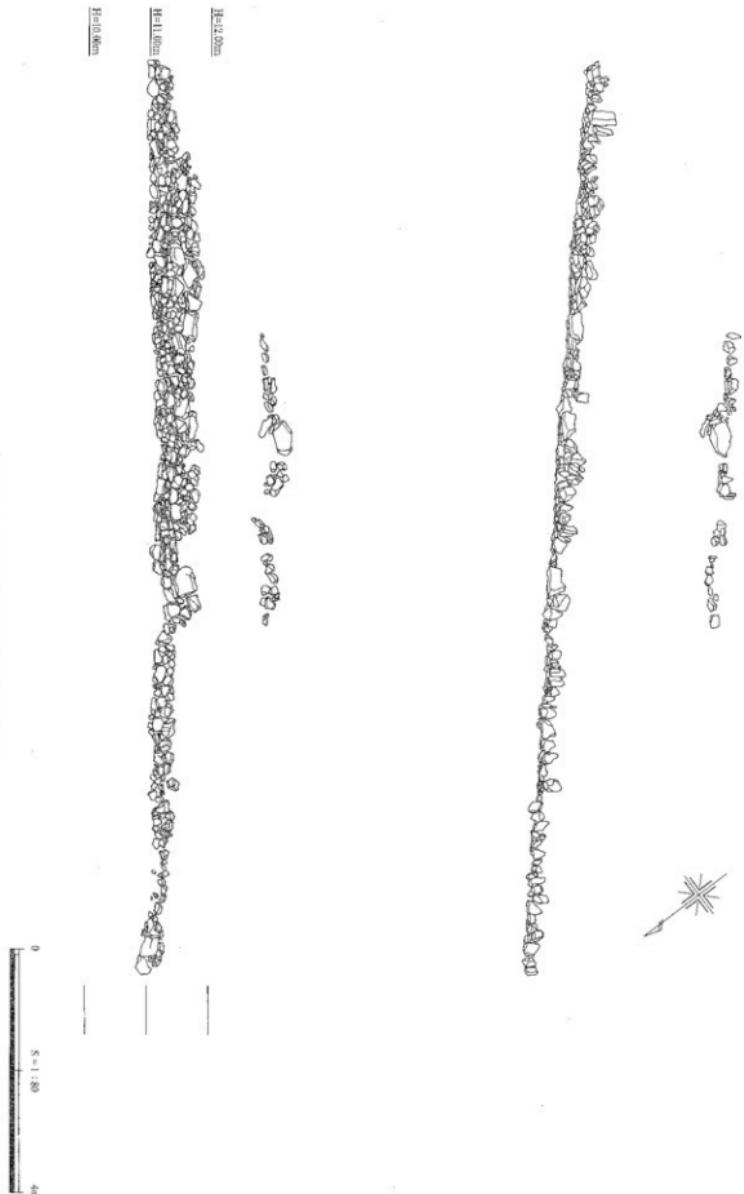


図15 4号墳北西側外縁石平・立面図（上図）・外縁石周辺遺物出土状況図（下図）



補図16 4号墳北東側外縁列石平・立面図

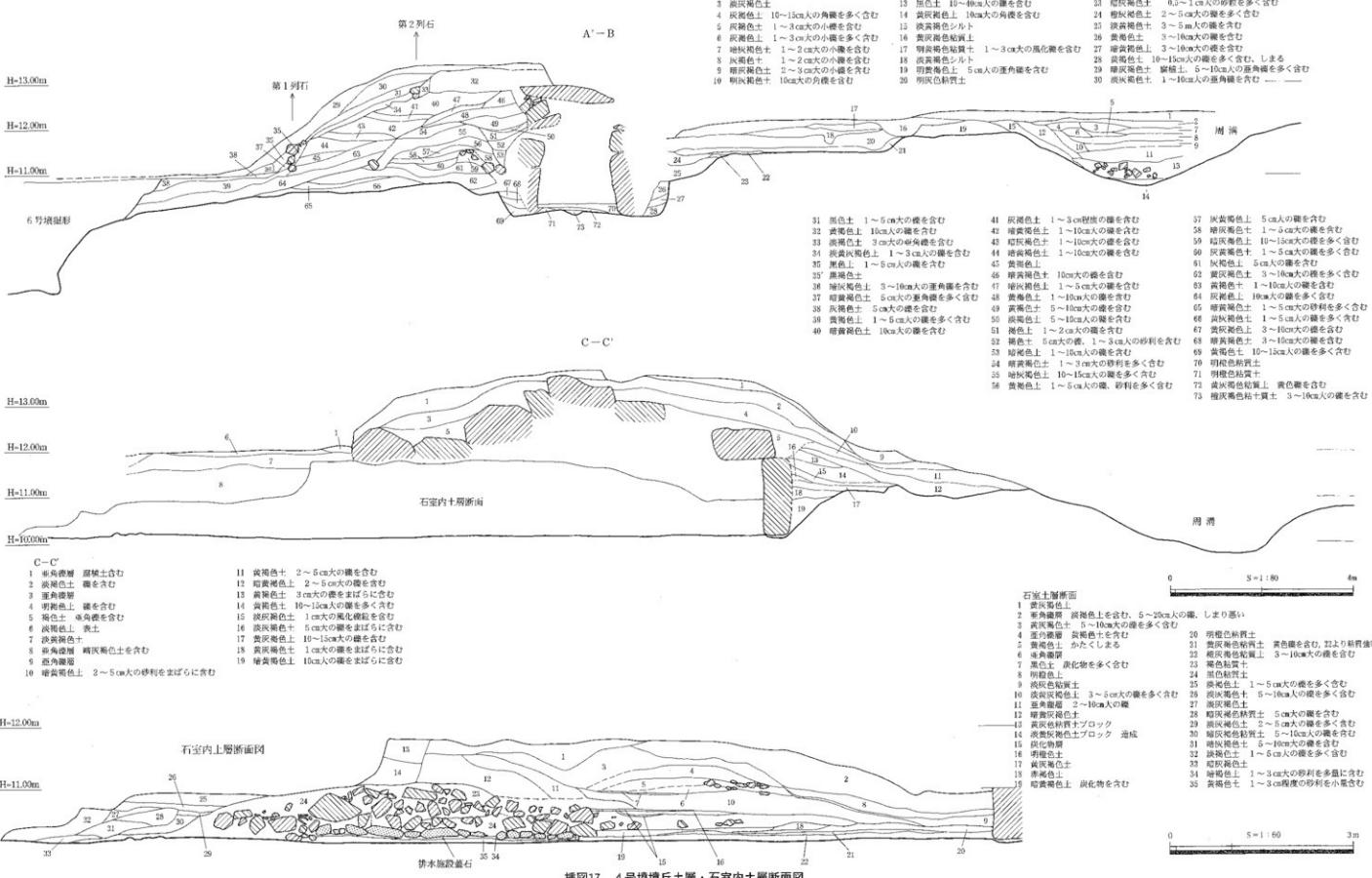
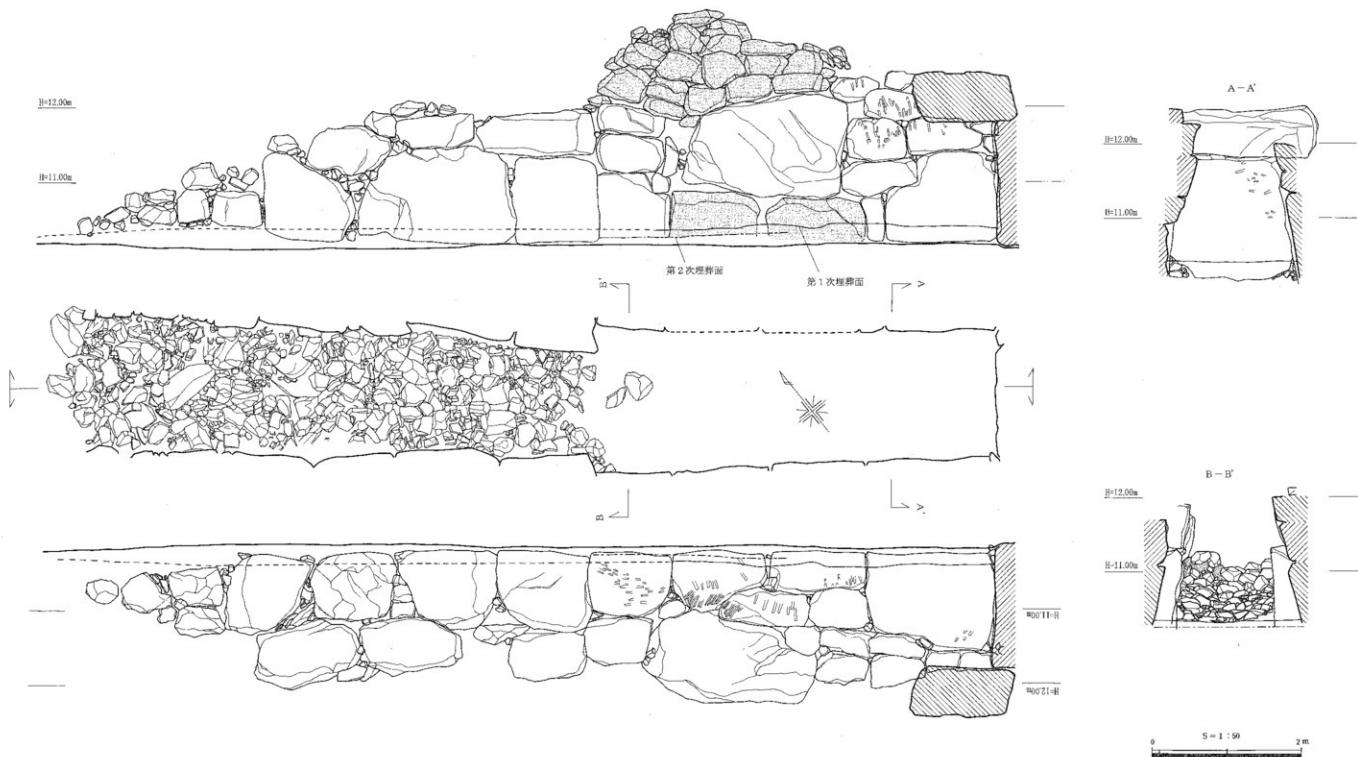
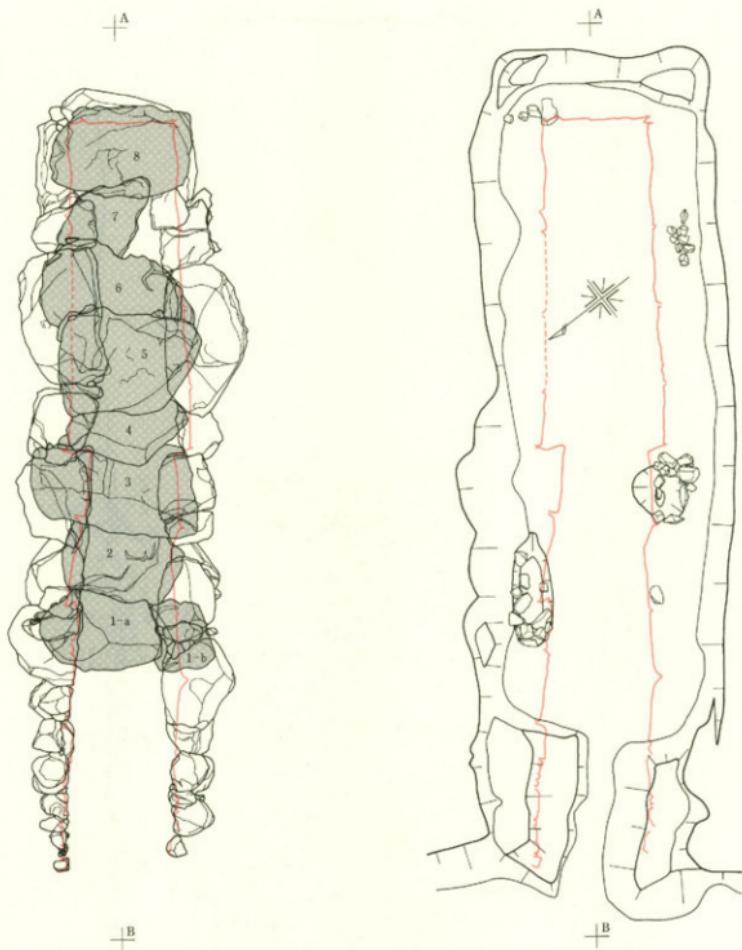


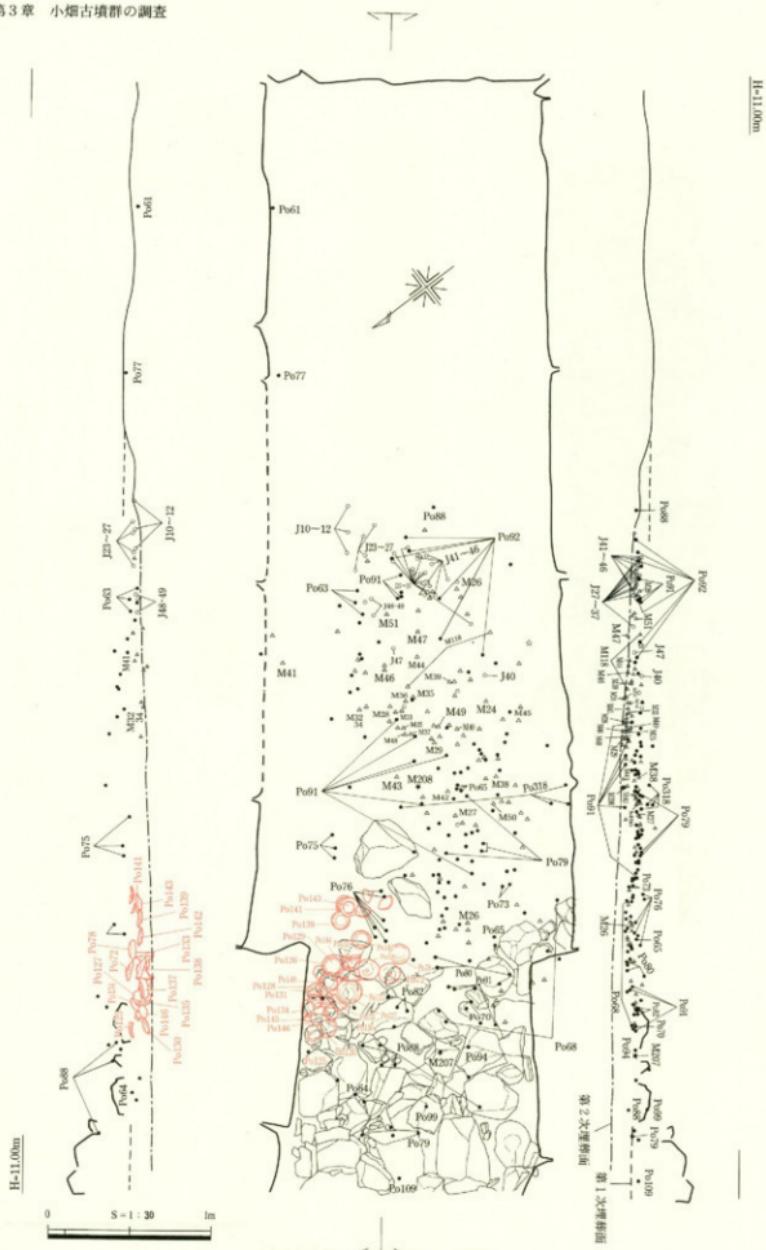
図17 4号墳填丘土層・石室内土層断面図



挿図18 4号墳石室平・立面図

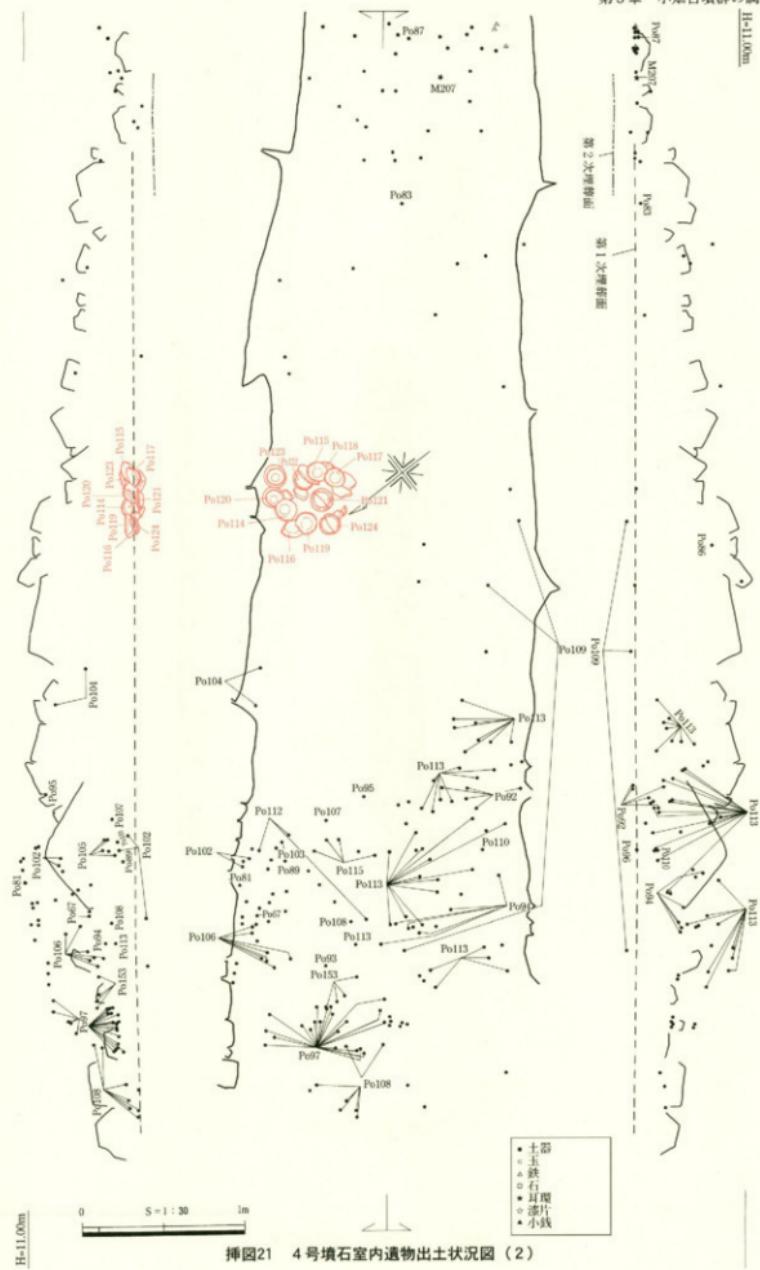


挿図19 4号墳石室・掘形平面図

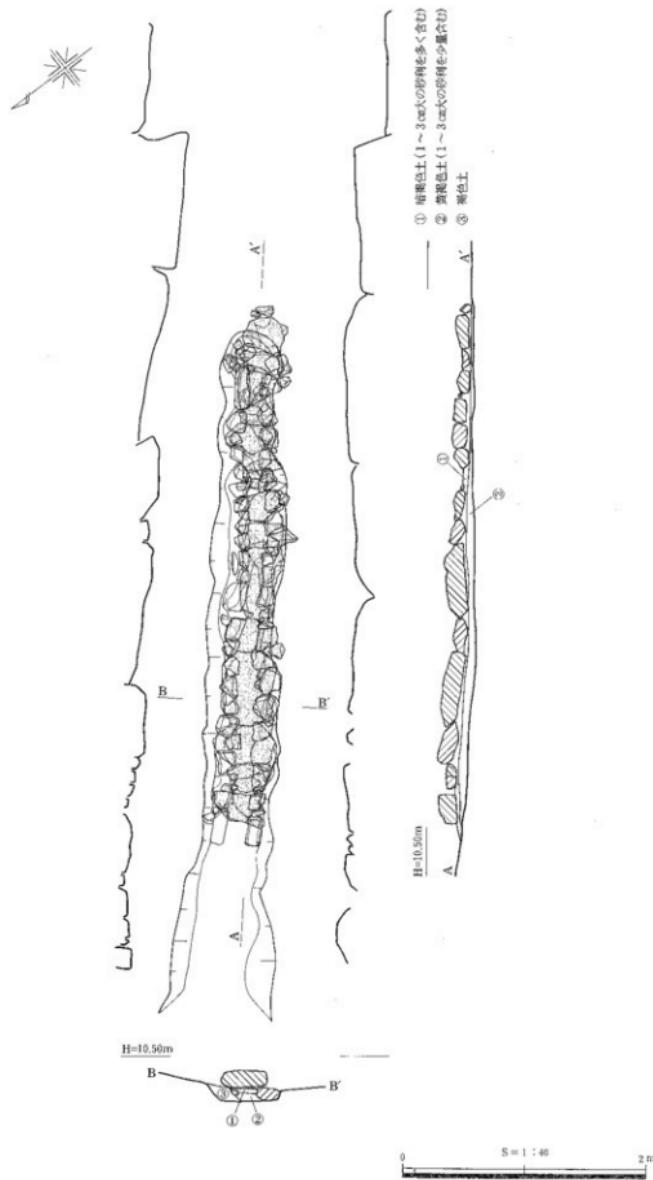


挿図20 4号墳石室内遺物出土状況図(1)

H=11.0km



挿図21 4号墳石室内遺物出土状況図(2)



挿図22 4号墳排水施設実測図

小畠6号墳（挿図14, 23~28, 60, 61, 74, 78~81, 83 CPL4, 8, 9, PL.25~35, 78~82, 96, 103）

| 形態・規模 |  | 構築技法の特徴  |
|-------|--|--|
| 立地    | ・北東に延びる丘陵裾部の緩斜面上に立地  | ・4号墳が造営された後、墳丘北東側に隣接して、構築される。  |
|       | ・方墳<br>・一边22.0m<br>・高さ4.5m<br>（床面より天井石上部）<br>・床面標高8.5m                 | ・墳丘建築以前の旧表土面は確認できなかった。<br>・墳丘建築は4号墳北東側の墳丘、あるいは周溝をカットして石室掘形の掘削を行う。次に石室の腰石を据えた後、裏込め土を入れる。さらに石室の構築に並行して順次、淡褐色～灰褐色土系（礫混じり）の土を互層状に積み重ねていく。堅く叩きしめた様子はみられなかった。天井石上部の封土は流失していた。  |
| 丘周溝   | ・南東側で検出され、4号墳と周溝を共有。<br>・幅 4.8m<br>・深さ0.6m                             | ・地山（淡灰褐色土）を掘り込む。<br>・4号墳周溝との切りあいは確認できなかったが、南東側の周溝は4号墳南西側の周溝より深く、南西隅で段をなすので4号墳を含め、新たに掘りなおしている可能性がある。<br>・埋土は上層で淡灰褐色土（5~10cm大の礫を含む）、中層で黒色土（10~20cm大の礫を含む）、下層で淡黄褐色土である。   |
| 掘形    | ・長さ18.8m<br>・幅 6.0~7.0m<br>・深さ北東側 1.2m<br>南西側 2.4m                     | ・地山（淡灰褐色土）を掘り込んで長さ10.3m、幅4.5mの掘形（挿図25・網掛け部分）を作るが、途中で埋め戻され、石室占地を変更する。北西側に長さを8.5m延長し、幅を6.0~7.0mに拡張する。<br>・床基底部は開口部にむけて緩やかに下る。<br>・一部腰石を据えるために根石を置いている。   |
| 内石室   | ・両袖式<br>・全長13.4m<br>・石材<br>自然石、割石を使用<br>流紋岩質角礫岩<br>角礫凝灰岩<br>・主軸N-51°-W | ・天井石は、石材を支える左側壁の石材が欠落しているため元位置からややずれた状態で検出される。<br>・天井石は7枚の石材で架構される。羨道、奥壁側より徐々に持ち送られ、中央部で高くなる中高式天井を呈する。2.2~3.5m前後の石材を使用し、隙間は小石で充填する。<br>・奥壁は2段積みである。基底部は、1.6m大の石材を縦位に1石組む。隙間に小形の石材を4段詰め、目地を揃えている。2段目は石室幅に合わせた厚みのある1枚岩を平積みする。<br>・奥壁の石で、比較的軟質な角礫凝灰岩にはノミの加工痕がある。<br>・右、左側壁は、奥壁の高さに目地を嵌え、腰石を含めて2~3段積みする。さらに上に架構される天井石の厚さに合わせて数段積まれる。左側壁の中高部分は1×1.3mの石材を載せ、さらに上部には厚さ30cmほどの石材を積んでいたものと思われる。<br>・袖石は1.5m大の石を縦位に置く。<br>・奥壁、側壁はほぼ直立する。<br>・羨門部右側の石材から右方向に2石、外護列石が置かれる。 |
| 主玄室   | ・長方形プラン<br>・長さ4.9m<br>・幅 2.15~2.5m<br>・高さ3.7m前後<br>（床面から中高部分まで）        | ・羨道部の側壁は2~3段積みである。1~2m大の石を腰石に据え、2段目は0.5~1m前後の石を横位に積む。<br>・開口部の石組は、基底部に0.5~0.75m大の小振りな石を使用しており、2段目には石材を積まないものと推定される。  |
| 羨道    | ・長さ8.5m<br>・幅 1.5~1.9m<br>・高さ1.8m                                      |  |

|                  |      | 形態・規模  | 構築技法の特徴  |
|------------------|------|--|--|
| 内<br>部<br>主<br>体 | 床面   | <ul style="list-style-type: none"> <li>埋葬面 2面を確認した。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>暗灰褐色土（炭混じり）を叩きしめ整地した後、第1次埋葬面を形成する。</li> <li>第2次埋葬面は、第1次埋葬面上に淡褐色土を入れた後、人頭大の礫を敷く。（一部残存）</li> </ul>  |
|                  | 閉塞   | <ul style="list-style-type: none"> <li>玄門より2.5m程入口側で検出。</li> <li>玄門より1m奥壁側で検出</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>10~50cmの角礫を使用する。</li> <li>中世~近世にかけての後世の擾乱があり、追葬時の状態を残していないと考えられる。</li> </ul>  |
|                  | 排水施設 | <ul style="list-style-type: none"> <li>長さ11.4m</li> <li>幅 0.3~0.9m</li> <li>深さ15~20cm</li> <li>右袖部、排水施設始点<br/>右側でピット検出</li> <li>直径35~38cm</li> <li>深さ15cm</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>右側壁沿いに一条設置し、途中で中央に進路を変え、境外にぬける。側壁際より流れ込む支流が2ヶ所ある（支流1・2）。</li> <li>整地層（暗灰褐色土）を掘り込んだ素掘りの溝に15~45cm大の細長い石を両端に据える。その上部に15~55cm大の蓋石をのせ、さらに褐色系の土で叩きしめ整地する。溝の中は中空状態にし、そこを水が流れるようにする。一部擾乱により蓋石が失われている。</li> <li>玄室と羨道付近との溝底部の高低差は25cmを測り、羨道部にむかって緩やかに下る。</li> <li>溝内には灰褐色粘質土が堆積。</li> <li>調査時には雨後、排水溝からの排水を認める。</li> <li>ピット内から埴（Po177）、無蓋高杯（Po178）を検出。</li> </ul> |

|        |  | 出土遺物（数字は掲載点数）  |
|--------|--|--|
| 内<br>容 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>須恵器39点 石室内38（壺蓋17、蓋1、壺身15、碗3、高壺1、甕1、提瓶1、甕1）<br/>石室外1（台付壺1）</li> <li>装身具20点（滑石製白玉1、ガラス小玉3、ガラス粟玉15、銅製耳環1）</li> <li>武具10点（大刀1、刀装具5、鉄鎌4）</li> <li>馬具18点（鞍2、鉄具2、革金具14）</li> </ul>  |
| 出土状況   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>遺物は破片で検出されたものが多く、元位置を保つ遺物は少ない。玄室内と羨道部の遺物で接合された個体が多く見られる。</li> <li>排水施設西側ピット内から検出された埴（Po177）、無蓋高杯（Po178）は元位置を保つ可能性が高い。出土状況より排水施設に伴う祭祀が行なわれたものと推測される。</li> <li>玄室入口付近で紅皿・寛永通宝・鉄釘・煙管とともに灰層（炭化物を多く含む）、焦土面を検出した。近世墓に利用されたと考えられる。</li> <li>閉塞石の下層からも遺物が出土しており、追葬時の様子を示すものと考えられる。</li> <li>玄室内の第2次埋葬面で棺材と思われる石材1、2が出土した。石棺が存在した可能性、あるいは他の古墳から運ばれ、礫床の石材として転用された可能性がある。</li> </ul> |

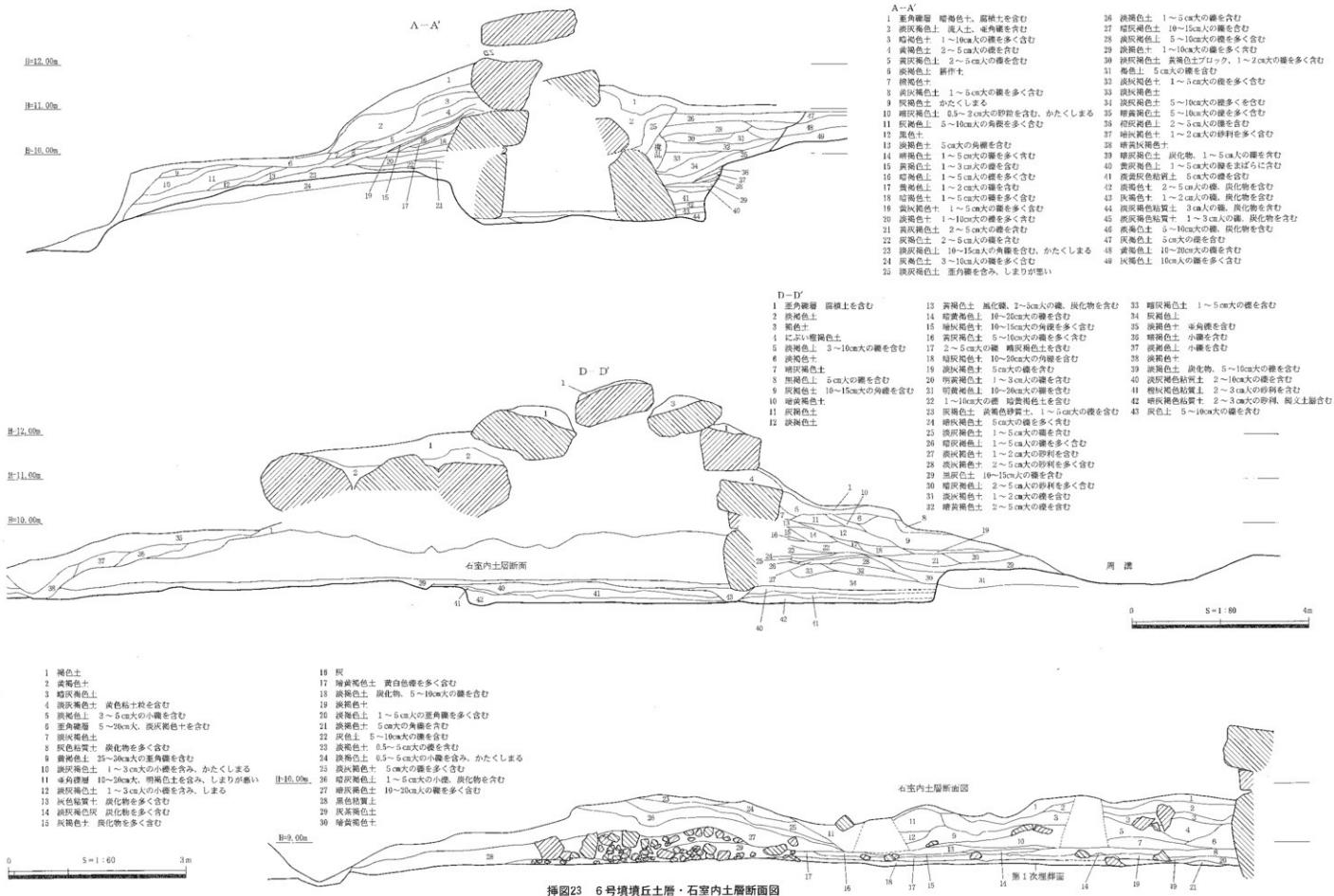
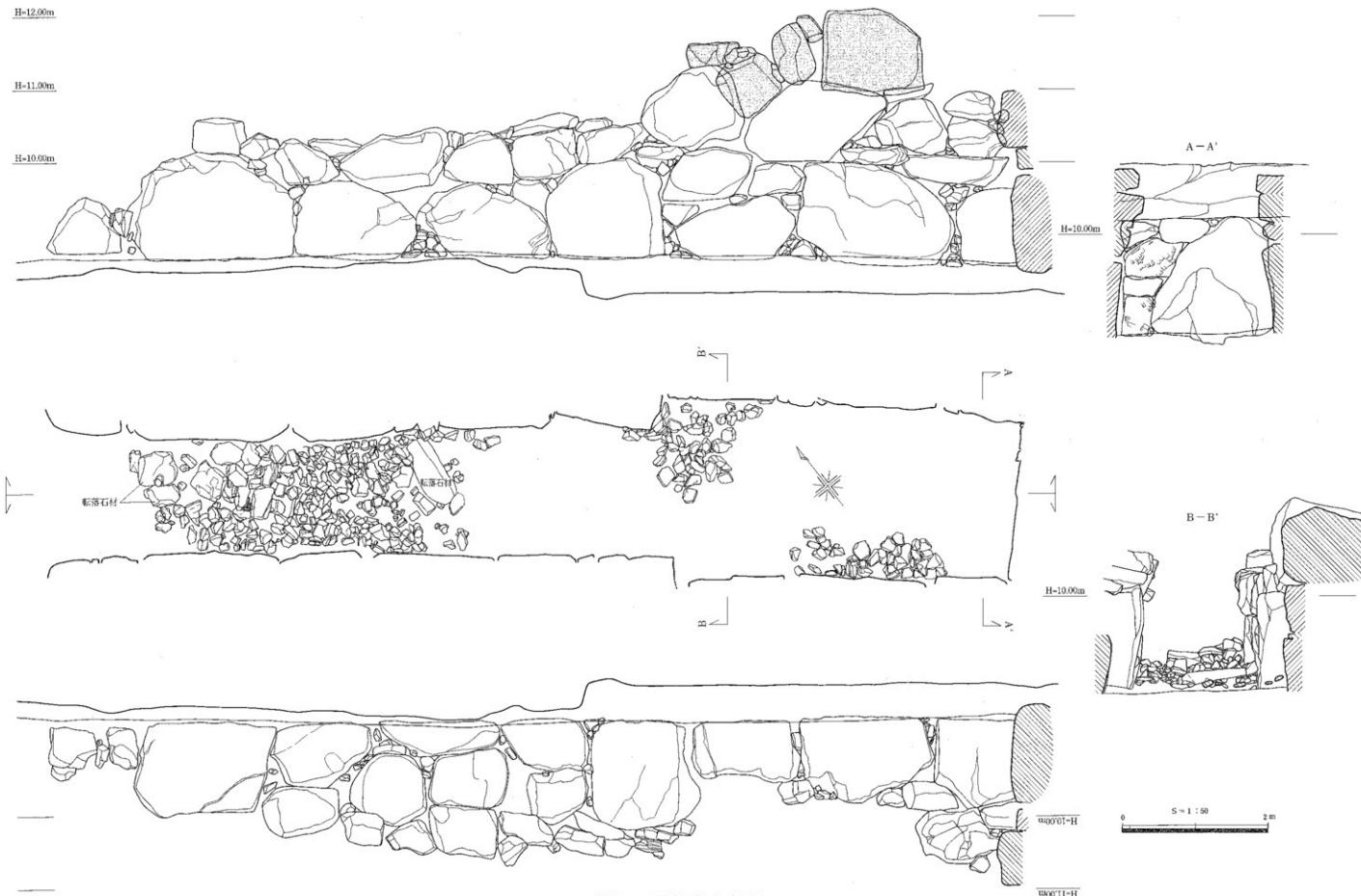
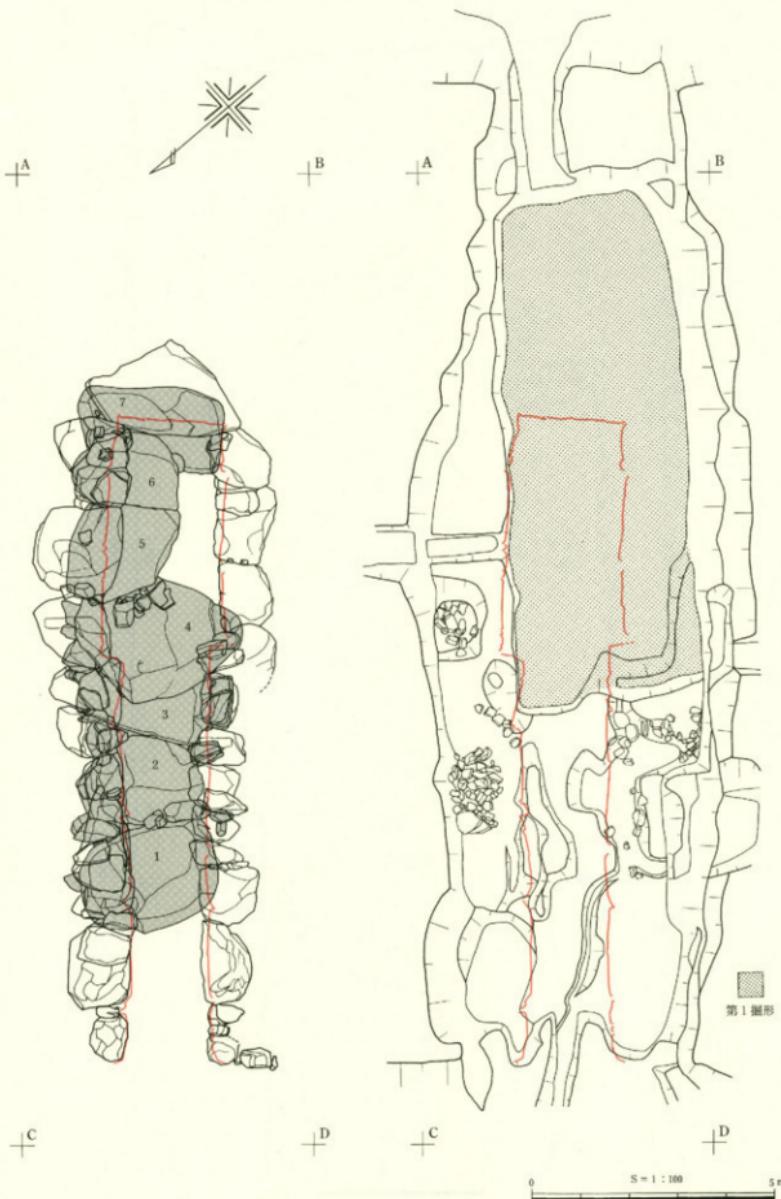


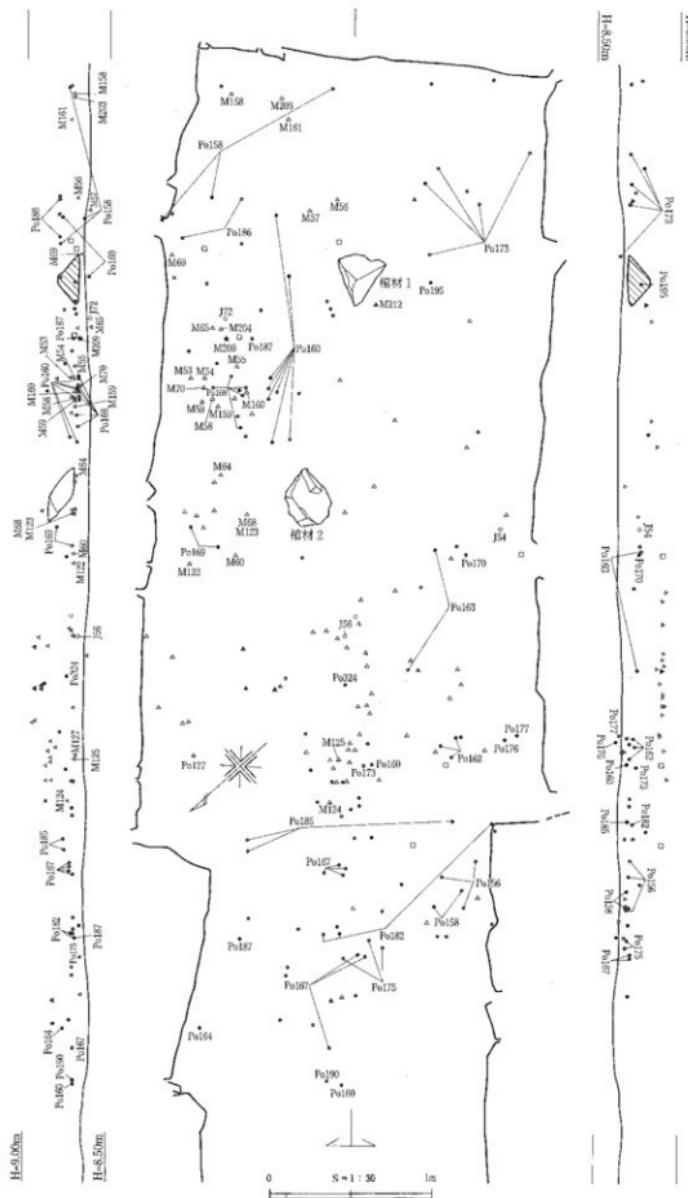
插圖23 6号墳墳丘土層・石室内土層断面圖



挿図24 6号填石室平・立面図



挿図25 6号墳石室・掘形平面図

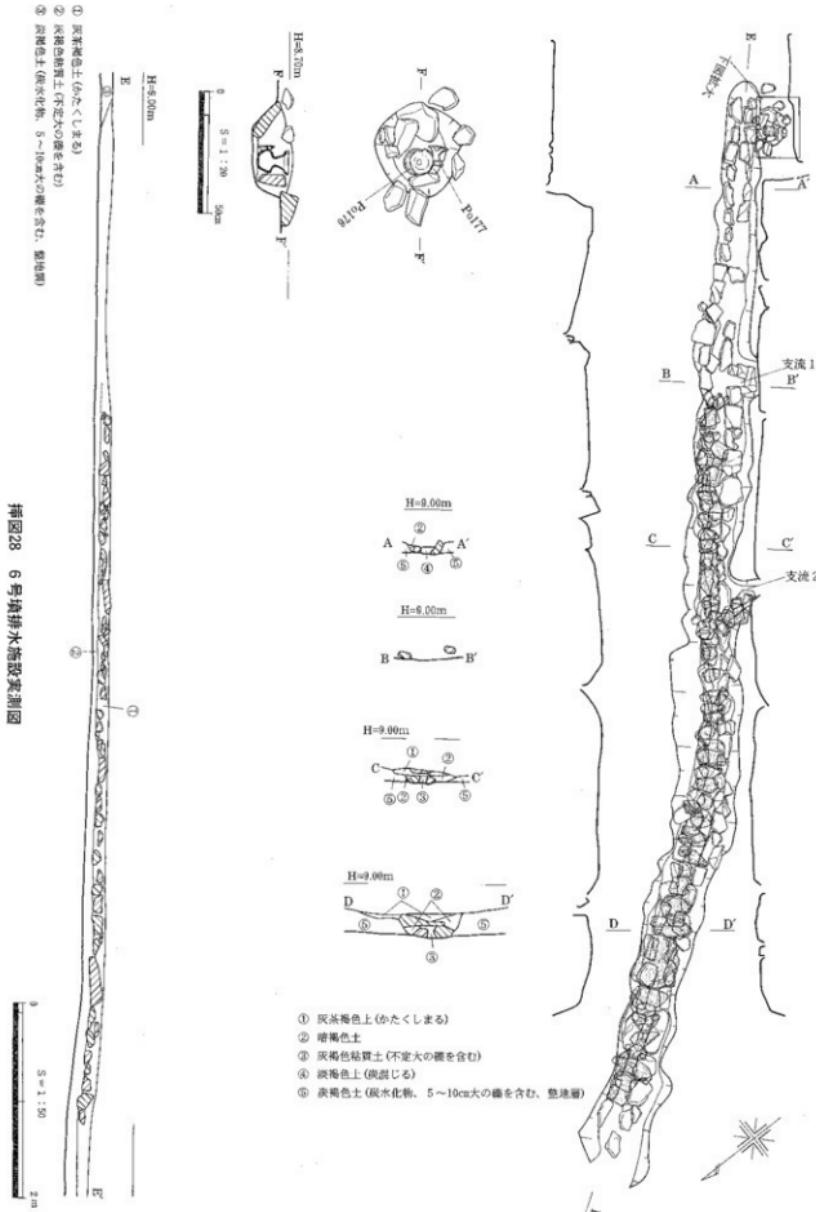


挿図26 6号墳石室内遺物出土状況図(1)



挿図27 6号墳石室内遺物出土状況図(2)

第3章 小畠古墳群の調査

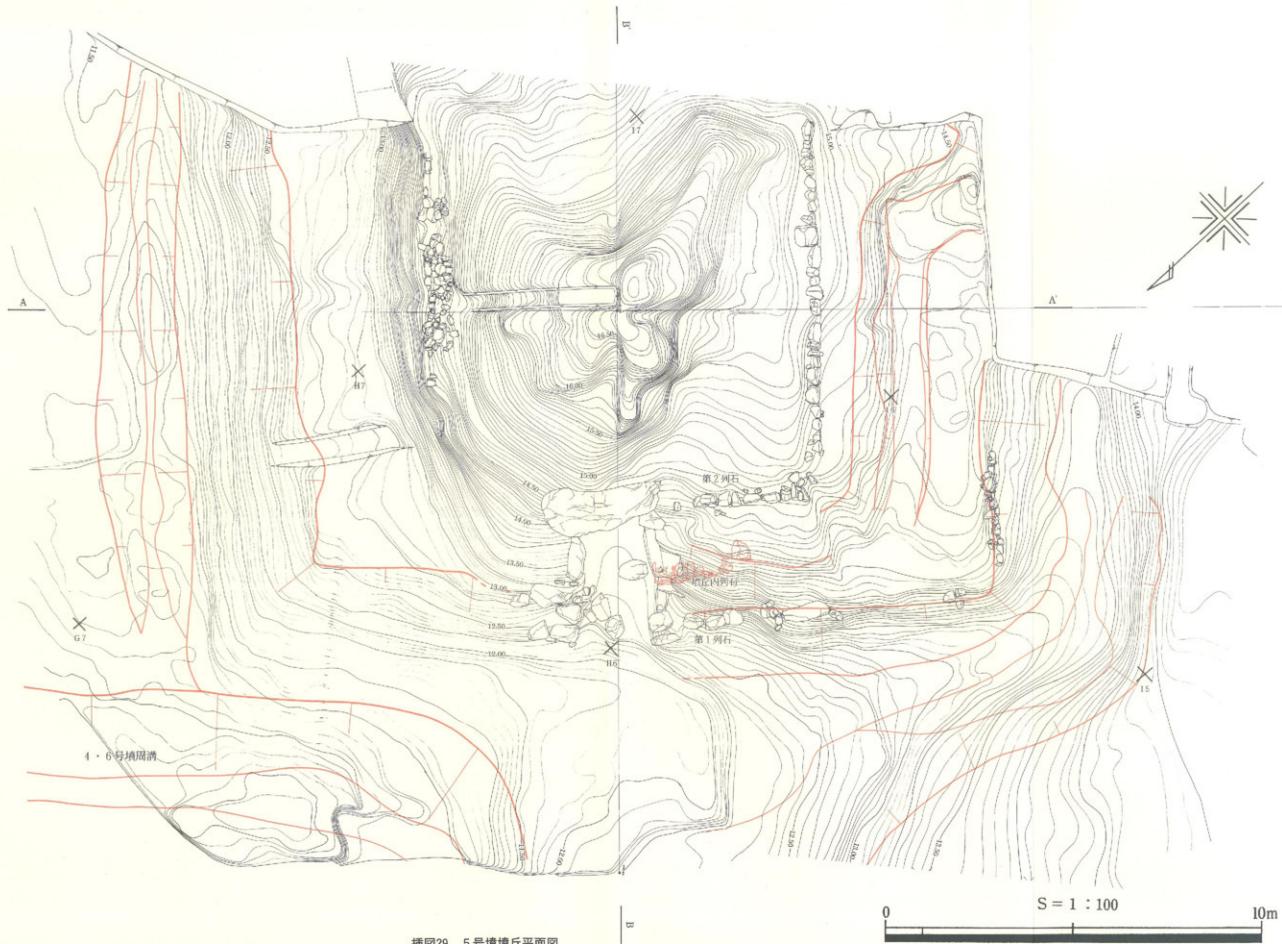


## 小畠5号墳（挿図30～39、62～64、75、78、83、87 図版CPL4、6、7 PL36～45、83～87、97）

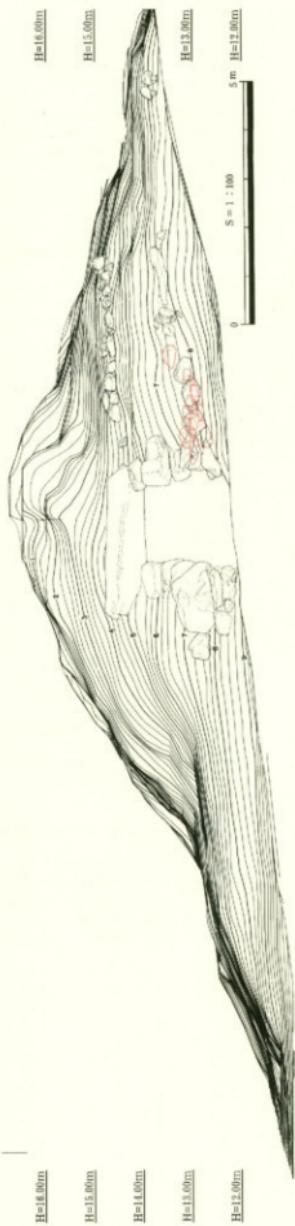
| 形態・規模 |  | 構築技法の特徴   |
|-------|--|---|
| 立地    | 北東に延びる丘陵裾部の緩斜面上に立地   | <ul style="list-style-type: none"> <li>6号墳周溝により北東側をカットされる。</li> <li>4号墳の南西側にあり、古墳群内でも比較的高位に位置する</li> </ul>  |
| 墳丘・封土 | <ul style="list-style-type: none"> <li>2段築成の方墳</li> <li>一辺25.0m</li> <li>高さ4.9m<br/>(床面より墳頂まで)</li> <li>墳頂標高17.0m</li> <li>床面標高12.1m</li> <li>尺使用か？</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>墳丘築造以前の旧表土面は、墳丘北東側で確認できた（挿図33A-A'、60層）。</li> <li>墳丘の北東側と南西側および前庭部は削平をうけている。</li> <li>墳丘築成は、縄文遺物包含層～地山を掘り込み石室掘形を形成。腰石を据えた後、5～10cm程度の礫を裏込めにいれる。さらに石室の構築に並行して順次、灰褐色～黄・橙褐色系の礫混じり土を重ね、互層状に仕上げる。また、石材を滑らせ運搬するため砂利を敷いていた様子もうかがえる。（CPL.6-5, 6）</li> </ul>  |
| 外護列石丘 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第1列石<br/>一辺20m<br/>高さ20～40cm</li> <li>第2列石<br/>一辺10m<br/>高さ20～60cm</li> <li>墳丘内列石<br/>幅 2.3m</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第1列石は石室前面から始まり、墳壙をまわる。標高13～14mで、墳丘前面に比較的大きな石材を据える。北東側は後世の削平により不明。</li> <li>第2列石は天井石前面に接続する。標高14.5～15m。南西側は1段積みで大きさを揃えた石を据える。北東側は1～5段積みで、不揃いな石を乱雜に積む。</li> <li>石室入り口右側の墳丘内から列石が出土した。羨道部手前から4番目の石材の、手前側の面に列石の面を描えて、地山から1～3段積む。</li> </ul>  |
| 周溝    | <ul style="list-style-type: none"> <li>幅 1.3～3.5m</li> <li>深さ1.0m</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地山（淡橙褐色土）を掘り込む。</li> <li>南東側は調査区域外のため不明。</li> <li>埋土は、北西側において黒色土で、須恵器を含む。11層（挿図33 A-A'）は外護列石が落ち込んだものである。</li> </ul>  |
| 掘形    | <ul style="list-style-type: none"> <li>長さ15.0m</li> <li>幅 4.6～5.6m</li> <li>深さ右側壁側1.8m<br/>奥壁側 1.5m</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地山を掘り込む。</li> <li>基底部は、玄室～羨道部中程まではほぼ水平だが、その後開口部にむけて緩やかに下る。</li> <li>全体的に奥石を置き、腰石を据える。</li> </ul>   |
| 内部    | <ul style="list-style-type: none"> <li>両袖式</li> <li>石室全長12.5m</li> <li>主軸N-50°-W</li> <li>石材は切石と自然石を使用<br/>凝灰岩<br/>角礫凝灰岩</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>天井石は4枚の石材で架構され、玄門～玄室前半が高い中高式天井の形態をとる。中高部分の石材は長径4m、厚さ1.4m以上、重さ3.1tの巨石を使う。</li> <li>奥壁を側壁で挟む。</li> <li>奥壁、側壁ともに壁面は直立する。</li> <li>奥壁は一辺2mの1枚石で、隙間を磚で充填する。</li> <li>側壁は、羨道から玄室まで、基底石を含め2～3段目地をそろえて、石材を横位に使いながら積み上げる。さらに玄室の中高部分には、0.5m～0.8m程度の石材を横位に2段積み上げ、天井石を架構する。</li> <li>袖石は1.4m大の石を縦位に置き、玄室と羨道の間の目地を描える。</li> </ul> |
| 主体    | <ul style="list-style-type: none"> <li>長方形プラン</li> <li>長さ4.9m</li> <li>幅 2.1～2.3m</li> <li>高さ2.6m<br/>(床面から中高部分)</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>石室の入り口付近では、0.5m程度の自然石を使い、入口に向かつて徐々に低くなる。</li> </ul>  |
| 羨道    | <ul style="list-style-type: none"> <li>長さ7.6m</li> <li>幅 1.7～2.2m</li> <li>高さ1.7m (床面から天井石)</li> </ul>   |   |

|                  |        | 形態・規模             | 構築技法の特徴  |
|------------------|--------|-------------------|--|
| 内<br>部<br>主<br>体 | 床<br>面 | ・埋葬面は1面を確認した。     | ・玄室内の埋葬面は、後世の擾乱によりほとんど残っていない。<br>・壙形の底に、黄色砂質岩を含む黄灰褐色土、赤褐色土（炭を含む）を入れて叩きしめ床面を整地する。その後、玄門付近に赤色顔料（酸化鉄）を敷き埋葬面とする。 |
|                  | 閉<br>塞 | ・玄門より1.3m程入り口側で検出 | ・10~50cm大の自然石を使用している。<br>・長さ6.5mにわたり検出したが、後世の擾乱により当時の閉塞状態を残していない。  |

|        |  | 出土遺物（数字は掲載点数）   |
|--------|--|---|
| 内<br>容 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・須恵器49点 石室内44（环身13、环蓋23、蓋3、高环3、甕1、壺1）<br/>石室外5（甕4、壺1）</li> <li>・土師器4点 石室内1（直口壺1）<br/>石室外3（甕3）</li> <li>・馬具14点（障泥吊り金具4、鐙2、鞍1、銚具1、革金具5、吊り金具1）</li> <li>・武具（刀装具1）</li> <li>・棺金具3</li> <li>・石棺（破片のみ数点）</li> <li>・その他 鉄釘、鐵鎧（未掲載）</li> </ul>   |
| 出土状況   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの遺物は、玄室よりの羨道部から破片で出土しており、元位置を保つものは少ないと思われる。玄室内と羨道部で接合した土器もかなりあり、追葬時の様子出しや後世の擾乱により動いている。</li> <li>・盜掘により破壊された家形石棺の棺材片が、擾乱土中から数点出土した。また、棺金具、釘も出土しており、複数回の埋葬が行われたと思われる。</li> <li>・石室入り口右側の埴丘上で須恵器甕（Po244）が出土した。また、外護列石周辺や周溝内から、須恵器甕・壺や土師器甕が出土している。これらの遺物は、墓前祭祀に伴うものと思われる。</li> <li>・閉塞石上面から宋錢（押印94 M216）が出土しており、中世に擾乱をうけていることが窺われる。</li> </ul> |



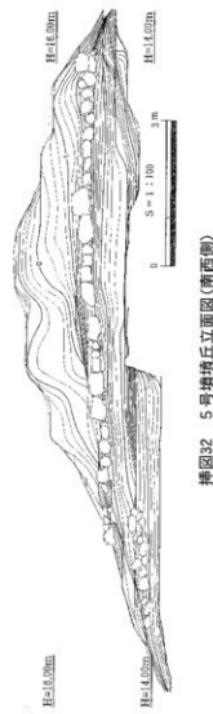
挿図29 5号填墳丘平面図



挿図30 5号墳埴丘立面図(北西側)

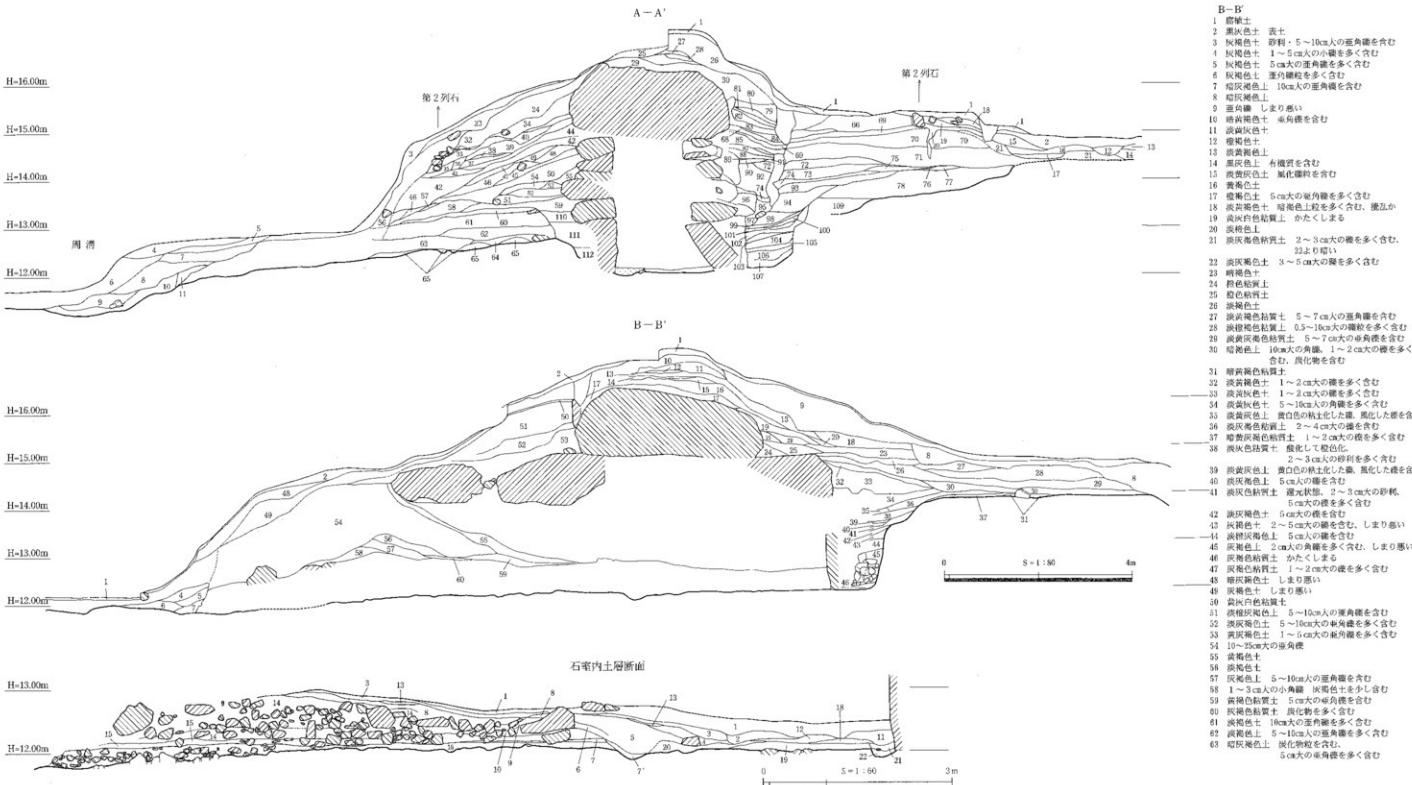


挿図31 5号墳埴丘立面図(北東側)

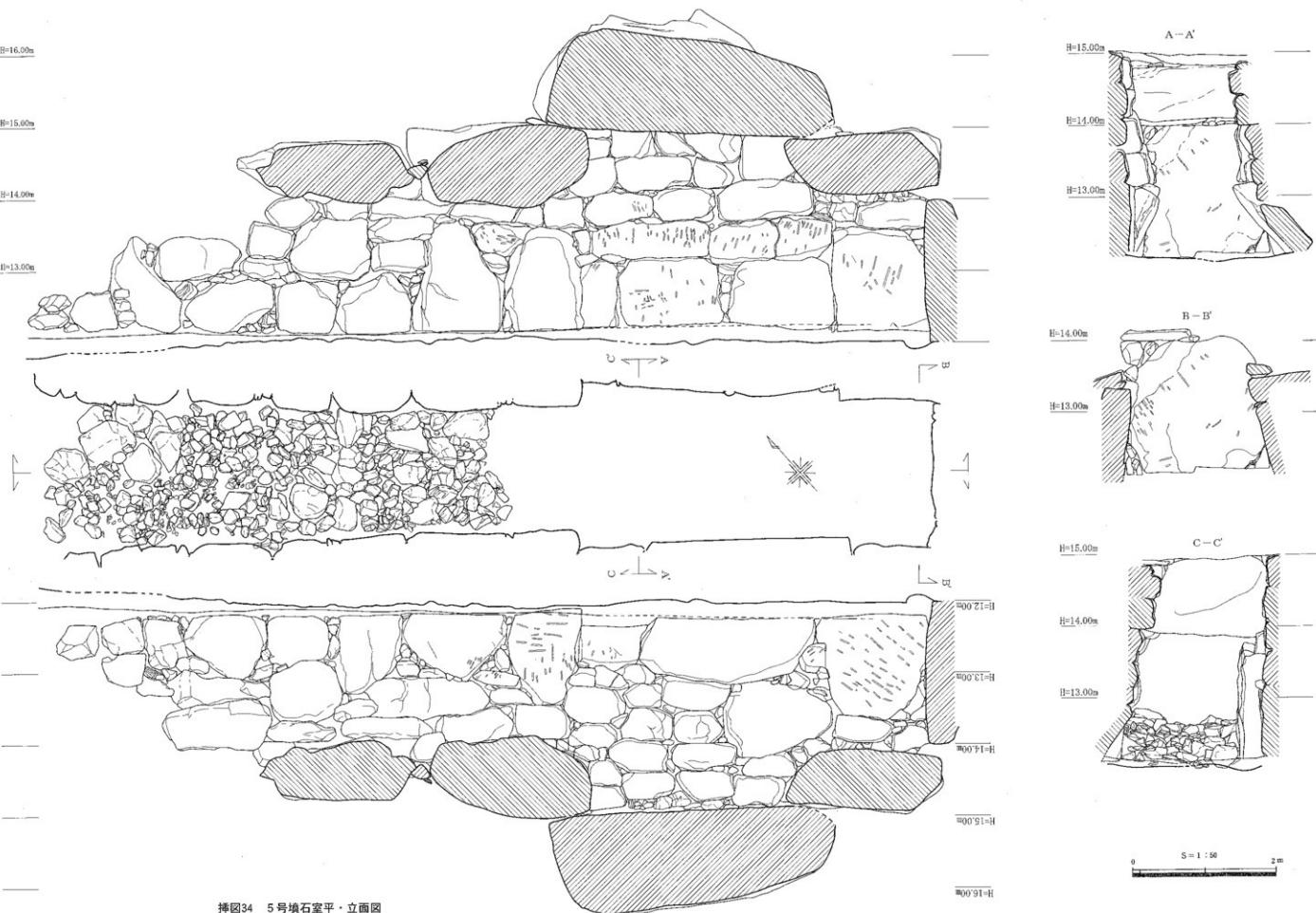


## A-A'

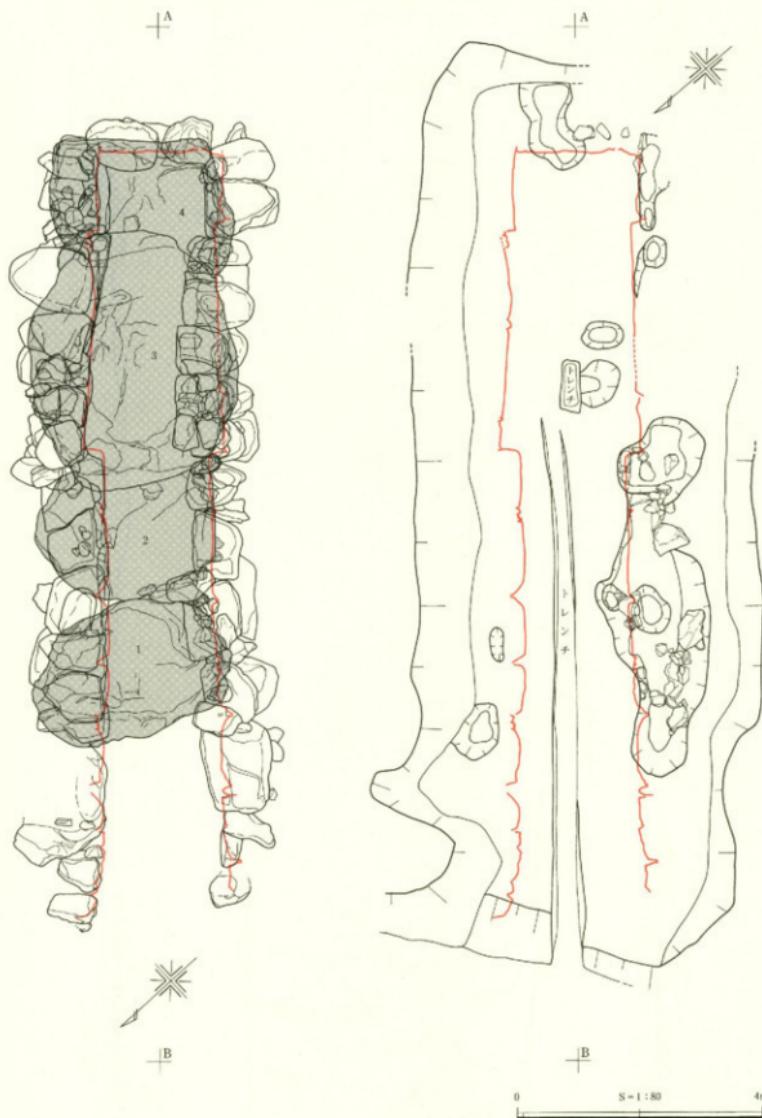
- 1 淡褐色土 塗祐土を含む  
2 細灰褐色土 斧耕土  
3 高葉土 5~10cmの大の亜角礫を含む  
4 黄褐色土 しまり悪い  
5 淡灰褐色土上  
6 黒色土 濁器器包含層  
7 稲葉褐色土 1~5cmの大の亜角礫を含む  
8 淡褐色土 1~2cmの大の亜角礫を含む  
9 淡褐色土上 かたくしまる  
10 黑色土 遺物包含層  
11 灰褐色土 5~10cmの大の亜角礫を含む  
12 煙灰褐色土 2層より黒い、塊乱  
13 灰褐色土  
14 黄褐色土 5~10cmの大の亜角礫を多く含む  
15 灰褐色土 5~10cmの大の亜角礫を多く含む  
16 灰褐色土 13層に似る、1~2cmの大の礫を含む  
17 灰褐色土 かたくしまる、14層に似る  
18 灰褐色土 20cmの大の礫を含む  
19 黑褐色土  
20 淡褐色土 5cmの大の亜角礫を多く含む、かたくしまる  
21 明黄褐色土 5cmの大の亜角礫を多く含む  
22 淡褐色土  
23 褐色土  
24 黄褐色土 1~5cmの大の礫を含む  
25 淡褐色土  
26 灰灰褐色土 5cmの大の亜角礫を多く含む  
27 灰褐色土  
28 明黄褐色土  
29 灰褐色土  
30 淡黄褐色土 5~10cmの大の亜角礫を多く含む  
31 硫褐色土 小礫を含む  
32 黑色土 須恵器包含層  
33 灰褐色土 5~10cmの大の亜角礫を多く含む  
34 十色不明  
35 淡褐色土  
36 淡褐色土 3cmの大の礫を含む  
37 灰褐色土  
38 灰灰褐色土  
39 淡灰褐色砂質土 1~2cmの大の亜角礫を含む  
40 淡褐色土 1~5cmの大の亜角礫を含む  
41 黄白色粘質土 砂、1~5cmの大の角礫を含む  
42 黄褐色土 5~10cmの大の礫を多く含む  
43 灰褐色土  
44 淡褐色土 1~5cmの大の亜角礫を含む  
45 淡褐色土 2cmの大の礫を含む  
46 5cmの大の亜角礫 暫間に灰褐色土を含む  
47 黄褐色粘質土  
48 淡黃褐色土 かたくしまる  
49 黄褐色土 1~3cmの大の亜角礫を多く含む  
50 灰褐色土 1~5cmの大の礫を多く含む  
51 淡褐色土 2~15cmの大の礫を含む  
52 淡褐色土  
53 淡褐色土 2~3cmの大の礫を含み、かたくしまる、  
    黄褐色土を含む  
54 黄褐色土 1~2cmの大の礫を多く含む  
55 淡褐色土 かたくしまる  
56 淡褐色土 3~10cmの大の礫を多く含む  
57 灰褐色土  
58 灰褐色土  
59 淡灰褐色土  
60 淡灰褐色土 0.5~1cmの大の礫粒、炭化物を含む  
61 灰褐色土 55層と似る  
62 淡褐色土 5cmの大の亜角礫を含み、かたくしまる  
63 淡褐色土 1~5cmの大の亜角礫を多く含み、かたくしまる  
64 淡褐色土 3cmの大の礫を含む  
65 灰褐色土 3cmの大の礫を含む  
66 黄褐色土 1~3cmの大の亜角礫を多く含む  
67 灰褐色土 1~10cmの大の礫を多く含む  
68 明黄褐色土 5cmの大の亜角礫を含む  
69 灰褐色土 黒灰色土を含む  
70 淡褐色粘質土 1~5cmの大の亜角礫を含む  
71 淡褐色土 10~15cmの大の亜角礫を多く含む  
72 灰褐色土 1~10cmの大の礫を多く含む  
73 淡褐色土 5~20cmの大の礫を多く含む  
74 淡黄褐色粘土  
75 淡褐色土  
76 黑色底化物  
77 淡褐色土 1cmの大の礫を含む  
78 黄褐色土 1cmの大の礫、5~10cmの大の亜角礫を含む、  
    炭化物を含む  
79 淡黄褐色粘質土  
80 淡褐色土 1~5cmの大の礫を含む  
81 淡褐色土 1~2cmの大の礫を多く含む  
82 淡褐色土  
83 淡黄褐色土  
84 淡黄褐色土 3cmの大の亜角礫を含む  
85 灰褐色粘質土 5~10cmの大の亜角礫を含む  
86 灰褐色土  
87 灰褐色土 2cmの大の礫を含む  
88 灰褐色土 1~2cmの大の礫を多く含む  
89 黄色底化物化層 うすく入る  
90 灰褐色土 1~2cmの大の礫粒を多く含む  
91 黄褐色土  
92 淡褐色土 1~10cmの大の礫を含む、しまり悪い  
93 淡黄褐色土 1~10cmの大の礫を多く含む  
94 淡灰褐色粘質土 1~5cmの大の礫を多く含む  
95 淡灰褐色粘質土 1~2cmの大の礫を含む、しまり悪い  
96 淡灰褐色粘質土 2~5cmの大の礫を含む、しまり悪い  
97 灰褐色土 しまり悪い  
98 黄褐色粘質土 1~2cmの大の礫を含む  
99 淡褐色土 1~3cmの大の礫を含む  
100 黄褐色土 3~4cmの大の礫を含む  
101 淡黄褐色粘質土 1~2cmの大の礫を含む  
102 黄褐色土 1cmの大の礫を多く含む  
103 灰褐色土 黄褐色土、1~3cmの大の礫を含む  
104 黄褐色土 1~2cmの大の礫を含む  
105 淡黄褐色粘質土 5cmの大の亜角礫を多く含む  
106 灰褐色土 1~2cmの大の礫を含む  
107 淡褐色土 砂粒を含む  
108 黄褐色土  
109 黄褐色土 1cmの大の礫粒、3~10cmの大の亜角礫を  
    多く含む  
110 淡灰褐色土 1~5cmの大の礫を含む  
111 淡灰褐色土 10cmの大の亜角礫を含む、しまり悪い  
112 灰褐色土 5cmの大の亜角礫を含む、しまり悪い  
113 灰褐色土 炭化物、小礫を含む  
114 灰褐色土 3cmの大の礫を含む



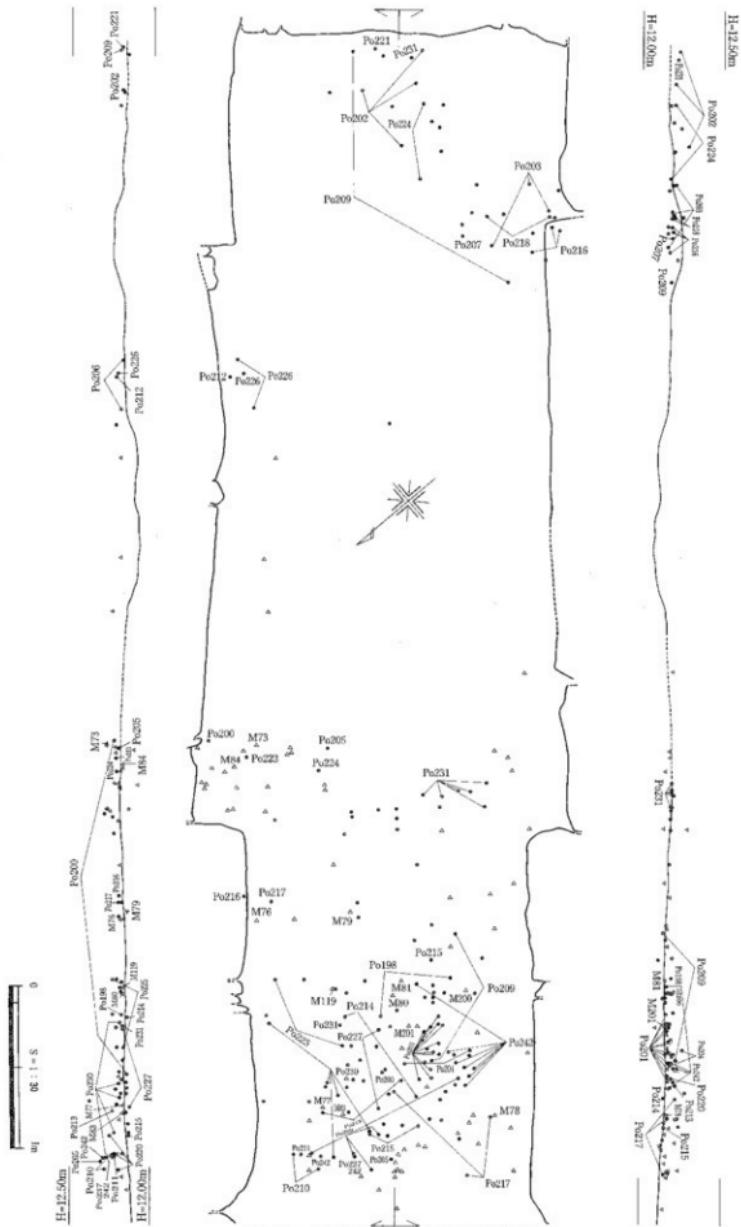
挿図33 5号墳墳丘土層・石室内土層断面図



挿図34 5号埴石室平・立面図



挿図35 5号墳石室・掘形平面図



挿図36 5号墳石室内遺物出土状況図(1)

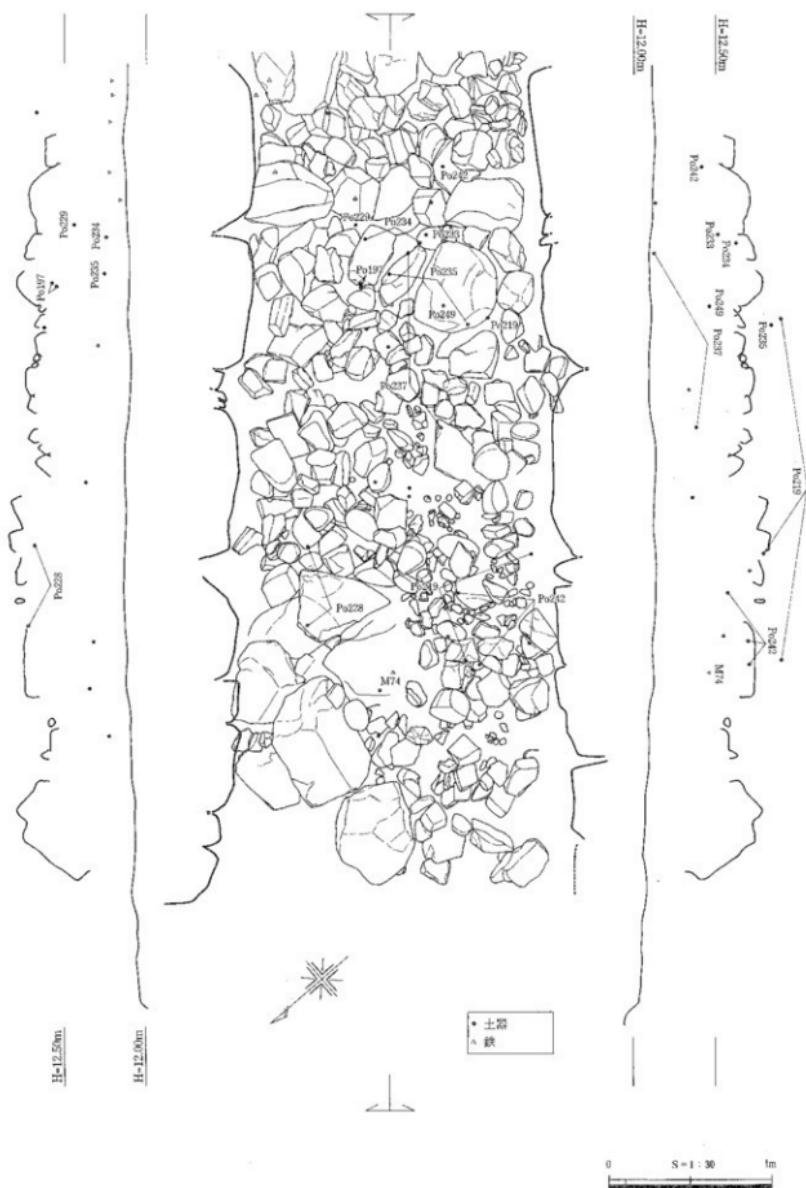
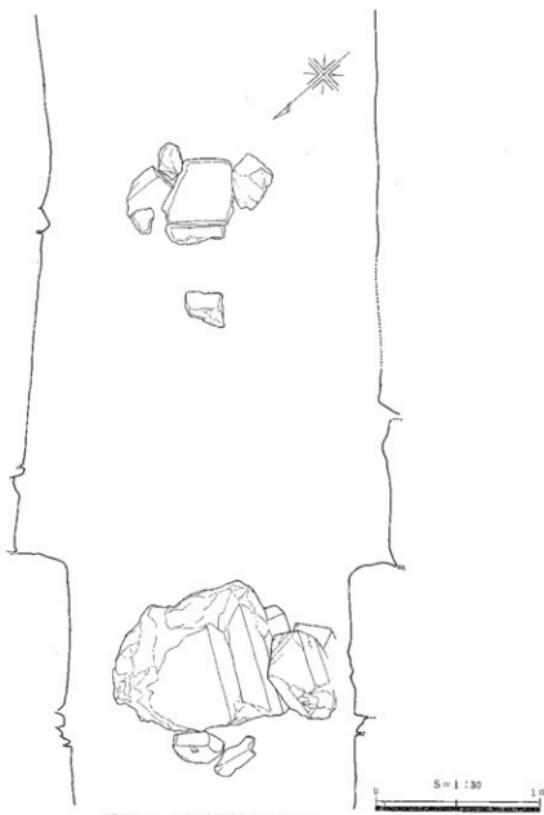
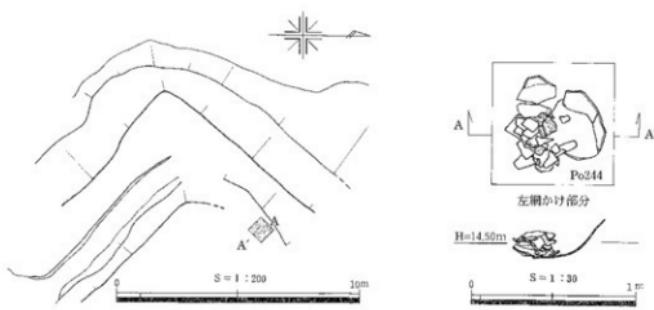


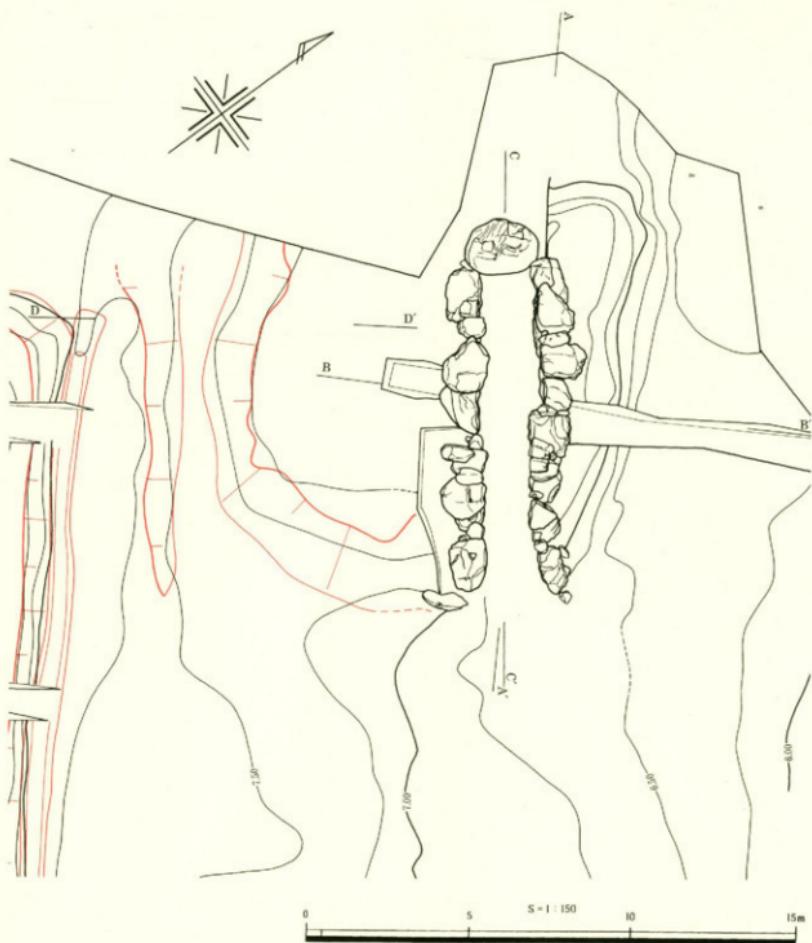
插图37 5号塘石室内遗物出土状况图(2)



挿図38 5号墳石棺出土状況図



挿図39 5号墳埴丘上遺物出土状況図



挿図40 7号墳墳丘平面図

小畠7号墳 (挿図40~45, 65, 66, 68, 76~79, 82 図版PL.46~56, 88~92, 100, 101, 104)

|       |   | 形態・規模                                   | 構築技法の特徴   |
|-------|---|---|---|
| 墳丘・封土 | 立地  | ・北東に延びる丘陵裾部の緩斜面上に立地                     | ・6号墳の北東約に立地。<br>・古墳群中一番低位に位置する。   |
|       | 方墳  | ・一辺19m (復元推定値)<br>・床面標高6.64m            | ・墳丘の西半分の大半は削平されている。<br>・墳丘の東半分は側壁2段目までの盛り土が残存していた。旧表土面から地山を掘りこんで掘形を形成する。墳丘は腰石配置後に暗黄灰褐色土 (12) を固く詰め、順次褐色系の土を互層状に積み上げて形成している。<br>・墳丘築造以前の旧表土面=暗褐色土 (挿図41 B-B', 13) が確認され、その下層から縄文遺物包含層=灰褐色土 (挿図41 B-B', 14) が確認された。   |
|       | 周溝  | ・南西側でのみ検出<br>・幅 3.4m<br>・深さ0.4m (共に現存値) | ・埋土は2層に分かれ、上層では黒色土、下層では淡褐色土で構成される。  |
| 掘形    | 長さ11.7m<br>幅 2.7~5.8m<br>深さ北東側0.3m<br>南西側0.45m  |   | ・丘陵斜面の旧表土及び地山を掘りこんで平坦面をつくり、腰石を据えるために必要な部分だけ40~60cmの大きさの石材や小礫を詰めている。   |
|       | 片袖式<br>長方形プラン<br>石室全長10.2m<br>主軸N-54.5°-W<br>石材 自然石を使用<br>流紋岩質角礫凝灰岩<br>流紋岩質溶岩<br>角礫凝灰岩<br>腰石石材重量 3~8t |   | ・天井石は6枚あるが、転落、陥没などにより元位置を保っていない。<br>・奥壁は1.9m大の一枚石である。<br>・玄室側壁は1~1.5m大の石で左右共に2段目まで残存し、それより上の石材はすべて転落している。<br>・側壁は、羨道から玄室まで、奥壁石材と袖石材上面のレベルに目地を描えて2~3段石材を積み上げる。<br>・石材同士の隙間には、10~50cmの大小の石を詰めている。<br>・袖石は1.5m大の石を縦位に置く。<br>・石棺の下から襖床を検出した。<br>・襖床は、玄室中央の石棺を設置する部分にのみ、10~20cm大の角礫の平坦な面を描えて敷き詰める。 |
| 内室部   | 玄室長4.7m<br>幅1.8m (奥壁)<br>~2.3m (玄門)<br>・高さ2.05m (奥壁で)   |   |   |
|       | 羨道長5.6m<br>幅 1.5~2.3m<br>・高さ1.75m (現存最大高)   |   |   |
| 床面    | ・1面を確認した  |   | ・玄室内は、床面を襖床の上面レベルと揃えるために、暗灰褐色土を敷いている。<br>・閉塞部床面の一部は黄灰褐色土を敷いて床面としている。  |
| 閉塞    | ・玄門より約20cm入口側で検出  |   | ・高さ0.6m、長さ約4.5mの範囲で検出したが、後世の擾乱により当時の閉塞状態を残していない。<br>・10~50cm大の石を乱雑に積んでいる。   |

| 出土遺物 (数字は掲載点数)   |   |
|------------------|---|
| 内<br>容           | <p>石室内出土遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石棺1 (矧り抜き式家形石棺、蓋材2枚の内1枚を欠く)</li> <li>・須恵器29点 石室内 (环蓋6、坏身7、低脚無蓋高坏3、碗1、脚付広口壺1、長頸壺1、平瓶1)<br/>石室外 (环蓋1、坏身4、碗1、有蓋高坏1、脚付広口壺1、広口壺1)</li> <li>・土師器2点 (皿1、甕1)</li> <li>・武具 (大刀1、鐵鎌4)</li> <li>・馬具 (轡1、鐙吊り金具1、鐙1、鞍2、鉢具1、革金具13)</li> <li>・鉄釘8点</li> </ul>   |
| 出<br>土<br>状<br>況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・玄室内床面上における遺物出土状況は、玄室前半分に集中している。</li> <li>・玉類等装身具の出土はなく、馬具・鎌などの鐵製品や土器類の破片が多い。</li> <li>・床面上層における遺物は、石棺の両脇・奥壁側に見られ、完形品の須恵器 (Po257・258) の他に鐵釘 (M189・192・195) が出土している。須恵器は石棺の左側、馬具は右袖近くに、釘は玄室奥側に集中する。</li> <li>・石棺内からは鐙金具状の鐵片 (未掲載) のほかは出土しなかった。</li> <li>・閉塞石除去後の床面から馬具 (M102)・須恵器片が出土していることから、追葬の可能性が想定され、これらの遺物は追葬時の搔き出しによるものと推定される。</li> <li>・墳丘南側の周溝肩部から、坏身 (Po274)・有蓋高坏 (Po279) が出土しており、墓前祭祀に伴う遺物の可能性が考えられる。</li> <li>・玄門口で11世紀の遺物 (Po270・272) が出土し、さらに上層で石棺蓋材が、棺身材の縁の高さで奥壁側にずらされていることから、少なくとも2回以上の後世の侵入、盗掘を受けていることが考えられる。</li> </ul> |

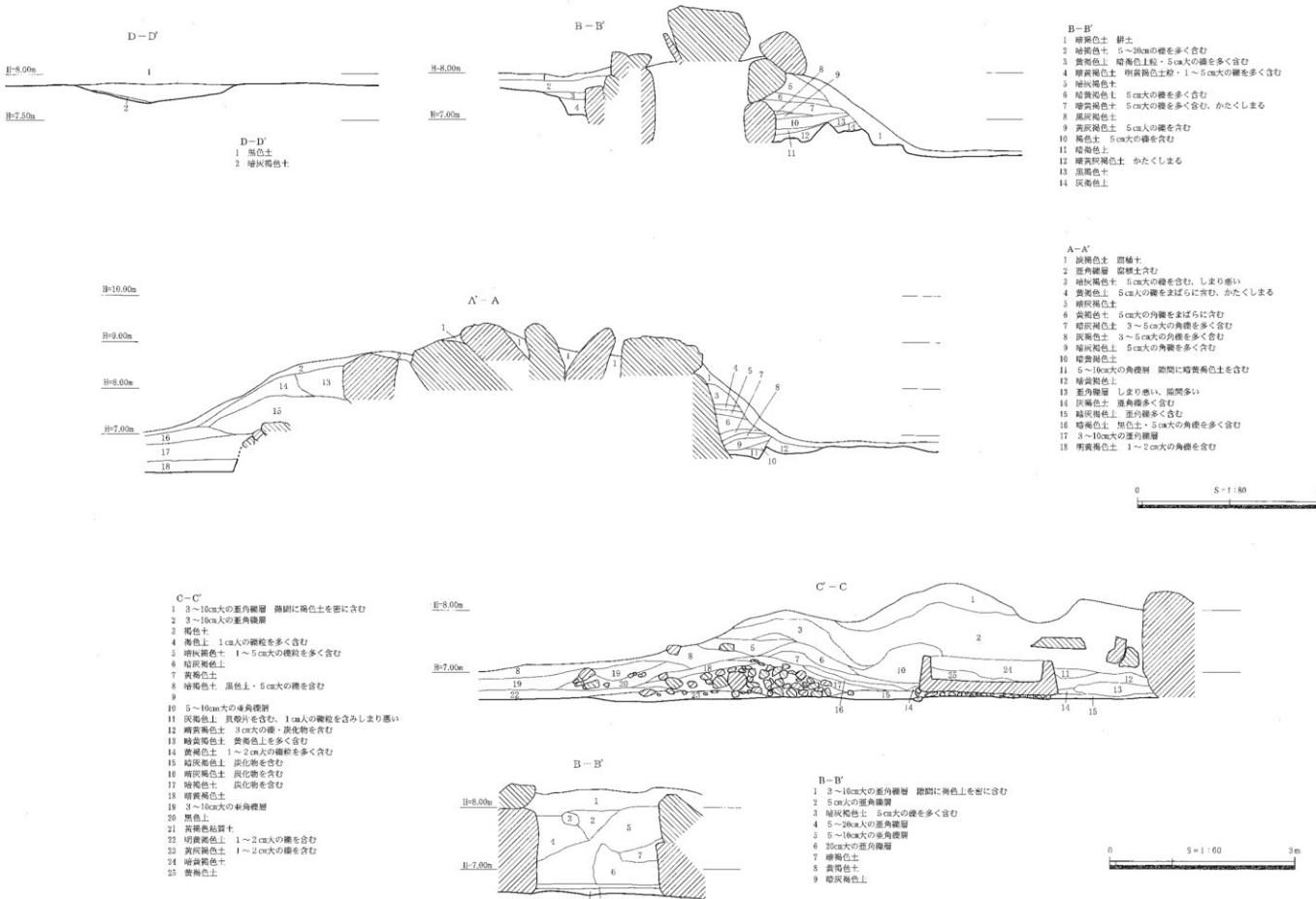
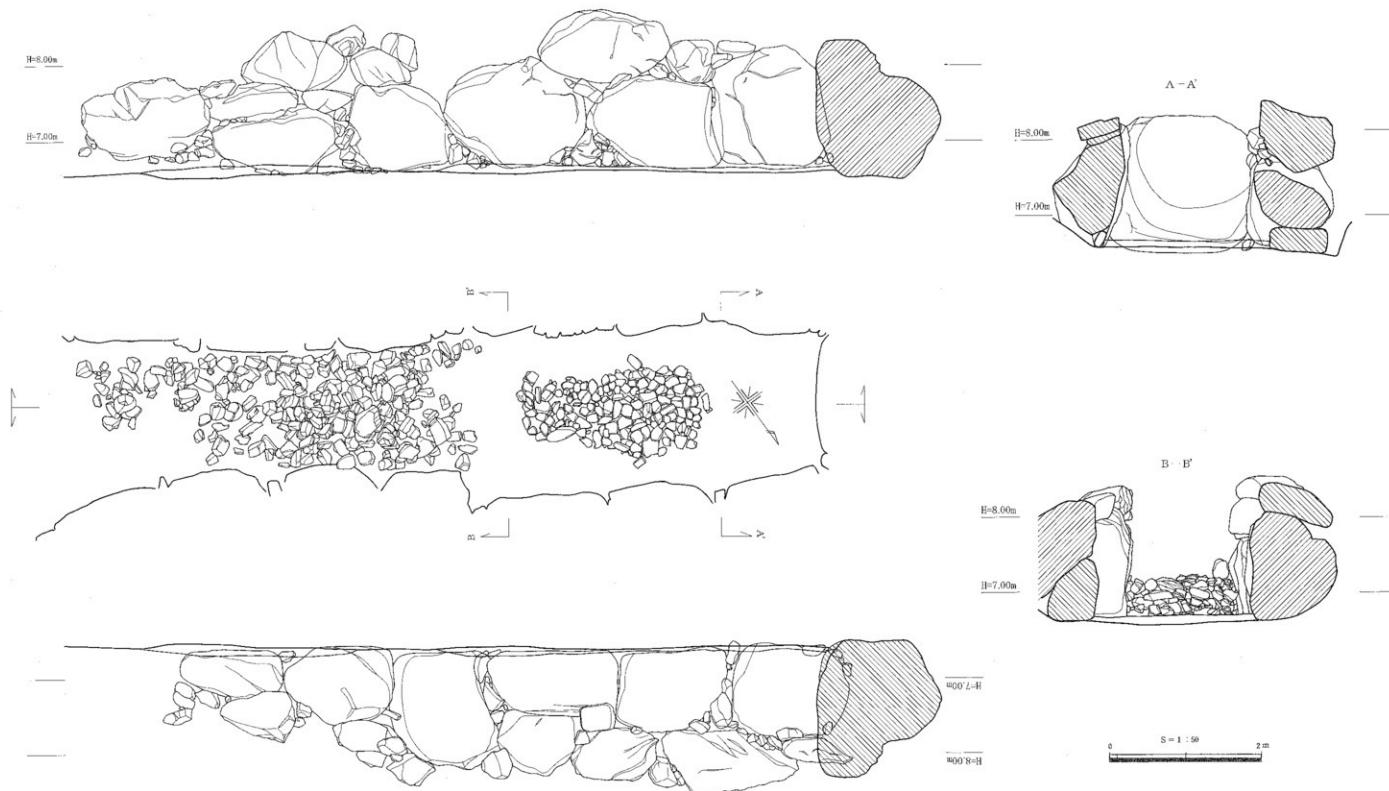
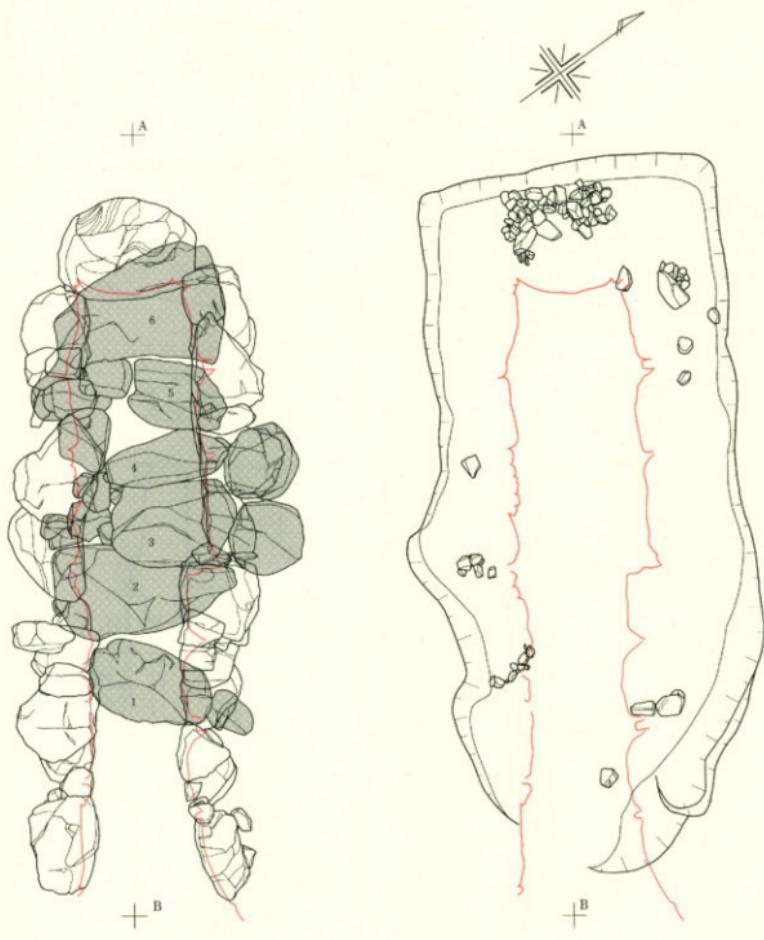


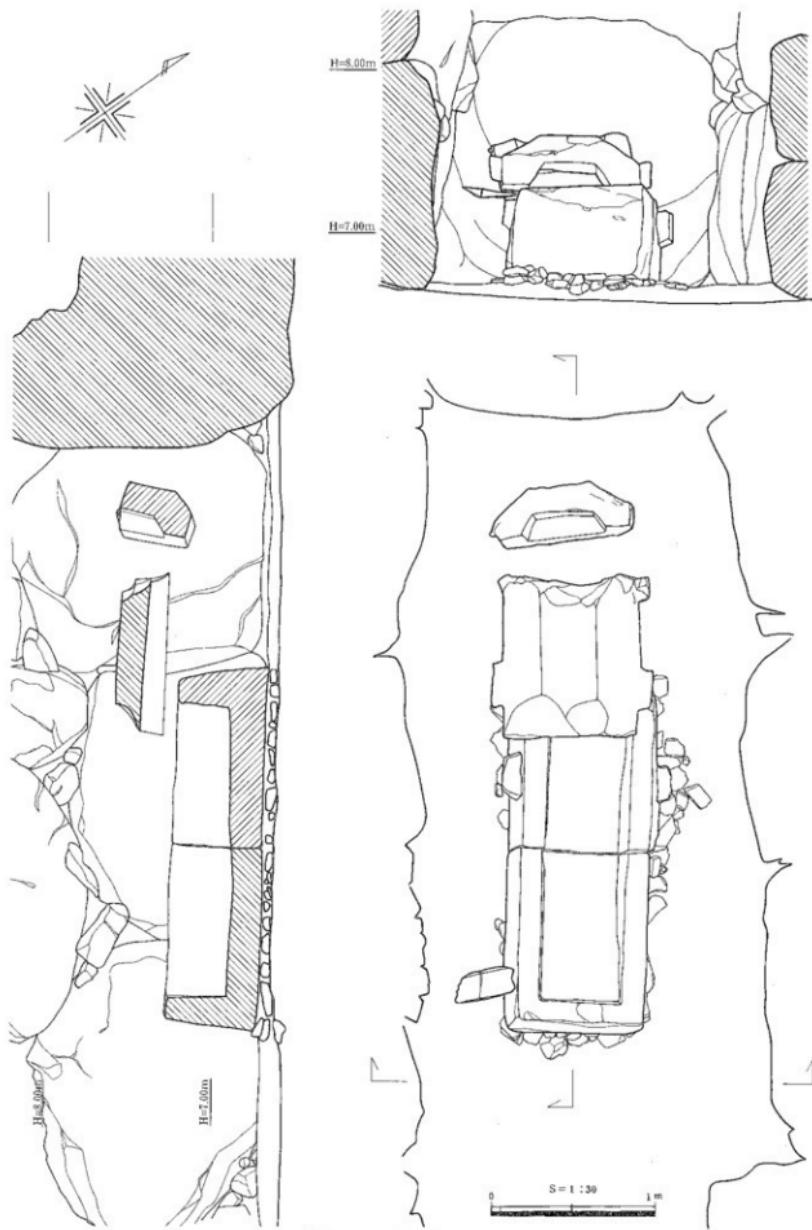
図41 7号墳埴丘土層・石室内土層断面図



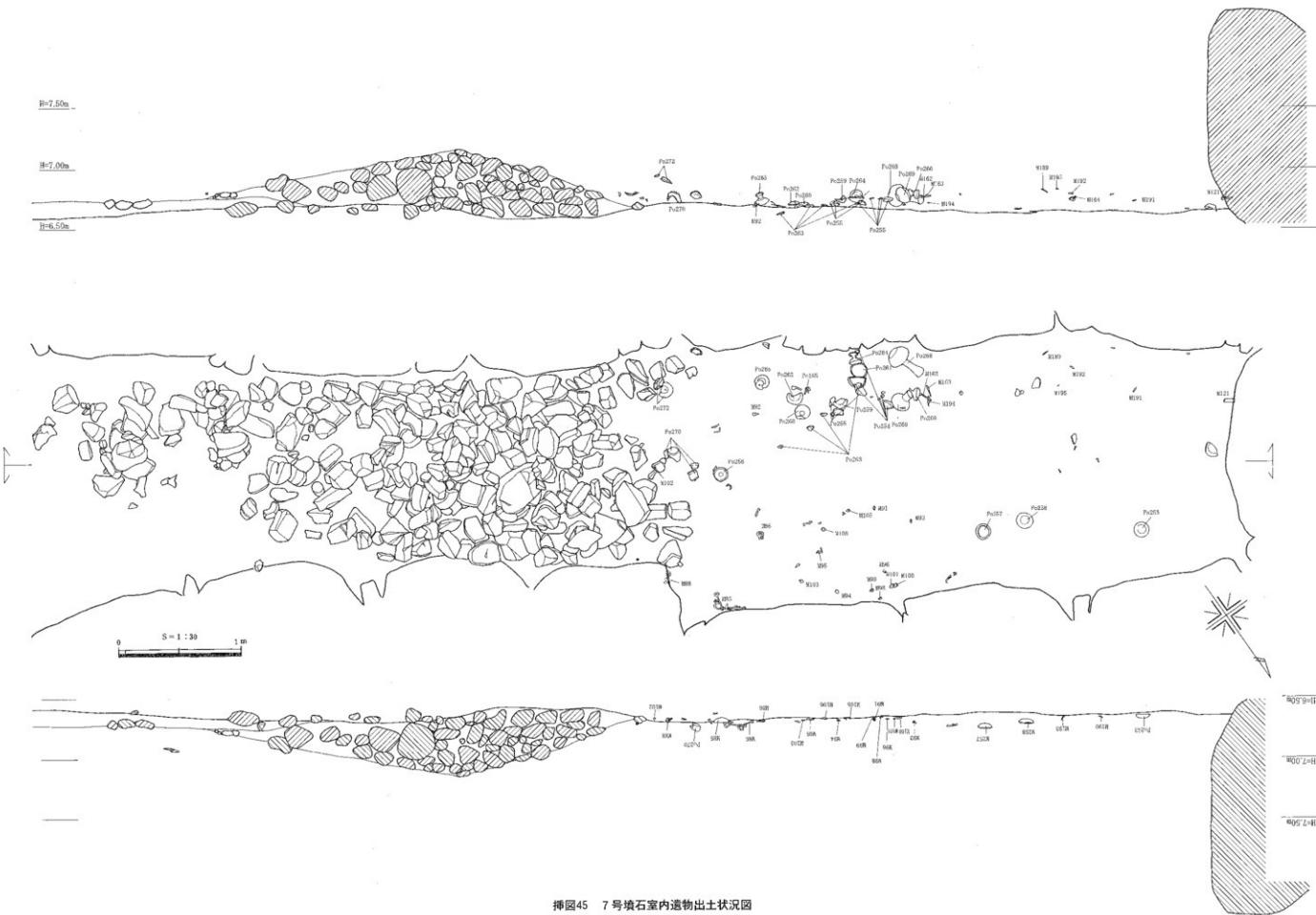
挿図42 7号填石室平・立面図



挿図43 7号填石室・掘形平面図



挿図44 7号墳石棺出土状況図



挿図45 7号填石室内遺物出土状況図

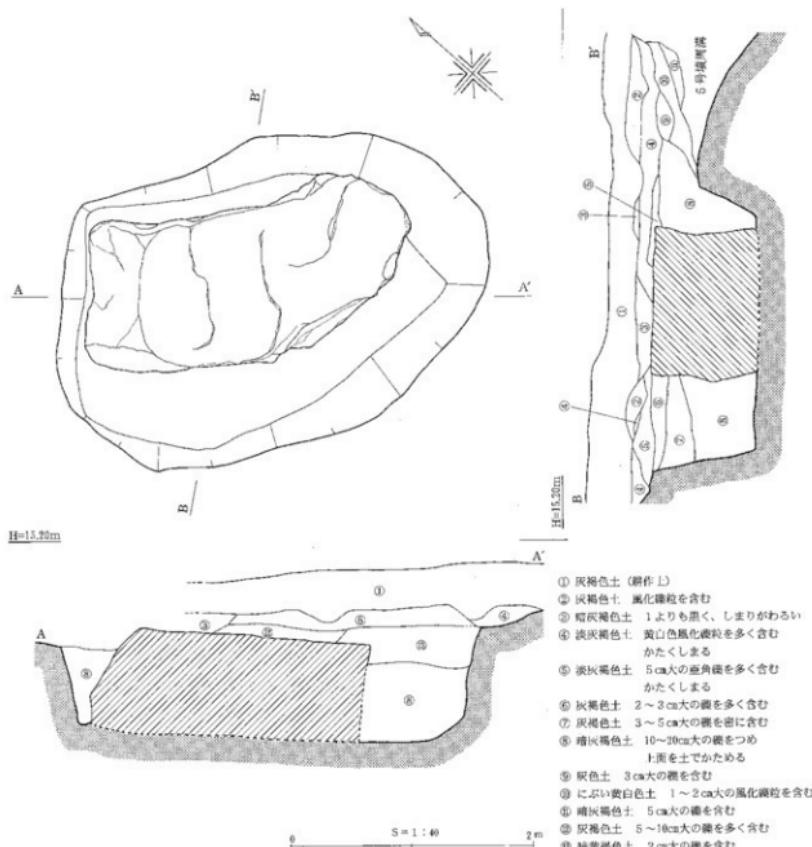
## 第4節 古墳時代以外の調査

## SK 1 (挿図47 図版PL.58, 93)

B 9 グリッドから C 9 グリッドにかけての緩斜面に位置する。径約2.3m、深さ約40cmの開円方形を呈する。上面で1~10cm程度の礫の集石を検出し、おもにその中より縄文土器 (Po282~300) が出土した。下層では石錐が9個体 (S6~12, 14, 15) のほか、礫石器が出土した。S13は、埋土層からの出土である。遺構の時期は、出土遺物より縄文中期後半と考えられる。

## SK 2 (挿図48)

F 4 グリッドに位置し、小畠4号墳の周溝底面で検出された。長径約1.1m、深さ15cmの方形を呈する。埋土は



挿図46 SX 1

黒灰色粘質土である。遺物は出土していないため時期は不明である。

## SK 3～6（挿図48 図版PL.57, 93）

B7グリッドに位置し、小畠7号墳の盛土および縄文土器包含層除去後に検出された。

SK 3は長径1.6m、深さ約45cmの楕円形を呈する。埋土は単層で黒茶褐色が入る。

SK 4は径1.2mの円形で、深さは最深部で約10cmの2段掘りである。埋土は単層で暗茶褐色土が入る。

SK 5は径1.2m、深さ約30cmの円形を呈する。埋土は単層で暗茶褐色土が入る。

SK 6は長径約1.7m、深さ約30cmの楕円形を呈する。埋土は単層で暗茶褐色土が入る。

遺物は、SK 3でPo301～303および石錐（S19）が、SK 6でPo304～307と石錐（S20）が出土した。出土遺物と検出面から、SK 3～6は縄文時代の遺構であると考えられる。

## SK 7・8（挿図48）

D11グリッドの標高約6m付近の緩斜面上に位置する。

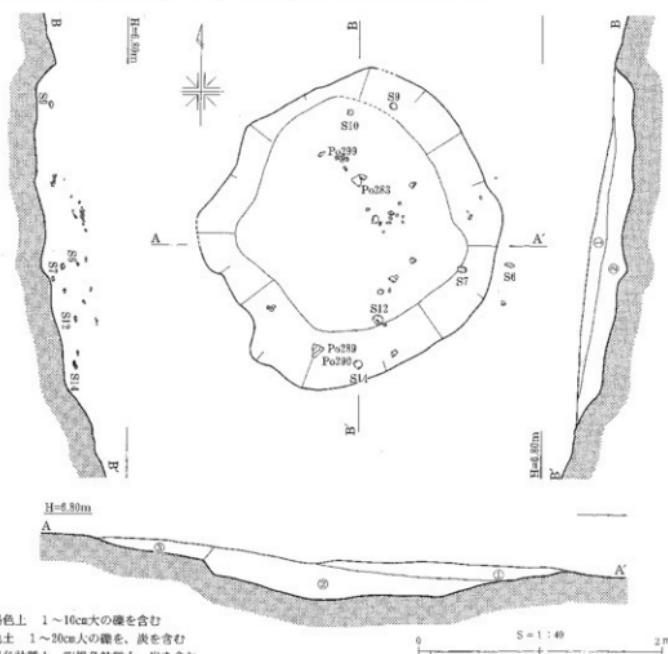
SK 7は径90cm、深さ約15cmの円形で、埋土は単層で暗青灰褐色粘質土が入る。

SK 8は長径90cm、深さ約40cmの楕円形を呈する。埋土は灰褐色系の粘質土である。

いずれの土坑も遺物が出土していないため、時期は不明である。

## SX 1（挿図46 図版PL.59）

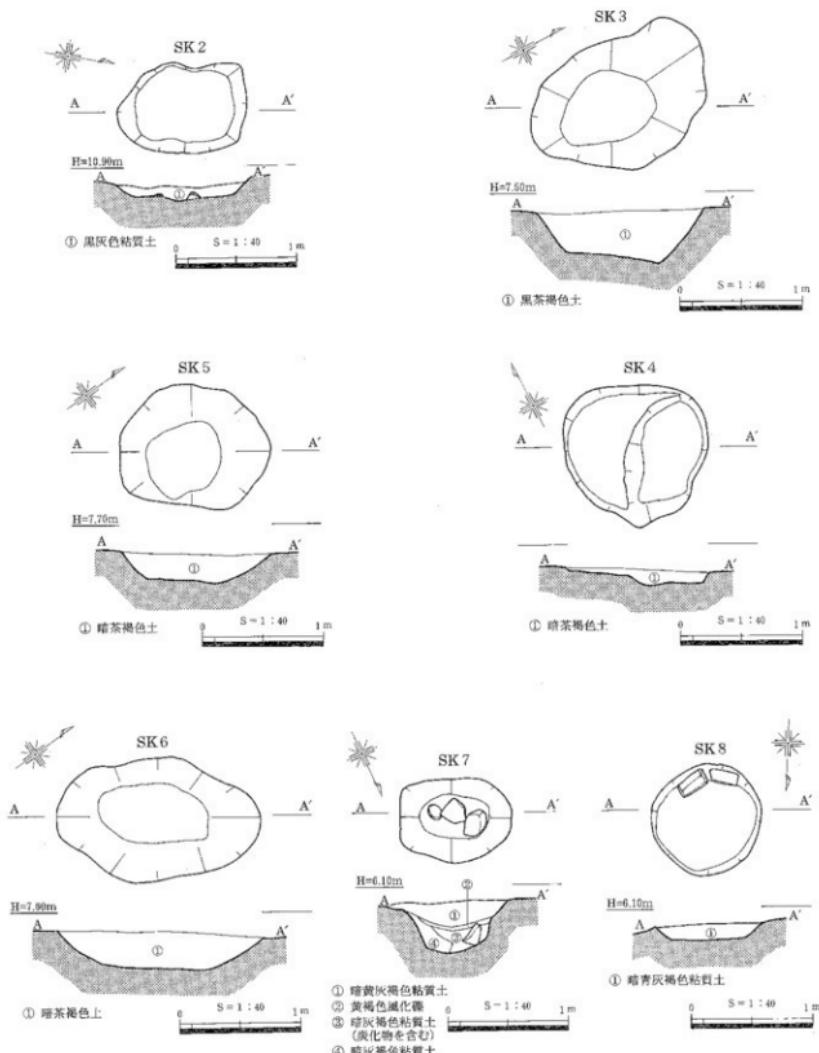
I5グリッド、小畠5号墳の南西側に近接してある。長径約3.5m、深さ約1mの不整形を呈する。ほぼ中央に長径2.7mの割石が埋えられ、まわりに礫をいれた後上面を土でかためる。遺物は出土していないが、5号墳の周溝埋没後に掘りこまれており、5号墳より新しい遺構であると思われる。



挿図47 SK 1

## ピット群（挿図5 図版PL.58）

調査区内の4号墳南西側周溝内、7号墳周辺および盛土除去後、5号墳の北東側（G8、F9～F10グリッド）、SK1南側（C9～D9グリッド周辺）で多数のピットが検出された。このうち5号墳北東側にあるP30から羽釜（Po321）が、P75から白磁（Po323）が出土しており、この周辺のピットは中世のものと思われる。



挿図48 SK 2～8

## 第5節 古墳時代の遺物

出土遺物は石室内と石室外から多量に出土した。石室内からは須恵器、土師器、金属製品、石製品（石棺を含む）、玉類（ガラス、石）が出土した。石室外からは須恵器、土師器が出土した。石室内出土品のうち、土器、石器、玉類については完形品を中心に可能な限りの点数を掲載した。金属製品については整理分類作業が間に合わなかったため、形状の異なるものを抽出し、同一製品および用途不詳品については省略せざるを得なかった。石室外出土品についても、完形品に近いもの、形状の異なるものを抽出し、掲載した。したがって、実測図の掲載点数と出土点数には開きがある。以降、概要を述べる。

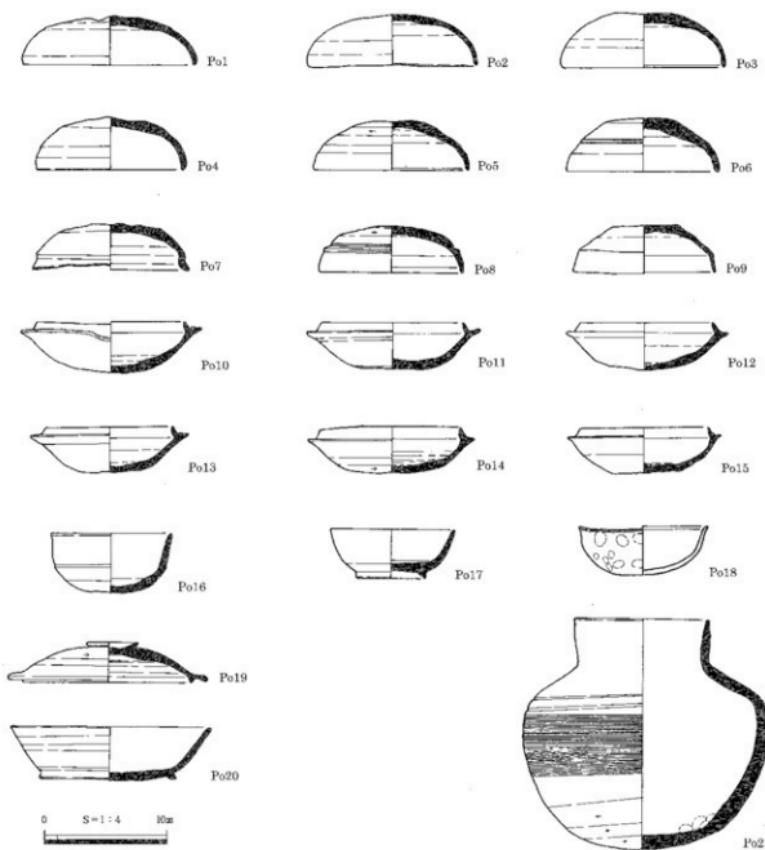
### 1. 壺 器

#### 3号墳出土土器（挿図49～53 図版PL.60～66）

玄室内から出土したものはPo1～5、7、8、10～14、18、21で、いずれも完形品である。Po1～5、7、8は壺蓋である。Po1～5は肩部に稜や沈線を施さず、口唇部は丸くおさめる。Po3は外外面に赤色顔料が付着している。Po7は肩部に稜を持ち口縁が外反する。Po8は上下を沈線で区画された突帯を肩部に1条巡らす。Po10～14は壺身である。いずれも口縁の立ち上がりは短く内傾する。Po18は土師器壺で、外面に指頭圧痕が顕著に残る。Po21は短頸壺である。肩部に沈線を2条、体部にカキメを施す。以上のうち、Po1、3、10、11、13は棺と左壁の間から出土した。棺の手前側（羨道寄り）からは、Po2、4、14、18と、Po5、7、12がそれぞれまとめて出土した。Po8は羨道近くの右壁際、Po21は袖石近くの左壁際から出土した。

羨道から出土したものはPo6、9、15～17、19～20、22～33であり、これらの中には閉塞石の上面から出土したものを含む。Po6、9は壺蓋である。Po6は羨道の中央付近から破片で出土した。肩部に細い沈線を2条巡らせ、口唇部は丸くおさめる。Po9は、羨道の中央と玄室内から出土した破片が接合したものである。肩部は稜や沈線を持たないものの明瞭に屈曲し、口縁部は薄く尖らせ気味である。Po15～17は壺身で、いずれも羨道の中央付近からの出土である。Po15は口縁の立ち上がりが短く内傾し、内面に赤色顔料が付着する。Po16は口縁が直線的に立ち上がり、体部下半に1条の沈線を巡らす。17は高台が付き、底外面に「M」字状のヘラ記号が見られる。Po19は壺蓋で、輪状つまみとかえりを持つ。Po20は高台付壺身で、Po19とセットになる可能性がある。Po19と20は羨道の中央付近から近接して出土した。Po22～26は壺蓋である。22は閉塞石より外側の流入土中、23～26は羨道左壁際からの出土である。いずれも肩部の屈曲は明瞭ではなく、口唇部は丸くおさめる。24は肩部に浅い沈線を1条巡らせ、天井外間にヘラ記号が見られる。Po27～29は無蓋高壺で、閉塞石に近い右壁際からまとめて出土した。いずれも脚部の中程に2～3条の沈線を巡らす。29は二段二方向の長方形透かしを穿つ。Po30は壺で、Po33の長頸壺と近接して左壁際から出土した。頭部上半に櫛描波状文、肩部に櫛状工具による刺突文を施す。Po31は脚付長頸壺で、開口部に近い閉塞石上面から出土した。肩部に刺突文を施す。脚部は基部以下が欠損しているが、三方向の透かし孔が確認できる。Po32は土師器壺で、Po23、25とともに、左壁際の閉塞石に接する位置から出土した。内面の一部に赤色顔料が付着している。また、口縁部を打ち欠いて注口状に加工し、体部には焼成後穿孔を行っている。Po33は長頸壺で、肩部に2条の沈線を巡らす。

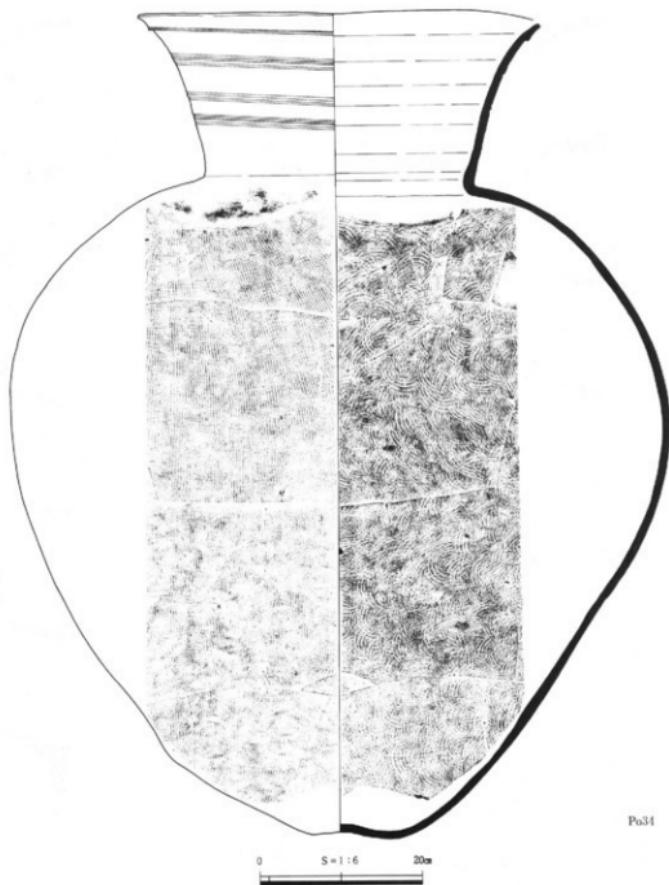
Po34～60は道状造構や周溝など石室外からの出土である。Po34、35、38、42、50、51、54、55は前庭からの出土である。Po34は大型の壺で、前庭部から羨道内閉塞石上面におよぶ広い範囲から出土した20数点の破片が接合したものである。Po35～40は壺蓋である。Po35、37、39は1条、38は2条の沈線を肩部に巡らす。口唇部はいずれも丸くおさめる。Po41は高壺の蓋で、中央の窪んだボタン状のつまみを持つ。Po42～49は壺身である。Po49の口縁は直線的に立ち上がり、体部下半に幅広の沈線を1条巡らす。Po50～55は道状造構出土である。Po50は短頸壺で、体部下半を欠損している。頭部と体部の境に浅い沈線を1条巡らす。Po51は横瓶で、30点近くの破片が接合したものである。Po52～54は無蓋高壺の壺部で、脚部は欠損している。Po52は壺下部に一ヶ所ヘラ記号が見られる。Po52と53は2条、54は1条の沈線を壺部に巡らす。Po55は壺で、頭部と肩部に沈線を1条ずつ巡らす。



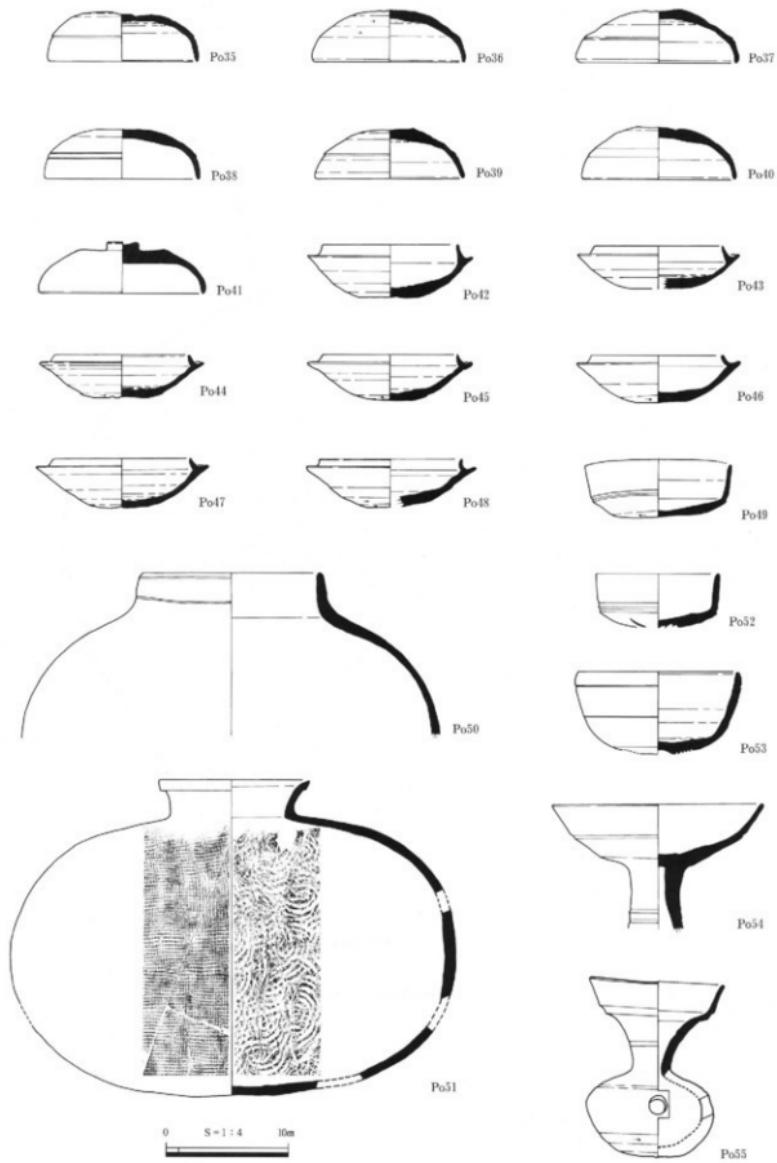
挿図49 3号墳玄室内・羨道出土 土器



挿図50 3号墳出土 土器



挿図51 3号墳出土 土器



挿図52 3号墳石室外出土 土器

Po56～60は周溝南西側からの出土である。Po56は有蓋高杯の杯部で、脚部中位以下を欠損している。Po57、58は蓋である。57は底部と頸部を、58は頸部を欠損している。Po57は体部に櫛状工具による刺突文を施す。Po59は脚付長頸壺である。口縁部と脚裾部を欠損している。肩部にはカキメを施す。脚部には三方向に長方形透かしを穿つ。体部内面下半部には指彫痕が顯著に残る。Po60は提瓶で、口唇部を欠損している。体部前面にはカキメを施し、肩部にはボタン状に退化した把手を一对貼付する。

#### 4号墳出土土器（挿図54～57 図版PL.67～77）

掘り下げ埋土中から出土している須恵器類は、①閉塞石から渓道、②玄門付近から玄室、③墳裾・周溝部分の3箇所で出土している。

閉塞石から渓道で出土しているものは、杯蓋Po61、62、64、66、67、69～72、74、杯身Po77、79、81～84、碗Po87、高杯Po86、89～91、93、95、96、甕Po97、土鍤Po98～100、長頸壺Po101～107、平瓶Po108～110、甕Po111、112、大甕Po113である。

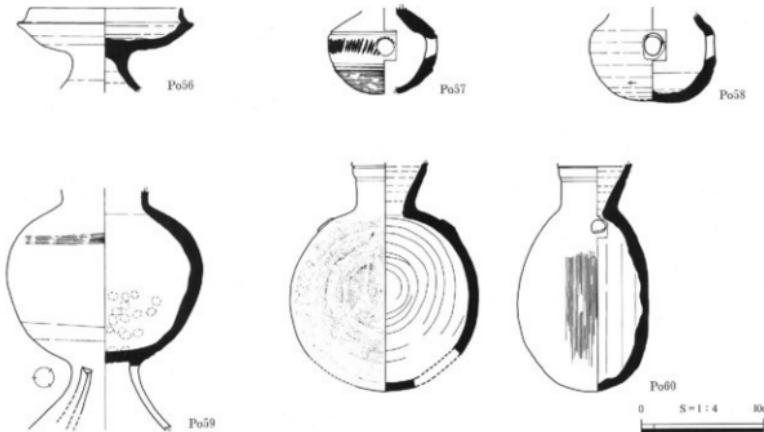
玄門付近から玄室で出土しているものは、杯蓋Po63、65、68、73、75、杯身Po76～80、碗Po88、高杯Po91、92、94である。

墳裾・周溝で出土しているものは、杯蓋Po66、高台杯Po85である。

個々の遺物の特徴について触れる。Po61～75は杯蓋である。Po61～65は天井部との境に沈線を引き、棱を作り出している。天井部は回転ヘラケズリが施される。Po61、62の口縁端部には不明瞭ではあるが段を有す。Po63～65の口縁端部は丸く仕上げられ、天井部のケズリの範囲も狭くなりPo65、66にはヘラ起し未調整である。Po66～68は天井部との境に沈線ではなく、天井部へラ起し未調整であるが、Po68は天井部との境を屈曲させて稜を持たせている。

Po69～75はかえりを持つ蓋である。Po69は乳頭状のつまみを持ち、Po70～72は中央部の窪んだボタン状のつまみを持つ。Po74、75はつまみを持たない。Po73はつまみ部分を欠いているが、元々はボタン状のつまみがあつたものと考えられる。

Po76～85は杯身である。Po76、77は立ち上がりがやや高く底部付近までヘラケズリが施される。Po78～81は立ち上がりが低く、ケズリの範囲も狭い。Po80～82は底部ヘラ切り未調整である。Po82、83、84は口径が大き



挿図53 3号墳周溝南西側出土 土器

い。Po85は直線的に広がる口縁部を持ち、底端部に低い高台がつく。

Po87、88は壺である。Po87は口縁部外面に2条の沈線が施され内湾するのに対して、Po88は直立して立ち上がり、底部にはヘラ記号が施される。

Po86、89～96は高壺である。Po86は低脚有蓋高壺で、脚部二方向に三角形透かしを一段持つ。Po89、90、92は小型長脚無蓋高壺である。脚部中央付近を沈線によって上下に区画するが、透かしは持たない。Po89、92の壺部には沈線により三段に区画され、Po90の壺部は一条の沈線によって二段に区画される。Po91、96は長脚無蓋高壺である。Po91の壺部は一条沈線を境に屈曲して立ち上がる。脚部には二方向に透かしを二段持つが形は不明である。Po96は脚部二方向に三角形透かしを二段持つ。Po93は短脚の無蓋高壺である。碗状の壺部に短い脚部を持つ。脚部には二方向に長方形透かしを持つ。Po94、95も短脚高壺と思われる脚部である。いずれも二方向に透かしを持つ。

Po97は中型甕である。口縁部は大きく外反し、大きく張る肩部を持つ。胴部外面は平行叩き、内面は同心円文叩きが施される。

Po98～100は土錘である。長筋錘形を呈す。

Po101、102は脚付長頸甕である。いずれも頸部には二条の沈線が施され、球形の胴部に屈曲する脚部を持つ。Po101の脚部には二方向に長方形透かしを持つ。Po102も同様と考えられる。Po101は胴部肩部に刺突文、Po102はやや扁平な胴部の肩部が沈線によって二段に区画された文様帶に斜格子文が施されるものである。

Po103～106は長頸壺である。Po103は長い頸部に二条の沈線、胴部肩部に二条の沈線間に刺突文が施される。Po104はやや扁平な胴部の肩部が沈線によって二段に区画された文様帶に斜格子文が施される。Po105はやや短い頸部に二条の沈線が施され、肩が張る胴部を持つ。肩部には二条の沈線並びに刺突による羽状文が施される。Po106は口縁部を欠くが、頸部に二条の沈線が施され、肩が張る扁平な胴部を持つ。胴部肩部には沈線が施される。なお、Po107は頸部を欠くが長頸壺の胴部と考えられる。

Po108～110は平瓶である。Po108は小型で、頸部に沈線が施され扁平な胴部を持つ。Po109は頸部に沈線が施され扁球状の胴部を持つ。いずれも脚部はカキメ調整である。Po110は短い頸部に肩部が張る扁平な胴部を持つ。頸部付け根に把手が形骸化したボタン状の浮文が付く。

Po111、112は甕である。Po111は口縁部のみで、Po112は直線的に大きく聞く頸部に小さな球形の胴部を持つ。頸部には口縁部と沈線間に波状文が施される。胴部には、二条の沈線間に押し引き刺突文が施される。

Po113は、大型甕である。直立する短い頸部に肩が張る胴部を持つ。口縁短部は平坦に仕上げられる。胴部外面は平行叩き、内面は同心円文叩きが施される。

#### 4号墳石室内一括出土土器（挿図58 図版PL.70、75）

Po114～124は羨道部全面に二次的に移動された閉塞石の下、左壁際の床面でまとまった状態で出土した須恵器の一群である。玄室内から掘り出されたものと考えられる。

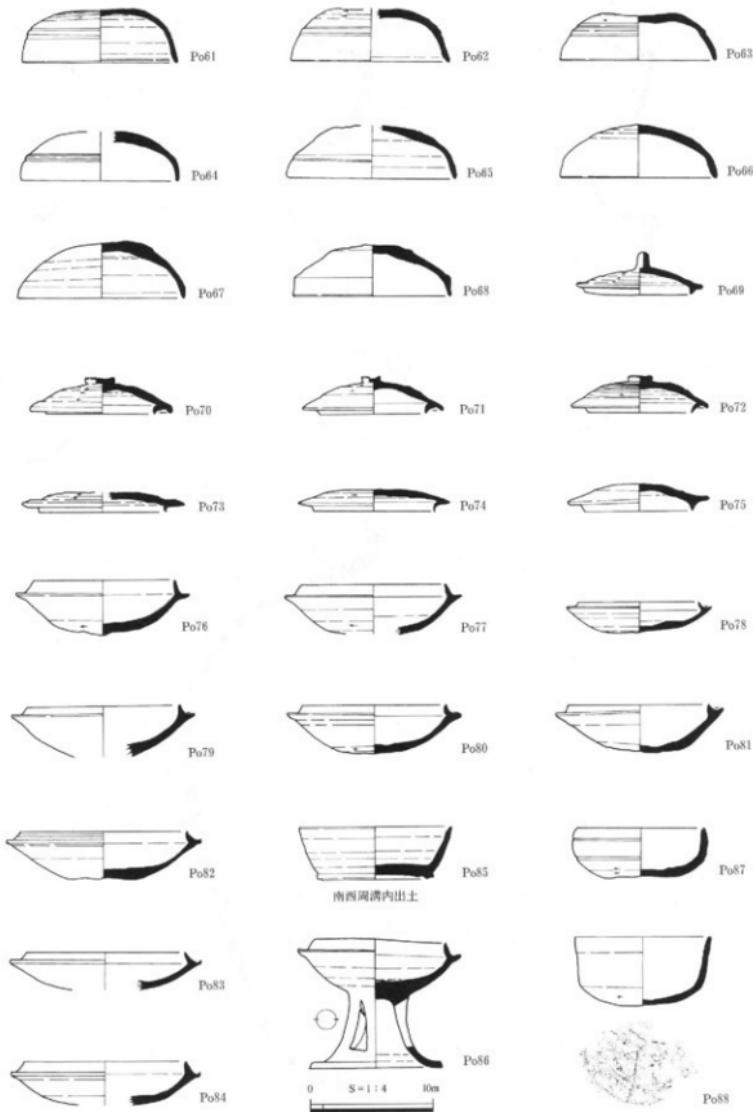
Po114～119は壺蓋である。Po114～116、119は天井部との境に沈線による稜を持つ。口縁端部はいずれも丸く仕上げられ、天井部も回転ケズリ後ナデ調整である。Po117、118は天井部との境に沈線ではなく、天井部回転ヘラケズリ後ナデ調整が施される。口縁端部は丸い。

Po120～124は壺身である。いずれも立ち上がりが低く、底部回転ケズリ後ナデ調整が施される。このうち、Po121、122は工具によるナデ調整である。

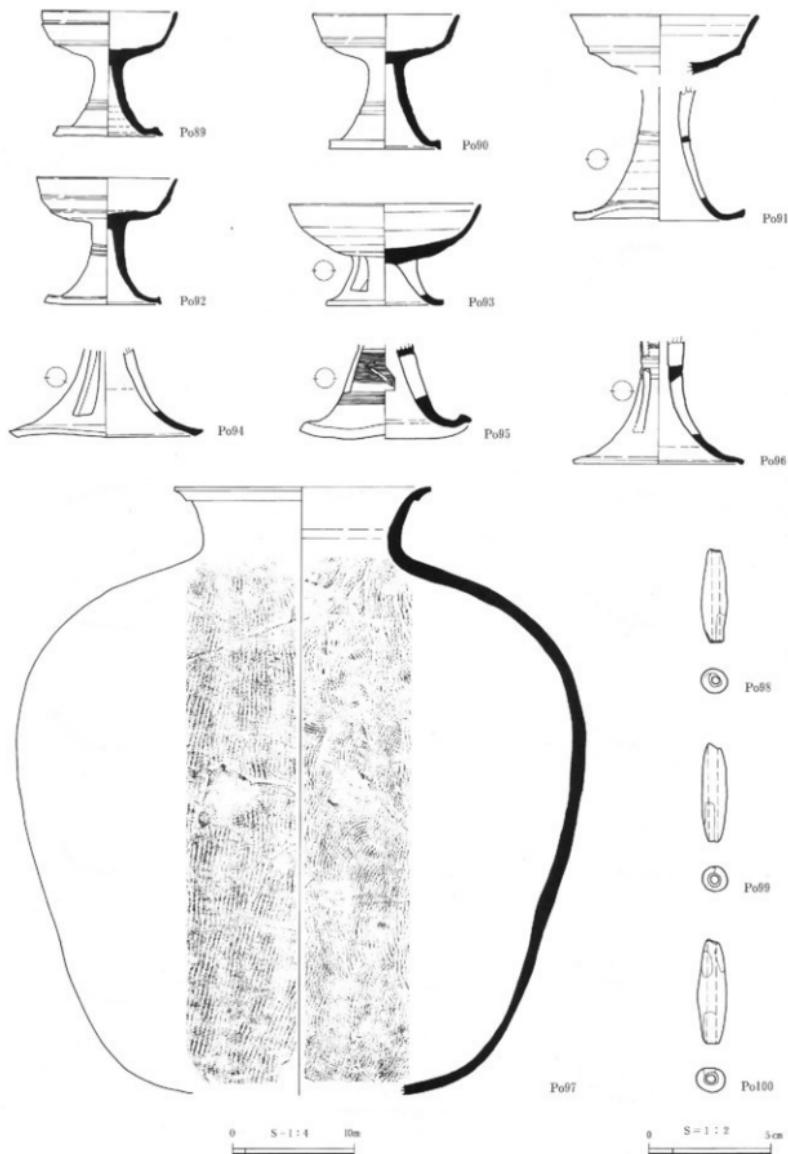
Po125～146は、玄門部周辺の床面でまとまった状態で出土した須恵器である。

Po125、129、130は壺身である。Po125は立ち上がりはがやや高く底部を回転ケズリ後ハケメ調整される。他の2点は立ち上がりが低くなる。Po129は底部が浅く、外側ナデ調整される。Po130は底部ヘラ切り未調整である。

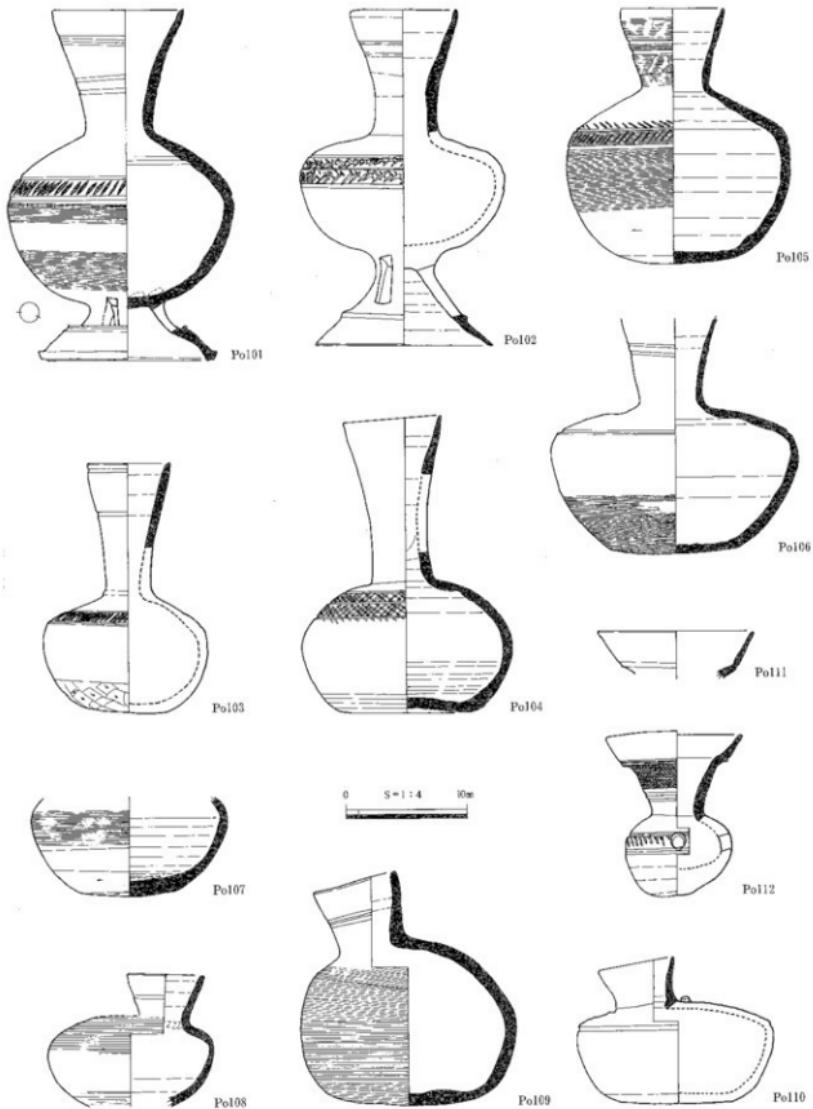
Po126～128は壺蓋である。Po126はこの中では口径が大きく口縁部が屈曲して下方へ至る。天井部回転ケズリ後ハケメ調整で、ヘラ切り未調整である。Po127、128は口径が小さくなり、口縁端部が外反する。天井部ナデ



挿図54 4号墳石室内出土 土器



挿図55 4号填石室内出土 土器・土錘



挿図56 4号墳石室内出土 土器

調整である。

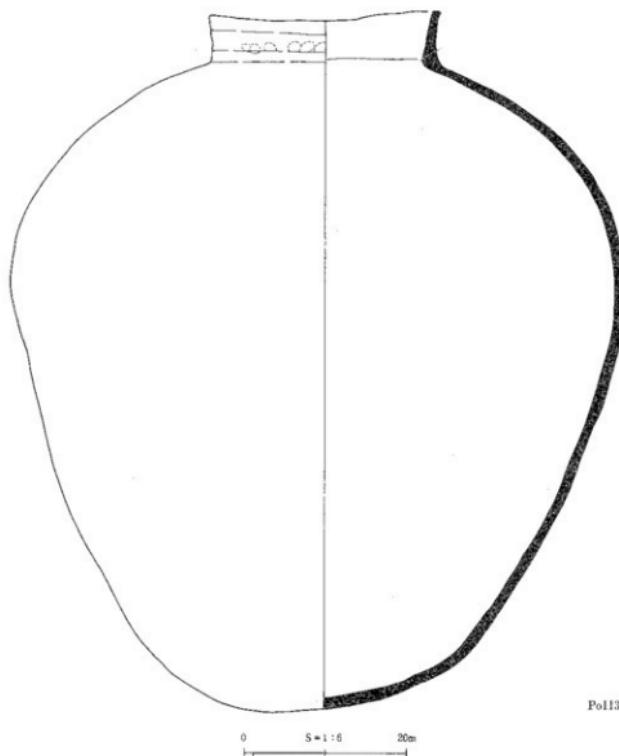
Po131～134は小型の長脚無蓋高杯である。杯部はいずれも二条の沈線が施されている。Po131、132、134の脚部には二方向に長方形透かしが施され、特にPo134は二段にわたって透かしが施される。Po133には透かしは施されないが、沈線によって上下に区画される。

Po135、136は碗である。いずれも底部から直線的に立ち上がる口縁部を持つ。Po135には二条の沈線が施される。底部はヘラ切り未調整である。Po136の底部には直線状のヘラ記号が施される。

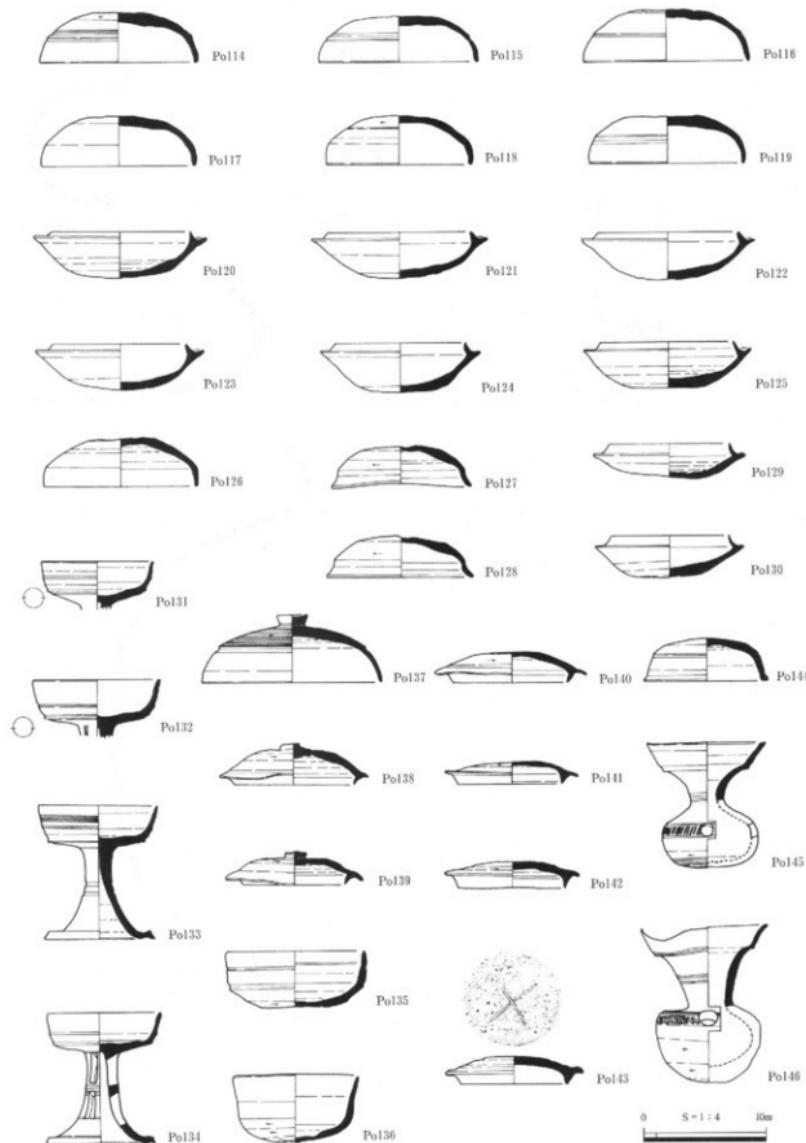
Po137は有蓋高杯の蓋である。天井頂部にはつまみが付き、カキメ調整される。天井部との境には段を有する。Po138～143は、かえりを持つ蓋である。Po138、139には天井部にボタン状のつまみが付く。Po140～143にはつまみはない。Po143には天井部に「×」状のヘラ記号が施される。

Po144は、かえりを持たない小型の蓋と考えられる。

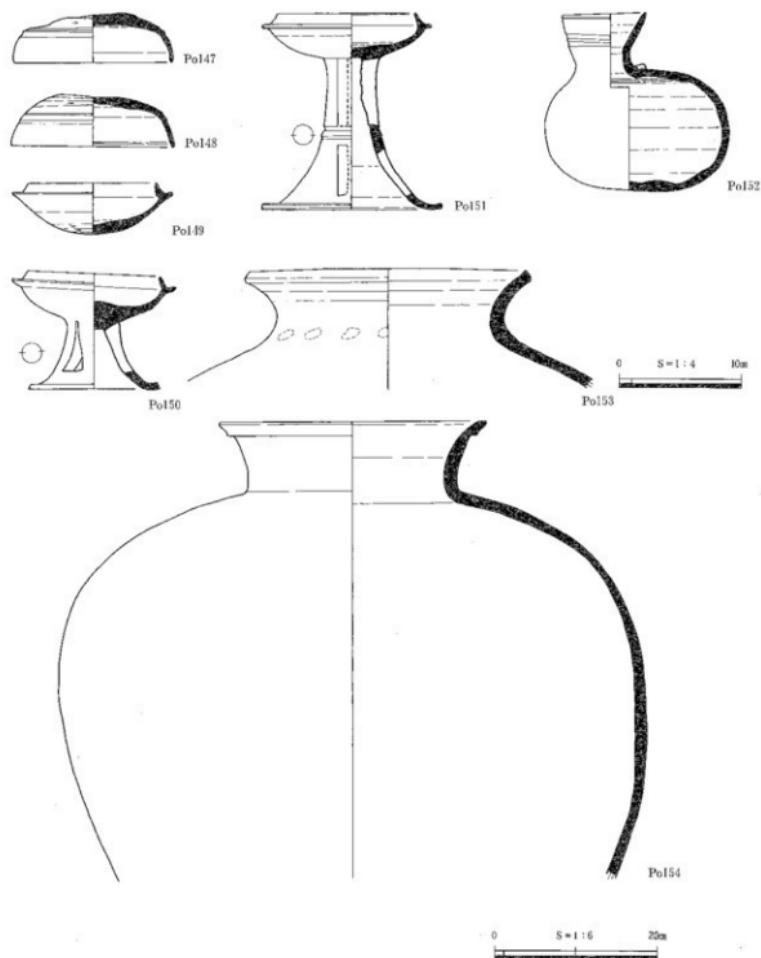
Po145、146は甌である。いずれも口縁部がラッパ状に大きく開き、頸部に二条の沈線、扁球形の胴部には二条の沈線間に刺突文が施される。Po146は、焼成時に変形している。



挿図57 4号墳石室内出土 土器



挿図58 4号墳石室内一括出土 土器



挿図59 4号墳石室外出土 土器

## 4号墳石室外出土上器（挿図59）

Po147～154は、羨門付近の墳裾及び外護列石検出中に出土したもので、墳丘上から転落したものと考えられる。

Po147、148は壺蓋である。天井部との境には沈線による稜を持つ。天井部は回転ケズリ後ナデ調整が施される。Po148の口縁端部内面に沈線が施される。Po147の口縁端部は丸く仕上げられる。

Po149は壺身である。立ち上がりはやや高く、深い底部である。底部外面回転ケズリが施される。

Po150は低脚有蓋高壺である。脚部には二方向に三角形透かしが一段施される。

Po151は長脚有蓋高壺である。脚部には二段にわたり上下とも二方向に長方形透かしが施される。

Po152は平瓶である。頸部に沈線が施され扁球状の胴部を持つ。頸部付け根には把手が形骸化したボタン状の浮文が2箇所つく。

Po153は中型甕である。単純口縁を持ち、大きく肩が張る胴部を持つと考えられる。胴部外面平行叩き、内面同心円文叩きが施される。

Po154は大型甕である。肥厚した口縁部、球形の胴部を持つ。胴部外面平行叩き、内面同心円文叩きが施される。

## 6号墳出土遺物（挿図60～61 図版PL.78～82）

Po156～194は6号墳石室内および石室外から出土した須恵器の一群である。

Po156～172は壺蓋であるPo156、157は14cm前後の大口径でドーム型の天井を持つ。Po156は端部内側に沈線が入る。Po158、159、161、162は肩に沈線が入るが、稜を作り出すまでには至らない。Po160、163～165は肩部を屈曲させて稜をつくる。Po156～159の口縁端部は丸く、Po160～165は尖る。Po165～171は口径がやや小さくなり、口縁部は内湾し、端部は丸くおわる。いずれも稜は見られない。ヘラ記号は天井外側と内側に見られるものがあり、Po162は外側に「一」、Po169は外側に「×」・内側に「一」が見られる。Po170は天井外側に「二」が見られる。Po172は蓋である。かえりを持ち、つまみはない。かえりは下方に垂下させる。

Po173～175は甕である。底部は丸く内湾しながら立ち上がる。Po173は口縁端部をつまみ出して外反させる。

Po174は端部が垂直に立ち上がる。口縁端部Po175の端部は内側に沈線状のくぼみが巡る。

Po176は甕である。肩が強く張り、頸部は直線的に聞く。口縁部と頸部と胴部の文様帯の上下にそれぞれ一条の沈線が見られる。頸部に波状文ではなく、胴部に櫛状工具による6列単位の刺突文が巡る。胴部中位から底部にかけてヘラケズリが見られ、底部外側に「×」のヘラ記号が見られる。Po177は小型無蓋高壺である。壺部は、底部から屈曲外反する口縁部を持ち、端部はやや尖る。口縁部下端に一条の沈線が見られる。脚部に透かしはない。Po176とPo177は玄室右袖のピット内からセットで出土した。

Po178は脚付甕である。胴部中位以上は欠損している。底部に太く短い脚部を持つ。北西側の墳裾で出土した。

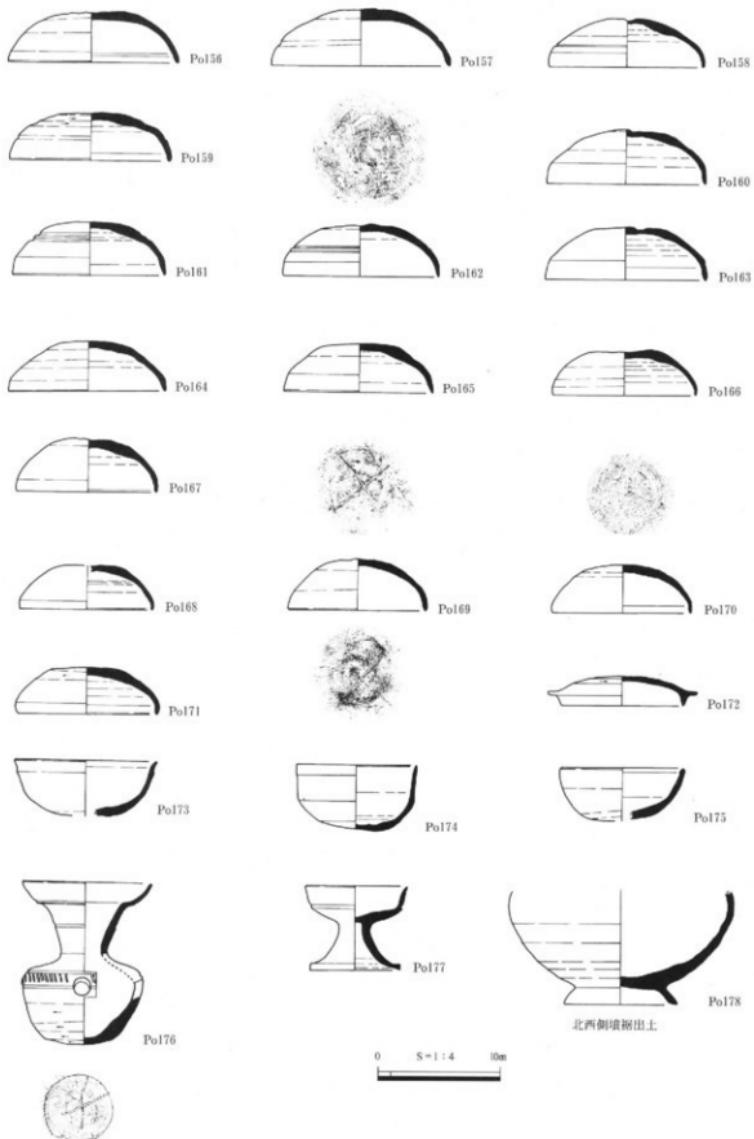
Po179～190は壺身である。Po179～181の口縁部の立ち上がりは高く内傾し、端部は尖る。受部はPo179、180、182が横に張り出し、で、Po181は上外方に伸びる。Po179、180、182の底部外側にはヘラ記号「一」が刻まれる。Po183～191は口縁の立ち上がりが低く内傾する。Po183、186は受部から底部にかけての外側の形状が直線的であり、Po184、187、190は受部をつまみ出して、体部との境に谷線が入る。

Po185、188、189、191は径が一回り小さく約10cmであり、受部はつまみ出されて体部との境に谷線が入る。

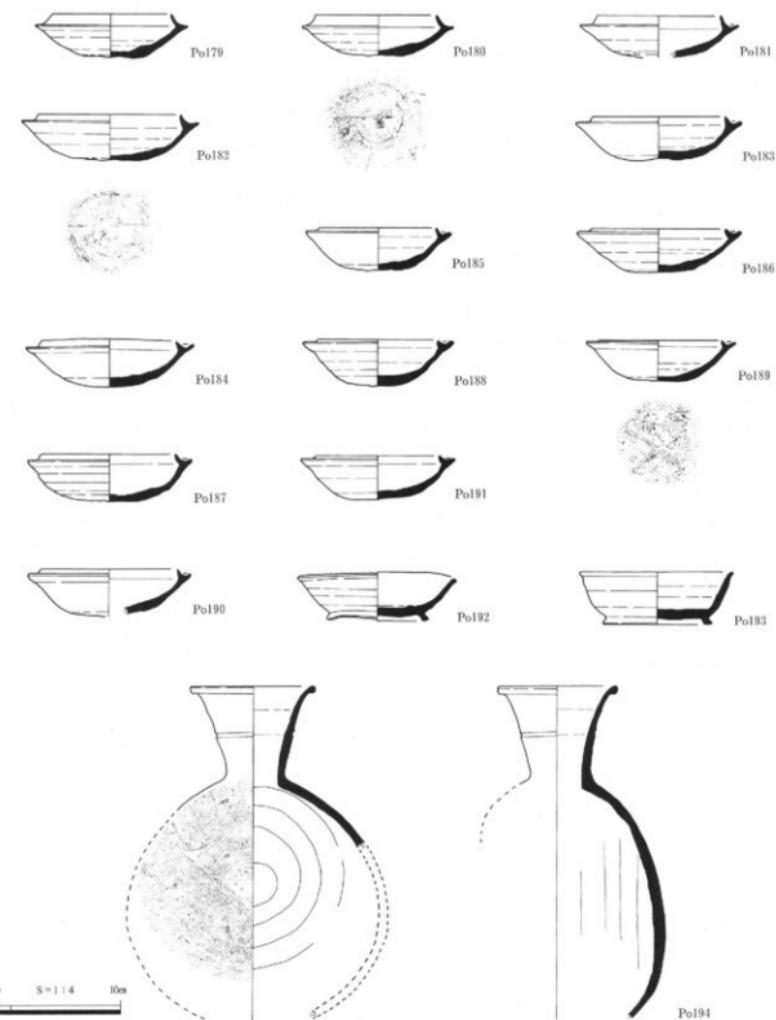
Po189の底部外側には「×」のヘラ記号が刻まれる。

Po192、193は高台付壺身である。平たい底部からゆるやかに立ち上がるもの（Po192）と屈曲して立ち上がるものの（Po193）がある。口縁端部は共に外反し尖る。高台は台形を呈し開き気味に付く。羨道の閉塞石上から出土した。

Po194は提瓶である。羨道部と頸部に一条の沈線を入れている。体部外面に同心円のカキメが見られる。墳丘北西側の外護列石下方及び羨道埋土中から破片で出土した。



挿図60 6号墳石室内出土 土器



挿図61 6号墳石室内出土 土器

## 5号墳出土土器（挿図62～64 図版PL.83～87）

石室外の出土土器としては須恵器壺、提瓶、土師器壺がある。

Po243～246、248は須恵器壺で、Po244は石室渓門向かって右側の、北西側2列目の外護列石前面で、破壊された状態で出土した。胸部片も出土したが、接合復元ができなかった（挿図39）。ほかは壇壠もしくは周溝内から出土し、もとは埴丘上にあったものであると考えられる。Po243～246は口縁部外面を、2～3条1組の沈線で3～4つに分割し、その区画内に波状文を施している。この中でも、Po244は沈線上に径約1cmの円形浮文が確認できる。Po248は頸部が短く外反する。

Po249は提瓶である。口縁端部は薄手の二重口縁で、横に面を持つ。胸部は球状でカキメのかわりに暗文状の渦巻き文が施文されている。把手は環状で、上の付け根はしっかりととしていて、下は軽く貼り付けている。Po247はPo249と類似する口縁部であり、別個体の提瓶と考えられる。Po247は南側の壇壠埋土中から、Po249は北西側の壇壠と渓道の埋土中から出土した。

Po239～241は土師器壺である。Po239は埴丘上、須恵器壺Po244の南東側で、隣りあわせで出土した。Po240、241は北西側の壇壠周辺より出土している。

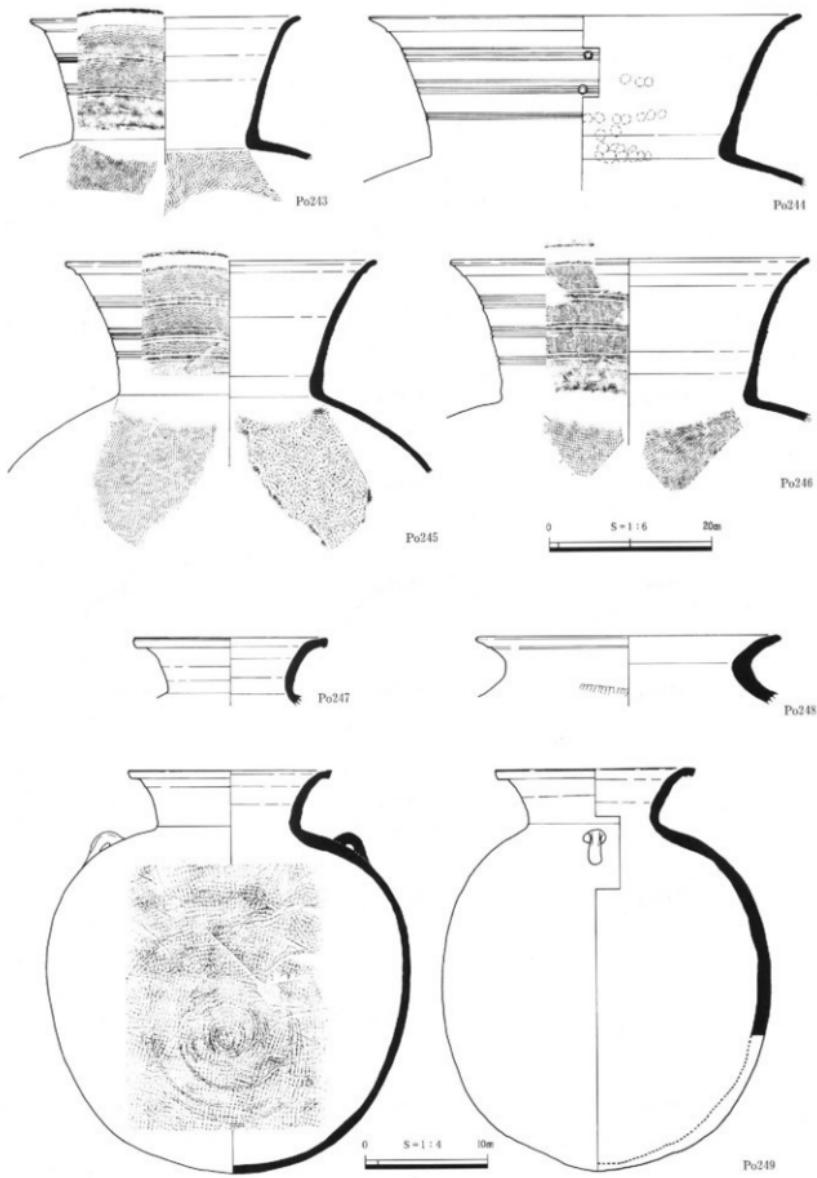
石室内では、玄室奥・玄門周辺・羨道及び閉塞石内でまとまった土器の出土がみられる。特に閉塞石内を含む羨道部分からの出土が最も立ち、須恵器の蓋壺・高壺・土師器壺などがみられる。Po236は高壺の壺部である。Po237、238は脚部の破片で、方形とみられる3方向の透孔の一部が残存する。壺の底部に取り付けられるものと考えられる。Po242の土師器壺も閉塞石内から出土している。口縁部と胸部の接合点はないが、胎土、調整技法から見て同一個体と考えられる。Po222の蓋はツマミ内部に焼成前に轆轤引きで作り出された円孔があり、用途不明である。

蓋壺は石室内から出土したものを掲載した。石室内は盜掘されているために、埋葬当時の位置を残すものは少ない。壺蓋が25個体（Po197～217、218、219、220、221）、壺身が13個体（Po223～235）を数える。このうち壺蓋は内傾気味の口縁部を持つもの（Po197～219）と口縁部が強く外反するもの（Po220、221）に2大別でき、また内傾気味の口縁部を持つものは、肩部に沈線で稜を作り出しているもの（Po197～201）、沈線を入れているが稜を持つには至らないもの（Po202～204、206～215、217～219）、沈線を持たないもの（Po205、216）に分類することが可能である。壺身はすべて内傾して立ち上がる口縁部を持ち、口縁部と受部との境界が曖昧になっているものである。

## 7号墳出土土器（挿図65～66 図版PL.88～92）

Po250～256は須恵器杯蓋である。Po251やPo253は天井部と口縁部の境に浅い沈線が入るものもあるが、多くは境の稜線の名残は認められない。天井部のヘラケズリの範囲は全体の1/3未満である。底部外面のヘラ切り後未調整のものはPo251のみで他はナデ調整などを施す。またPo254は天井部外面に2本の平行線によるヘラ記号がみられる。Po257～263は須恵器杯身である。いずれも口縁部の立ち上がりは短く、口径は10～11cmを前後する。底部外面のヘラケズリの範囲は狭く、全体の1/4に及ばない。底部外面がヘラ切り後未調整のものはPo257とPo263のみで、他は後にナデかハケメ調整を施す。またPo257底部外面には2条の平行沈線からなるヘラ記号を施す。Po264～266は須恵器高杯である。3点とも胎土、色調、法量が近似する。またPo266内部の一部には赤色顔料が付着する。Po267は須恵器碗である。底部外面にはヘラ切り調整の後、雑なナデ調整を行う。Po268は須恵器長頸壺の完形品である。肩部外面にはカキメ調整を施す。Po269は須恵器平瓶である。胸部は丸みを帯び、口縁部との接合箇所には接合痕が残る。Po271は土師器長胴壺の口縁部である。外面は縱方向のハケメ調整、内面は頸部直下までヘラケズリを施す。

玄門部で出土した。Po270、272は直接7号墳に関わる遺物ではなく、古墳の二次的利用に伴う土器とみられる。Po270は須恵器広口壺である。胸部最大径をはかる箇所に一条の沈線を施し、底に低い高台を貼り付ける。Po272は土師器皿である。底は焼成前の底部穿孔を行い、底部外面には回転系切り痕が認められる。Po270は須

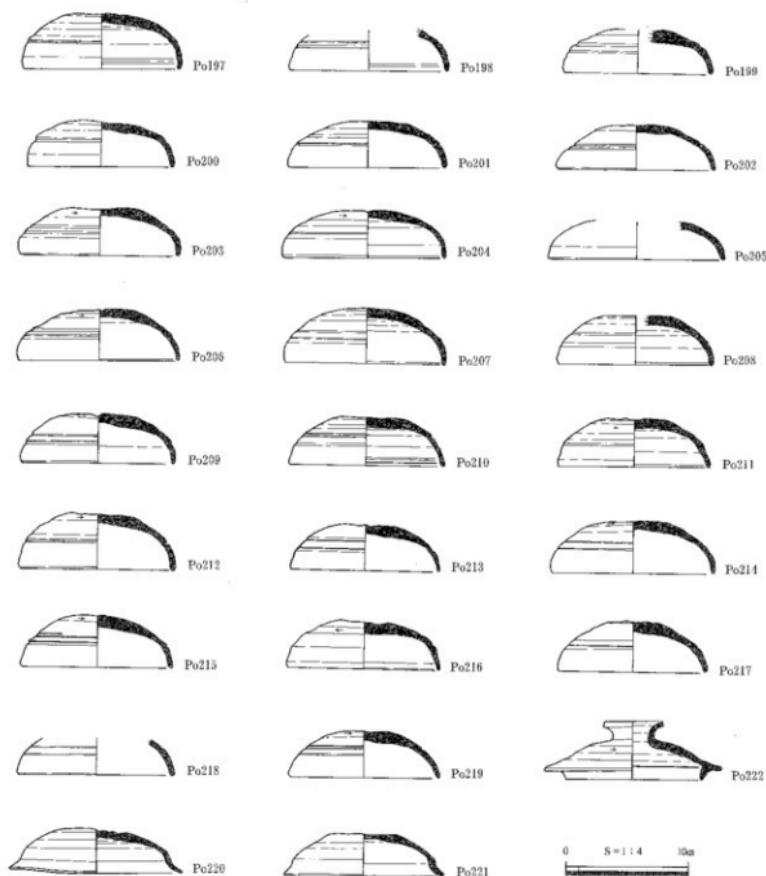


挿図62 5号墳石室外出土 土器

恵器などよりわずかに高い位置で、横倒しで押しつぶされた状態で出土した。Po272は高い位置から出土しているが、壺の口径と皿の口径が一致すること、皿に穿孔があることから、皿は壺の蓋に使われていたと考えられる。Po273～281は7号墳周辺出土の土器である。

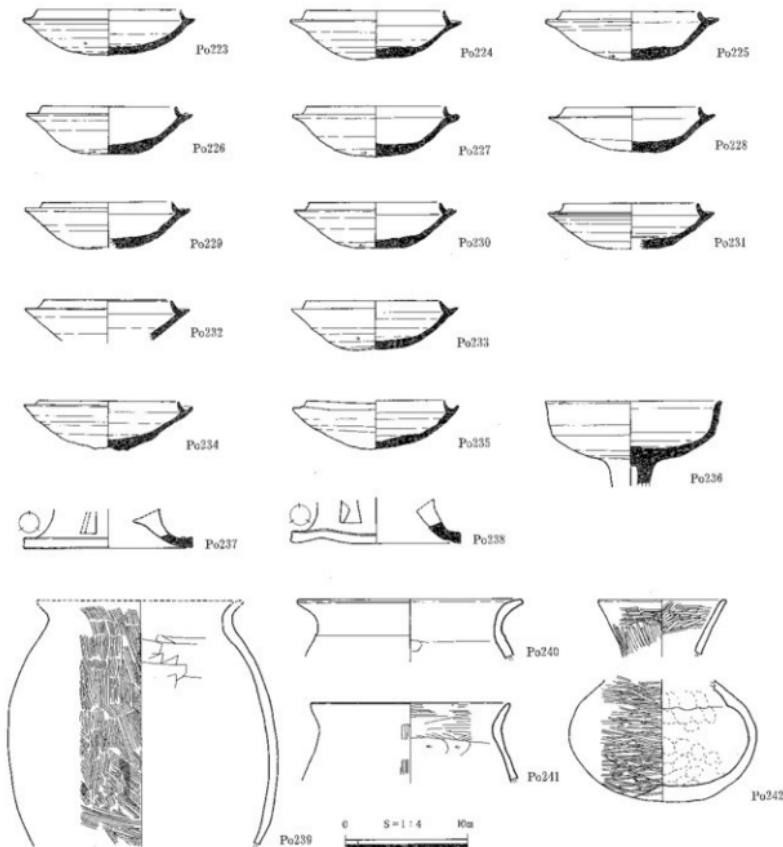
Po273は須恵器杯蓋である。口径は11cmで、天井部と口縁部の境に一条の沈線を巡らせ、口縁端部は丸くおさめる。周溝出土である。Po274～277は須恵器杯身である。Po277を除いて、比較的口縁部の立ち上がりが高く、受け部も長くシャープである等、石室内出土の土器群よりも一段階古い様相を示す。Po274は南側の周溝肩部、Po275～277は前庭部に掻き出された遺物で、Po276は玄室の破片と接合した。

Po278は須恵器碗である。口縁部と胴部の境には弱い稜線を持つ。底部外面にはヘラ切りの後、ハケメ調整を施す。周溝と前庭部出土の破片が接合した。Po279は周溝から出土した、有蓋の長脚二段二方透かしの高杯であ

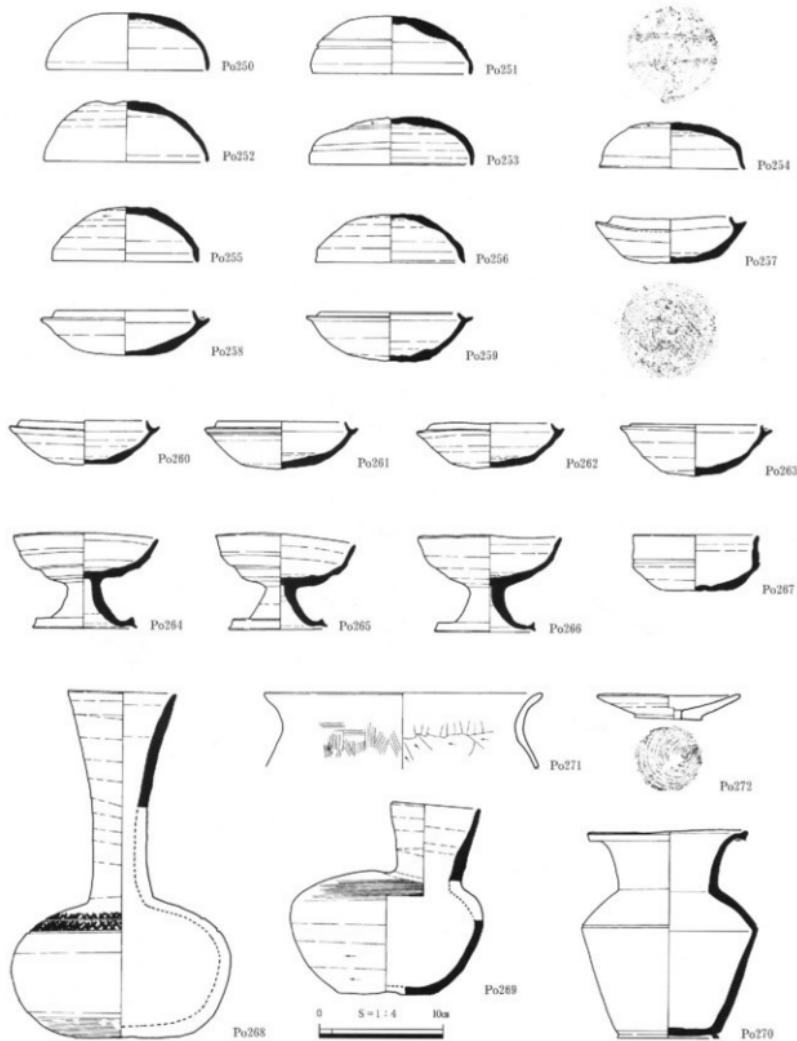


挿図63 5号墳石室内出土 土器

る。杯の受け部は稜線が鈍く、口縁部の立ち上がりも短い。脚部中位に二条の沈線区画を行い、その上下に長方形の透孔を貫通させる。Po280、281は須恵器壺の脚部下半とみられる。共に外方に踏ん張った高台を貼り付ける。これらは古墳に本来伴うものではなく、後世の混入品とみられる。Po280は北東側の墳丘上から、Po281は前庭部から出土した。



挿図64 5号墳石室内・石室外出土 土器



挿図65 7号墳石室内出土 土器

## 複数古墳に散らばった土器（挿図67）

Po195は4号墳北西側の埴掘を中心に、3号墳南東側の埴掘、6号墳北西側の埴掘にかけて出土した須恵器大甕である。復元口径49.3cmをはかる。頸部を2ないし3条の沈線で4段に区画を行い、上半部3段にわたりヘラ状工具による粗雑な波状文を密に施す。胴部外面には平行線文叩きを施し、内面には同心円文の當て其痕が明瞭に残る。Po196は4、6号墳北西側及び7号墳周辺の包含層から出土した甕口縁部である。頸部は2条の沈線で3段に区画を行い、上2段にヘラ状工具による粗雑な波状文を施す。Po155甕は4号墳北西側から北東側の埴掘出土品と、5号墳北西側の埴掘出土品が接合した。頸部を1か3条の沈線で4段に区画を行い、3段にわたり櫛齒状工具による丁寧な櫛描波状文を施す。施文原体の幅は約1.5cmである。胴部外面は平行線文叩きのちヨコナデを施す。内面には同心円文の當て其痕が認められる。

## 2. 石器（挿図68）

古墳の石室内および前庭部、周溝から、古墳時代の遺物とともに出土した石器を掲載した。これらについては、古墳時代の使用品ではなく、前の時代の混入遺物である可能性を持つものである。

## 3号墳出土石器（S1～3）

S1は玄室の家形石棺の手前側、赤色顔料の混じる砂床上で出土した（図版PL.6-1参照）。直径6～7cmの円錐で、使用痕は認められない。出土状況から埋葬に関わる道具と判断した。S2は玄室床面の整地層中から出土した。敲石、凹石として使用された礫石器であり、縄文時代の混入遺物と考えられる。S3は南西側の周溝埋土下層中から、須恵器を伴って出土した大型始刃石斧である。基部を欠損している。弥生時代の混入遺物と考えられる。

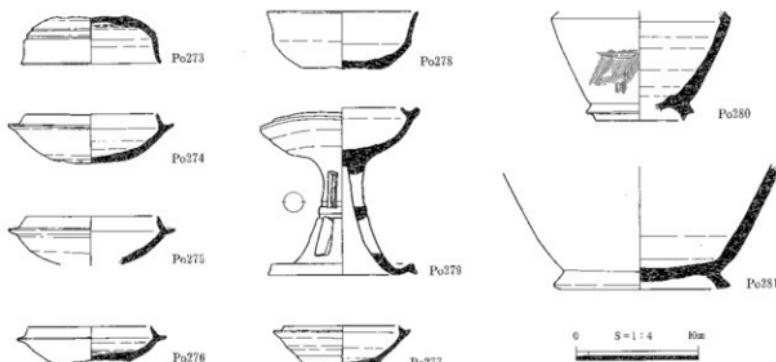
## 4号墳出土石器（S5）

S5は羨道部閉塞石の上面で出土した、凝灰岩質の砥石である。直方体の長側面4面が使用され、凹面になっている。須恵器のほかに中世の鍋を伴って出土しているため、古墳時代の遺物であるかどうかは不明である。

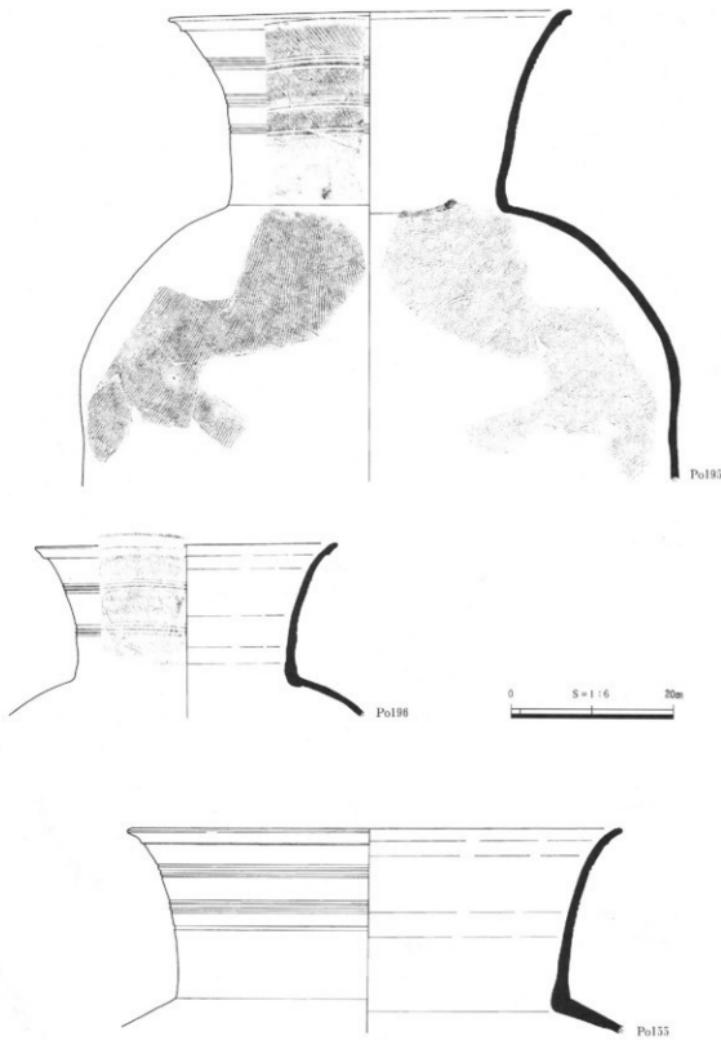
## 7号墳出土石器（S4）

7号墳の前庭部は角礫が集中して出土し、その中には多くの須恵器を含んでいた（図版PL.50参照）。これらは石室内から引き出された閉塞石および供獻土器であると考えられる。

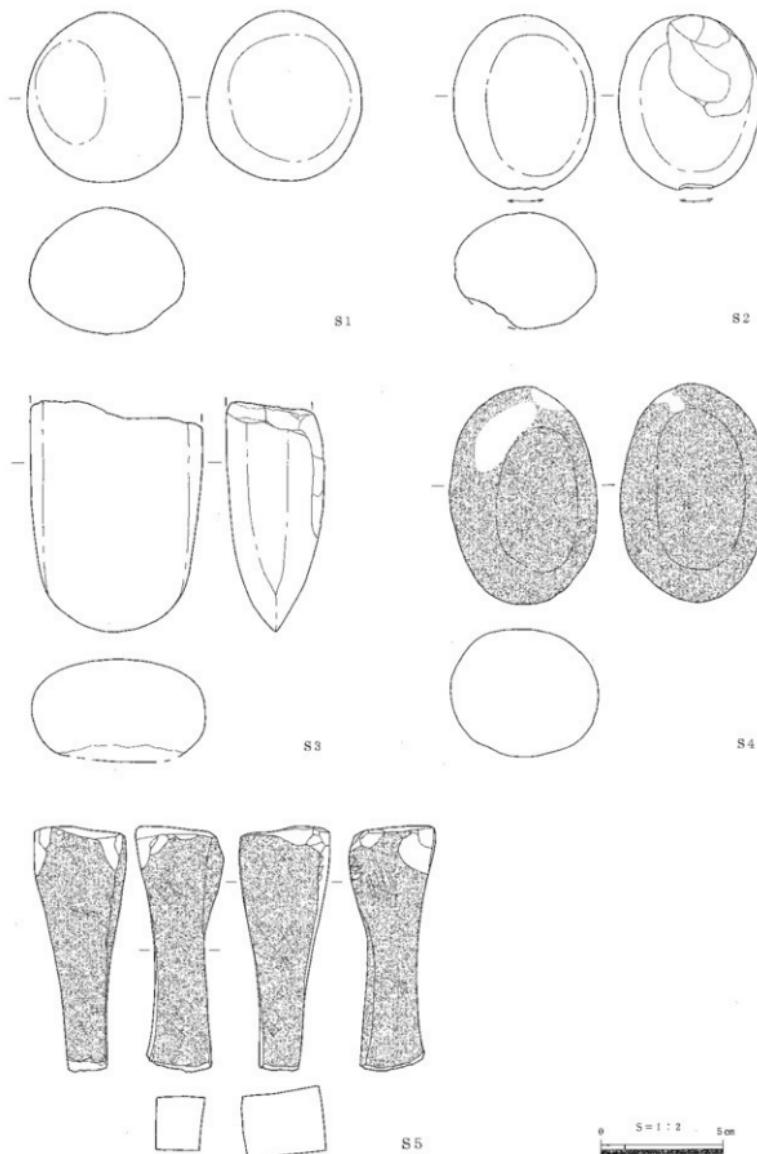
S4はこれらと一緒に出土した。磨石として使用された礫石器であるが、周辺で縄文時代の遺構が出土したことから考慮すれば、縄文時代の混入遺物とみなされる。



挿図66 7号墳石室外出土 土器



挿図67 小畠古墳群出土 土器



挿図68 小畠古墳群出土 石器（研石器、磨製石斧、砥石）

## 3. 馬具

## 3号墳出土 (挿図69~71 図版CPL.1、PL.97~99)

3号墳からは2組分の馬具が出土している。

・<sup>付</sup>轡 (M1、M2)

M1は透十字文心葉形鏡板付轡である。玄門から羨道にかけての範囲で、破壊された状態で出土した。鉄製である。引手は振りを持ち、<sup>付</sup>衡先環で結合する。引手壺はくの字に折り曲げられる。衡は二連式である。鏡板は、衡先環のすぐ内側に造り出された別の環に取り付けられている。環に連結軸を通し、鉄鋤で鏡板を留める。鏡板は鉄製で、立間は別造りの鉸具が欠落したようである。引手・衡の径は約8mmで断面隅円方形である。

M2は環状鏡板付轡である。鉄製である。ほぼ完全な状態を保って、羨道の閉塞石際に出土した。引手と鏡板は衡先環で結合する。引手壺は折り曲げられる。鏡板の平面形は8の字で、立間を鉸具に作っている。鉸具の刺金は棒状であり、面繫の帯先に取り付けられていた革金具が通されている。引手・衡・鏡板の径は約8mmで断面円形である。

## 鞍金具

・<sup>付</sup>鞍 (M3~6)

鞍の後輪に取り付けられ、尻繫を繋いで鞍を馬の背に固定するための金具である。M3~6は鉄製で、輪金と脚を別造りにしている。輪金は左右に張り出し、刺金を持たない。M4の座金具は円形で半球状に造る。M3は座金具を欠損しているが、輪金の形状から、M4と対になるものである。M3、4の脚の先端は欠損している。羨道の閉塞石際に出土した。M5、6の座金具は五花弁形で半球状に造っている。花弁の先端近くに、鞍に固定するための鉄鋤が打ってある。脚は短く、曲がらない。座金具のみ鉄地金銅装である。

## ・未掲載であるが、幅約5mmで小紙を打った鉄地金銅装縁金具が出土している。

・<sup>付</sup>鎧・<sup>付</sup>鉸具 (M9~11)

鎧の上端につけられ、鞍から下がる力革につないで鎧を吊る役割をする。M9、10は鍵穴形に曲げて環状にした輪金に長い棒状の刺金をとりつける。羨道部玄門近くの左壁際の低い地点から、互いの刺金と輪金をからみ合わせた状態で出土した。M11はT字形の刺金を持ち、基部の横軸の金具とともに輪金で挟み込んで固定する。未掲載であるが、M11と一対になる金具が出土している。

・<sup>付</sup>鎧吊り金具 (M12)

鉄製の、コの字形の金具で、木製の鎧本体の上端に装着される。外から紙が打ち込まれている。内側には木質が錆となって付着している。本体および紙の断面形は方形である。下半は欠損している。未掲載であるが、対になる鎧金具が出土している。

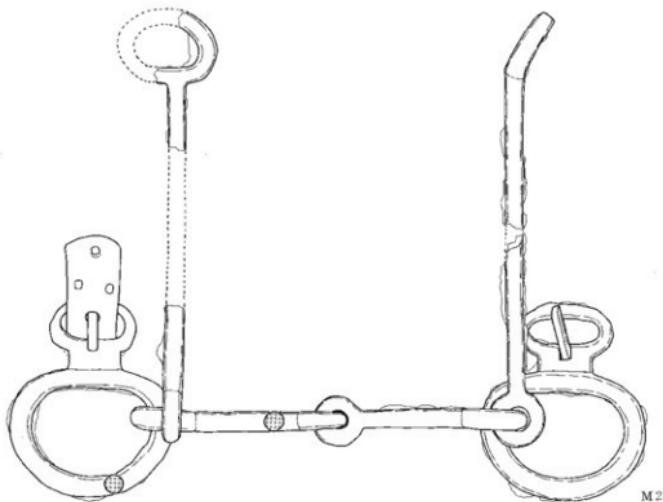
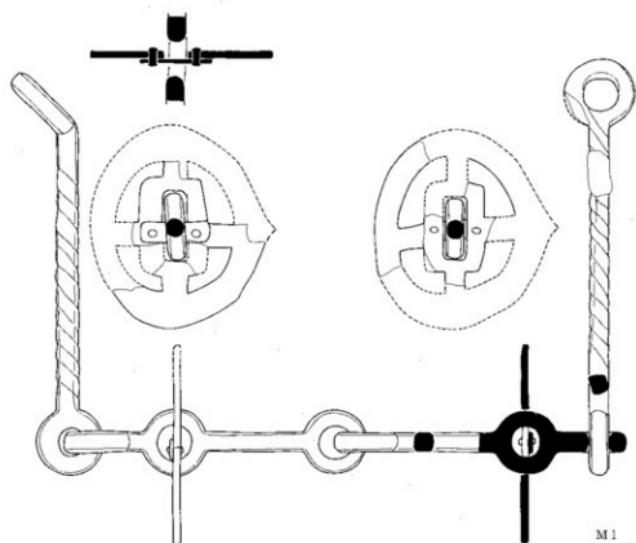
・<sup>付</sup>障泥吊り金具 (M7)

未掲載でM7と一対になる金具の残存状態と合成して復元すると、心葉形座金具と鉸具の輪金を一体成形し、T字形の刺金を、金具で座金具に固定する形状を取るものと考えられる。あるいは轡M1の鏡板か。鉄製である。鉸具 (M8)

鉄製の輪金で刺金を持たない。平面形は拇指形で、断面は円形である。寸法が小さいことから面繫に使用されたものと考えられる。

## 革金具 (M13~23)

帶先および帶の交差部分などに紙留めした金具を革金具と総称した。M13は方形の端部が円く張り出し、2紙で留める。M14は五角形、M15は爪形でいずれも2紙で留める。M16、17は爪形で、3紙で留める。これらは帶先の保護・装飾のための金具である。M18、22は菱形で、4つの大型の紙で留める。M19、23は方形に近い菱形で、M19は大型、M23は小型の4紙を打つ。菱形の革金具は面繫の帯の交差部分に使われたと考えられる。M20は3紙で一方を円くおさめ、反対側に割り込みを持つ。これが破面とすれば割り込みは円穴となり、轡M2の轡



挿図69 3号墳出土 馬具(轡)

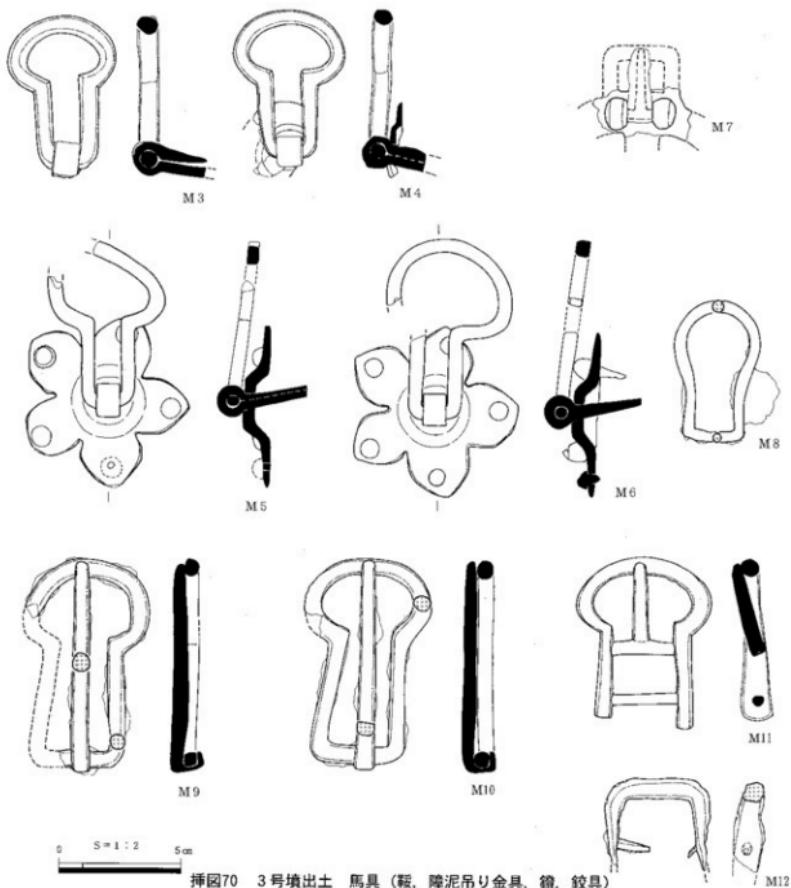
の鏡板に取り付いた帶先革金具と同種のものと考えられる。鉢脚は捻っている。M21は端部を欠損している。1鉢であり、鉢頭は残っていない。表面にごく僅かであるが金の被膜が付着していることから、鉄地金銅装の品である。

## 4号墳出土品（挿図72～74 図版CPL. 1～3, PL. 94, 96）

4号墳からは1組分の馬具が出土している。

## 雲珠・辻金具（M24, 25, 28～31）

鉄地金銅装である。半球状の鉢部の中心に宝珠飾りの芯を通し、鉢部の下面に脚部を取り付ける。脚部の平面形は爪形で、中心1箇所に鉢を打つ。破損が激しいが、鉢部の径は約5.8cmに復元される。M24, 25ともに隣り合わせの位置で2つの脚部が付くが、どちらも中心からの角度は鋭角となる。構成部品の点数で数えると、出土したのは鉢部2点と脚部8点である。これらで復元するとX字状の脚部配置をとる辻金具1対となる。馬の顎



挿図70 3号墳出土 馬具（鞍、障泥吊り金具、鏡、鉤具）

あたりで交差する面繋の固定に使用されたものと推定される。

#### 鞍金具

鉄地金銅装の鞍金具が1組分出土した。

- ・磯金具 (M26、50~52) 州浜金具 (M44、45)

磯金具と州浜金具は別造りである。磯金具と州浜金具は上辺の縁金具で鞍本体に固定する。鎖を貫通させる部分の突起は、州浜金具は残っていたが、磯金具ではM50にのみ残る。M52は上辺の縁金具の一部である。縁金具は磯金具の下辺にも取り付けられている。金銅装は、磯金具の下辺に縁金具を取り付けた後に施され、上辺の縁金具を取り付けた部分も金銅装が施されていた。M26とM51を比較すると、対称形にはならず、どちらかが前輪か後輪になると思われる。M51のほうがやや大きいが、轆を取り付ける孔があけられていない。一方、M26は轆を取り付ける位置が破損しているが、むしろ轆があった場所だから破損したと仮定すれば、M26、50が後輪、M51が前輪といえる。

#### 花形杏葉・鏡板 (M32~36)

鉄地金銅装である。全体の正確な形状は不明であるが、円形透かし文が施されており、大きな円の周りに小さな円が並ぶ配置と予測される。M32、34~36は外側の花弁にあたり、M33は中心の部分と考えられる。杏葉か鏡板のいずれかであろう。

#### 革金具 (M37~41)

爪形の平面形をとり、M37~40は2本、M41は3本の鎖を打つ。いずれも鉄地金銅装である。

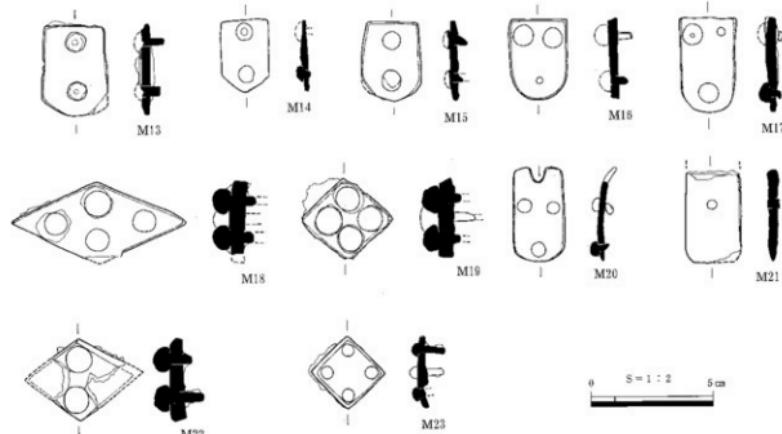
#### 吊り金具 (M42、43)

平面形は爪形で、本体よりやや幅狭の鉤部を持つ。M42は鉤部先端が、M43は鉤部が根元から破損している。いずれも鉄地金銅装である。

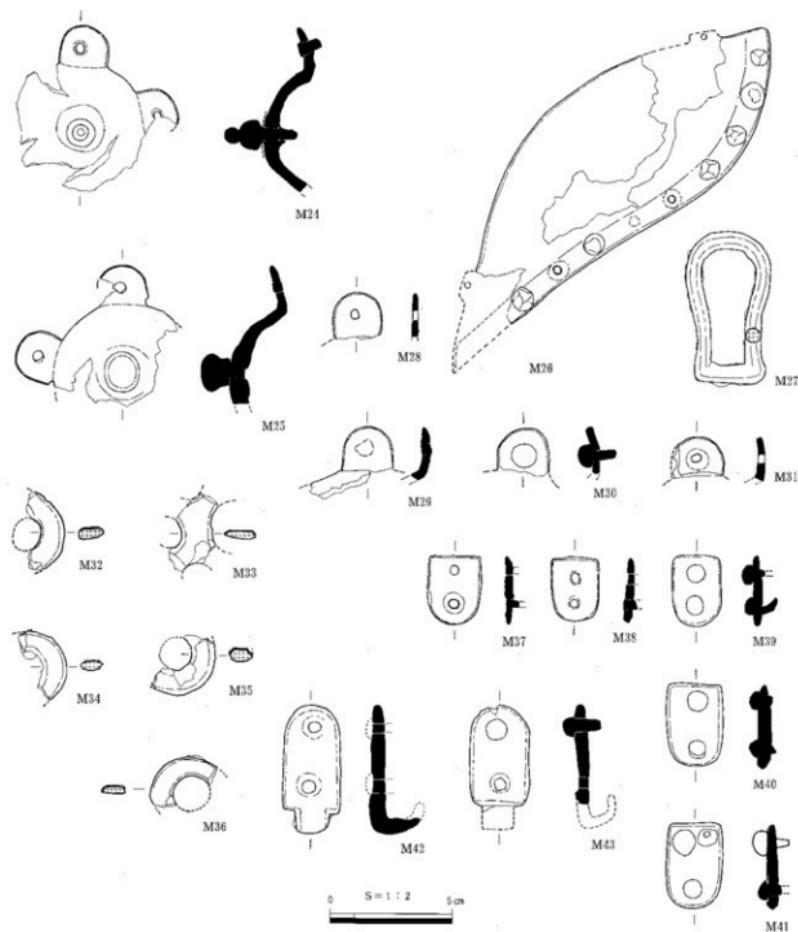
#### 障泥吊り金具 (M46~48)

3点出土した。心葉形の座金具と鉸具からなる。座金具は鉄地銀装である。側面形は縁部分でわずかに段をなし、縁部分に4ヶ所鉢が打たれる。鉸具は銅地金装で、T字形の刺金を輪金で挟み込み、基部の横舶は輪金を貫通している。鉸具の基部に幅9mm、厚さ1mmの銅板をからめ、座金具中央の孔に通して裏側で広げて固定している。銀装の座金具の表面には錫精が浮いていることから、銀銅装の可能性も示唆しておく。

#### 鉸具 (M27、49)



挿図71 3号墳出土 馬具（革金具）



挿図72 4号墳出土 馬具 (辻金具・杏葉・鏡板・磁金具・鉗具・革金具・吊り金具)

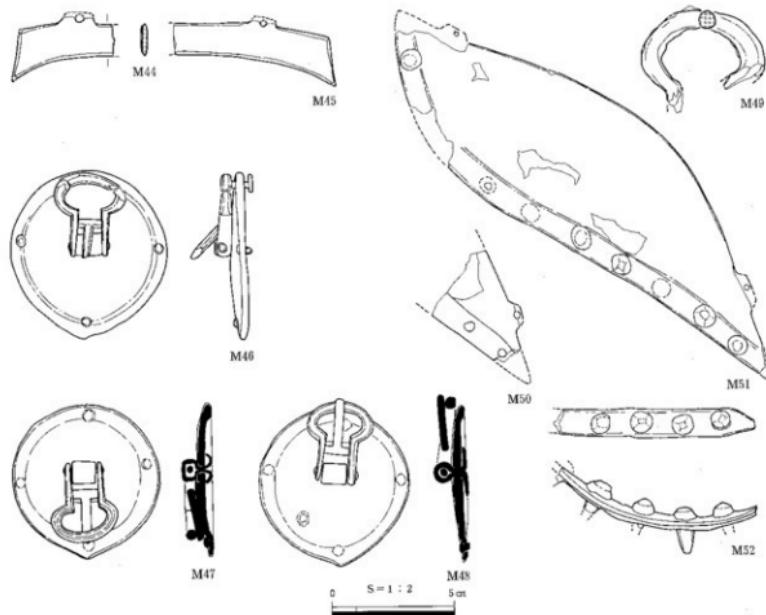
M27は拇指形の輪金で刺金を持たない。M8と同様、面繋の鉗具と考えられる。M49は左右に張り出す形状の輪金で、鎖を吊る鉗具あるいは鞍の鉗具と考えられる。

#### 6号墳出土品 (挿図74 図版CPL.3、PL.96)

6号墳からは1組分の馬具が出土している。第2埋葬面のレベルで、玄室中央の左壁際に集中している。  
鞍金具

- ・鞍 (M53, 54)

輪金は左右に張り出し、刺金を持たない。座金具は円形で半球状に造り段を持つ。輪金は鉄製で座金具は鉄地



挿図73 4号墳出土 馬具（州浜金具、礎金具、障泥吊り金具）

銀装である。

鉸具（M55、56）

M55は断面円形の鉸棒を8の字状に曲げた金具である。M56は断面円形の鉸棒を口の字状に曲げた金具である。いずれも革帶の長さを調節するための金具と考えられる。

革金具（M57～70）

いずれも爪形で2鉢のもの（M57～61）と3鉢（M62～70）の2種類がある。鉄地金銅装である。

#### 5号墳出土品（挿図75 図版PL.97）

5号墳からは1組分の馬具が出土している。玄室の左袖から羨道にかけての範囲に散らばる。

障泥吊り金具（M71、72、73、74）

3個体確認できた。すべて鉄地金銅装である。M71は心葉形の座金具に、鉸具造りの立開を取り付けた形態で、座金具には3箇所に鉢を打ち込む。座金具の裏面には全面に黒色漆の皮膜が付着する。鉸具はT字形の刺金を輪金で挟み込むタイプのものである。M74は鉸具と座金が離れているが同一個体である。M72、73は接合しないが、同様の形態とみられる。M71の最大幅6.1cm、残存長4.5cm、鉸具の全長3.8cm、最大幅3.4cmである。杏葉としての報告例が多い形状だが、心葉形の金具の裏面に黒色漆の皮膜が付着することから、別の物に鉢で取り付けられた金具と判断し、障泥吊り金具とした。

鉢（M75、76）

鉢吊り金具の一部とみられる。ともに厚さ約3mmの鉄製である。M76は4cm間隔で鉢を打つ。鉢頭は一辺7mm

の方形で、紙の先端は欠損する。また裏面には木質の付着が認められる。

## 軸 (M77)

鉄製の輪金の基部に脚金具が巻き付くが、脚の先端を欠く。輪金の全長6.6cm、最大幅4.7cmを測る。座金具は欠落している。

## 鉸具 (M78)

M78は断面円形の輪金の基部に刺金が巻き付くタイプのものとみられるが、刺金を欠く。全長4.4cm、最大幅3cmを測る。

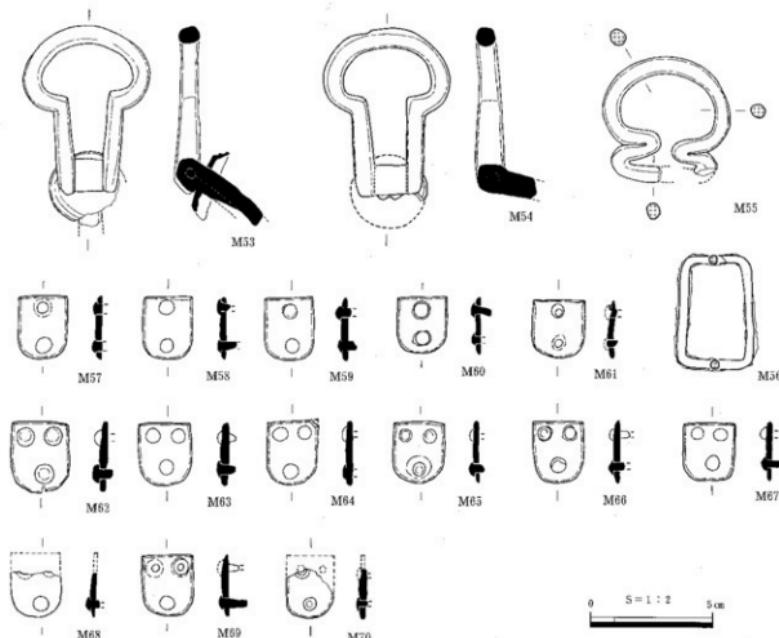
## 革金具 (M79~83)

M79は一端が丸く、三角形に広がる形状の鉄板とおもわれるが、欠損するため定かではない。厚さ3mmの鉄板に、紙を3カ所打ち込む。裏面には木質などの付着物は認められない。

M80~83は鉄地金銅装である。すべて下端を欠くため定かではないが、雲珠か辻金具の脚である可能性がある。それぞれに紙を一つずつ打ち込む。頭部は直径1cm、高さ6mmと比較的大型である。

## 吊り金具 (M84)

幅2.1cm、残存長6.4cm、厚さ3mmを測る。上端は丸く、下端は欠損するが吊り金具が付くものと思われる。上端より2.2cm下に幅3mm強の責金具が付く。裏面に付着物などは認められない。4カ所に紙を配置するが、うち両端の2カ所の紙が欠損する。



挿図74 6号墳出土 馬具（軸、鉸具、革金具）

## 7号墳出土品（挿図76、77　岡版PL.100、101）

## 轡（M85）

鉄製素環鏡板付轡に鉸具を立間として鍛接したものである。鏡板本体は、長軸6cm、短軸4.7cmを測る橢円形である。衡は二連式、引手は一本引手で、くの字形に屈折する引手壺を持つ。引手は捩りを持ち、捩りの方向は引手の中央で逆転する。各部の連結方法は衡先端に鏡板と引手がそれぞれ連結する。

## 鉢（M86、87）

M86は鉸具である。T字形の刺金を持ち、基部の横軸の金具とともに輪金で挟み込んで固定する。M87は鉄製の吊り金具である。鉢は6力所に打ち込まれたとみられるが、うち2力所は欠損する。鉢の長さは約1.5cm前後で、一部に木質が付着する。全長7.3cmである。

## 鞚（M88、89）

輪金の基部に脚金具を取り付けたものである。刺金を持たない。M88は8弁の花弁形の座金具が残る。座金具の周囲には直径1mm前後の小孔が5力所ほど貫通する。全周するか否かは鉛等の付着のために不明である。座金具も含めすべて鉄製である。M89は全長9.9cmを測る。

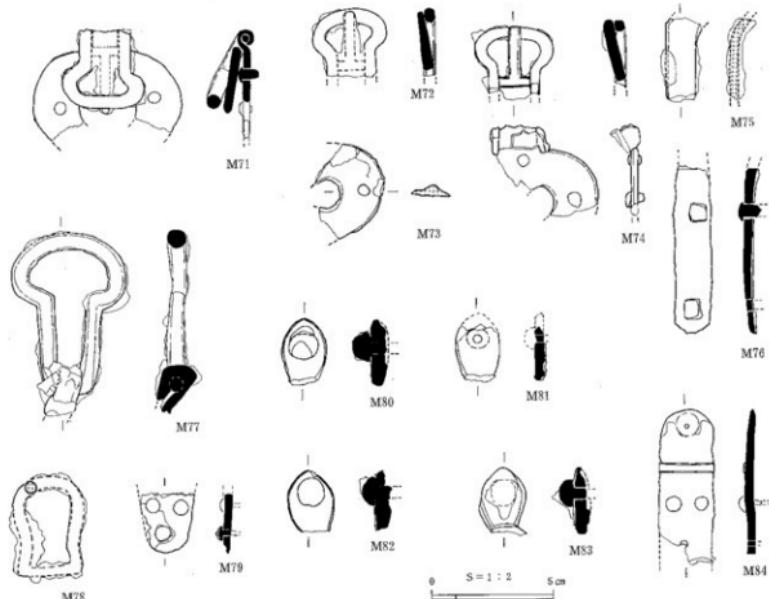
## 鉸具（挿図76　M90）

輪金の基部に巻きが付くタイプのものであるが、刺金は失われている。全長5cm、最大幅4.1cmを測る。

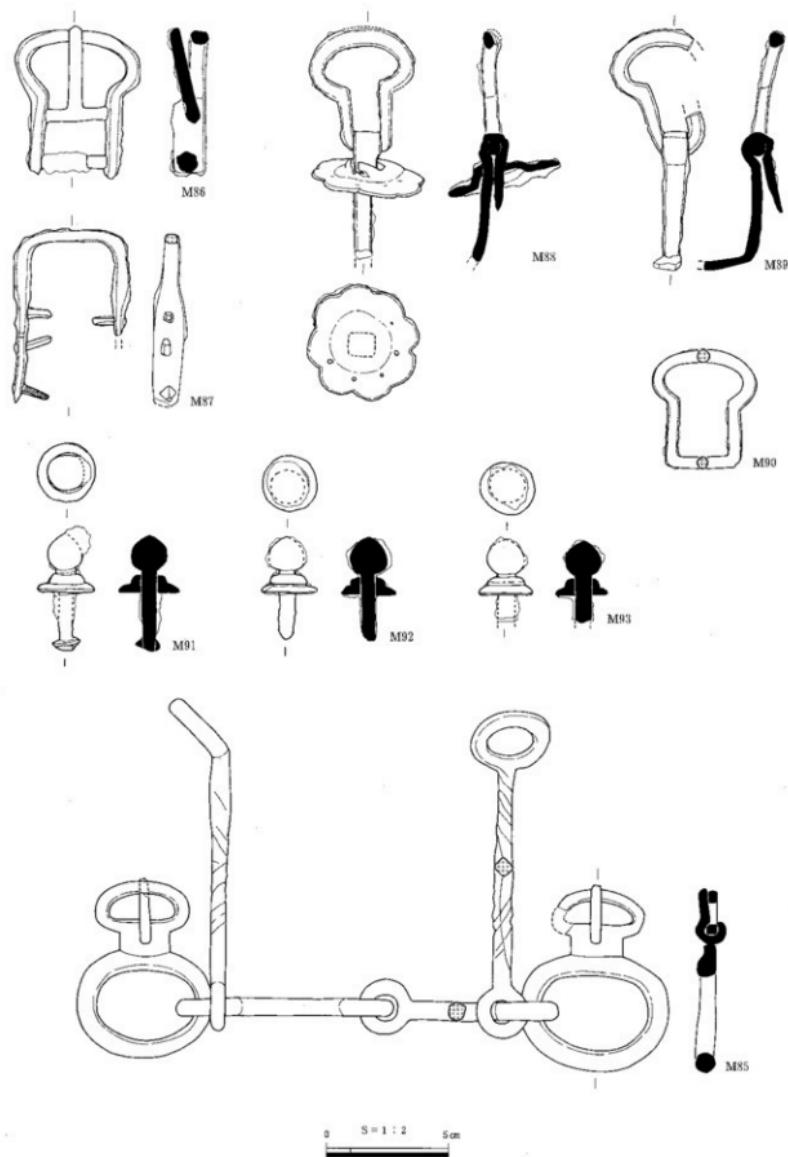
## 宝珠形飾鉢（挿図76　M91～93）

3点出土し、すべてが鉄地銀装である。ほぼ完形のM91は、全長4.8cmの宝珠形の飾鉢に直径2.4cmの座金具が付く形態である。雲珠・辻金具の鉢頂部に付く飾鉢の可能性がある。

## 革金具（挿図77　M94～106）



挿図75 5号墳出土 馬具（障泥吊り金具、鉢、鞚、鉸具、革金具、吊り金具）



插図76 7号墳出土 馬具（轡、鐙、鞍、鉗具、飾鏡）

すべて鉄製で表面に鍍金等は認められない。金具の幅はM95の幅2cm～M101の幅2.4cmまで若干のばらつきが認められる。紙の配置も数種類確認でき、多様である。

#### 4. 武具・生産用具（挿図78、79 図版CPL.4、PL.102～104）

##### 3号墳出土品

###### 鉄鎌（M128～157）

鎌身部の個体数からみて少なくとも22個体はある。すべて長頸鎌である。完形品のM128は鎌身長、頸部長、茎部長がそれぞれ3.2cm、9.7cm、8.4cmで、M129はそれぞれ3.3cm、9.6cm、8.5cmである。鎌身形は大半が柳葉形であるが、M137のみ脇抜三角形で、M136は不明である。鎌身部が銷離れのために造りが判然としないものもあるが、片切刃造りのもの（M130、133、134、135、138、145、147、157）、鍛のため判然としないが、両切刃造りの可能性があるものの（M141、144）、片丸造りのもの（M137）等がある。鎌身関部は角闘のものが多いが、M133、134、136、147、162のように無闇のものもみられる。

関部の形状が判明するものは、角闘とみられるM137を除き、すべて棘状闘である。M134やM135の茎部の表面には、植物の繊維状のものが巻き付けられており、矢柄に装着する際に、鎌身の安定を図るためにものとみられる。またM128には矢柄の木質の一部が残存する。

###### 刀子（M107～109）

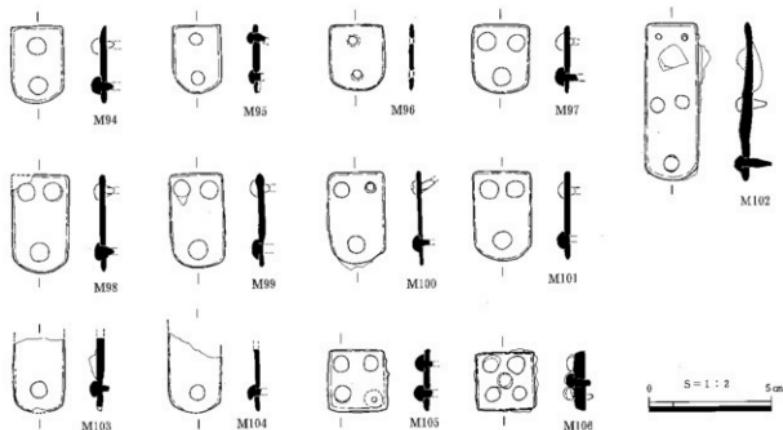
3点出土した。M107は完形品で、全長23.8cm、刀身部長15.8cm、刀身部幅2.5cm、棟の厚さ4mmを測る。茎部には直径2mmの目釘穴が穿孔される。闘は両闘ともに角闘である。閉塞石上に堆積した流入土の上で出土した。M108は全長13.5cm、刀身部の長さ7cm、刀身部の幅1.1cmを測る。闘部は明瞭でないが、片闘で斜めに切り落とされた形と思われる。M109は全長11cm、8.7cm、棟の厚さ3mmを測る。両闘とみられるが、詳細は不明である。

###### 鎌（M111）

刃部の破片である。最大幅3.3cm、刃部の厚さ4mmを測る。閉塞石の隙間に挟まっていた。古墳時代のものかどうかは不明である。

###### 尖頭器形鉄器（M110）

先端が尖り、残存長4cm、残存幅1.3cm、最大厚約3mmを測る。用途不明品である。南西側周溝の上層から出土した。出土時はもっと長かったが崩れてしまったという証言が残っている。



挿図77 7号墳出土 馬具（革金具）

#### 4号墳出土品

##### 刀子 (M112~117)

M112、113、116は茎部の破片である。M112は茎尻近くに2mm四方の目釘穴を穿つ。M116は茎部の推定全長が8.2cmである。関部は両側とみられ、刃部側は角関、棟側は撫で関とみられる。刀身部は幅1.4cm、棟の厚さ4mmを測る。M114、115、117は刀身部の破片である。M114は刀身部幅1.2cm、棟厚4mmを測る。

##### 大刀鞘金具 (M118)

M118は鉄製の鞘金具の一部とみられるが、破片のため具体的な部位は不明である。表面に鍍金などは認められない。厚さは約2mm、幅4.8cm以上の鉄板を巻いた形状を呈する。裏面には鞘木とみられる木質が付着する。

#### 5号墳出土品

##### 大刀鞘金具 (M119)

鞘の鞘金具である。鉄製で表面に鍍金などは認められない。環の長軸3.5cm、幅1.7cmの鉄板を環状に巻いた形状で、環の長軸3.5cm、短軸2.3cmを測る。大きな袋錆が出ている。

#### 6号墳出土品

##### 鉄刀 (M127)

刀身の一部と茎尻を欠くため、全長は不明である。刀身部の推定の長さは26.2cmである。刀身は平造りで、峰のフクラは枯れ、鋭利な切先を持つものとみられる。また一部に鞘木の木質が付着する。刀身部幅3.1cm、茎部幅1.4~2.2cmを測る。関の形状は、刃部側は撫で関で、棟側は角関である。

##### 刀装具 (M122、123~126)

M122は銀装の三輪玉の破片とみられる。厚さ1.1mmの銅製である。M123~125は鞘金具の一部である。いずれも厚さ2mm前後の鉄製で、表面に鍍金等は認められない。M123は表面に布が付着し、3点とも裏面には木質の付着が認められる。M126は鉄製の柄頭の縣通孔金具である。環の直径は広端側が1.1cm、狭端側が9mm、長さ7mmを測る。

##### 鉄鎌 (M158~165)

4点出土した。鎌身部の形状が唯一判明するM161は片刃の長頸鎌である。鎌身関部の形状は不明である。その他もすべて長頸鎌である。関部の形状が明らかなM158、159は、ともに鍊状関である。

#### 7号墳出土品

##### 鉄刀 (M120、121)

いずれも刀身部の破片である。刀身幅は2.8cm、棟の厚さは6mmを測る。M120は一端が徐々に狭まることから、切先に近い部分と考えられる。

##### 鉄鎌 (M162~165)

4点出土したが、すべて長頸鎌である。M162とM163はともに鎌身部が残るが、鎌ぶくれのため、形状は不明である。M164は鍊状関で、茎部の断面形は丸い。M165の下端も同様に断面形が丸い。

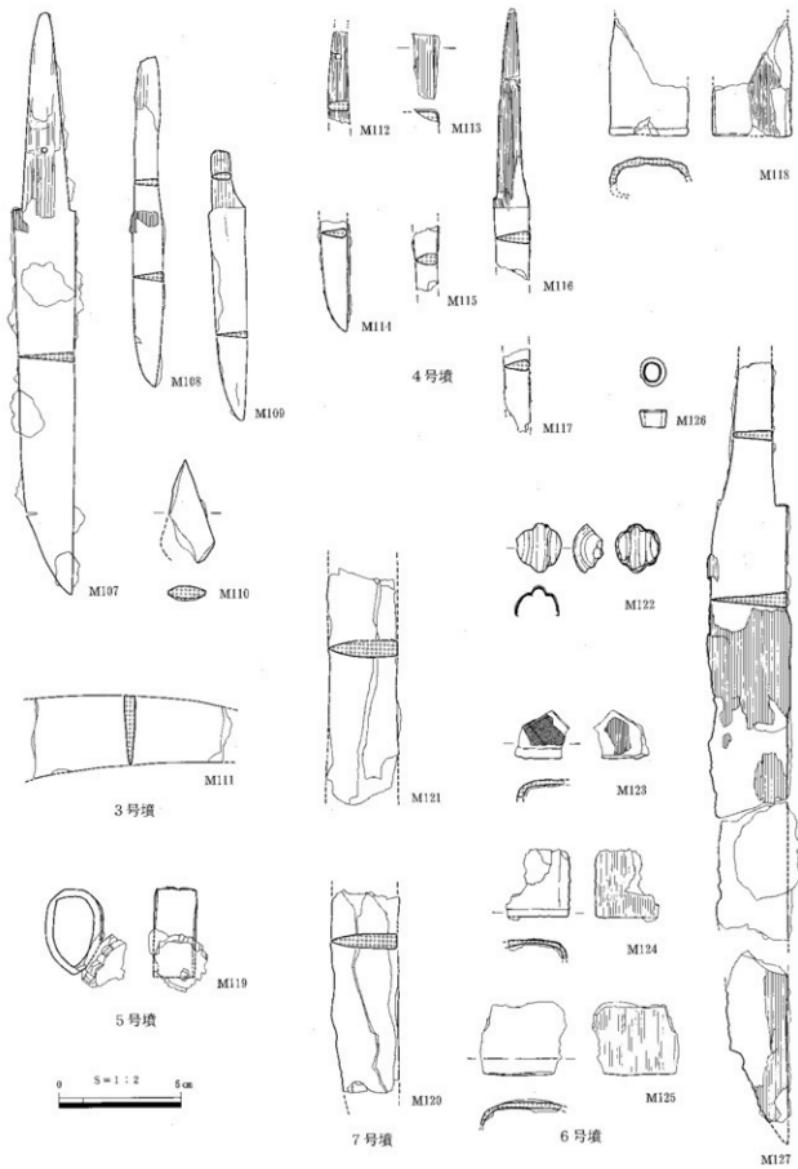
#### 5. 装身具 (挿図80 図版CPL.4)

##### 耳環

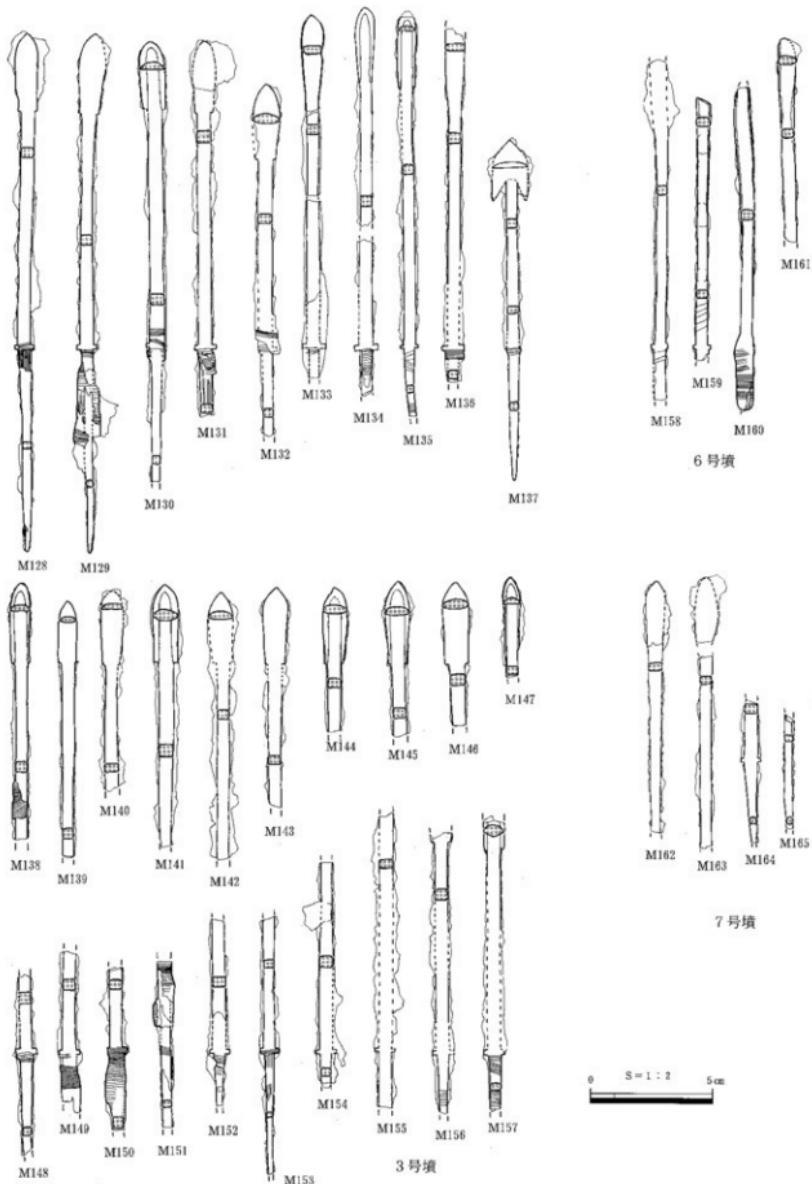
3号墳の玄室床面でM205、206の2個の耳環が出土している。いずれも銅製金装で、原位置は保っていない。

4号墳の羨道玄門付近でM207、玄室床面中央玄門寄りでM208の2個の耳環が出土している。いずれも銅製金装である。

6号墳の玄室床面左側壁際でM209が出土している。銅製銀装である。



挿図78 3・4・5・6・7号墳出土 武具(大刀), 生産用具(刀子, 錘)



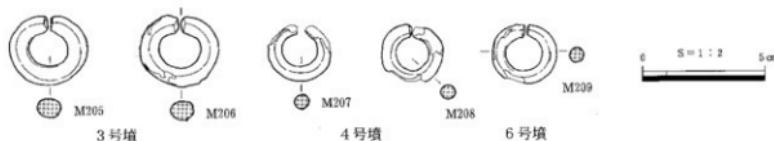
挿図79 3・6・7号墳出土武具（鉄鎗）

## 玉類（挿図81）

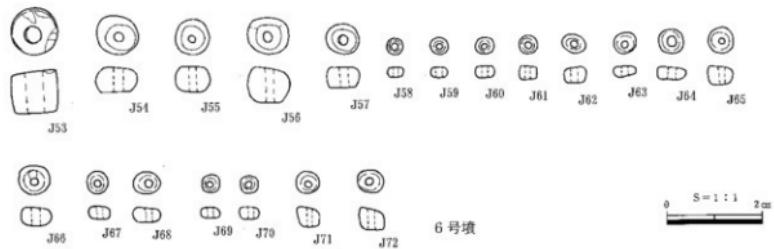
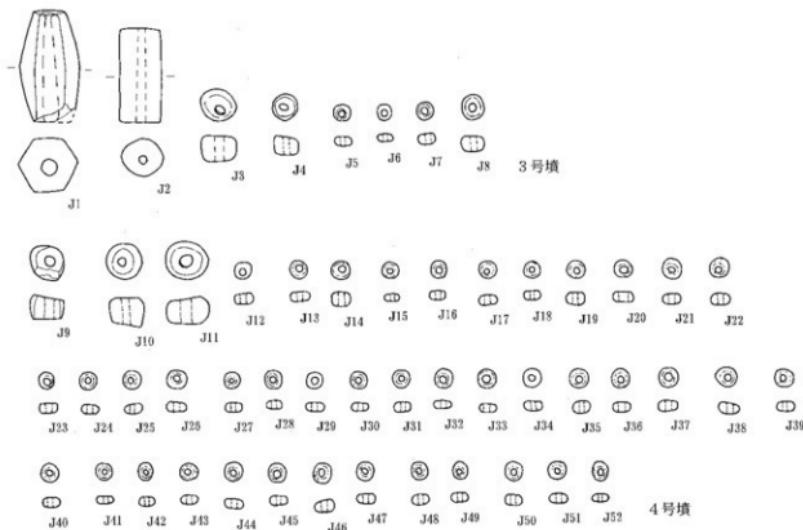
3号墳羨道及び玄室内でJ1～8が出土している。J1は水晶製の切子玉である。羨道から出土している。片面穿孔である。J2は碧玉製の管玉である。片面穿孔である。

J3、4はガラス小玉である。色調はJ3が紺色、J4が濃紺である。J4～8は粟玉である。色調は青系である。いずれも風化はさほど進んでおらず、遺存状態は良好で気泡の混入もほとんど認められない。

4号墳玄室内からJ9～52が出土している。特に玄室中央部でJ10～12、23～37、41～49が集中して出土して



挿図80 3・4・6号墳出土 装身具（銅製耳環）



挿図81 3・4・6号墳出土 装身具（玉類）

いる。J9～11はガラス小玉で、色調は紺色である。J9は1/3欠損している。J10は内部に細かなヒビが入っている。

J12～52は粟玉で、色調はいずれも青色である。J21は若干風化しているが、その他は風化がさほど進んでおらず、遺存状態は良好で気泡の混入もほとんど認められない。その他に破片として検出されたものもある。

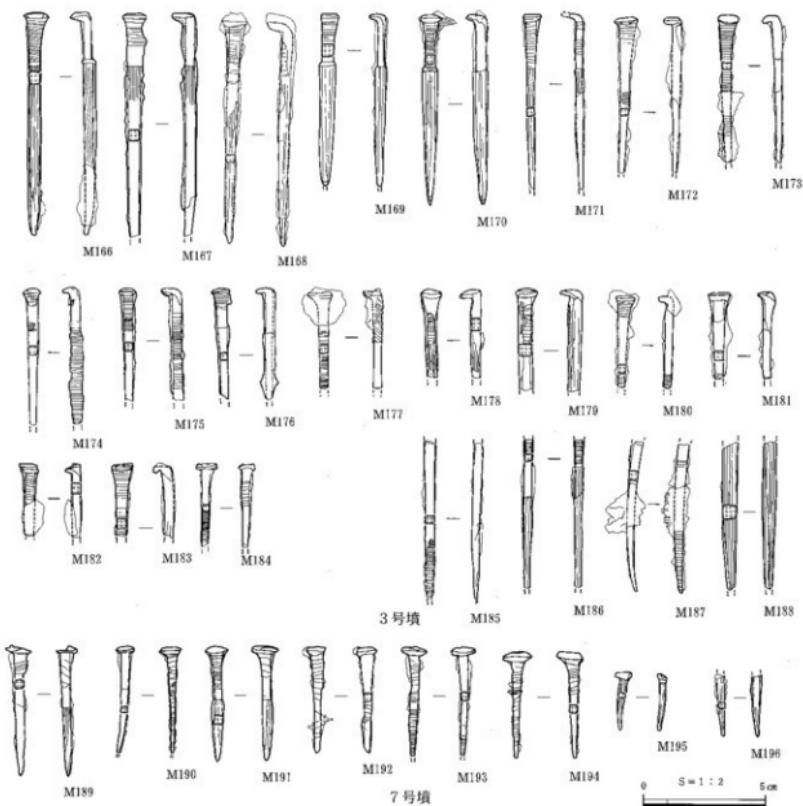
6号墳玄室及び羨道からJ53～72が出土している。J53は滑石製の白玉である。

J54～57はガラス小玉である。色調は、J56が青色系の他は紺色系である。いずれも風化はさほど進んでおらず、遺存状態は良好である。また、気泡の混入もほとんど認められない。

J58～72は粟玉である。色調は青色系がJ56、58～60、67、70、72、緑青色系がJ61～66、68、69、71で、紺色系のものはない。いずれも風化はさほど進んでおらず、遺存状態は良好で気泡の混入もほとんど認められない。

#### 6. 鉤（挿図82 図版104）

3号墳、7号墳とも石室内から木棺は検出されていないが、木棺が安置されていた事実を想像させる。木棺の



挿図82 3・7号墳出土 釘

板材接合に用いられたと考えられる鉄釘が3号墳から計23点、7号墳から計8点出土している。掲載していないが、4、5、6号墳からも釘が出土していた。

鉄釘はすべて、断面長方形か正方形の鉄棒の一端を打ち延ばして折り曲げた頭部を作り出しているので、L字形のものである。資料にはすべて、表面に木目痕の付着が認められる。付着の状況は、鉄釘の上部と下部に別方向の木目が走るものが多く認められ、2枚の板材を接合した事実を物語るものである。

鉄釘の全長については、3号墳の完形品の中で、全長9.2~9.4cmのものと、7.1~7.6cmのもの、少なくとも2種類の釘が認められる。それらの出土状況を見てみると、玄室内的石棺と玄門との間の空間と、閉塞石から羨道にかけての部分2箇所に出土の集中がみられるが、この2種類の鉄釘との関連性は原位置を保った状態での出土がなく、確認できなかった。

7号墳出土の資料中、全長が判断できるものは、ほぼ5cm前後に集中しているが、M195のみ全長2.4cmと他に比べて短く、3号墳と同じく2種類の鉄釘が存在する。出土状況としては、玄室奥部に集中している。

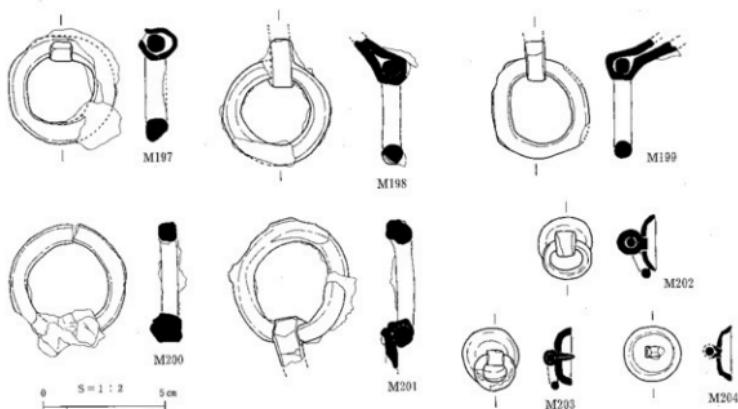
#### 7. 棺金具（挿図83 図版PL.97, 98）

3号墳の羨道部で、棺金具と考えられるM197~199が出土している。いずれも鉄製の円環に幅1cm前後の鉄板を折り返して付けるものである。

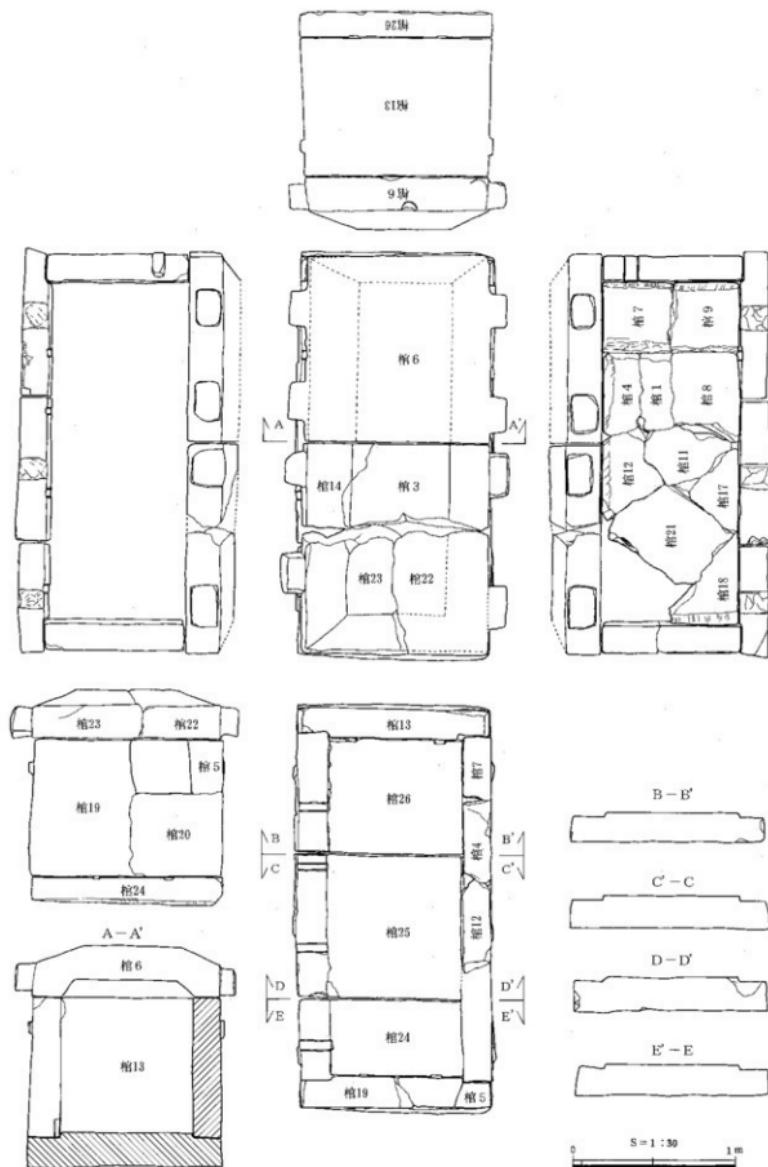
これと同様なものは、5号墳羨道部から2個（M200, 201）出土している。これらは、馬具の鞍となる可能性もあるが、座金具がないために棺金具とした。

また、5号墳羨道床面で装飾用と考えられる棺金具が1個出土している。M202は座金具が鉄地銀装、輪金具は銅地金装、止め金具は鉄製である。止め金具の先端部分は欠損している。

これと同様のものが、6号墳玄室内から2個（M203, 204）出土している。M203は座金具が鉄地銀装、輪金具及び止め金具は銅地金装となる。M204は座金具のみであるが鉄地銀装である。



挿図83 3・5・6号墳出土 棺金具



挿図84 3号墳出土石棺

## 8. 家形石棺

### 3号墳出土（挿図84、85）

厚さ18~20cm前後の底石3枚・短側石（小口面）2枚・長側石1枚・蓋石2枚で構成される組み合わせ式の家形石棺である。長側石については1枚しか出土していない。

石棺の出土状況は、玄室から奥道玄門側にかけて24点の石棺材が出土したが、そのうちの底石3枚（棺24・25・26）・奥道側短側石（棺13）・奥道側蓋石（棺6）は完形状態で出土した。

底石3枚は元位置を保って出土したが、奥道側短側石は元位置から奥道側へ倒れた状態で出土し、奥道側蓋石は奥道側短側石の上に上下逆さまの状態で出土している。残りの棺材は破壊されており、奥壁側短側石は3点（棺5・19・20）、奥壁側蓋石は4点（棺3・14・22・23）、長側石は10点（棺1・4・7・8・9・11・12・17・18・21）に分かれて出土した。

奥壁側短側石の3点は奥壁側底石上面と底石と奥壁との間から、倒れた状態で出土した。

奥壁側蓋石の4点は、2点が玄室両側壁奥壁際で、残り2点は玄室左側壁際と奥道玄門側で出土した。

長側石の10点は玄室内の底石上から5点、奥壁側に倒れた短側石上から1点、玄室右側壁際から2点、奥道から2点出土した。このような各棺材の出土状況から、後世の盗掘の度合いが著しかったことが察せられる。外面には赤色顔料が塗布されていた。

石室内における石棺位置は、玄室のほぼ中央部にあり、長辺が石室主軸にはば平行したように置かれている。石棺底石と石室右側壁との間は48cmで左側壁との間は47cm、奥壁との間は79cmである。石棺は、石室床面形成後に敷かれた約10cmの砂層の上に設置されている。

確認できる石材から石棺を推定復元すると、内法で長さ210cm・幅84cm・深さ92cm（棺身のみは82cm）を測る。外形は長さ250cm・幅122cm（縄掛け突起を含めると141cm）・高さ136cm（棺身のみは103cm）となり、極めて大型の石棺になる。

石棺に使用されている石材は、蓋石が流紋岩質石凝灰岩、底石が凝灰岩で、薄い黄色である。こうした凝灰岩は駒馳山山麓にも見られ、基本的には在地のものであると考えられる。

石棺の組み合わせ方は、底石の上に長・短側石を載せ、短側石が長側石を挟み込み、その上に蓋石を載せる構造となっている。

底石上面の外周には幅15~18cm（長・短側石の幅）、深さ2.5~3.0cmの段状の切削が見られ、その上に長・短側石を立てる構造になっている。接合面は石棺組立時にノミ等で削り歯調整を行っている。短側石の内面の、長側石との接合部分は切削して段をつくる。長側石のほうは、短側石に刺り込まれた接合面の幅に合わせて小口部外側を切削して調整している。

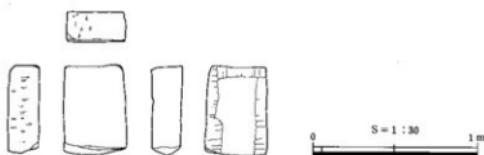
またこの石棺の特徴として、底石の側石を載せる部分に、不規則に深さ1~2cm程度の溝が、内から外へ向けて短辺側に4条・長辺側に6条刻まれている。こうした溝の用途としては、石棺を組み上げる際に使われた帶を抜き取ための隙間、石棺内部の水抜き溝などが考えられる。

縄掛け突起は2つに分かれた蓋石にそれぞれ4個ずつ計8個が、3つに分かれた底石にそれぞれ2個ずつ計6個の縄掛け突起の痕跡が存在する。これらの縄掛け突起はすべて石棺長辺側の垂直面に作られ、蓋に作られた縄掛け突起は蓋上面の傾斜面にからないのを特色とする。

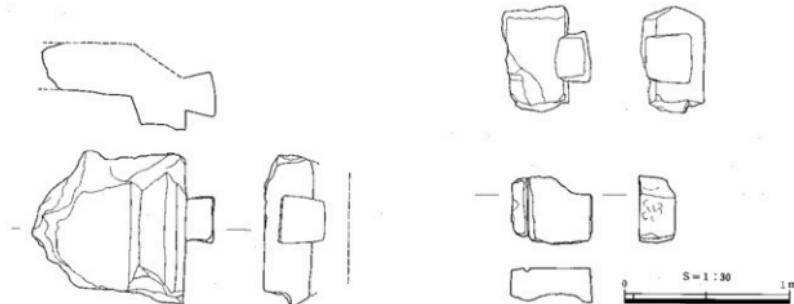
蓋の縄掛け突起の大きさは長辺26cm・短辺17cm・突出部11cm（最大値）で、相対する縄掛け突起は数cmのずれをもって作られている。一方底石の縄掛け突起は相対した場所に作られていたが、削り取られていた。表面は研磨されていない。長17~20cm・短辺14~16cm、1cm程度の突出が残る。

また短側石の上部にも突出部2~3cm程度の小さな削り出しの突起が存在するが、用途は不明である。

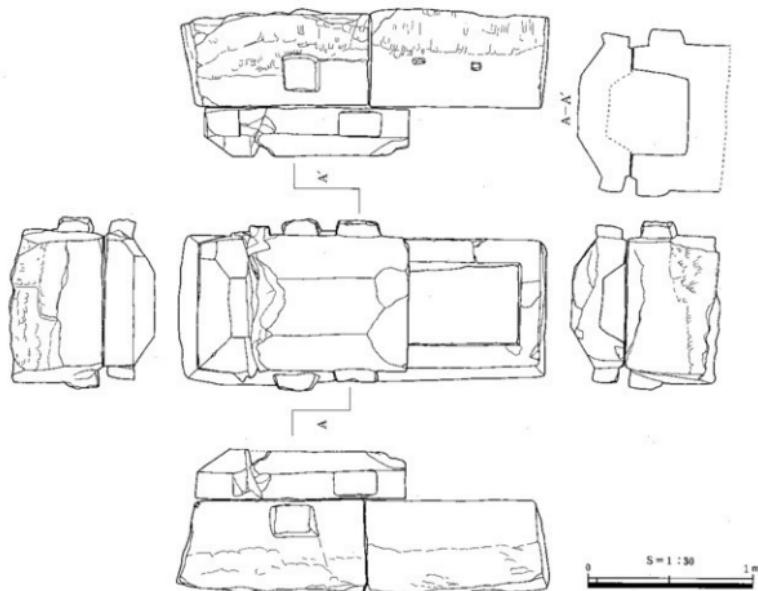
なお底石上面から、長辺55cm・短辺38cm・厚さ18cmを測るほぼ直方体で、小口側の1面を除いた5面が平坦に整形された不明石材（挿図85 棺10）が長側石破片材と共に1個出土している。長側石の片側が組み合わせ式であるとすれば、この石材はそのうちの1つなのかもしれない。



挿図85 3号墳出土 不明石材 (棺10)



挿図86 5号墳出土 石棺材



挿図87 7号墳出土 石棺

## 5号墳出土（挿図86）

棺材は蓋材2点・棺身材1点のほか、複数の小片となって出土した。大半の石材は石室外に持ち去られている。石材は軽石凝灰岩で、内部に異質な岩石を含む。3、7号墳の石材に比べて硬質で、赤みを帯びた色をしている。蓋材の棺身との接合面（幅27cm）は割り込まれて段を有し、印籠蓋合わせとなっている。棺身との接合面の幅は27cmである。幅24cm、厚さ26cmの方形面を持つ縄掛け突起は蓋の垂直面から一部傾斜面にかけて作られている。棺身材の厚さは22cm、組み合わせか割り抜きかは不明である。

## 7号墳出土（挿図87）

棺身・棺蓋ともそれぞれ2つの部材から構成される割り抜き式の家形石棺で、蓋1枚が失われている。残っている蓋材は棺身全体の約3分の2を覆うことから、玄門側の方に長さ約70cm程度の蓋材があったことが推定される。

石棺の石室内における位置は、玄室のほぼ中央部に、長辺が石室主軸にほぼ平行して置かれていた。石棺と石室両側壁との間は、右側壁50cm・左側壁55cm・奥壁との間は140cmである。

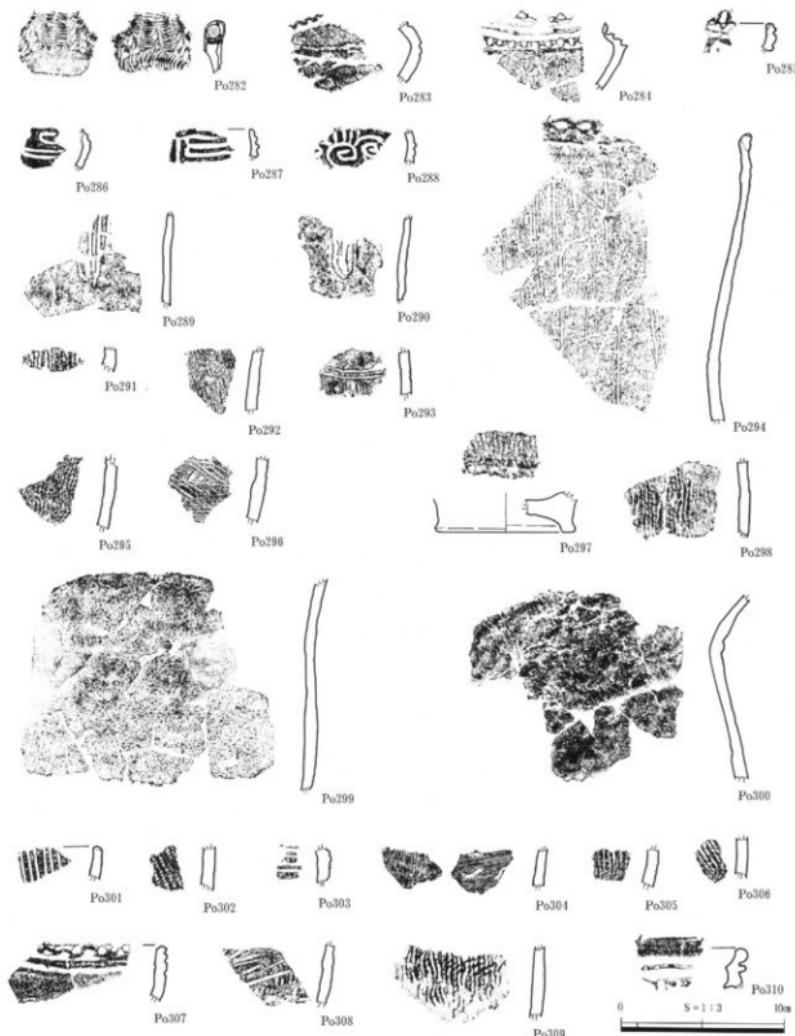
棺身は元位置を保っており、石室床面形成後に玄室中央部に敷かれた礎床の上に設置されていた。奥壁側の蓋は2個に割られ、1個は棺身の上を奥壁側にずらされ、1個はさらに奥壁側にずらされ直立していた。後者の1個は石室埋葬面から約60cm上にあり、石室内にかなりの土が流入した後に盗掘があったことが考えられる。

4つの部材から構成される石棺の大きさは3号墳に比べてかなり小ぶりになり、内法は長さ180cm・幅50cm・深さ35cm、外形は長さ208cm・幅78~80cm（縄掛け突起を含めると105cm）・高さ92cmになる。

石棺に使用されている石材は、蓋が小砾凝灰岩、棺身は凝灰岩である。

棺蓋はかなり丁寧に仕上げられている一方で、棺身はつくりが雑で底面部から上面部にかけて最大9cm歪んでいる。棺身の蓋を受ける部分にはわずかな段がみられ、蓋を合わせたときの接合面の微調整が行われたことが考えられる。

縄掛け突起は、現存する蓋石に4個、棺身には奥壁側部材に2個みられ、どちらも長辺側の垂直面にほぼ水平に付いている。棺蓋の縄掛け突起は長辺26cm・短辺14cm・突出部10cm（最大値）を測り、棺身の縄掛け突起は長辺19~21cm・短辺16~18cm・突出部9~13cmを測る。



挿図88 SK 1・3・6, 遺構外出土 繩文土器

## 第6節 古墳時代以外の遺物

### 1. 繩文時代の遺物

#### ・土器（挿図88 図版PL.93）

ここでは、小畠7号墳周辺で出土した縄文土器について、その概観を述べておく。

今回の調査では遺構内と遺物包含層とあわせて100点以上の土器片が出土している。そのうち掲載した縄文土器片は28点であり、個体数になると15点以上と推定される。出土したもので、全体の器形を窺い知ることができるもの資料は少ないが、その特徴から、全て中期の範疇に収まるものであろう。

Po282は貫通した孔を持つ波状部の突起で、幅広の爪形文を内外面に施し、内面には粗い縄文も施されている。内面が肥厚し、器壁が薄いことから船元1式に併行するものと考えられ、今回出土したものの中では、この1点だけが、古相を示すものである。

Po283～288、307は口縁部に、Po289、290、293は胴部に沈線文を主体とした施文を施すものである。口縁部文様帶には細い粘土絞を波状に貼付けたものもある。器形はキャリバー形の深鉢となると思われる。胴部の地文はPo293が撚糸文であるが、他はいずれも無文である。この一群は船元3・4式、里木2式に併行するものであろう。

Po291、292、294～298、301～306、308、309は地文にそれぞれ縄文、撚糸文、条痕を持つもので、鉢及び深鉢の胴部と底部（Po297）である。Po304は内面にも条痕が認められる。Po294は口縁部外面に貼付凸帯を有し、その上部を押圧するものである。頭部のくびれが弱いことから船元3式に併行する時期のものと考えたい。その他のものについては、船元3・4式、里木2式に併行するものであろう。

Po299、300は地文が無文である。いずれも深鉢の胴部であるが、Po300はくびれが強いものである。時期的な点に関し、器形の面では新しく捉えることも可能であろうが、供伴した他の土器から、船元3・4式、里木2式に併行するものであると考えたい。

遺構毎に出土遺物を見た場合、SK1でPo282～300、SK3でPo301～303、SK6でPo304～306が出土している。出土状況はいずれも検出面上面、埋土上層であることから、流れ込んだ可能性が高いと言える。このことは、SK1で出土した遺物を見た場合、古相を示すPo282が1点含まれていることからも窺うことができる。

以上、出土した縄文土器について簡単に述べてみた。これらの縄文土器は、小畠7号墳周辺で検出された遺構と包含層でまとめて出土したものである。調査区内の位置的な点では、南西から北東へ向かって下る斜面上の北端にあたる。調査区内で他に同時代の遺構を検出した場所は見当たらないが、墳丘の築造や後世の削平、畠地への転用を考えると、他に遺構が無かったとは言い切れない。また、先に触れたように、遺構に伴って出土した土器が、その出土状況から流れ込んだと考えられることからも、斜面上方を含めた周辺域に集落が形成されていたことを想定できるものである。

最後に、Po310は出土位置などから本報告書では、縄文土器の一群の中で取り扱ったが、時期的にはかなり新しくなるものではないかと考える。

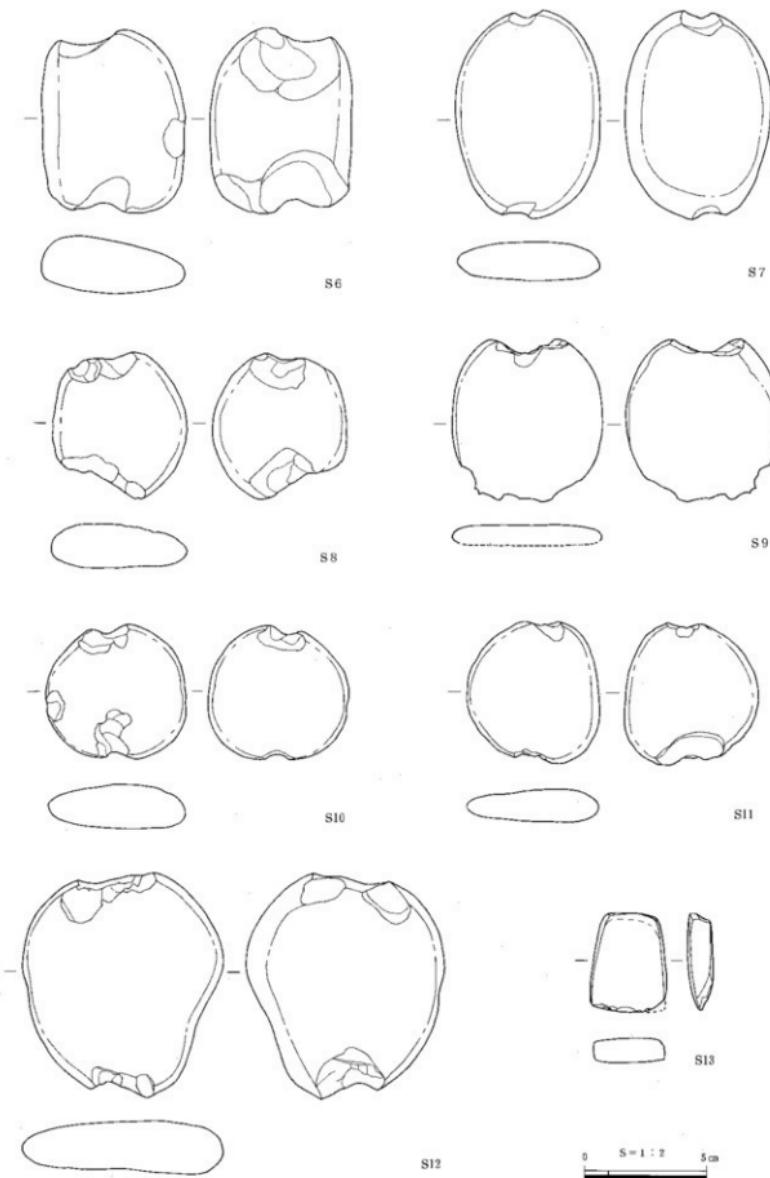
#### ・石器（挿図89～92）

#### SK1出土（S6～18）

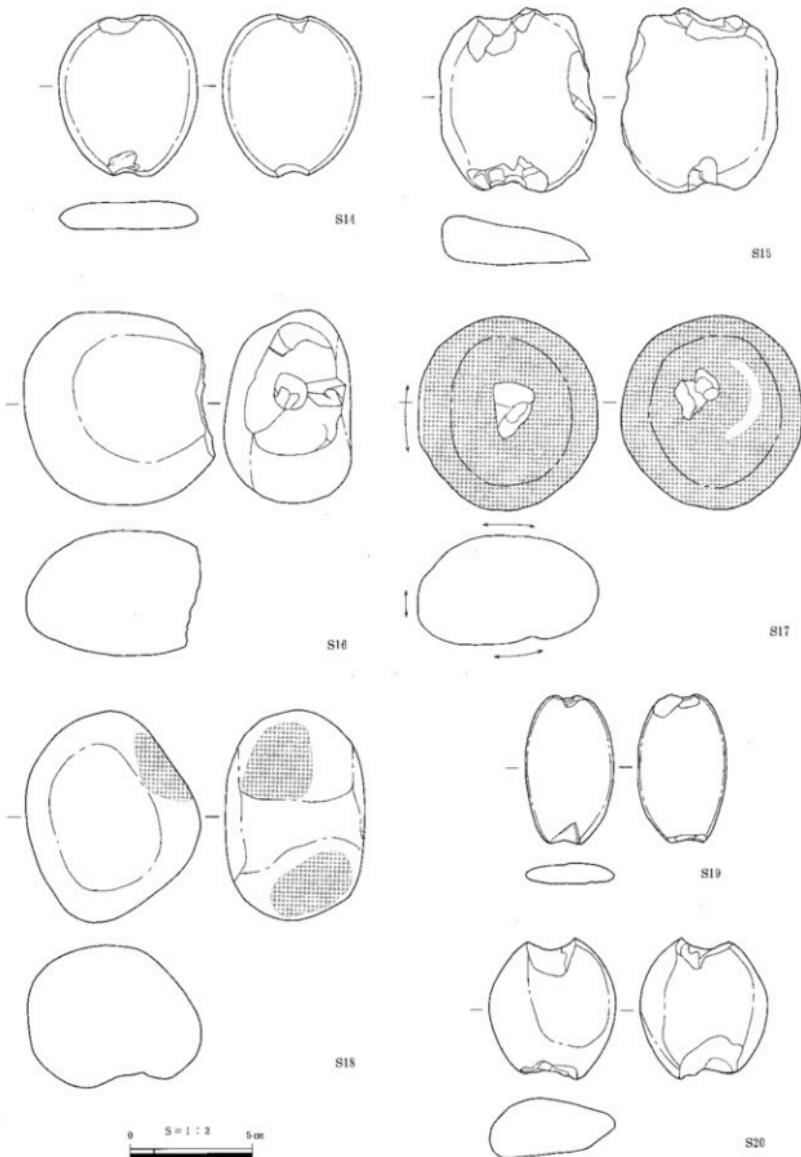
SK1から比較的まとめて石器が出土している。

S6～12、14は、扁平な石材の両端部を打ち欠く、打ち欠き石錐である。重量100g未満の小型のもの（S8、10、11、14）、重量100g以上250g未満の中型のもの（S6、7、9、12、15）に分けられる。S6、7、10は閃綠岩製、S8は凝灰岩製、S9、11、12、14、15は安山岩製である。

S13は、頁岩製の小型扁平磨製石斧である。全面がよく磨かれ、横方向の擦痕が明瞭に残る。両刃の刃部は一部欠けている。



挿図89 SK 1出土 石器（石錘・磨製石斧）



掲図90 SK 1・3・6出土 石器(石錘・礫石器)

S16は、敲石である。一方端は欠損している。S18は、花崗岩製の擦石である。不整形を呈し、よく使い込まれた擦り面が2箇所ある。

これらは、いずれも埋土中からの出土である。

また、SK1周辺から花崗岩製の敲石S17が出土している。上面・下面に1箇所ずつ、側面にも敲打痕が残る。

#### SK3出土 (S19)

SK3からも石錘が1点出土している。S19は、長楕円形の打ち欠き石錘である。重量が28.9gと非常に小型である。

#### SK6出土 (S20)

SK6からも石錘が1点出土している。S20は、安山岩製の打ち欠き石錘である。重量81.1gと小型である。

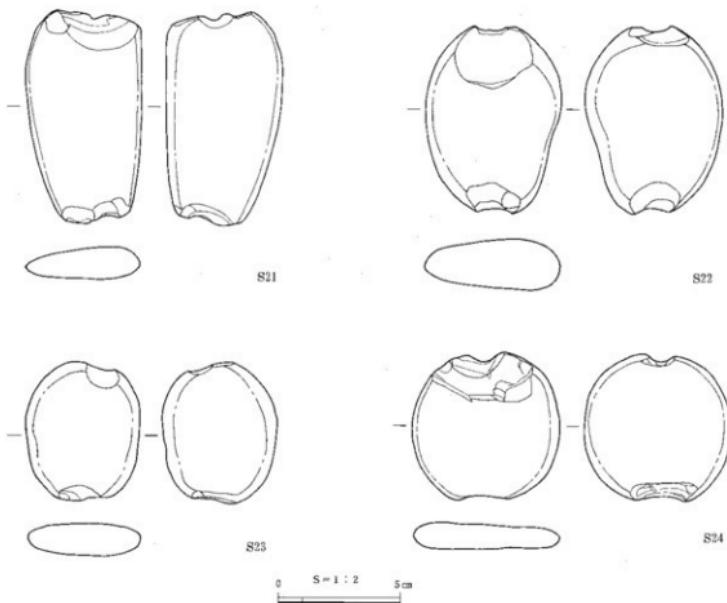
#### 遺構外出土 (S21~28)

その他、直接遺構には伴わないが石錘が出土している。S21は7号墳の盛土下で検出された。不整長楕円形を呈す安山岩製の打ち欠き石錘である。重量87gと小型の部類に入るものである。

S22とS23は、縄文時代包含層中からの出土である。S22は、安山岩製の打ち欠き石錘で、重量117.2gと中型の部類に入る。S23は閃緑岩製の打ち欠き石錘で、重量59.7gと小型の部類に入る。

また、S24は、7号墳で表採されたものである。变成岩製の小型の打ち欠き石錘である。

石錘のほかに、石鎌が4点検出されている。3号墳羨道部からサヌカイト製の凹基石鎌S25が出土している。



挿図91 小畠古墳群出土 石器（石錘）

片面はほとんど調整されず断面三角形状を呈す。縁辺はノコギリ歯状に加工されている。

S26は4号墳盛土下から出土したもので、凹基石鎚と考えられるが、先端部及び基部が欠損している。黒曜石製である。

S27は、6号墳玄室内から出土している。サヌカイト製の小型凹基石鎚である。石材のせいでもあろうが、調整は粗雑である。

S28は縄文時代の遺物包含層中から出土したもので、黒曜石製の非常に小型の凹基石鎚である。小型のためか剥離調整が粗雑である。

## 2. 弥生土器（挿図93 Po311～314）

Po311は3号墳前庭部の削平面上で、陶磁器片とともに出土した、甕の口縁部片である。摩滅が著しいため、調整は不明である。Po312は5号墳の前庭部付近で、耕作土中から出土した甕の底部である。底が膨らんでいるため、もっと新しい時代の遺物の可能性がある。Po313、314は6号墳の北東側の墳丘盛土の下（挿図23A-A'の24層）から出土した、甕の底部である。Po313、314の出土層は弥生時代の遺物包含層といえるが、確認したのはこの箇所のみであり、弥生時代の造構も検出していない。

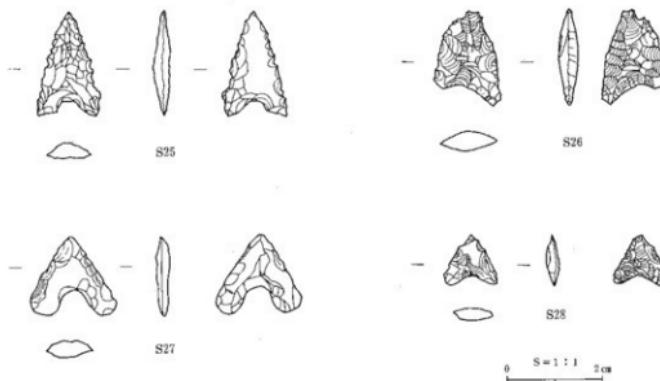
## 3. 時期不明の土錘（挿図93 Po315、316）

Po315は5号墳前庭部周辺の耕作土中から、Po316は7号墳の南側の耕作土中から出土した、ともに中胴型で素焼きの土師質である。使用された時代は不明であるが、4号墳出土の土錘との比較のために掲載した。

## 4. 中世の遺物（挿図94 Po317～323）

Po317～319は瓦質の鍋である。口縁端部は強くなだられ稜線が入る。4号墳羨道で出土したPo317、319は口縁部がヨコナデ屈曲し、直立する。体部内面は板状工具によるナデが、外面は指押さえが見られる。形態から14世紀前半が想定される。6号墳羨道で出土したPo319は口縁部が屈曲し、体部内面は板状工具によるナデが、外面は指押さえが見られる。形態から13世紀後半が想定される。

5号墳の北東側、G8グリッドで検出したP30から出土したPo321は瓦質の羽釜で口縁部はヨコナデ内湾し、その下部には鉢部を貼り付ける。体部も口縁部同様、なだらかに内湾し、外面には指押さえの圧痕が見られる。



挿図92 小畠古墳群出土 石器（石鎚）

時期は14世紀前半である。

7号墳玄室内から出土した、土師質の鏡Po320の口縁部はヨコナデ屈曲し、体部は内面に横方向のハケメ調整があり、外面は指押さえが見られる。形態から13世紀後半のものと考えられる。

6号墳の羨道で出土した須恵器壺Po322の口縁端部は丸くおさまり、底部から内湾しながら上方に立ち上がる。底部は回転糸切りで、焼成時の重ね焼き痕と思われる粗穀痕が残る。形態から郡家町・山田12号窯の壺IA類と考えられ、時期は11世紀後半である。

F9グリッドで検出したP75から出土したPo323は白磁の端反り皿である。口縁端部は外反し、内外面とも施釉されている。胎土は良好である。小野正敏氏の分類する白磁皿C群に属し、時期は16世紀を前後する。

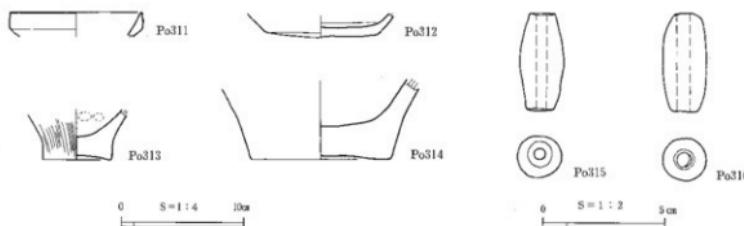
### 5. 近世以降の遺物（挿図94 Po324～327、M210～217）

6号墳羨道部の炭化物・灰包含層から出土したPo324～326は陶胎染付瓶である。Po324は肥前系の刷毛目碗である。胴部外面から腰部にかけては刷毛目模様が見られるが、それ以外は全面流し掛け釉である。Po325とPo326は器壁が厚く、素地の上に白化粧を施し簡単な草花を描く。時期は17世紀末から18世紀初頭である。Po327～329は在地系と思われる陶器である。いずれも3号墳と4号墳の間に埋め立てて造った畑の造成段の中から出土した。Po327は碗、口縁部には輪花を施す。藁灰釉で施釉し外面腰部以下は露胎する。底部見込みには焼成時の重ね焼き痕である針ピン痕が残る。硬陶である。Po328は皿で外面腰部以下のはかは全面施釉である。見込みには文字を描く。軟陶である。Po329は鉢で、底部は削り出し高台で内に墨書が見られるが判読は不明である。外面腰部以下のほかは藁灰釉による全面施釉であり、硬陶である。古くとも19世紀後半のものである。

5号墳の閉塞石上で出土したM216は北宋の熙寧重寶。1071年初鑄で書体は真書である。ほかは寛永通寶でM210～215が古寛永（1638年初鑄）、内M213～215は文銭（1638年初鑄）であり、M217は新寛永（1697年初鑄）である。6号墳玄室内の炭化物包含層中から出土した。

### 参考文献

- 八峰興「山陰における中世土器の変遷について」『中近世土器の基礎研究8』日本中世土器研究会 1998年  
 郡家町教育委員会「山田窯跡群」1987年  
 小野正敏「出土陶磁よりみた15・16世紀における画期の素描」『MUSEUM』No.416 1985年  
 佐賀県立九州陶磁文化館「国内出土の肥前陶磁」 1984年  
 鳥取県教育文化財団「米子城跡II遺跡」1998年  
 水井久美男編「中世の出土銭」兵庫埋蔵銭調査会 1994年  
 水井久美男編「近世の出土銭」兵庫埋蔵銭調査会 1994年



挿図93 小畠古墳群出土 弥生土器・土鍤



挿図94 小畠古墳群出土 中世土器・陶磁器・古銭

## 小畠古墳群出土遺物観察表

土器観察表(1)

| 遺物番号 | 捕獲 | 遺構名 | 出土地点  | 種別  | 器種    | 器高(cm) | 口径(cm) | 腹深さ(cm) | 底面径(cm) | 特徴                   | 備考    | 実測番号  |
|------|----|-----|-------|-----|-------|--------|--------|---------|---------|----------------------|-------|-------|
| Po1  | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环蓋    | 3.9    | 14.0   |         |         | 天井部外側へラ切り未調整         | 完形品   | 山本ひ11 |
| Po2  | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环蓋    | 4.8    | 13.7   |         |         | 天井部外側へラ切り後ナデハケメ痕     | 完形品   | 表4    |
| Po3  | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环蓋    | 4.5    | 13.1   |         |         | 天井部外側へラ切り後ナデ         | 完形品   | 表13   |
| Po4  | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环蓋    | 4.3    | 12.1   |         |         | 天井部外側へラ切り後ナデ         | 完形品   | 山本ひ2  |
| Po5  | 49 | 3号墳 | 石室    | 須恵器 | 环蓋    | 4.0    | 12.6   |         |         | 天井部外側へラ切り未調整一部へクア削り  | 完形品   | 表8    |
| Po6  | 49 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 环蓋    | 4.4    | 12.6   |         |         | 天井部外側へラ切り未調整         | 山本ひ15 |       |
| Po7  | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 蓋     | 3.7    | 12.7   |         |         | 端部外反 天井部外側へラ切り後ナデ    | 完形品   | 山本ひ4  |
| Po8  | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环蓋    | 3.8    | 11.6   |         |         | 外腹肩部2条の沈線 天井部へラ削り後ナデ | 完形品   | 表152  |
| Po9  | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环蓋    | 4.0    | 11.4   |         |         | 天井部外側へラ切り未調整         |       | 表151  |
| Po10 | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环身    | 4.3    | 11.9   |         |         | 底部外側ナデ               | 完形品   | 表11   |
| Po11 | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环身    | 3.8    | 11.6   |         |         | 底部外側へラ切り後ナデ          | 完形品   | 山本ひ12 |
| Po12 | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环身    | 3.9    | 10.7   |         |         | 底部外側ナデ               | 完形品   | 表150  |
| Po13 | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环身    | 3.7    | 10.3   |         |         | 底部外側ナデ ハラ切り痕         | 完形品   | 表12   |
| Po14 | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 环身    | 3.8    | 11.5   |         |         | 底部外側へラ削り後ナデ          | 完形品   | 表3    |
| Po15 | 49 | 3号墳 | 石室    | 須恵器 | 环身    | 3.7    | 10.2   |         |         | 底部外側へラ切り未調整          | 完形品   | 表14   |
| Po16 | 49 | 3号墳 | 玄室・通道 | 須恵器 | 环     | 4.9    | 9.8    |         |         | 底部外側へラ切り未調整          | 完形品   | 山本ひ1  |
| Po17 | 49 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 高台付环身 | 4.1    | 10.2   |         | 5.5     |                      | 完形品   | 表2    |
| Po18 | 49 | 3号墳 | 玄室    | 土師器 | 碗     | 4.0    | 10.4   |         |         |                      | 完形品   | 表1    |
| Po19 | 49 | 3号墳 | 石室    | 須恵器 | つまみ付蓋 | 3.3    | 13.7   |         |         | 天井部外側へラ削り            | 完形品   | 表9    |
| Po20 | 49 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 高台付环身 | 4.3    | 16.3   |         | 11.1    | 底部外側へラ削り後ナデ          | 完形品   | 山本ひ3  |
| Po21 | 49 | 3号墳 | 玄室    | 須恵器 | 短頸蓋   | 18.9   | 11.0   | 19.9    |         |                      | 完形品   | 山本ひ26 |
| Po22 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 环蓋    | 4.1    | 12.6   |         |         | 天井部外側へラ削り一部ナデ        |       | 山本ひ14 |
| Po23 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 环蓋    | 4.3    | 12.2   |         |         | 天井部外側へラ切り後ナデ         | 完形品   | 山本ひ7  |
| Po24 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 环蓋    | 3.8    | 12.4   |         |         | 外腹肩部に弱い沈線 天井部ナデ      | 完形品   | 山本ひ27 |
| Po25 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 环蓋    | 4.2    | 12.4   |         |         | 天井部外側へラ切り後ナデ         | 完形品   | 山本ひ8  |
| Po26 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 环蓋    | 4.4    | 12.1   |         |         | 天井部へラ切り後粗いナデ         | 完形品   | 表10   |
| Po27 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 高环    | 15.6   | 16.0   |         | 12.9    |                      | 完形品   | 表6    |
| Po28 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 高环    | 10.2   | 9.7    |         | 8.2     |                      |       | 山本ひ5  |
| Po29 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 高环    | 12.2   | 11.6   |         | 9.7     |                      | 完形品   | 山本ひ6  |
| Po30 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 建設    | 14.6   | 11.1   | 8.9     | 4.3     |                      | 完形品   | 表7    |
| Po31 | 50 | 3号墳 | 通道    | 須恵器 | 脚付長颈蓋 | 4.0    | 12.0   | 19.3    |         |                      | 完形品   | 山本ひ30 |
| Po32 | 50 | 3号墳 | 通道    | 土師器 | 甕     | 23.0   | 15.2   | 20.5    |         |                      | 完形品   | 山本ひ58 |

土器観察表(2)

| 遺物番号 | 持回 | 遺物名 | 出土地点           | 種別  | 器種       | 器高(cm) | 口径(cm) | 底面大径(cm) | 底部径(cm) | 特徴                             | 備考    | 実測番号  |
|------|----|-----|----------------|-----|----------|--------|--------|----------|---------|--------------------------------|-------|-------|
| Po33 | 50 | 3号墳 | 羨道             | 須恵器 | 長頸壺      | 14.4   | 6.6    | 13.2     |         |                                | 完形品   | 山本ひ10 |
| Po34 | 51 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 甕        | 102.2  | 49.2   | 80.6     |         |                                |       | 表35   |
| Po35 | 52 | 3号墳 | 南東区            | 須恵器 | 环蓋       |        | 12.1   |          |         | 外面部に弱い1条の沈線 天井部<br>ヘラ切り未調整     |       | 表24   |
| Po36 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 环蓋       | 4.3    | 12.2   |          |         | 天井部外側ヘラ削り                      |       | 表23   |
| Po37 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 环蓋       | 4.4    | 12.8   |          |         | 外面部に弱い1条の沈線 天井部<br>ヘラ切り未調整     |       | 表22   |
| Po38 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 环蓋       | 4.0    | 12.6   |          |         | 外面部に弱い2条の沈線 天井部<br>ナデ ヘラ切り残    | 山本ひ31 |       |
| Po39 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 环蓋       | 4.1    | 12.1   |          |         | 外面部外側に1条の沈線 天井部ヘラ<br>切り後ナデ     |       | 表30   |
| Po40 | 52 | 3号墳 | 南東区            | 須恵器 | 环蓋       | 4.3    | 12.4   |          |         | 天井部外側ナデ ヘラ切り残                  |       | 表25   |
| Po41 | 52 | 3号墳 | 南西側周溝          | 須恵器 | 高环壺      | 4.2    | 13.5   |          |         | 天井部外側ナデ                        |       | 山本ひ23 |
| Po42 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 环身       | 4.3    | 11.2   |          |         | 底部外側ナデ                         | 完形品   | 山本ひ9  |
| Po43 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 环身       | 4.5    | 10.4   |          |         | 底部外側ハケメ                        |       | 表27   |
| Po44 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 环身       | 3.6    | 10.9   |          |         | 底部外側ヘラ切り未調整 一部ヘラ<br>削り         |       | 表26   |
| Po45 | 52 | 3号墳 | 南西側周溝          | 須恵器 | 环身       | 3.8    | 11.0   |          |         | 底部外側ヘラ削り                       |       | 表21   |
| Po46 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 环身       | 3.9    | 10.8   |          |         | 底部外側ヘラ削り                       |       | 山本ひ19 |
| Po47 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝<br>・道状壙構 | 須恵器 | 环身       | 4.1    | 11.1   |          |         | 底部外側ヘラ切り後粗いナデ                  |       | 表15   |
| Po48 | 52 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 环身       | 4.0    | 11.6   |          |         | 底部外側ヘラ削り                       |       | 山本ひ24 |
| Po49 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 环身       | 4.9    | 11.9   |          |         | 外面部に1条の沈線 天井部ヘラ<br>削り後ナデ       | 完形品   | 表155  |
| Po50 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 短頸壺      | 13.4   | 14.4   |          |         |                                |       | 表29   |
| Po51 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 横瓶       |        |        |          |         |                                |       | 表20   |
| Po52 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 高环(环部)   |        | 10.1   |          |         |                                |       | 山本ひ13 |
| Po53 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 高环(环部)   | 6.8    | 13.0   |          |         |                                |       | 表17   |
| Po54 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 高环(环部)   |        | 17.2   |          |         |                                |       | 山本ひ18 |
| Po55 | 52 | 3号墳 | 道状壙構           | 須恵器 | 甕        | 14.2   | 11.1   | 10.3     |         |                                | 完形品   | 表5    |
| Po56 | 53 | 3号墳 | 南東側周溝          | 須恵器 | 有蓋高环(环部) | 7.0    | 12.3   |          |         |                                |       | 表19   |
| Po57 | 53 | 3号墳 | 南西側周溝          | 須恵器 | 甕(胴部)    |        |        | 8.9      |         |                                |       | 山本ひ17 |
| Po58 | 53 | 3号墳 | 南西側周溝          | 須恵器 | 甕(胴部)    |        |        | 10.4     |         |                                |       | 表16   |
| Po59 | 53 | 3号墳 | 南西側周溝          | 須恵器 | 肩付长颈甕    |        |        | 16.0     |         |                                |       | 山本ひ25 |
| Po60 | 53 | 3号墳 | 南西側周溝          | 須恵器 | 匙瓶       | 14.7   |        | 15.6     |         |                                |       | 表18   |
| Po61 | 54 | 4号墳 | 羨道・閉塞石・玄室      | 須恵器 | 环蓋       | 4.5    | 12.6   |          |         | 外面部2条の沈線 天井部ヘラ削<br>り後ナデ        |       | 表36   |
| Po62 | 54 | 4号墳 | 羨道             | 須恵器 | 环蓋       | 4.2    | 13.0   |          |         | 外面部2条の沈線 天井部ヘラ削                |       | 山本ひ89 |
| Po63 | 54 | 4号墳 | 羨道・玄室          | 須恵器 | 环蓋       | 3.8    | 12.7   |          |         | 外面部2条の沈線 天井部ヘラ切<br>り未調整 一部ヘラ削り |       | 山本ひ63 |
| Po64 | 54 | 4号墳 | 羨道             | 須恵器 | 环蓋       | 4.0    | 12.8   |          |         | 外面部2条の沈線 天井部丁寧な<br>ナデ          |       | 山本ひ90 |
| Po65 | 54 | 4号墳 | 羨道・玄室          | 須恵器 | 环蓋       | 4.3    | 13.7   |          |         | 外面部に1条の沈線 天井部粗い<br>ナデ 一部ヘラ削り   |       | 表72   |
| Po66 | 54 | 4号墳 | 羨道・外浦<br>列石    | 須恵器 | 环蓋       | 4.3    | 12.8   |          |         | 天井部外側ヘラ削り ヘラ起こし瓶               |       | 山本ひ28 |

土器觀察表(3)

| 遺物番号  | 捕獲場 | 遺構名 | 出土地点    | 種別  | 器種     | 器高(cm) | 口径(cm) | 脚高(cm) | 脚大径(cm)     | 底部径(cm) | 特徴                       | 備考     | 実測番号   |
|-------|-----|-----|---------|-----|--------|--------|--------|--------|-------------|---------|--------------------------|--------|--------|
| Po67  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 坪蓋     | 4.7    | 13.5   |        |             |         | 天井部外側ナデ一部ヘラ削り後ナデ         | 完形品    | 表73    |
| Po68  | 54  | 4号墳 | 狭道・玄室   | 須恵器 | 坪蓋     | 4.2    | 13.0   |        |             |         | 天井部外側ヘラ切り未調整             |        | 山本ひ64  |
| Po69  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | つまみ付蓋  | 3.5    | 8.6    |        |             |         | 天井部外側ヘラ削り                | 完形品    | 山本ひ88  |
| Po70  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | つまみ付蓋  | 2.9    | 8.7    |        |             |         | 天井部外側ヘラ削り                | 完形品    | 山本ひ82  |
| Po71  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | つまみ付蓋  | 3.0    | 8.6    |        |             |         | 天井部外側ヘラ削り                | 完形品    | 山本ひ74  |
| Po72  | 54  | 4号墳 | 石中      | 須恵器 | つまみ付蓋  | 3.0    | 8.4    |        |             |         | 天井部外側ヘラ削り後カキメ            | 完形品    | 表33    |
| Po73  | 54  | 4号墳 | 玄室      | 須恵器 | 蓋      | 1.6    | 10.4   |        |             |         | 天井部外側ヘラ削り                |        | 山本ひ87  |
| Po74  | 54  | 4号墳 | 狭道・閉塞石上 | 須恵器 | 蓋      | 1.9    | 9.9    |        |             |         | 天井部外側ヘラ削り                |        | 表70    |
| Po75  | 54  | 4号墳 | 玄室      | 須恵器 | 蓋      | 2.2    | 8.8    |        |             |         | 天井部外側ヘラ削り                |        | 山本ひ93  |
| Po76  | 54  | 4号墳 | 玄室・玄門付近 | 須恵器 | 环身     | 4.5    | 11.4   |        |             |         | 東部外側ヘラ削り一部ヘラ切り未調整        |        | 山本ひ66  |
| Po77  | 54  | 4号墳 | 狭道・玄室   | 須恵器 | 环身     | 4.1    | 11.8   |        |             |         | 底部外側ヘラ削り                 |        | 表38    |
| Po78  | 54  | 4号墳 | 玄室・玄門付近 | 須恵器 | 环身     | 2.6    | 9.8    |        |             |         | 底部外側ヘラ削り後ナデ              | 完形品    | 表32    |
| Po79  | 54  | 4号墳 | 狭道・玄室   | 須恵器 | 有蓋高環?  |        | 12.5   |        |             |         |                          |        | 山本ひ45  |
| Po80  | 54  | 4号墳 | 玄室      | 須恵器 | 环身     | 4.0    | 11.8   |        |             |         | 底部外側ヘラ削り一部ヘラ切り未調整        |        | 山本ひ80  |
| Po81  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 环身     | 4.0    | 11.5   |        |             |         | 底部外側ヘラ削り後ナデ              | 完形品    | 山本ひ83  |
| Po82  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 环身     | 3.8    | 13.6   |        |             |         | 底部外側ナデヘラ切り痕              | 完形品    | 山本ひ47  |
| Po83  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 有蓋高環?  |        | 12.8   |        |             |         |                          |        | 表78    |
| Po84  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 有蓋高環?  |        | 13.2   |        |             |         |                          |        | 山本ひ42  |
| Po85  | 54  | 4号墳 | 南西側周溝   | 須恵器 | 高台付环身  | 4.3    | 12.4   | 9.6    |             |         | 底部外側ナデ                   |        | 山本ひ187 |
| Po86  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 低脚有蓋高环 | 10.6   | 10.7   | 10.9   | 2方向1段三角形透かし |         |                          |        | 表81    |
| Po87  | 54  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 碗      | 4.0    | 10.2   | 5.8    |             |         | 底部外側2条の沈窓底部ヘラ切り後ナデ一筋ヘラ削り | 完形品    | 山本ひ71  |
| Po88  | 54  | 4号墳 | 狭道・玄室   | 須恵器 | 碗      | 5.5    | 11.0   |        |             |         | 底部外側ヘラ削りヘラ記号「-」          |        | 山本ひ94  |
| Po89  | 55  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 高环     | 10.3   | 11.0   | 9.0    |             |         |                          |        | 山本ひ99  |
| Po90  | 55  | 4号墳 | 狭道・外腰剥石 | 須恵器 | 高环     | 11.1   | 12.1   |        |             |         |                          |        | 山本ひ29  |
| Po91  | 55  | 4号墳 | 狭道・玄室   | 須恵器 | 高环     | 15.3   | 14.1   |        | 2方向2段方形透かし  |         |                          |        | 山本ひ95  |
| Po92  | 55  | 4号墳 | 狭道・玄室   | 須恵器 | 無蓋高环   | 10.4   | 11.5   | 9.4    |             |         | 脚部透かし無                   |        | 山本ひ100 |
| Po93  | 55  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 低脚無蓋高环 | 8.5    | 15.7   | 9.6    | 2方向1段台形透かし  |         |                          |        | 表82    |
| Po94  | 55  | 4号墳 | 狭道・玄室   | 須恵器 | (脚部)   |        |        | 15.8   | 2方向方形透かし    |         |                          |        | 表80    |
| Po95  | 55  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | (脚部)   |        |        | 14.0   | 2方向方形透かし    |         |                          |        | 表79    |
| Po96  | 55  | 4号墳 | 狭道      | 須恵器 | 高环(脚部) |        |        | 13.7   | 2方向2段方形透かし  |         |                          |        | 表84    |
| Po97  | 55  | 4号墳 | 狭道口     | 須恵器 | 甕      | 49.8   | 20.8   | 46.6   |             |         |                          |        | 山本ひ106 |
| Po98  | 55  | 4号墳 | 狭道      | 土師器 | 上鉢     | 3.8    | 0.3    |        |             |         |                          | (3.6g) | 表209   |
| Po99  | 55  | 4号墳 | 狭道      | 土師器 | 土鉢     | 4.0    | 0.4    | 1.1    |             |         |                          | (3.7g) | 表207   |
| Po100 | 55  | 4号墳 | 狭道      | 土師器 | 土鉢     | 4.3    | 0.4    | 1.2    |             |         |                          | (4.6g) | 表208   |

土器觀察表(4)

| 遺物番号  | 埋蔵層 | 遺構名 | 出土地点        | 種別  | 器種           | 器高(cm) | 口径(cm) | 最高部大径(cm) | 底部径(cm) | 特徴                                    | 備考  | 実測番号      |
|-------|-----|-----|-------------|-----|--------------|--------|--------|-----------|---------|---------------------------------------|-----|-----------|
| Po101 | 56  | 4号墳 | 葬道・外腰<br>洞石 | 須恵器 | 脚付長頸壺        | 28.9   | 10.8   |           | 14.8    |                                       |     | 山本ひ30     |
| Po102 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 脚付長頸壺        | 27.8   | 8.8    | 17.0      | 14.8    | 腹部に斜格子文、舞部2方向1段方<br>形透かし              |     | 表106      |
| Po103 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 長頸壺          | 26.6   | 6.8    | 13.6      | 5.0     |                                       | 完形品 | 山本ひ78     |
| Po104 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 長頸壺          | 24.7   | 8.2    |           | 9.4     | 腹部肩に斜格子文、底板に太いカキ<br>メ状の同心円文           | 光形品 | 表85       |
| Po105 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 長頸壺          | 21.1   | 8.8    | 18.4      |         |                                       |     | 表76       |
| Po106 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 長頸壺          |        |        | 20.2      |         |                                       |     | 山本ひ79     |
| Po107 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 瓶(脚部)        |        |        | 16.2      | 7.9     |                                       |     | 表74       |
| Po108 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 平瓶           |        |        | 8.3       | 13.5    |                                       |     | 山本ひ97, 98 |
| Po109 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 平瓶           | 19.2   | 7.0    | 17.9      |         |                                       |     | 山本ひ109    |
| Po110 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 平瓶           | 12.1   | 6.2    | 16.0      |         |                                       | 完形品 | 表75       |
| Po111 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 甌(11縁部)      |        |        | 12.7      |         |                                       |     | 山本ひ91     |
| Po112 | 56  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 甌            | 13.7   | 10.6   | 8.7       |         | 頸部に複数文、胴部に刺突文                         | 完形品 | 表77       |
| Po113 | 57  | 4号墳 | 葬道・玄室       | 須恵器 | 短頸大甌         | 84.0   | 28.4   | 74.7      |         | ラーバ状に広がる部分を切り取った<br>口部部               |     | 山本ひ110    |
| Po114 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环蓋           | 4.1    | 12.9   |           |         | 外面部3条の沈線 天井部へラ削<br>り一部へラ切り未調査         | 完形品 | 山本ひ73     |
| Po115 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环蓋           | 3.8    | 13.0   |           |         | 外面部2条の沈線 天井部ナデ<br>へラ切り痕               | 完形品 | 山本ひ77     |
| Po116 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环蓋           | 4.2    | 13.6   |           |         | 外面部1条の沈線 天井部へラ削<br>り                  | 完形品 | 山本ひ68     |
| Po117 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环蓋           | 4.0    | 12.6   |           |         | 天井部外面へラ削り後ナデ                          | 完形品 | 山本ひ84     |
| Po118 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环蓋           | 4.0    | 11.8   |           |         | 天井部外面へラ削り後ナデ                          | 完形品 | 山本ひ75     |
| Po119 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环蓋           | 3.8    | 12.6   |           |         | 外面部2条の沈線 天井部へラ削<br>り後ナデ               | 完形品 | 山本ひ76     |
| Po120 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环身           | 3.8    | 11.5   |           |         | 底部外面へラ削り後ナデ ヘラ切り<br>痕                 | 完形品 | 山本ひ85     |
| Po121 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环身           | 3.7    | 11.8   |           |         | 底部外面ナデ                                | 完形品 | 山本ひ70     |
| Po122 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环身           | 3.9    | 11.5   |           |         | 底部外面ナデ                                | 光形品 | 山本ひ86     |
| Po123 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环身           | 4.1    | 10.6   |           |         | 底部外壺へラ削り後ナデ                           | 完形品 | 山本ひ69     |
| Po124 | 58  | 4号墳 | 葬道          | 須恵器 | 环身           | 3.8    | 11.0   |           |         | 底部外面へラ削り後ナデ                           | 完形品 | 山本ひ72     |
| Po125 | 58  | 4号墳 | 葬道・玄門       | 須恵器 | 环身           | 3.9    | 10.8   |           |         | 底部外面に不定方向のハケヌ                         |     | 表109      |
| Po126 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 环蓋           | 4.0    | 12.4   |           |         | 天井部外面へラ削り後ナデ ハケヌ<br>痕                 | 完形品 | 表98       |
| Po127 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 蓋            | 3.5    | 11.3   |           |         | 壺部外反 天井部外面へラ切り後ナ<br>デ ヘラ削り            | 完形品 | 表87       |
| Po128 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 蓋            | 3.4    | 12.1   |           |         | 壺部外反 天井部外面へラ切り後ナ<br>デ ヘラ削り後ナデ         | 完形品 | 表88       |
| Po129 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 环身           | 2.9    | 9.9    |           |         | 底部外面は直線的なヘラ削り後直線<br>的なナデ              | 完形品 | 山本ひ102    |
| Po130 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 环身           | 3.4    | 9.6    |           |         | 底部外壺へラ記号「」 天井部外面へ<br>ラ削り未調査 一部へラ削り後ナデ | 完形品 | 表101      |
| Po131 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 無蓋高壺<br>(环部) |        |        |           |         | 2方向方形透かし                              | 完形品 | 表102      |
| Po132 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 無蓋高壺<br>(环部) |        | 10.5   |           |         | 2方向1段三角形透かし?                          | 完形品 | 山本ひ104    |
| Po133 | 58  | 4号墳 | 玄門          | 須恵器 | 長脚無蓋<br>高壺   | 11.1   | 9.7    |           | 9.0     | 透かしなし                                 | 完形品 | 表96       |
| Po134 | 58  | 4号墳 | 葬道・玄門       | 須恵器 | 無蓋高壺         | 10.8   | 9.2    |           | 9.0     | 2方向2段方形透かし                            |     | 表103      |

土器觀察表(5)

| 遺物番号  | 捕回 | 遺構名 | 出土地点      | 種別  | 器種        | 高さ(cm) | 口径(cm) | 側面大径(cm) | 底部径(cm) | 特徴                                    | 備考         | 実測番号   |
|-------|----|-----|-----------|-----|-----------|--------|--------|----------|---------|---------------------------------------|------------|--------|
| Po135 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | 碗         | 4.5    | 11.3   |          |         | 体部外面2条の沈線 ヘラ切り未調整<br>一部ヘラ削り           | 完形品        | 表99    |
| Po136 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | 碗         | 4.7    | 10.5   |          |         | 底部外面ヘラ削り ヘラ記号「-」                      | 完形品        | 表95    |
| Po137 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | つまみ付蓋     | 5.6    | 14.8   |          |         | 外面肩部1条の沈線 天井部カキメ                      | 完形品        | 表86    |
| Po138 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | つまみ付かえり付蓋 | 3.4    | 9.9    |          |         | 天井部外面ヘラ削り後ナデ                          | 完形品        | 表93    |
| Po139 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | つまみ付かえり付蓋 | 2.7    | 8.5    |          |         | 天井部外面ヘラ削り                             | 完形品        | 表92    |
| Po140 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | つまみ無かえり付蓋 | 2.5    | 9.3    |          |         | 天井部外面丁寧なヘラ削り                          | あるいは环身。完形品 | 表90    |
| Po141 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | つまみ無かえり付蓋 | 1.9    | 8.5    |          |         | 天井部外面ヘラ削り                             | 完形品        | 表89    |
| Po142 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | つまみ無かえり付蓋 | 2.2    | 8.8    |          |         | 天井部外面ヘラ削り                             | 完形品        | 表91    |
| Po143 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | つまみ無かえり付蓋 | 2.3    | 8.8    |          |         | 天井部外面ヘラ削り 天井部外面ヘラ削<br>記号「×」           | 完形品        | 山本ひ163 |
| Po144 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | 蓋         | 3.6    | 10.1   |          |         | 端部が面をもつ 天井部外面ヘラ削                      | 完形品        | 表94    |
| Po145 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | 鼎         | 10.3   | 9.7    | 7.8      |         | 頸部に波状文なし 脊部に刺突文                       | 完形品        | 表97    |
| Po146 | 58 | 4号墳 | 玄門        | 須恵器 | 鼎         | 13.0   | 10.3   | 8.4      |         | 頸部に波状文なし 脊部に刺突文                       | 完形品        | 山本ひ101 |
| Po147 | 59 | 4号墳 | 北西側埴縁     | 須恵器 | 坏蓋        | 4.1    | 12.5   |          |         | 外腹肩部2条の沈線 天井部ヘラ削<br>り後ナデ ハケメ痕         | 完形品        | 表31    |
| Po148 | 59 | 4号墳 | 北西側埴縁     | 須恵器 | 坏蓋        | 4.3    | 13.1   |          |         | 外腹肩部1条の沈線 天井部ヘラ削<br>り後ナデ              |            | 表37    |
| Po149 | 59 | 4号墳 | 北西側外縁列石右下 | 須恵器 | 坏身        | 4.2    | 10.4   |          |         | 底部外面ヘラ削り後一部ナデ                         |            | 山本ひ81  |
| Po150 | 59 | 4号墳 | 北西側外縁列石右下 | 須恵器 | 有蓋壺坏      | 9.5    | 10.8   |          | 16.7    |                                       |            | 山本ひ16  |
| Po151 | 59 | 4号墳 | 北西側外縁列石右下 | 須恵器 | 長脚有蓋高杯    | 16.2   | 11.3   |          | 14.7    | 2方向2段方形透かし                            |            | 表85    |
| Po152 | 59 | 4号墳 | 北西側埴縁     | 須恵器 | 平瓶        | 14.7   | 6.8    |          |         |                                       |            | 表34    |
| Po153 | 59 | 4号墳 | 北西側外縁列石右下 | 須恵器 | 壺(口縁部)    | 23.4   |        |          |         |                                       |            | 山本ひ105 |
| Po154 | 59 | 4号墳 | 北西側外縁列石右下 | 須恵器 | 壺         | 21.8   | 48.2   |          |         |                                       |            | 表107   |
| Po155 | 57 | 4号墳 | 5号墳       | 石室外 | 須恵器       | 壺(口縁部) | 60.0   |          |         |                                       |            | 表64    |
| Po156 | 60 | 6号墳 | 玄室        | 須恵器 | 坏蓋        | 4.2    | 13.7   |          |         | 天井部外面ヘラ切り未調整 ハケメ痕<br>口縁部内面に1条の沈線      | 表110       |        |
| Po157 | 60 | 6号墳 | 玄室        | 須恵器 | 坏蓋        | 4.8    | 14.7   |          |         | 天井部外面ヘラ切り後ナデ                          |            | 山本ひ117 |
| Po158 | 60 | 6号墳 | 施道・玄室     | 須恵器 | 坏蓋        | 4.0    | 12.6   |          |         | 天井部外面にハケメ痕                            |            | 表117   |
| Po159 | 60 | 6号墳 | 施道・玄室     | 須恵器 | 坏蓋        | 3.9    | 13.1   |          |         | 外腹肩部1条の沈線 天井部外面ヘ<br>ラ削り ヘラむこし痕        |            | 山本ひ118 |
| Po160 | 60 | 6号墳 | 施道・玄室     | 須恵器 | 坏蓋        | 4.5    | 12.9   |          |         | ヘラ切り未調整                               |            | 表112   |
| Po161 | 60 | 6号墳 | 施道・玄室     | 須恵器 | 坏蓋        | 4.4    | 12.4   |          |         | 外腹肩部2条の弱い沈線 天井部外<br>面ナデ               |            | 表126   |
| Po162 | 60 | 6号墳 | 施道・玄室     | 須恵器 | 坏蓋        | 4.4    | 12.8   |          |         | 外腹肩部2条の弱い沈線 天井部外<br>面ナデ 天井外側ヘラ削り記号「-」 | 完形品        | 表113   |
| Po163 | 60 | 6号墳 | 玄室        | 須恵器 | 坏蓋        | 4.4    | 13.1   |          |         | 天井部外面ナデ 一部ヘラ削り                        |            | 表115   |
| Po164 | 60 | 6号墳 | 施道・玄室     | 須恵器 | 坏蓋        | 4.2    | 12.9   |          |         | 天井部外面ナデ                               |            | 山本ひ130 |
| Po165 | 60 | 6号墳 | 玄室        | 須恵器 | 坏蓋        | 4.0    | 12.2   |          |         | 天井部外面ナデ ハケメ痕                          |            | 表109   |

土器観察表(6)

| 遺物番号  | 接頭 | 接頭名               | 出土地点                        | 種別  | 器種                | 器高(cm) | 口径(cm) | 脚最大径(cm) | 底部厚(cm) | 特徴                               | 備考     | 実測番号   |
|-------|----|-------------------|-----------------------------|-----|-------------------|--------|--------|----------|---------|----------------------------------|--------|--------|
| Po166 | 60 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 环蓋                | 4.8    | 11.6   |          |         | 天井部外側へラ切り後ナデ                     |        | 表122   |
| Po167 | 60 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环蓋                | 4.3    | 11.3   |          |         | ヘラ切り未調整                          |        | 表123   |
| Po168 | 60 | 6号墳               | 玄室                          | 須恵器 | 环蓋                | 3.6    | 10.7   |          |         | 天井部外側ナデ                          |        | 表116   |
| Po169 | 60 | 6号墳               | 玄室                          | 須恵器 | 环蓋                | 3.2    | 11.4   |          |         | 天井部外側ナデ 一部へラ削り 天井内部へラ記号「一」、外側「X」 |        | 山本ひ129 |
| Po170 | 60 | 6号墳               | 玄室                          | 須恵器 | 环蓋                | 4.0    | 11.2   |          |         | ヘラ削り後ナデ ヘラ切り痕                    |        | 山本ひ121 |
| Po171 | 60 | 6号墳               | 狭道・閉塞石                      | 須恵器 | 环蓋                | 3.0    | 11.2   |          |         | 天井部外側へラ切り後ナデ 一部へラ削り後ナデ           |        | 表111   |
| Po172 | 60 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | つまみ無<br>かえり付<br>蓋 | 2.5    | 9.9    |          |         | 天井部外側へラ削り                        | あるいは环身 | 表120   |
| Po173 | 60 | 6号墳               | 玄室                          | 須恵器 | 縁                 | 4.6    | 17.2   |          |         | 端部外反 天井部外側へラ切り未調整                |        | 山本ひ114 |
| Po174 | 60 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 縁                 | 5.5    | 9.8    |          |         | 底部外側にハケメ                         |        | 表125   |
| Po175 | 60 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 縁                 | 4.4    | 10.0   |          |         | 底部外側へラ削り                         |        | 表124   |
| Po176 | 60 | 6号墳               | 玄室内ビットト                     | 須恵器 | 縁                 | 13.3   | 10.1   | 9.8      | 5.5     | 頸部に透状文なし 縫部に刺突文<br>底部へラ記号「X」     |        | 山本ひ112 |
| Po177 | 60 | 6号墳               | 玄室内ビットト                     | 須恵器 | 小形無蓋<br>環杯        | 6.9    | 8.4    | 7.4      |         | 透かし無                             |        | 山本ひ113 |
| Po178 | 60 | 6号墳               | 北西側壇擣                       | 須恵器 | 台付畫刷              |        |        | 18.4     | 9.2     |                                  |        | 山本ひ111 |
| Po179 | 61 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 环身                | 3.7    | 9.6    |          |         | 底部外側へラ切り後ナデ ヘラ記号「一」              |        | 表121   |
| Po180 | 61 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 环身                | 3.4    | 10.0   |          |         | 底部外側へラ切り未調整 一部へラ削り 前リ底外側へラ記号「一」  |        | 山本ひ131 |
| Po181 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 3.4    | 10.2   |          |         | 底部へラ削り                           |        | 山本ひ128 |
| Po182 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 3.8    | 12.6   |          |         | 底部外側へラ削り後ナデ 底外側へラ記号「一」           |        | 山本ひ126 |
| Po183 | 61 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 环身                | 3.6    | 11.0   |          |         | 底部外側へラ削り後粗いナデ 一部へラ削り             |        | 山本ひ123 |
| Po184 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 4.0    | 11.0   |          |         | 底部外側ナデ ヘラ切り痕                     |        | 山本ひ120 |
| Po185 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 3.5    | 9.5    |          |         | 底部外側へラ切り未調整                      |        | 山本ひ122 |
| Po186 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 4.1    | 10.8   |          |         | 底部外側ナデ 一部へラ削り                    |        | 山本ひ124 |
| Po187 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 3.9    | 10.9   |          |         | 底部外側へラ切り後ナデ                      |        | 山本ひ132 |
| Po188 | 61 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 环身                | 3.9    | 9.9    |          |         | 底部外側へラ切り後ナデ 一部へラ削り               | 完形品    | 山本ひ116 |
| Po189 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 3.5    | 9.9    |          |         | 底部外側ナデ 底外側へラ記号「X」                | 完形品    | 表119   |
| Po190 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 3.7    | 11.1   |          |         | 底部外側へラ切り後ナデ                      | 完形品    | 表118   |
| Po191 | 61 | 6号墳               | 狭道・玄室                       | 須恵器 | 环身                | 3.6    | 10.0   |          |         | 底部外側へラ切り後ナデ 一部へラ削り               |        | 山本ひ127 |
| Po192 | 61 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 高台付环<br>身         | 4.0    | 13.1   | 8.4      | 9.0     | 底部外側ナデ                           |        | 表127   |
| Po193 | 61 | 6号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 高台付环<br>身         | 4.4    | 12.6   |          |         | 底部外側系切り後へラ削り                     |        | 山本ひ119 |
| Po194 | 61 | 6号墳               | 北西側外壇<br>利石右下・<br>狭道        | 須恵器 | 瓶                 | 10.0   | 10.0   |          |         |                                  |        | 山本ひ133 |
| Po195 | 67 | 3号墳<br>4号墳<br>6号墳 | 北西側外壇<br>利石下・玄<br>室         | 須恵器 | 大甕                | 49.4   | 73.2   |          |         |                                  |        | 表114   |
| Po196 | 67 | 4号墳<br>6号墳<br>7号墳 | 培丘・洗濯<br>地盤上・崩<br>入土・崩<br>土 | 須恵器 | 甕                 | 37.1   |        |          |         | 口部に3段の波状文                        |        | 山本ひ135 |
| Po197 | 63 | 5号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 环蓋                | 4.6    | 12.8   |          |         | 天井部外側へラ切り後粗いナデ 一部へラ削り            |        | 表55    |
| Po198 | 63 | 5号墳               | 狭道                          | 須恵器 | 环蓋                |        | 13.2   |          |         | 外側肩部2条の沈線                        |        | 山本ひ35  |

土器觀察表(7)

| 遺物番号  | 埋蔵 | 遺構名 | 出土地点         | 種別  | 器種 | 器高(cm) | 口径(cm) | 肩<br>幅<br>大溝<br>(cm) | 底部径(cm) | 特<br>徴                            | 備<br>考 | 実測番号  |
|-------|----|-----|--------------|-----|----|--------|--------|----------------------|---------|-----------------------------------|--------|-------|
| Po199 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪蓋 | 3.6    | 12.0   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ナデ                   |        | 山本ひ49 |
| Po200 | 63 | 5号墳 | 表道・玄室        | 須恵器 | 坪蓋 | 3.7    | 12.0   |                      |         | 外面肩部1条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ナデ 一部ヘラ削り   |        | 山本ひ51 |
| Po201 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪蓋 | 3.8    | 12.9   |                      |         | 外面肩部1条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ナデ          |        | 山本ひ50 |
| Po202 | 63 | 5号墳 | 玄室           | 須恵器 | 坪蓋 | 3.7    | 13.0   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ削<br>り ヘラ起こし底      |        | 山本ひ52 |
| Po203 | 63 | 5号墳 | 玄室奥          | 須恵器 | 坪蓋 | 3.8    | 13.2   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ削<br>り ヘラ起こし底      |        | 山本ひ53 |
| Po204 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪蓋 | 3.9    | 13.2   |                      |         | 外面肩部1条の弱い沈縫 天井部ヘ<br>ラ削り           |        | 表43   |
| Po205 | 63 | 5号墳 | 表道・玄室        | 須恵器 | 坪蓋 |        | 14.4   |                      |         |                                   |        | 山本ひ46 |
| Po206 | 63 | 5号墳 | 玄室           | 須恵器 | 坪蓋 | 4.2    | 13.0   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ削<br>り ヘラ切り底       |        | 表53   |
| Po207 | 63 | 5号墳 | 玄室           | 須恵器 | 坪蓋 | 4.5    | 13.0   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ナデ 一部ヘラ削り   |        | 表54   |
| Po208 | 63 | 5号墳 | 表道・閉塞石       | 須恵器 | 坪蓋 | 4.0    | 12.5   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ナデ 一部ヘラ削り   |        | 表44   |
| Po209 | 63 | 5号墳 | 玄室奥・表道       | 須恵器 | 坪蓋 | 4.1    | 12.7   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ヘラ削り        |        | 山本ひ52 |
| Po210 | 63 | 5号墳 | 表道・閉塞石下      | 須恵器 | 坪蓋 | 4.6    | 12.6   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ナデ          |        | 表56   |
| Po211 | 63 | 5号墳 | 表道・閉塞石下      | 須恵器 | 坪蓋 | 4.0    | 12.3   |                      |         | 外面肩部1条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ナデ 一部ヘラ削り   |        | 表57   |
| Po212 | 63 | 5号墳 | 玄室奥          | 須恵器 | 坪蓋 | 4.5    | 12.7   |                      |         | 外面肩部1条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り後ヘラ削り        |        | 山本ひ44 |
| Po213 | 63 | 5号墳 | 石室           | 須恵器 | 坪蓋 | 3.8    | 12.3   |                      |         | 外面肩部2~3条の沈縫 天井部ヘ<br>ラ削り未調査        |        | 山本ひ53 |
| Po214 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪蓋 | 4.3    | 13.3   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ削<br>り ヘラ切り底       |        | 山本ひ53 |
| Po215 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪蓋 | 4.1    | 12.3   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫 天井部ヘラ削<br>り             |        | 山本ひ42 |
| Po216 | 63 | 5号墳 | 玄室奥          | 須恵器 | 坪蓋 | 4.0    | 12.4   |                      |         | 天井部外面ヘラ削り後ナデ ヘラ切<br>り底            |        | 表42   |
| Po217 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪蓋 | 4.1    | 12.2   |                      |         | 外面肩部1条の沈縫 天井部ヘラ切<br>り未調査          |        | 山本ひ34 |
| Po218 | 63 | 5号墳 | 玄室奥          | 須恵器 | 坪蓋 |        | 12.8   |                      |         | 外面肩部2条の沈縫                         |        | 山本ひ45 |
| Po219 | 63 | 5号墳 | 南側側溝<br>・閉塞石 | 須恵器 | 坪蓋 | 3.7    | 12.4   |                      |         | 外面肩部2~3条の沈縫 天井部ヘ<br>ラ削り後ナデ 一部ヘラ削り |        | 山本ひ38 |
| Po220 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 蓋  | 3.7    | 14.1   |                      |         | 端部外反 天井部ヘラ切り未調整                   |        | 表59   |
| Po221 | 63 | 5号墳 | 玄室奥          | 須恵器 | 蓋  | 3.4    | 13.1   |                      |         | 端部外反 天井部ヘラ切り未調整                   |        | 表49   |
| Po222 | 63 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 蓋  | 4.8    | 11.1   |                      |         | 頂部に穴 天井部ヘラ削り後ナデ                   |        | 表62   |
| Po223 | 64 | 5号墳 | 玄室           | 須恵器 | 坪身 | 3.8    | 11.8   |                      |         | 底部外反ヘラ削り後ナデ 一部ヘラ<br>削り            |        | 表50   |
| Po224 | 64 | 5号墳 | 玄室           | 須恵器 | 坪身 | 4.0    | 11.3   |                      |         | 底部外反ヘラ削り後ナデ ハケメ痕                  |        | 表47   |
| Po225 | 64 | 5号墳 | 表道・玄室<br>前   | 須恵器 | 坪身 | 4.0    | 11.3   |                      |         | 底部外反ヘラ削り                          |        | 山本ひ48 |
| Po226 | 64 | 5号墳 | 玄室           | 須恵器 | 坪身 | 3.9    | 11.0   |                      |         | 底部外反ヘラ削り後ナデ 一部ヘラ<br>削り            |        | 山本ひ43 |
| Po227 | 64 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪身 | 4.2    | 11.5   |                      |         | 底部外反ヘラ削り                          |        | 山本ひ49 |
| Po228 | 64 | 5号墳 | 表道・閉塞<br>石上  | 須恵器 | 坪身 | 3.7    | 11.1   |                      |         | 底部外反ヘラ削り後ナデ                       |        | 山本ひ41 |
| Po229 | 64 | 5号墳 | 表道・閉塞<br>石中  | 須恵器 | 坪身 | 3.8    | 10.8   |                      |         | 底部外反ヘラ削り後ナデ                       |        | 山本ひ37 |
| Po230 | 64 | 5号墳 | 表道           | 須恵器 | 坪身 | 3.8    | 10.8   |                      |         | 底部外反ヘラ削り後相いナデ 一部<br>ヘラ削り ハケメ痕     |        | 山本ひ39 |
| Po231 | 64 | 5号墳 | 玄室・玄門        | 須恵器 | 坪身 | 3.8    | 11.0   |                      |         | 底部外反ヘラ削り後ナデ 一部ヘラ<br>削り ハケメ痕       |        | 表46   |
| Po232 | 64 | 5号墳 | 玄室・玄門        | 須恵器 | 坪身 | 3.3    | 10.3   |                      |         |                                   |        | 表45   |

土器観察表(8)

| 遺物番号  | 種類 | 出土地点 | 種別                    | 器種  | 器高(cm)     | 口径(cm) | 腹最大幅(cm) | 底部径(cm) | 特徴                           | 備考  | 実測番号     |
|-------|----|------|-----------------------|-----|------------|--------|----------|---------|------------------------------|-----|----------|
| Po233 | 64 | 5号墳  | 渠道                    | 須恵器 | 环身         | 3.9    | 11.0     |         | 底部外面へラ削り後ナデ ヘラ切り痕            |     | 表55      |
| Po234 | 64 | 5号墳  | 渠道                    | 須恵器 | 环身         | 4.0    | 11.3     |         | 底部外面へラ削り後ナデ ハケメ痕             |     | 表51      |
| Po235 | 64 | 5号墳  | 渠道                    | 須恵器 | 环身         | 4.0    | 11.3     |         | 底部外面へラ削り後粗いナデ                |     | 表52      |
| Po236 | 64 | 5号墳  | 渠道                    | 須恵器 | 高杯(环部)     | 7.1    | 14.3     |         |                              |     | 表48      |
| Po237 | 64 | 5号墳  | 渠道                    | 須恵器 | (脚部)       | 3.2    |          | 14.9    |                              |     | 山本ひ55    |
| Po238 | 64 | 5号墳  | 渠道                    | 須恵器 | (脚部)       |        |          | 13.9    |                              |     | 山本ひ47    |
| Po239 | 64 | 5号墳  | 渠道・北西側第2石列右下方         | 土師器 | 甕          |        | 16.9     | 22.0    |                              |     | 山本ひ82    |
| Po240 | 64 | 5号墳  | 北西区                   | 上部器 | 甕(口縁部)     | 4.9    | 18.2     |         |                              |     | 表67      |
| Po241 | 64 | 5号墳  | 北西区                   | 土師器 | 甕(口縁部)     | 6.4    | 16.2     |         |                              |     | 表66      |
| Po242 | 64 | 5号墳  | 渠道                    | 土師器 | 甕          | 15.6   | 11.0     | 15.3    |                              |     | 山本ひ59,60 |
| Po243 | 62 | 5号墳  | 北京側埴輪・外縁列石埋土          | 須恵器 | 甕(口縁部)     |        |          | 32.5    |                              |     | 表63      |
| Po244 | 62 | 5号墳  | 北西側埴輪上                | 須恵器 | 甕(口縁部)     |        | 43.2     |         |                              |     | 山本ひ57    |
| Po245 | 62 | 5号墳  | 北西側周溝                 | 須恵器 | 甕(口縁部)     |        | 37.7     |         |                              |     | 表65      |
| Po246 | 62 | 5号墳  | 北東側埴輪                 | 須恵器 | 甕(口縁部)     |        | 43.4     |         |                              |     | 表71      |
| Po247 | 62 | 5号墳  | 北西側周溝                 | 須恵器 | 甕(口縁部)     | 5.5    | 15.8     |         |                              |     | 表61      |
| Po248 | 62 | 5号墳  | 南区                    | 須恵器 | 甕(口縁部)     | 4.9    | 24.0     |         |                              |     | 表60      |
| Po249 | 62 | 5号墳  | 北西側埴輪・第2石列右下(明窓石より内側) | 須恵器 | 提瓶         | 33.1   | 16.6     |         | 脚部に縞文状の渦巻き模様                 |     | 山本ひ56    |
| Po250 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环蓋         | 4.7    | 12.9     |         | 天井部外面へラ削り後ナデ ハケメ痕            |     | 表143     |
| Po251 | 65 | 7号墳  | 玄室・玄門付近               | 須恵器 | 环蓋         | 4.7    | 12.9     |         | 外副面2条の沈線 天井部へラ切<br>り木隠壁      |     | 山本ひ141   |
| Po252 | 65 | 7号墳  | 玄室玄門                  | 須恵器 | 环蓋         | 4.9    | 13.4     |         | 天井部外面ナデ                      |     | 山本ひ115   |
| Po253 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环蓋         | 3.9    | 13.2     |         | 天井部外面へラ削り後ナデ 一部へ<br>今削り      | 完形品 | 表130     |
| Po254 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环蓋         | 3.9    | 11.7     |         | 天井部外面へラ削り後ナデ 天井外<br>側ヘラ記号「二」 | 完形品 | 表142     |
| Po255 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环蓋         | 4.5    | 11.7     |         | 天井部外面へラ削り ハケメ痕               | 完形品 | 表135     |
| Po256 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环蓋         | 4.0    | 12.1     |         | 天井部外面へラ削り後ナデ ハケメ<br>痕        | 完形品 | 表131     |
| Po257 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环身         | 3.8    | 9.6      |         | 底部外面へラ削り未調整 底外側へ<br>ラ記号「二」   | 完形品 | 表135     |
| Po258 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环身         | 3.7    | 11.1     |         | 底部外面へラ削り後ナデ ハケメ痕             | 完形品 | 表136     |
| Po259 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环身         | 4.1    | 11.3     |         | 底部外面にハケメ                     | 完形品 | 表144     |
| Po260 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环身         | 3.6    | 10.2     |         | 底部外面へラ削り後ナデ                  | 完形品 | 表132     |
| Po261 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环身         | 3.9    | 10.4     |         | 底部外面に ハケメ痕                   | 完形品 | 表133     |
| Po262 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 环身         | 3.6    | 9.8      |         | 底部外面ナデ ハケメ痕                  | 完形品 | 表159     |
| Po263 | 65 | 7号墳  | 玄室底直・<br>石柱下          | 須恵器 | 环身         | 4.3    | 10.6     |         | 底部外面へラ削り未調整 一部ナデ             |     | 山本ひ142   |
| Po264 | 65 | 7号墳  | 玄室                    | 須恵器 | 低脚無蓋<br>高环 | 7.7    | 11.6     | 8.4     | 透かし無し                        |     | 山本ひ136   |

土器観察表(9)

| 遺物番号  | 排  | 遺構名 | 出土地点      | 種別  | 器種              | 器高(cm) | 口径(cm) | 肩<br>幅<br>大<br>厚(cm) | 底部径(cm) | 特徴   | 備考  | 実測番号   |
|-------|----|-----|-----------|-----|-----------------|--------|--------|----------------------|---------|--|-----|--------|
| Po265 | 65 | 7号墳 | 玄室        | 須恵器 | 低脚無蓋<br>高环      | 7.8    | 11.4   |                      | 8.2     | 透かし無し  |     | 山本ひ137 |
| Po266 | 65 | 7号墳 | 玄室        | 須恵器 | 低脚無蓋<br>高环      | 7.8    | 11.5   |                      | 8.2     | 透かし無し<br>穿孔  | 完形品 | 表137   |
| Po267 | 65 | 7号墳 | 溝道・閉塞石    | 須恵器 | 甕               | 4.5    | 10.2   |                      |         | あるいは蓋<br>底部へラ切り後縫なナデ                                 |     | 山本ひ140 |
| Po268 | 65 | 7号墳 | 玄室        | 須恵器 | 長頸甕             | 28.0   | 8.8    | 17.8                 |         | 脚なし<br>肩部に斜格子文、底部にカキメ状の回転ナデ                          |     | 山本ひ145 |
| Po269 | 65 | 7号墳 | 玄室        | 須恵器 | 平瓶              | 15.4   | 7.4    | 15.6                 | 7.5     | 肩部上面カキメ状のナデ、突起物無し                                    |     | 山本ひ138 |
| Po270 | 65 | 7号墳 | 玄室        | 須恵器 | 脚付広口甕           | 16.9   | 13.0   | 14.2                 | 8.2     | 肩部最大径位置に縦を持つ   |     | 表147   |
| Po271 | 65 | 7号墳 | 溝道・閉塞石    | 土師器 | 甕               |        | 22.5   |                      |         |  |     | 山本ひ147 |
| Po272 | 65 | 7号墳 | 玄室        | 土師器 | 甕               | 2.2    | 11.6   |                      | 5.4     | 中心外れて拵成前穿孔、径11mm<br>底面に回転糸切り痕                        |     | 表148   |
| Po273 | 65 | 7号墳 | 南側西溝      | 須恵器 | 坪蓋              | 3.9    | 11.2   |                      |         | 外面肩部2条の沈線 天井部ナデ                                      | 完形品 | 表149   |
| Po274 | 66 | 7号墳 | 東側西溝肩部    | 須恵器 | 坪身              | 4.0    | 10.8   |                      |         | 底部外面ヘラ削り   | 完形品 | 表134   |
| Po275 | 66 | 7号墳 | 前庭部・集石状遺構 | 須恵器 | 坪身              | 3.9    | 10.8   |                      |         | 底部外面ヘラ削り後ナデ  |     | 山本ひ146 |
| Po276 | 66 | 7号墳 | 玄室・前庭部    | 須恵器 | 坪身              | 3.0    | 9.9    |                      |         | 底部外面ヘラ削り後ナデ  |     | 表149   |
| Po277 | 66 | 7号墳 | 南側西溝・前庭部  | 須恵器 | 坪身              | 3.6    | 9.5    |                      |         | 底部外面ヘラ切り後調整 ハケメ痕                                     | 完形品 | 表141   |
| Po278 | 66 | 7号墳 | 前庭部・周溝    | 須恵器 | 甕               | 4.8    | 12.6   |                      |         | 底部外面ヘラ切り後ナデ ハケメ痕                                     |     | 山本ひ143 |
| Po279 | 66 | 7号墳 | 西溝        | 須恵器 | 有蓋高环            | 13.7   | 10.7   |                      | 12.2    | 2方向2段方形透かし   |     | 山本ひ144 |
| Po280 | 66 | 7号墳 | 北東側埴丘上    | 須恵器 | 脚付広口甕<br>(肩部下半) | 8.9    |        | 14.2                 | 7.2     | 脚部最大径位置に縦を持つ   |     | 表146   |
| Po281 | 68 | 7号墳 | 前庭部       | 須恵器 | 脚付甕<br>(肩部下半)   | 10.1   |        |                      | 12.4    |  |     | 表145   |
| Po282 | 68 | SK1 |           | 繩文  |                 |        |        |                      |         | 波状部外面上に貫通した孔を持つ突起 管内内外面の縦溝と斜割竹状工具を押庄村して系形文を施す        |     | 表170   |
| Po283 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         | 半裁竹管による波状文と2条の押引沈線                                   |     | 山本ひ160 |
| Po284 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 深鉢              |        |        |                      |         | 口縁部外面上に3条の押引沈線を施し、下2本の間に刻文字を施す。薄い縁部は内側から押庄村され、波状を呈する |     | 表161   |
| Po285 | 68 | SK1 |           | 繩文  |                 |        |        |                      |         | 口縁部外面上に押引による条線文と溝巻き文 上端部を押庄村する                       |     | 表167   |
| Po286 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         | 押引沈線の溝巻文と横方向の2条の縦                                    |     | 山本ひ149 |
| Po287 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         | 押引沈線の雷文状の渦巻文   |     | 山本ひ151 |
| Po288 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         | 押引沈線の渦巻文と縱方向の条線                                      |     | 山本ひ150 |
| Po289 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         | 無地に沈線で点下する劍状の文様                                      |     | 山本ひ157 |
| Po290 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         | RLの施文地   |     | 山本ひ158 |
| Po291 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         |  |     | 山本ひ159 |
| Po292 | 68 | SK1 |           | 繩文  |                 |        |        |                      |         |  |     | 表169   |
| Po293 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 鉢               |        |        |                      |         | Rrの施文地に半裁竹管による沈線                                     |     | 山本ひ152 |
| Po294 | 68 | SK1 |           | 繩文  | 深鉢              |        |        |                      |         | 口縁部外面上に貼付合掌1段を有し、上端部を押庄村する。肩部は縦の条痕                   |     | 表173   |
| Po295 | 68 | SK1 |           | 繩文  |                 |        |        |                      |         |  |     | 表171   |
| Po296 | 68 | SK1 |           | 繩文  |                 |        |        |                      |         |  |     | 表166   |
| Po297 | 68 | SK1 |           | 繩文  |                 |        |        |                      |         |  |     | 表157   |

## 小畠古墳群出土遺物観察表

土器觀察表 (10)

| 遺物番号  | 神  | 埋藏名                          | 出土地点                           | 種別   | 器種   | 器高(cm) | 口径(cm) | 最 大径(cm) | 底深径(cm) | 特 徴                                     | 備 考            | 実測番号   |
|-------|----|------------------------------|--------------------------------|------|------|--------|--------|----------|---------|---|----------------|--------|
| Po298 | 88 | SK1                          |                                | 縄文   | 鉢    |        |        |          |         | 外面RR縄文地                                 |                | 山本ひ153 |
| Po299 | 88 | SK1                          |                                | 縄文   | 深鉢   |        |        |          |         | 外面無地                                    |                | 山本ひ158 |
| Po300 | 88 | SK1                          |                                | 縄文   | 深鉢   |        |        |          |         | 外面無地                                    |                | 表165   |
| Po301 | 88 | SK3                          |                                | 縄文   |      |        |        |          |         | 外面に条痕                                   |                | 表159   |
| Po302 | 88 | SK3                          |                                | 縄文   |      |        |        |          |         | 外縁に縄文                                   |                | 表160   |
| Po303 | 88 | SK3                          |                                | 縄文   |      |        |        |          |         | 外面に条痕                                   |                | 表158   |
| Po304 | 88 | SK6                          |                                | 縄文   |      |        |        |          |         |   |                | 表136   |
| Po305 | 88 | SK6                          |                                | 縄文   |      |        |        |          |         | 外面に撚糸文                                  |                | 表168   |
| Po306 | 88 | SK5                          |                                | 縄文   | 鉢    |        |        |          |         | 外面RR縄文地                                 |                | 山本ひ155 |
| Po307 | 88 | A 9 グ<br>リッド                 |                                | 縄文   |      |        |        |          |         |   |                | 表164   |
| Po308 | 88 | B 8 グ<br>リッド                 |                                | 縄文   |      |        |        |          |         | 外面縄文地に条痕を施す                             |                | 表192   |
| Po309 | 88 | 6号墳<br>南東側石室<br>棚形埴土・長<br>下層 |                                | 縄文   | 鉢    |        |        |          |         | 外面RL縄文地                                 |                | 山本ひ154 |
| Po310 | 88 | B10 グ<br>リッド                 | 7号墳東<br>側<br>七次坑<br>の落ち込み<br>内 | 不明   | (口縁) |        |        |          |         |   |                | 表174   |
| Po311 | 93 | 3号墳                          | 前庭部削平<br>面                     | 弥生   | (口縁) | 10.9   |        |          |         |   |                | 山本ひ61  |
| Po312 | 93 | 5号墳                          | 前庭部                            | 弥生   | (底部) |        |        |          | 9.4     |   |                | 表68    |
| Po313 | 93 | 6号墳<br>下                     | 北東側埴丘<br>下                     | 弥生   | (底部) |        |        |          | 5.4     | 外面ヘラ磨き、煤付着                              |                | 表154   |
| Po314 | 93 | 6号墳<br>下                     | 北東側埴丘<br>下                     | 弥生   | (底部) |        |        |          | 11.2    | 内外面ともに風化                                |                | 表155   |
| Po315 | 93 | G 5 グ<br>リッド                 | 5号墳前庭<br>部周辺                   | 土器器  | 土錐   | 4.0    | 0.4    | 1.8      |         |   | (13.0g)        | 山本ひ188 |
| Po316 | 93 | G 6 グ<br>リッド                 | 7号墳南側                          | 土器器  | 土錐   | 4.1    | 0.5    | 1.8      |         |   | (13.5g)        | 表210   |
| Po317 | 94 | 4号墳                          | 石室                             | 土器器  | 鉢    |        | 25.1   |          |         | 内外面ともヨコナデ調整 内面板状工具によるナデ、外縁指正痕 外面使用時の煤付着 |                | 表104   |
| Po318 | 94 | 4号墳                          | 狭道・玄室                          | 瓦器   | 鏡    | 11.2   | 30.6   |          |         | 内外面ともヨコナデ調整 内面板状工具によるナデ、外縁指正痕 外面使用時の煤付着 |                | 山本ひ108 |
| Po319 | 94 | 6号墳                          | 狭道                             | 瓦器   | 鏡    |        | 24.1   |          |         | 内外面ともヨコナデ調整 内面板状工具によるナデ、外縁指正痕 外面使用時の煤付着 |                | 表108   |
| Po320 | 94 | 7号墳                          | 狭道・玄室                          | 土器器  | 鏡    |        | 31.4   |          |         | 内外面ともヨコナデ調整 外面横方向にカスメ調整、外縁指正痕 外面使用時の煤付着 |                | 山本ひ148 |
| Po321 | 94 | P30                          | 5号墳北東<br>側                     | 瓦器   | 羽釜   |        | 19.6   |          |         | 内外面ともヨコナデ調整 外面板状工具によるナデ 外面使用時の煤付着       |                | 表69    |
| Po322 | 94 | 6号墳                          | 狭道                             | 須恵器  | 环    | 4.6    | 12.6   | 6.5      |         | ロクロナデ調整 底部糸切り                           |                | 山本ひ125 |
| Po323 | 94 | P75                          | 5号墳北東<br>側                     | 白磁   | 墨    |        | 10.9   |          |         |   |                | 表39    |
| Po324 | 94 | 6号墳                          | 狭道・玄室                          | 陶胎染付 | 碗    | 6.7    | 10.5   | 4.5      |         | ロクロナデ調整 削り出し高台で全面施釉、外縁別毛目模様             | 付け輪滑ぎ<br>のため露胎 | 山本ひ134 |
| Po325 | 94 | 6号墳                          | 狭道                             | 陶胎染付 | 碗    | 7.0    | 10.2   | 4.6      |         | ロクロナデ調整 削り出し高台で全面施釉、外縁草木模様              | 付け輪滑ぎ<br>のため露胎 | 表128   |
| Po326 | 94 | 6号墳                          | 狭道                             | 陶胎染付 | 碗    | 7.2    | 10.4   | 5.2      |         | ロクロナデ調整 削り出し高台で全面施釉、外縁草木模様              | 疊付砂付輪滑         | 表129   |
| Po327 | 94 | E 4 グ<br>リッド                 | 3・4号墳<br>間造成土                  | 陶器   | 碗    | 7.8    | 15.3   | 7.8      |         | ロクロナデ調整 外面腰部以下は露胎                       | 萬葉詩を流し<br>し掛ける | 表41    |
| Po328 | 94 | E 4 グ<br>リッド                 | 3・4号墳<br>間造成土                  | 陶器   | 皿    | 6.5    | 24.1   | 10.6     |         | ロクロナデ調整 見込みに重ね焼き<br>の目路                 |                | 山本ひ31  |
| Po329 | 94 | E 4 グ<br>リッド                 | 3・4号墳<br>間造成土                  | 陶器   | 鉢    |        |        |          | 8.7     | ロクロナデ調整 見込みに付け掛け<br>のため厚く縮まる            | 高台内に墨<br>書きあり  | 表40    |

## 石製品観察表

| 遺物<br>No. | 遺構名                    | 地 点          | 種 別    | 最大長<br>(cm) | 最大幅<br>(cm) | 最大厚<br>(cm) | 重 さ<br>(g) | 石 材       | 備 考          | 取り<br>上げNo. | 実測 %   |
|-----------|------------------------|--------------|--------|-------------|-------------|-------------|------------|-----------|--------------|-------------|--------|
| S1        | 3号墳                    | 玄室・石棺前       | 礫石器    | 7.0         | 6.3         | 5.2         | 298.4      | —         | 用途不明         | 818         | 表187   |
| S2        | 3号墳                    | 玄室・整地層中      | 礫石器    | 7.1         | 5.8         | 4.8         | 234.7      | —         | 鐵石・凹石        | 1456        | 山本ひ171 |
| S3        | 3号墳                    | 南西側周溝        | 蛤刃磨製石斧 | 8.6         | 6.8         | 4.0         | 359.7      | —         |              | 389         | 山本ひ173 |
| S4        | 7号墳                    | 前庭部          | 礫石器    | 8.9         | 6.0         | 5.2         | 415.0      | —         | 磨石           | 2287        | 山本ひ167 |
| S5        | 4号墳                    | 羨道           | 砾石     | 9.9         | 3.7         | 3.3         | 125.9      | —         | 4面を使用        | 1761        | 表191   |
| S6        | SK1                    |              | 石錐     | 7.5         | 5.9         | 2.2         | 118.4      | 閃綠岩       |              | 2354        | 山本ひ164 |
| S7        | SK1                    |              | 石錐     | 8.5         | 5.9         | 1.7         | 130.5      | 閃綠岩       |              | 2355        | 表177   |
| S8        | SK1                    |              | 石錐     | 6.0         | 5.5         | 1.8         | 61.7       | 凝灰岩       |              | 2371        | 山本ひ165 |
| S9        | SK1                    |              | 石錐     | 6.7         | 6.2         | 0.9         | 235.6      | 安山岩       |              | 2356        | 表179   |
| S10       | SK1                    |              | 石錐     | 5.3         | 5.7         | 1.8         | 87.0       | 閃綠岩       |              | 2357        | 山本ひ162 |
| S11       | SK1                    |              | 石錐     | 5.8         | 5.4         | 1.4         | 60.5       | 安山岩       |              | 2359        | 山本ひ161 |
| S12       | SK1                    |              | 石錐     | 9.2         | 8.2         | 2.1         | 239.2      | 安山岩       |              | 2360        | 表180   |
| S13       | SK1                    |              | 磨製石斧   | 4.1         | 2.9         | 1.0         | 22.3       | 頁岩        |              | 2348        | 山本ひ174 |
| S14       | SK1                    |              | 石錐     | 6.7         | 5.7         | 1.1         | 72.2       | 安山岩       |              | 2361        | 表178   |
| S15       | SK1                    |              | 石錐     | 7.5         | 6.3         | 1.5         | 106.4      | 安山岩       |              | 2358        | 山本ひ163 |
| S16       | SK1                    |              | 礫石器    | 7.9         | 7.3         | 5.1         | 447.9      | 凝灰岩       | 凹石           | 2352        | 表180   |
| S17       | C9グリッド<br>SK1付近で表<br>採 |              | 礫石器    | 8.0         | 7.4         | 4.5         | 379.7      | 花崗岩       | 磨石・鐵石・<br>凹石 | 2350        | 山本ひ189 |
| S18       | SK1                    |              | 礫石器    | 8.6         | 7.1         | 5.7         | 478.0      | 花崗岩       | 磨石           | 2352        | 表189   |
| S19       | SK3                    |              | 石錐     | 6.1         | 3.6         | 0.9         | 28.9       | 花崗岩       |              | 2387        | 表184   |
| S20       | SK6                    |              | 石錐     | 5.8         | 5.2         | 2.4         | 81.1       | 花崗岩       |              | 2393        | 表182   |
| S21       | 7号墳                    | 北東側盛土下       | 石錐     | 8.7         | 4.8         | 1.3         | 87.0       | 安山岩       |              | 2383        | 表175   |
| S22       | A7グリッド                 | 縄文遺物包含層      | 石錐     | 7.6         | 5.6         | 2.1         | 117.2      | 安山岩       |              | 2394        | 表181   |
| S23       | A7グリッド                 | 縄文遺物包含層      | 石錐     | 5.7         | 4.7         | 1.3         | 59.7       | 安山岩       |              | 2407        | 表183   |
| S24       | 7号墳                    | 北東側表採        | 石錐     | 6.0         | 6.0         | 1.1         | 66.1       | 変成岩       |              | 2289        | 表176   |
| S25       | 3号墳                    | 羨道           | 石鏃     | 2.1         | 1.3         | 0.3         | 0.6        | サヌカ<br>イト |              | 2147        | 福田の99  |
| S26       | 4号墳                    | 南西側盛土下       | 石鏃     | 1.7         | 1.3         | 0.4         | 0.8        | 黒曜石       |              | 2412        | 表240   |
| S27       | 6号墳                    | 玄室・暗黄色土<br>中 | 石鏃     | 2.1         | 1.7         | 0.3         | 0.6        | サヌカ<br>イト |              | 1483        | 山本ひ226 |
| S28       | P9グリッド                 | 縄文遺物包含層      | 石鏃     | 1.1         | 1.1         | 0.3         | 0.2        | 黒曜石       |              | 2291        | 清水48   |

## 石室内出土玉類観察表

| 遺物 No. | 遺構  | 地 点  | 種 別    | 最大径(mm) | 最大厚(mm) | 孔 径(mm) | 色 調  | 実測 No. | 取上 No. |
|--------|-----|------|--------|---------|---------|---------|------|--------|--------|
| J01    | 3号墳 | 玄門南東 | 水晶製切丁玉 | 23.0    | 11.0    | 3.0     | 無色透明 | 福田の90  | 2418   |
| J02    | 3号墳 | 玄室   | 碧玉製管玉  | 9.0     | 19.5    | 2.0     | 緑    | 福田の91  | 1123   |
| J03    | 3号墳 | 玄門南東 | ガラス製小玉 | 6.5     | 5.0     | 2.0     | 青    | 福田の58  | 2418   |
| J04    | 3号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 5.0     | 4.0     | 1.0     | 濃青   | 福田の92  | 1223   |
| J05    | 3号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.0     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の95  | 2256   |
| J06    | 3号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 1.5     | 1.0     | 青    | 福田の93  | 2256   |
| J07    | 3号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の96  | 2256   |
| J08    | 3号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 5.0     | 3.0     | 1.5     | 青    | 福田の94  | 2256   |
| J09    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製小玉 | 7.0     | 5.2     | 2.0     | 蔚青   | 福田の56  | 1811   |
| J10    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製小玉 | 7.5     | 6.3     | 2.0     | 蔚青   | 福田の84  | 1876   |
| J11    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製小玉 | 8.0     | 6.0     | 2.5     | 蔚青   | 福田の63  | 1876   |
| J12    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.5     | 1.5     | 青    | 福田の65  | 1876   |
| J13    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の25  | 1852   |
| J14    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 3.0     | 1.5     | 青    | 福田の26  | 1852   |
| J15    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.6     | 1.6     | 1.5     | 青    | 福田の32  | 1844   |
| J16    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 1.9     | 1.5     | 青    | 福田の30  | 1844   |
| J17    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の31  | 1844   |
| J18    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の29  | 1844   |
| J19    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の27  | 1844   |
| J20    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 2.0     | 1.8     | 青    | 福田の28  | 1844   |
| J21    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の33  | 1421   |
| J22    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.5     | 1.5     | 青    | 福田の34  | 1421   |
| J23    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 1.7     | 1.5     | 青    | 福田の35  | 1851   |
| J24    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 1.9     | 1.5     | 青    | 福田の36  | 1851   |
| J25    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 2.0     | 1.0     | 青    | 豊田の38  | 1851   |
| J26    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.0     | 1.5     | 青    | 豊田の37  | 1851   |
| J27    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 1.8     | 1.0     | 青    | 福田の41  | 1835   |
| J28    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 1.8     | 1.0     | 青    | 福田の45  | 1835   |
| J29    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の44  | 1835   |
| J30    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 1.7     | 1.0     | 青    | 福田の48  | 1835   |
| J31    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 2.0     | 1.0     | 青    | 豊田の49  | 1835   |
| J32    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.8     | 1.9     | 1.5     | 青    | 福田の39  | 1835   |
| J33    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 1.9     | 1.5     | 青    | 豊田の46  | 1835   |
| J34    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の47  | 1835   |
| J35    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 2.2     | 1.0     | 青    | 福田の42  | 1835   |
| J36    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の40  | 1835   |
| J37    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の43  | 1835   |
| J38    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.3     | 1.5     | 青    | 豊田の51  | 1419   |
| J39    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の52  | 2161   |
| J40    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.9     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の53  | 1387   |
| J41    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 1.8     | 1.0     | 青    | 福田の59  | 1810   |
| J42    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の55  | 1810   |
| J43    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の60  | 1810   |
| J44    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の54  | 1810   |
| J45    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の58  | 1810   |
| J46    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.3     | 1.5     | 青    | 福田の56  | 1810   |
| J47    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.5     | 1.5     | 青    | 福田の57  | 1810   |
| J48    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の61  | 1865   |
| J49    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の62  | 1865   |
| J50    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.7     | 2.3     | 1.0     | 青    | 福田の66  | 1896   |
| J51    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.8     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の68  | 1896   |
| J52    | 4号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 1.8     | 1.0     | 青    | 福田の67  | 1896   |
| J53    | 6号墳 | 玄室   | 滑石製白玉  | 9.5     | 14.0    | 3.0     | 無色   | 福田の69  | 2325   |
| J54    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製小玉 | 8.0     | 2.0     | 5.0     | 紺    | 福田の85  | 1724   |
| J55    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製小玉 | 7.5     | 5.0     | 1.0     | 紺    | 福田の86  | 2014   |
| J56    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製小玉 | 8.0     | 7.0     | 2.0     | 青    | 福田の87  | 2071   |
| J57    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製小玉 | 7.0     | 4.0     | 2.0     | 蔚青   | 福田の70  | 2325   |
| J58    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.0     | 1.0     | 青    | 福田の78  | 2325   |
| J59    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.0     | 1.5     | 青    | 福田の74  | 2325   |
| J60    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.5     | 1.0     | 青    | 福田の73  | 2325   |
| J61    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 2.5     | 1.5     | 紺青   | 福田の77  | 2325   |
| J62    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.0     | 3.5     | 1.5     | 紺青   | 福田の75  | 2325   |
| J63    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.5     | 2.5     | 1.5     | 紺青   | 福田の72  | 2325   |
| J64    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 5.0     | 2.5     | 2.0     | 紺青   | 福田の78  | 2325   |
| J65    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 5.5     | 3.5     | 1.0     | 紺青   | 福田の71  | 2325   |
| J66    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 6.0     | 3.5     | 1.5     | 青紺   | 福田の79  | 2382   |
| J67    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.5     | 2.5     | 1.5     | 青    | 福田の80  | 2062   |
| J68    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.5     | 2.5     | 2.0     | 紺青   | 福田の81  | 2062   |
| J69    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.5     | 1.0     | 紺青   | 福田の82  | 2056   |
| J70    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 3.5     | 2.5     | 1.0     | 青    | 福田の83  | 2056   |
| J71    | 6号墳 | 義道   | ガラス製管玉 | 5.0     | 4.0     | 1.0     | 紺青   | 福田の84  | 2051   |
| J72    | 6号墳 | 玄室   | ガラス製管玉 | 4.5     | 4.5     | 1.5     | 青    | 福田の88  | 2110   |

## 石 棺 計 測 表

| 法<br>量                        | 蓋 (cm)   |     |        |       | 身 (cm) |                      |        |       |       |        |      |
|-------------------------------|--|-----|--------|-------|--------|----------------------|--------|-------|-------|--------|------|
|                               | 長<br>さ   | 幅   | 高<br>さ | 平坦面指數 | 長(外法)  | 幅(外法)                | 高<br>さ | 長(内法) | 幅(内法) | 深<br>さ | 深さ指數 |
| 3号墳                           | 250  | 116 | 30     | 52.5  | 248    | 122                  | 103    | 210   | 84    | 82     | 79.5 |
| 7号墳                           | (残127)   | 83  | 29     | 41.6  | 208    | 79                   | 59     | 180   | 50    | 35     | 59   |
| 形態                            | 形態の特徴  |     |        |       |        | 石材                   |        |       |       |        |      |
| 3号墳<br>組合<br>0・4              | <ul style="list-style-type: none"> <li>石棺部材の組み方はA・Y式<sup>b</sup>、組み合せ技法は有段技法<sup>c</sup>をとる。</li> <li>部材は蓋石2枚、底石3枚、短側石2枚、長側石1枚、不明石材1枚で、厚さ18~20cm前後の板材からなる。</li> <li>長側石、不明石材は、3辺を外面部取り。</li> <li>短側石内面の長側石との接合部分には削り出しの突起があるが、用途は不明である。</li> <li>縫掛け突起は蓋と底石の長辺側の垂直面につき、底石では削り取る。</li> <li>短側石にも突起があるが、小さく蓋者であり、用途は不明である。</li> <li>底石には、不規則に深さ1~2cm程度の溝が刻まれる。</li> <li>各部材の接合面は、特になめらかに仕上げる。</li> </ul> |     |        |       |        | 蓋：流紋岩質軽石凝灰岩<br>底：凝灰岩 |        |       |       |        |      |
| 5号墳<br>剥抜？                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>印籠蓋の形態をとる。</li> <li>蓋の傾斜面から縫掛け突起がつく。</li> </ul>   |     |        |       |        | 軽石凝灰岩                |        |       |       |        |      |
| 7号墳<br>剥抜<br>0・3 <sup>d</sup> | <ul style="list-style-type: none"> <li>棺身・棺蓋とも2枚の部材からなるが、蓋は1枚尖う。</li> <li>蓋の長さの比率は約1:2で、玄門跡が短い。</li> <li>身の上面にはかすかな段があり、蓋の長さとほぼ一致する位置にある。蓋をのせた時の接合面の調節と思われる。</li> <li>身のつくりは雑で、特に縫掛け突起以下は調整が粗い。</li> <li>縫掛け突起は蓋と身の長辺側の垂直面に、ほぼ水平方向につく。</li> </ul>  |     |        |       |        | 蓋：小礫凝灰岩<br>身：凝灰岩     |        |       |       |        |      |

<sup>b</sup> 底石と側石の関係は、側石が底石の上にあるものをA式、側石が底石の外側にあるものをB式とする。また長側石と短側石の関係では、長側石の内側に短側石がくるものをX式、外側にくるものをY式とする。A・Y式は、罐内の組合式家形石棺の一特徴である。(和田清吾「罐内の家形石棺」1976年『史林』第59巻第3号)

<sup>c</sup> 段状に削った部材を組み合せる技法で、さらに(b)結合する一方にのみに段状の加工がある。(c)結合する両方に段状の加工があるものに細分される。(岡上)

<sup>d</sup> 囲轍地方の石棺の形態は、(0・3)、(0・1)型式といった、小口側に縫掛け突起を持たないものが多く、極めて在地色が強い形態である。(牧本哲雄「鳥取県における家形石棺について」1995年『第23回山陰考古学研究集会 古墳時代後期の棺—家形石棺を中心に—』研究報告發表資料より抜粋)

## 小畠古墳群一覧表

| 名 称                   | 1号墳            | 2号墳      | 3号墳            | 4号墳                     | 5号墳              | 6号墳                     | 7号墳              | 8号墳            |
|-----------------------|----------------|----------|----------------|-------------------------|------------------|-------------------------|------------------|----------------|
| 墳形                    | 円墳             |          | 方墳             | 方墳                      | 方墳               | 方墳                      | 方墳               | 円墳             |
| 墳丘規模<br>(直径または<br>一边) | 19m            |          | 27m<br>(復元推定値) | 22m                     | 25m              | 22m                     | 19m<br>(復元推定値)   | 11m            |
| 墳頂比の高さ                | 3.5m           |          | 天井石転落          | 3.4m<br>(床面から<br>天井石まで) | 4.9m             | 4.5m<br>(床面より<br>天井石上部) | 天井石転落            | 2.7m           |
| 周溝<br>規模              | 幅              | 不明       | 3m             | 南東側 5.4m<br>南西側 6.6m    | 1.3~3.5m         | 4.8m                    | 3.4m             | 検出せず           |
|                       | 深さ             |          | 0.4m           | 南東側 1.0m<br>南西側 1.4m    | 1m               | 0.6m                    | 0.4m             |                |
| 外護列石                  | 無              |          | 無              | 有、2段                    | 有、2段             | 有、1段                    | 無                | 無              |
| 石室形態                  | 左片袖式           | 左片袖式     | 左片袖式           | 両袖式                     | 両袖式              | 右片袖式                    | 左片袖式             |                |
| 主軸方向                  | 西に振る           | 西に振る     | N54.5° W       | N51° W                  | N50° W           | N51° W                  | N54.5° W         | N68.5° W       |
| 石室全長                  | 11.3m          |          | 12.2m          | 12.15m                  | 12.5m            | 13.2m                   | 10.3m            | 6.92m<br>(残存値) |
| 玄室                    | 長さ             | 5.5m     |                | 5.1m                    | 5.35m            | 4.9m                    | 4.7m             | 4.7m           |
|                       | 幅              | 1.55m    |                | 2.2m                    | 1.7~1.95m        | 2.1~2.3m                | 2.15~2.5m        | 1.8~2.3m       |
|                       | 高さ<br>(中高部分まで) | 2.9m     |                | 2.1m<br>(残存値)           | 2.5m<br>(中高部分まで) | 2.6m<br>(中高部分まで)        | 3.7m<br>(中高部分まで) | 2.05m<br>(残存値) |
| 羨道                    | 長さ             | 5.5m     |                | 7.1m                    | 6.8m             | 7.6m                    | 8.5m             | 5.6m           |
|                       | 幅              | 0.8~1.3m |                | 1.5~1.8m                | 1.35~1.7m        | 1.7~2.2m                | 1.5~1.9m         | 1.5~2.3m       |
|                       | 高さ             | 1.5m     |                | 1.5m<br>(残存値)           | 1.5m             | 1.7m                    | 1.8m             | 1.75m<br>(残存値) |
| 備 考                   |                | 未発掘      |                |                         |                  |                         |                  | 昭和54年<br>発掘    |

・1号墳データは、「鳥取県教育委員会古墳調査カード」による。

・8号墳データは、「小畠古墳群第8号墳発掘調査報告書」(1950)による。

## 天井石重量表

| 3号 填   |        | 4号 填   |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 石材 No. | 重量 (t) | 石材 No. | 重量 (t) |
| 1      | 7.2    | 1-a    | 1.6    |
| 2      | 14.2   | 1-b    | 0.6    |
| 3      | 1.5    | 2      | 1.6    |
| 4      | 14.0   | 3      | 6.0    |
| 5      | 10.0   | 4      | 1.5    |
| 5号 填   |        | 5      | 4.0    |
| 石材 No. | 重量 (t) | 6      | 2.0    |
| 1      | 8.0    | 7      | 1.2    |
| 2      | 10.0   | 8      | 未計量    |
| 3      | 31.0   | 6号 填   |        |
| 4      | 9.5    | 石材 No. | 重量 (t) |
| 7号 填   |        | 1      | 9.5    |
| 石材 No. | 重量 (t) | 2      | 5.5    |
| 1      | 3.0    | 3      | 7.0    |
| 2      | 6.0    | 4      | 9.3    |
| 3      | 4.5    | 5      | 4.2    |
| 4      | 2.0    | 6      | 3.2    |
| 5      | 2.5    | 7      | 9.0    |
| 6      | 6.0    |        |        |

石材Noは挿図10、19、25、35、43のNoと対応する。

小烟古墳群変遷表

|       | 3号墳 | 4号墳 | 5号墳 | 6号墳 | 7号墳 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| TK209 | ■   | ■   | ■   | ■   | ■   |
| TK217 | ■   |     |     |     |     |

## 第4章　まとめ

### 第1節 小畠古墳群の歴史

小畠古墳群はもともと周知の遺跡であり、1号墳は穴観音と呼ばれていて、地元の信仰の対象になっていたことは前の章でも述べた。地元のご高齢の方たちの間では、小畠古墳群の横穴式石室は人の住んでいた跡だと信じられていて、昔の墓だったとは思ってもみなかったと言われる人も多くいた。ここでは今回発掘調査に至るまでの小畠古墳群とその周辺の歴史について触れたいと思う。

#### 1. 古墳群の名前について

発掘調査中、本調査地は「おばたけふんぐん」と呼称していた。これは岩美町教育委員会の試掘調査報告書の記載に倣つものであったのだが、その後文献にあたればあたるほど、その名前と呼称に疑が生まれてきた。古墳群の字名は、大谷字小平野おおやじこひらのであり、周辺にも小畠という字名はない。そもそも小畠という地名は付近に存在しないのである。

管見によれば小畠古墳群が記録されたのは、大正13年（1924）11月刊行の「鳥取縣史跡勝地調査報告第二冊 因伯二國に於ける古墳の調査」が最初である。ここでは「岩美郡東部の古墳」の中の「大岩村の古墳」として記述されていて、「小畠古墳群」という名前はつけられていない。小畠古墳群として記載されるのは、昭和43年（1968）刊行の「岩美町史」であり、ふりがなは「こばたけ」であった。その次に昭和47年（1972）刊行の「鳥取県史 第1巻 原始時代」で『小畠（こばたけ）古墳群』として記載されている。その後年月を隔てて、昭和55年（1980）刊行の「小畠古墳群第8号墳発掘調査報告書」で『小畠（おばた）古墳群』として記載される。昭和58年（1983）刊行の「日本の古代遺跡9 鳥取」（保育社）で『小畠（おばたけ）古墳群』という記載が出てくる。昭和61年（1986）刊行の「鳥取県の古墳」（鳥取県埋蔵文化財センター）の記載では再び『小畠（おばた）8号墳』となる。そして平成11年（1999）刊行の「岩美町遺跡発掘調査報告書IV 小畠古墳群」（岩美町教育委員会）となる。

これによれば、小畠古墳群は初め、「こばたけ」と呼ばれていたが、8号墳の報告書で「おばた」という呼び方が現れる。「おばたけ」は前者2つの合成語のようにも考えられる。「古墳時代の鳥取県」は、小畠8号墳の報告書に従ったようである。学史的には「こばたけ」と呼ぶのが妥当と考えられるのだが、それが正しい読み方なのかどうか、名前の由来についてはどこにも記載がないために決め手に欠けた。

地元の人への聞き込み調査でも、名前の由来についての情報を得ることができずにいたが、報告書の編集中に、元岩美町役場職員で、郷土史研究家の故・澤貞治さんが生前に残した手記の存在を知り、その中に、小畠古墳群に関する記載を発見した。以下抜粋。

「石がまの思い出・・・七山（ママ、駒馳山）堤の東側の丘は、小字名を小平野とい。小さい不整形な堆がごちゃごちゃと壇上に並んでいることから俗に小畠（こばたけ）ともいっている。」昭和56年8月「雑記録ふるさとの書全16巻」第5巻 古墳

初めて名前の由来についての説明を得たのであるが、書かれた年が町史、県史よりも後であるから、澤さんの文書が町史を参考にして書かれた可能性がある。筆者はすでに亡くなられているので、裏づけをとることはできない。ただ、小畠の由来と、それが俗称であるとの説明をしているのは澤さんの記述のみである。

これらのことと総合的に判断し、「小畠」は古墳群一帯の俗称であり、「こばたけ」と呼ばれていたとの結論に達した。よって本調査地の古墳群の名称は「小畠古墳群」とする。

#### 2. 「因伯二國に於ける古墳の調査」の記述と発掘調査結果との比較

「因伯二國に於ける古墳の調査」（以降は「因伯二國」と略す）の報告書では、発掘調査は行われていないが、古墳の配置や石室に関する記述、石室平・立面の略測図と写真が掲載されている。ここで、小畠古墳群に関する

部分の記述を抜粋して掲載する。略測図は153ページの挿図93に掲載した。

「服部村の北方につづく大岩村にては、大字大谷の地内の海岸に聳ゆる駒馳山の東麓に近く一群の古墳ありて、山陰線の車窓よりもこれを望見し得可く、内に石室の構造の見る可き類を含めり。今ま同地に墳形を遺存するもの6個あり、塚の周囲を開墾せるが為に封土削られて形を損し、何れも横穴式石室の方向に長き楕円状をなすも、もと径五六十尺（15～18m）、高さ十四五尺（4.2～5.4m）の円丘なりしが如く、内三個の石室はほぼ其の原形を遺存せり。図版第四九に示すは其の実測図にして（一）は長さ約四十尺（12m）、高さ十三尺（3.9m）の封土の中央にありて、総長三十六尺（10.8m）、所謂両袖式の平面を有するもの、其の二は前者に隣りて現存封土の大きさ相似たるも平面形は簡単なる矩形にして、幅約四尺（1.2m）に対し長さ二十八尺（8.4m）に達する細長き構造なるを異なりとす。第三は東方の畠地にあるものにして、羨道部は埋もれたるも、天井石及び側石を露出して其の間隙より内部に入るを得可く、これは平面片袖式に属し、架構優れたり。三者ともに入り口東南向して、天井部は前後より石材を挺出して中央部にて最高を示す式に依り、第二のもの其の特徴最も顕著なり。

同地に於ける穴観音を安置する穴また同じ円形古墳の石室にして、全長三十七尺（11.1m）（室内の長さ十七尺（5.1m））に対し、室の幅5尺（1.5m）、最高部十一尺（3.3m）あり、極めて細長き平面と高き立面とをする点にて内地の石室中は稀らしきものなり。」（1尺=30cmで換算）

発掘調査結果に基づき、記述内容の検討を行う。まず、「墳形を遺存するもの6個あり」これは2号墳～7号墳の6基のことと指している。次に、「内三個の石室はほぼ其の原形を遺存せり」とあるが、これがどの石室のことを指していたのか。最初に挿図の誤りについて述べる（153ページ参照）。4つの石室実測図が縦に並べられている。上から「穴観音石室」「駒馳山第三号石室」「第二号石室」「第一号石室」となっているが、これは誤植で、「駒馳山第一号石室」「第二号石室」「第三号石室」「穴観音石室」が正しい。

整理すると、

- ① 第一号石室は両袖式の平面を持つ。
- ② 第二号石室は第1号の隣で、無袖式の平面を持つ。
- ③ 第三号石室は東方の畠にあり、羨道は塞がるが横から入れる。片袖式。
- ④ 3つとも南東側が開口する

石室実測図で検討すると、第一号石室の天井配石は6号墳、第二号石室は4号墳を示し、これは間違いない。第三号石室については、左片袖の3号墳は天井石がなく、しかも左側壁の石材の配置が異なるため、調査した古墳には当てはまらない。今回調査をしなかった2号墳は、羨道がふさがり、天井石は残っていたが右側壁は崩落していた。平面形が不明だが、3号墳と同様の南東に開口する石室である。従って第三号石室は2号墳である。

6号墳（＝第一号石室）と4号墳（＝第二号石室）は北西側に開口し、2号墳（＝第三号石室）は西方に位置する。「因伯二國」の記述のほうに方位に関する誤りがあると考えられる。

「内三個の石室はほぼ其の原形を遺存せり」という記述があるが、4、6号墳は調査前、石室の右側が開口し、天井石が傾いていた。6号墳（＝第一号石室）と4号墳（＝第二号石室）、1号墳（＝穴観音）の側壁の記録がないのに、2号墳（＝第三号石室）の立面図に側壁材が記録してあるのは、2号墳以外は入り口しか開いていたために内部が暗くて様子がわかりにくかったせいだと考えられる。4、6号墳の側壁の開口は昭和に入ってのことであろう。また、3、7号墳は当時から流入土、礫が充満し、5号墳は入り口が塞がって石室の中に入ることができなかつたことが推測される。

## 第2節 古墳群の変遷

小畠古墳群の造営開始時期、石室の利用期間を示す方法として、出土した須恵器の編年の型式名を用いて行う。編年組成には坏蓋を使用し、編年は田辺昭三氏の陶邑古窯址群の編年を使用する。

まず坏蓋の分類を行う。

坏蓋A (Po61、62など) TK209前半

口径13cm前後。口縁端部は垂下し、肩部に沈線を引き稜をつくる。口縁端部内側に沈線を入れる。

坏蓋B (Po114、119など) TK209前半

口径13cm前後で、器高は高く、肩部に沈線を引いて稜をつくりだすもの、稜をつぐらないものがある。

坏蓋C (Po24、158など) TK209後半

口径12.5cm前後。坏蓋Bの肩が落ちたもの。

坏蓋D (Po 9、126など) TK209後半

口径12~14cm。天井が平らで口縁を屈曲させて稜をつくるもの。

坏蓋E (Po 7、127など) TK209前半~後半

口径12cm前後。口縁端部を外反させる。

坏蓋F (Po168、170など) TK217前半

口径11cmと小径。天井が丸い。

坏蓋G (Po19) TK217後半

かえりを持ち、輪状のつまみを持つ。

坏蓋Aの、小径化しながらも稜を肩部に残す坏蓋は、出雲地方の特色であり、搬入品の可能性があるとの指摘を受けている。ほかにも有蓋高坏Po150、提瓶Po249、疊Po196などが出雲からの搬入品の可能性を持つものである。これらの土器は墳丘上、墳壙など石室外で多く出土する。古墳築造後の早い段階に祭祀用の土器として用いられたようである。坏蓋Bは稜を作り出すものを古い要素とみなした。墳丘の切りあい関係から判断して、6号墳は4号墳よりも造られた古墳である。

以上に基づいて古墳の変遷を示したのが146ページの表である。6世紀末に造営が始まり、7世紀台まで使用された古墳群である。その後古代、中世、近世と、人が出入りし続けた。「いしがまは人の住んでいた跡」という地元の伝承もあながち間違ひではないようである。

### 第3節 墳丘と石室構造

ここでは墳丘と石室の調査結果を総合し、特色と規格性について検討する。

#### 1. 墳丘施設について

##### 形状と規模

調査した5基の古墳はすべて方墳の範疇に入るものだった。このような言い方をする理由は、3号墳と7号墳の墳丘の南側隅が角を持たないことによる。南西側の周溝が直線であることから円墳ではなく方墳としたが、周溝の巡る形状だけ見れば多角形墳と言えなくもない。そうしなかったのは、墳丘の北西側と北東側が調査区域外のために不明だからである。もっとも3号墳の北西側は溜池掘削のために切り崩され、北東側は2号墳と隣接している。7号墳の北西側は畠地造成で切り落とされ、北西側は地山面まで削られている。2号墳の調査が行われれば、3、7号墳の墳丘形態の手がかりを掴むことが可能となろう。平面規模は石室中心線から南西側周溝までの距離を倍にして出すと27mとなり、古墳群中最大である。7号墳も同様に計算して19mとなる。5号墳は南東側が調査区域外であったため、奥行き長は不明だが、幅長は25mである。4号墳は奥行き長が22mあるが、北東側が6号墳と連続するため幅長がわからなくなっている。石室中心線から南西側周溝までの距離を倍にして出すと22.8mとなる。6号墳は奥行き長が22m、幅については南西側が4号墳と連続し、北東側は耕作に伴う溝掘で削平されているが、東隅が生きているとすれば復元幅は23.6mとなる。

##### 墳丘基底面

石室主軸の向きを墳丘の傾斜に直交させるように、4~6号墳は等高線に並行する向きに地山を掘削して、石室掘削を造る。その深さの基準は石室の腰石であり、山手のほうの肩の高さを腰石の高さにあわせている。3号墳は部分的に浅い掘り方を検出した。周囲の地形から見ても、かつて腰石の高さまで地山があったとは考えにく

い。地形に制約されて浅い掘形しか造れない代わりに、大型の石材を裏込石に使って石室を支えたと考えている。周溝

山手側で明瞭に残る。4号墳南東側の周溝は南西側の周溝底面の高さよりも深くなっている。これは6号墳築造時に掘り直したものと判断したが、この深くなっている部分は須恵器や50cm大の縁を含む、地山と同質の土で埋まっていた。これが人為的なものかどうかは判断できなかった。周溝内の埋土は、下層が土器などを含む層で、その上に転落した外護列石、埴丘盛土、山手側からの土砂の流れ込みが堆積している。4号墳南西側周溝の底面からは多数のピットと土坑を検出した。転落した外護列石よりも下からの検出であるから、古墳築造当時以前のものであることが推察できる。

### 盛土

側壁石材や天井石材の架構と平行して、盛土の積み上げを行う。側壁石材を、目地を合わせて積み上げた後、その高さまで土を盛り上げる。大まかには橙色系、黄白色系、黒色系の3色に分かれ、これらが互層状に堆積して単位を作る。山手側は比較的水平に堆積し、下手側は傾斜をつけた堆積になっている。地山面と盛土層の境に、川原で採集されたような丸い小砾の層が挟まれているのを4号墳と5号墳で確認した。遺物は出土しなかった。整地の意味を持つと思われるが、作業の足場をよくしたものかは不明である。

### 列石

4～6号墳では埴丘の前面と側面で、外護列石と呼称する列石を検出した。4号墳は入り口のある北西側に1列、北東側に2列ある。5号墳は北西側に2列、北東側に1列、南西側に2列が残る。6号墳は北西側にわずかに数石残る。1列目は石室羨門の左右に石垣状に積み上げ側面を周る。2列目は一番手前の天井石の縁からはじまり側面を周る。列石の立ち上がりは4号墳の北東側を見ると、垂直に近い状態であり、埴丘との間には裏込土が入れてある。2段築成の埴丘の外側が、上下2段、高さ1m程度の石垣状に積み上げた列石で装飾されていた様子が復元できる。4号墳の北西側と北東側の1列目の基底部の高さに差があるが、上面の高さを合わせていたと考えられる。5号墳については埴丘の内部にも列石が存在した。地山直上に乗り、外面の1列目の列石よりも1.8m奥に位置する。この内部列石の取り付く石室側壁材よりも手前側の石室石材は小さく、積み方も乱雑で、付け足したような印象を受ける。築造当初は内部列石の位置を墳端としていたが、設計変更で石室長を延長したことによって列石が盛土の中に埋め込まれたのではないかと考える。

### 2. 横穴式石室の形態と構築過程

#### 形態分類

石室の平面形と規模から分類を行う。平面形では片袖式と両袖式に分かれる。

片袖式は1号墳、2号墳、3号墳、7号墳、8号墳の5基であり、いずれも南東側に開口する。袖の位置では7号墳のみが右につき、残りはすべて左袖である。石室幅では1、8号墳の1.5m前後、2～7号墳の2m前後に分かれる。

両袖式は4号墳、5号墳、6号墳の3基であり、いずれも北西側に開口する。

まず注目すべきは片袖群と両袖群の古墳群内における占地である。両者は3号墳と4号墳の間の墓道状の空間を挟んでくつきりと北西側、南東側に分かれる。さらに両者の開口方向は向かい合せとなっている。片袖の中では玄室幅の狭い1、8号墳が溜池の対岸に立地する。

#### 構築過程

掘形の中に奥壁の石材を、埴丘の中心よりも奥にずらして設置する。側壁材は奥壁材を挟むように配置する。玄室に用いられる石材は古墳によって異なる。つまり3、6、7号墳の腰石は自然石の平坦な面を内側に向けて配置するのに対して、4、5号墳は幅約2cmのノミで表面を加工された板状の切石を立てて囲うように組み合わせるのである。そのため4、5号墳は構造的に弱く、土圧と石材重量によって壁面が内側にせり出していた。

側壁材は奥壁材の高さに目地を合わせ、羨道から玄室まで通して2～3段を積み上げる。左右の高さの調整のために、小ぶりな縁を上段に並べるものもある。この高さで羨道壁と奥壁上に天井石を載せる。この天井石の上

面の高さに合わせて、玄室側壁材を積み上げる。側壁材と天井石にかけて、さらに天井石を重ね、この天井石の厚さに合わせて側壁材を積み上げる。こうして天井石を持ち送りにして階段状に積み上げる。石材同士の隙間には薄い礫片や小礫を詰め、隙間は外から粘土で目張りをする。天井石の数は古墳によって異なるが、これは使われた石材の大きさに左右されるものと考えられる。重量についてわかるものは145ページの表に記載した。

3号墳石室内の整地層の下から、壁材に沿うように直径、深さとも30cm程度のビットを検出した。石室を構築するときに、内側に組んでいた骨組み・足場を立てるための穴ではないかと考える。

#### 排水施設

4号墳と6号墳の渠道で検出した。石室構築後に行われる床面整地作業後に溝を掘り、礫を組んで作られた。4、6号墳の掘形の底面が湧水層よりも深くなつたため、この設備が必要だった。

#### 埋葬形態

今回の調査では3、5、7号墳から家形石棺が1基ずつ、6号墳から家形石棺の棺材らしき破片が出土した。いずれの古墳からも釘が出土し、出土遺物にも時期幅があることから追葬が行われたことは想定できるが、片付け行為や盜掘を含む後世の侵入によって石室内が搅乱され、出土レベルの上下が遺物の新旧を示すものではなく、埋葬面の検出は困難を極めた。

#### 砂床・礫床

3号墳は玄室に砂を敷き詰めた上に石棺を置いている。この砂の下から検出したビットは、石棺を組み立てる作業に使用したものではないかと考えている。6号墳は第2次埋葬面に礫床が作られているが、後世の破壊による起伏が激しい。7号墳は玄室中央に礫床を敷き、その上に家形石棺を据える。

#### 赤色顔料

3号墳の玄室から渠道にかけて、特に家形石棺の前半分の周辺に赤色顔料を多く検出した。破壊された石棺材の長側面外表面にも付着していたことから、石棺が塗彩されていた可能性がある。赤色顔料は4号墳では玄室床面で、5号墳では渠道床面で検出した。分析の結果これらは酸化鉄であることが判明した。

#### 閉塞施設

すべての古墳で検出した。3号墳の閉塞石は特に残りがよく、山の頂上が渠道の天井付近まで達していた。人頭大の礫が使われていたが、下層は10~20cmの大いな小礫が使われており、追葬で使う石材を替えたことを伺わせる。4号墳は渠道いっぱいに閉塞石が広がるが、これは後世の搅乱に伴うものであった。

#### 祭祀

3号墳の前庭部から4号墳の前庭部にかけての広い範囲では角礫を多く検出し、礫の上や礫の中から多くの須恵器の破片が出土している。この部分は当時の墓道であったと考えられ、祭祀に使われた土器が破碎され、撒かれたり、流れたりしたものであろう。古墳の正面や外護列石の埋土中からは特に多くの完形品に近い土器が出土している。5号墳の墳丘上と7号墳の入り口近くの周溝肩部からの出土もあり、これらは祭祀が行われたことを示していると考える。

#### 3. 使用尺度の検討

小畠古墳群における各古墳の形態と立地には規則性があることは前に触れた。各古墳の初現時期を示す遺物にはほとんど時期差がないことから、立て続けに、あるいは並行して築造された様子が想像される。狭い範囲でこれだけ多くの古墳を築造するには何らかの基準が必要と考える。ここでは7世紀代に使用されていたとされる高麗尺と唐大尺を使って検討してみた。

高麗尺1尺は約35.6cm、唐大尺1尺は約29.7cmとされている。10尺単位の方眼を作り、古墳群に当てはめてみたところ、唐大尺の使用で多くの一致をみた。4号墳の北東側と北西側外護列石に軸をあわせると、4号墳と6号墳を合わせた墳丘、4号墳・6号墳の石室軸、5号墳の墳丘、外護列石、石室軸が一致した。3号墳と7号墳は一致しなかった（挿図96）。しかし同じ唐大尺を3号墳の石室軸にあわせると、3号墳の周溝はもちろん7号墳の石室の軸と一致した。つまり、両袖式を採用した集団と、片袖式を採用した集団は同じ尺度を使っているが

#### 第4章　まとめ

ら異なる基準に沿って古墳を築造したのである。その基準は何かといえば、やはりそれぞれの集団が最初に造った古墳ではないかと考える。

次に石室平面プランに唐大尺を当てはめると、石室の奥壁の幅は3号墳、5号墳、6号墳が7尺、4号墳、7号墳が6尺、8号墳が5尺となる。「因伯二國」の記載を参考にすれば、1号墳は5尺、2号墳は7尺となる。

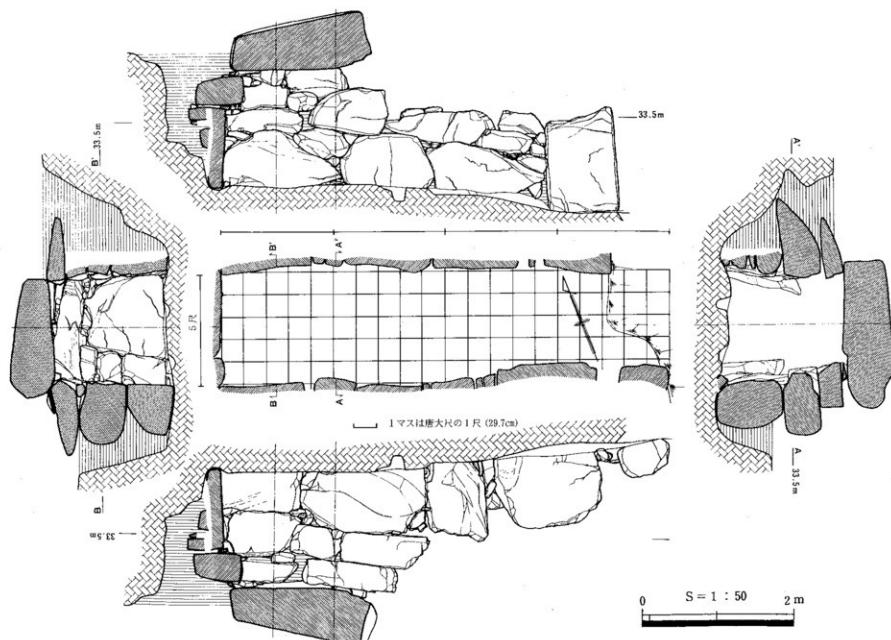
奥壁の幅を1単位として石室内を方眼分割すると（挿図97、98）、玄室長が奥壁幅の3倍数となる4号墳を除けば、単位として成立するものはないが、側壁の目地の高さが6尺前後に揃ってくるなど、石室構築の基準にも使用されていたと考えられる。

#### 第4節　おわりに

2年にわたる小畠古墳群の調査は、本報告書の刊行をもって終了する。調査した古墳はもう現地には存在しないが、5号墳は鳥取市布勢総合運動公園内に移築保存された。3号墳の石室石材は、岩美町の大谷池内に移築される日を待っている。小畠古墳群に関わったすべての人たちに、最後にもう一度感謝の意を表します。

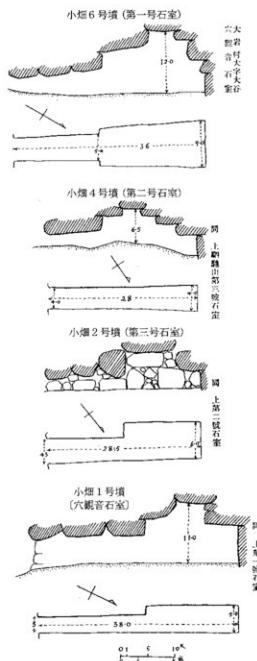
皆さん、ありがとうございました。

小畠8号墳実測図

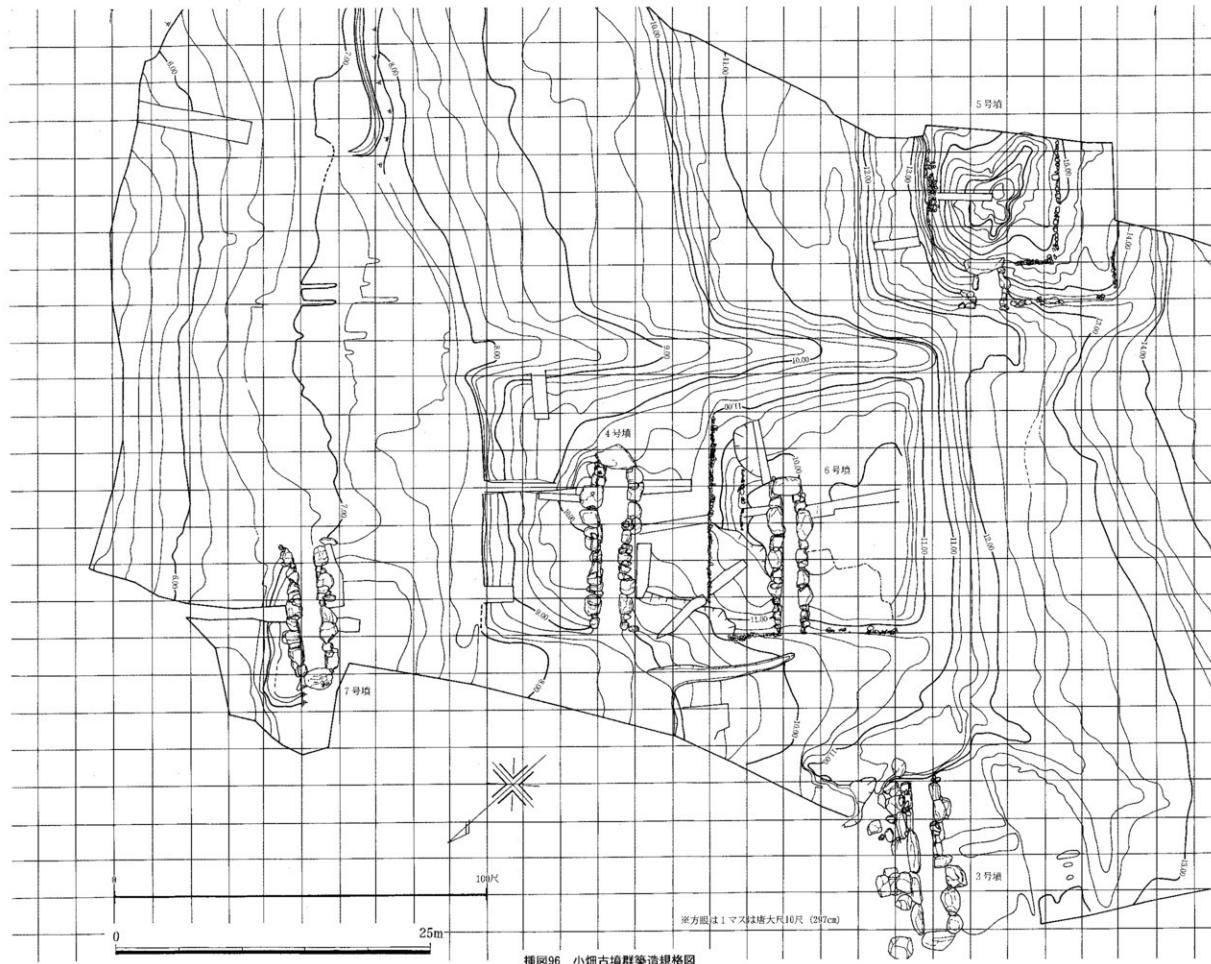


小畠古墳第8号墳実測報告書 1980年  
岩美町教育委員会より転載、一部改変

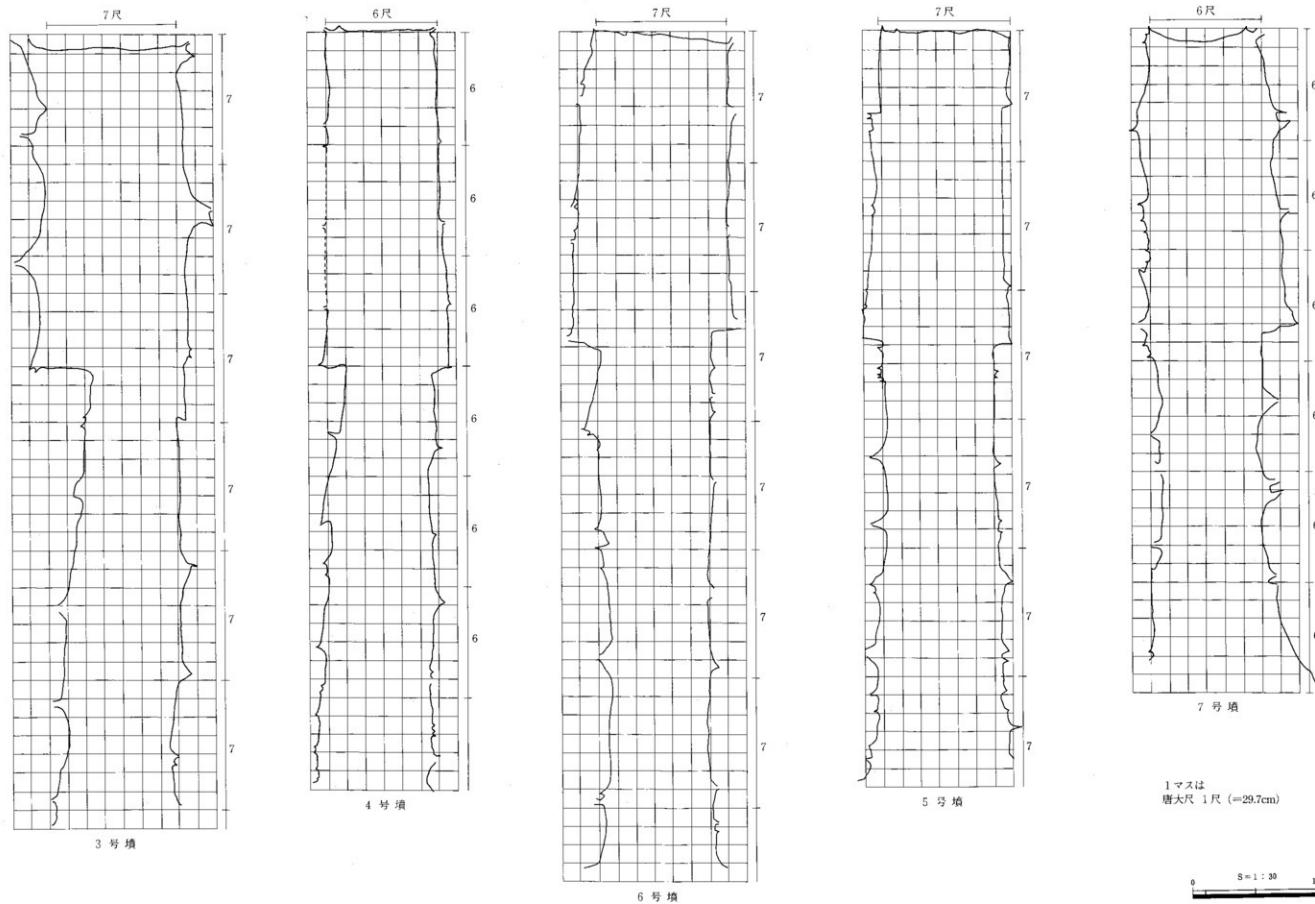
各古墳略測図



挿図95 小畠8号墳実測図・各古墳略測図



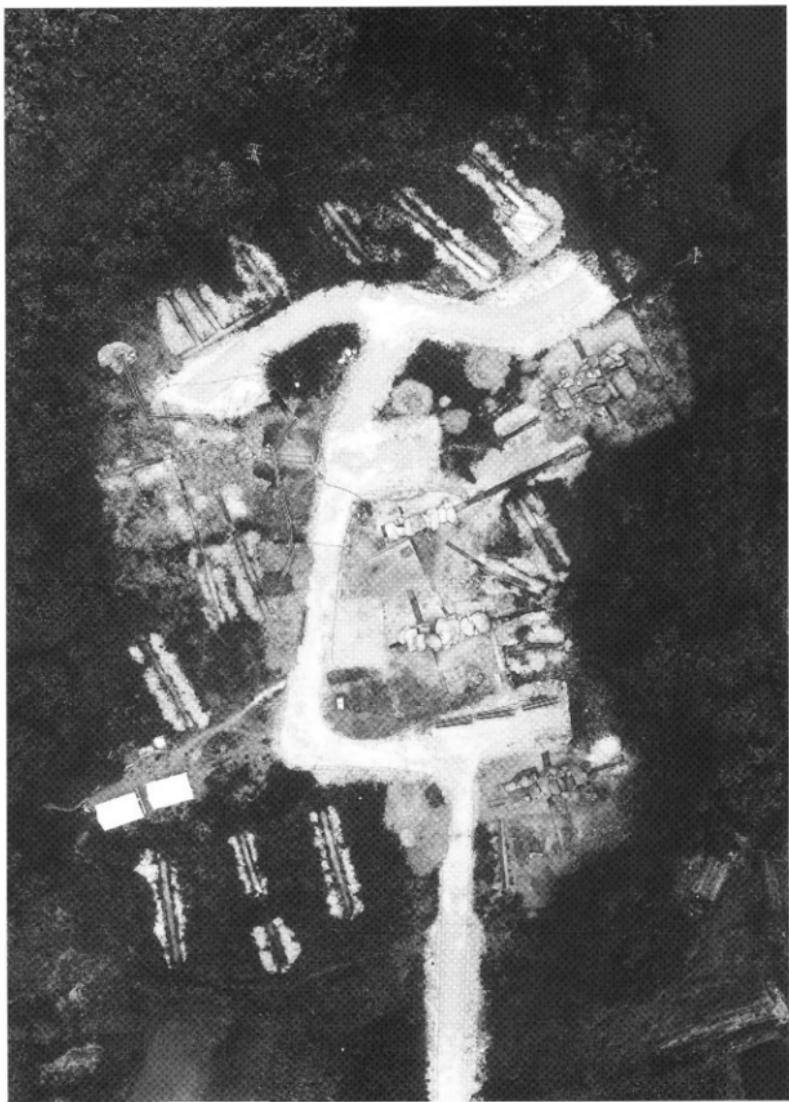
挿図96 小畠古墳群築造規格図



挿図97 各古墳平面プラン規格図

図版（遺構篇）





調査範囲

PL.2 小畠3号墳



1. 調査前（南から）



2. 天井石除去前（南から）



1. 天井石除去前（南東から）



2. 墳丘全景（南から）

PL.4 小畠3号墳



1. 前庭部（南東から）



2. 前庭部 土器出土状況（南西から）



1. 家形石棺出土状況（北西から）



2. 家形石棺出土状況（南東から）

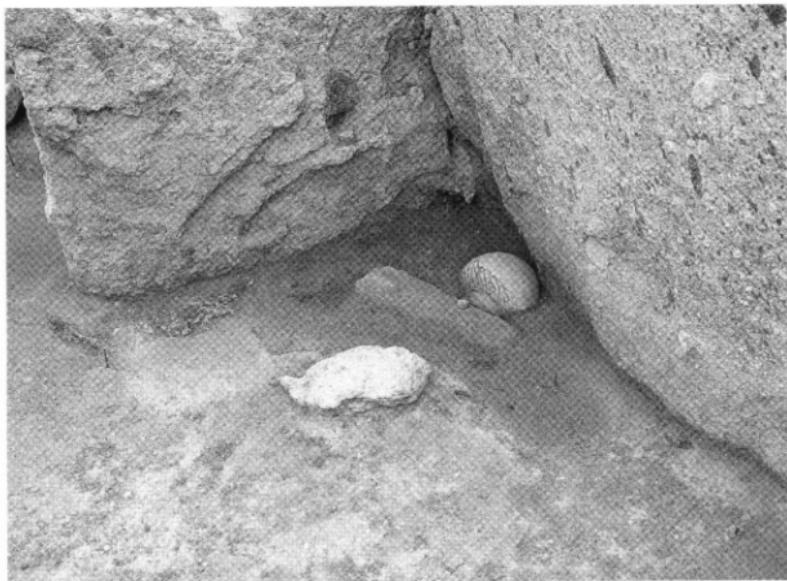
PL.6 小畠3号墳



1. 石棺前 漢物出土状況（北西から）



2. 玄門 鉄製品出土状況（北から）



1. 玄室袖部 遺物出土状況（北から）



2. 羨道 遺物出土状況（北から）

PL.8 小畠 3号墳



1. 羨道 閉塞状況（北西から）



2. 羨道 閉塞状況（北から）

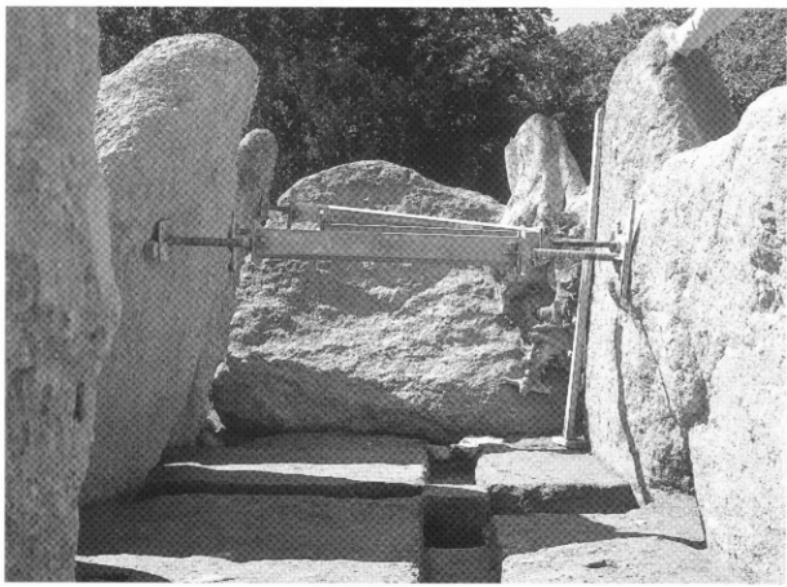


石棺床材と玄室底面ピット検出状況（北西から）

PL.10 小畠3号墳



1. 石室玄門（北西から）



2. 石室奥壁（南東から）

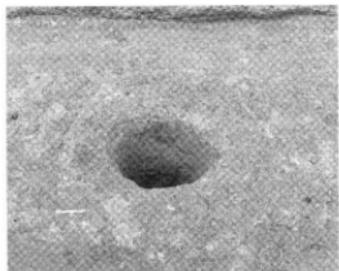


石室全景（南東から）

PL.12 小畠 3号墳



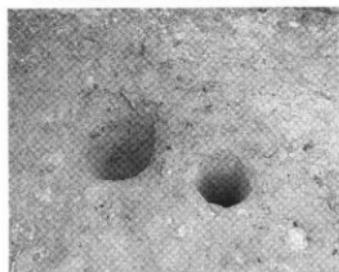
玄室底面ピット（北西から）



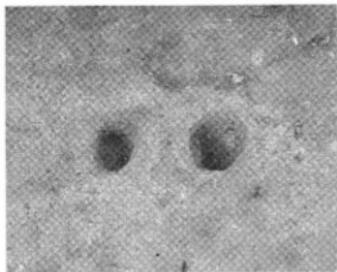
1. 玄室底面ピット3-P1 (東隅・南西から)



2. 玄室底面ピット3-P2 (南隅・北東から)



3. 玄室底面ピット3-P4, 5 (北隅・南西から)



4. 玄室底面ピット3-P3, 6 (西隅・北東から)



5. 石室石材除去後 (北西から)

PL.14 小畠4号墳



1. 調査前（西から）



2. 調査前（南西から）



1. 天井石除去前（西から）



2. 側壁石材崩壊状況（南西から）

PL.16 小畠4号墳



1. 墳丘全景（西から）



2. 北東・北西側外護石転落状況（北から）



1. 南西侧周溝内縁出土状況（南から）



2. 南東側周溝内縁出土状況（南西から）

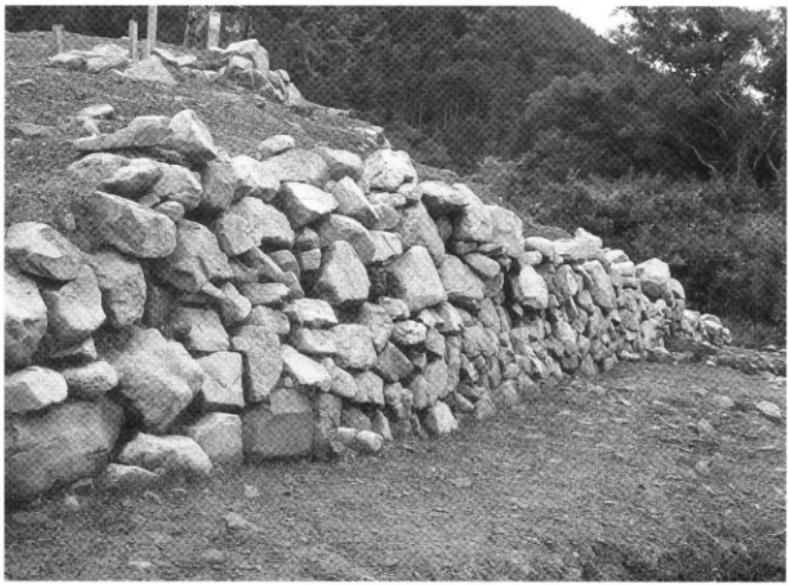


3. 北東側外護列石（東から）

PL.18 小畠4号墳



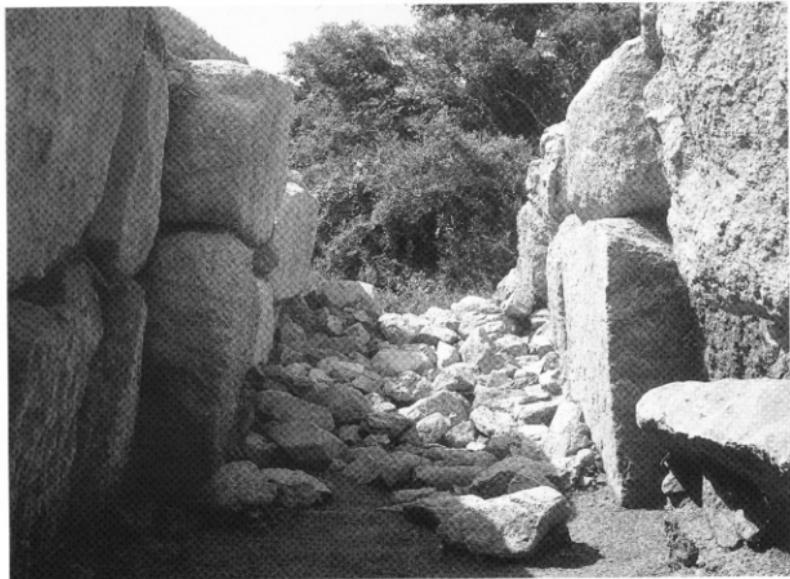
1. 北東側外護列石（北東から）



2. 北東側外護列石（東から）



1. 北東側外護列石（北東から）



2. 羨道閉塞状況（南東から）

PL.20 小畠 4号墳



1. 羨道 閉塞状況（北西から）



2. 閉塞石中須恵器出土状況（西から）



3. 閉塞石下須恵器出土状況（南東から）



4. 羨道 排水施設検出状況（南西から）



5. 玄門 須恵器出土状況（南から）



1. 排水施設 蓋石除去後（北西から）



2. 石室と北西侧外護列石（北西から）

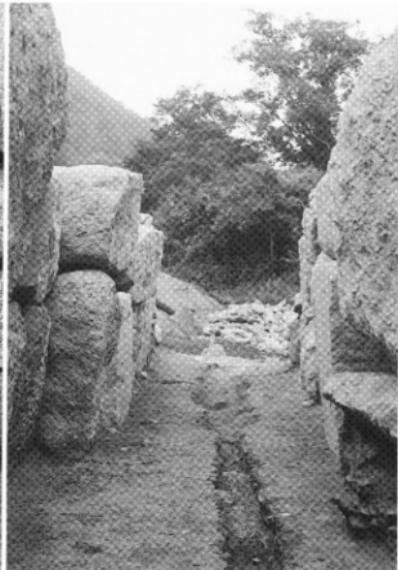
PL.22 小畠 4号墳



1. 石室玄門（北西から）



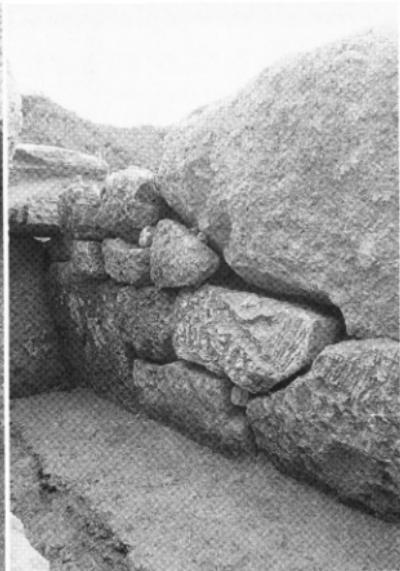
2. 石室奥壁（北西から）



3. 石室玄門（南東から）



1. 玄室左奥（西から）



2. 玄室右側壁（北から）



3. 玄室右袖部（東から）



4. 玄室左袖部（南から）

PL.24 小畠4号墳



1. 石室掘形（南東から）



2. 南西側周溝内 ピット群（南東から）



3. 石室掘形（北西から）



墳丘全景（東から）

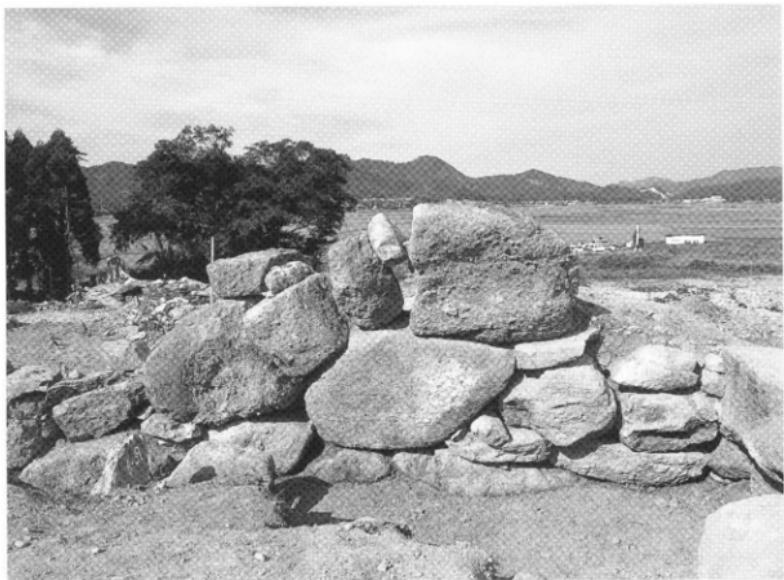
PL.26 小畠 6号墳



1. 表土除去後（南西から）



2. 側壁石材崩壊状況（南東から）



1. 左側壁（南西から）



2. 玄室（西から）

PL.28 小畠 6号墳



1. 閉塞石（南東から）



2. 玄室襖床と石棺材（南東から）



3. 左袖襖床（南から）



排水施設 検出状況（北西から）

PL.30 小畠 6号墳



1. 葦道 排水施設（北西から）



3. 右袖部ピット内須恵器（南東から）



4. 排水施設 支流1（南東側・北東から）



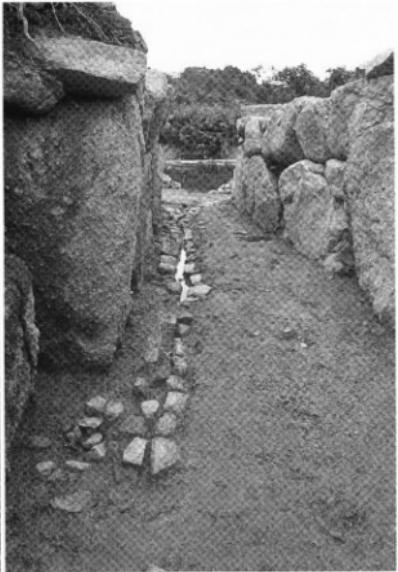
2. 前庭部 排水施設（北から）



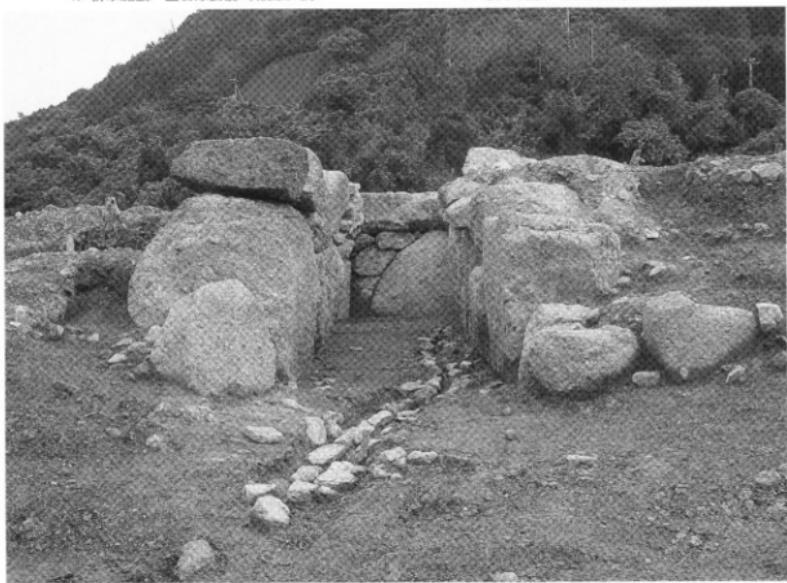
5. 排水施設 支流2（北西侧・北から）



1. 排水施設 蓋石除去後（北西から）

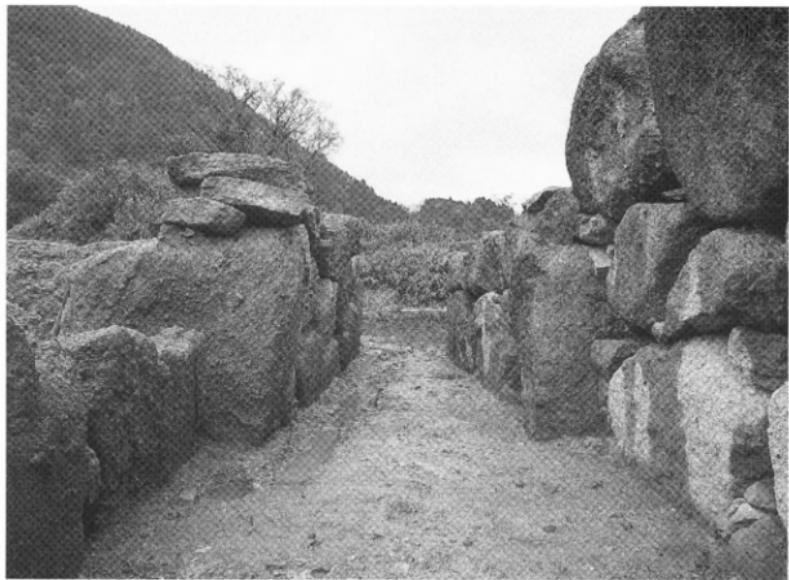


2. 排水施設 蓋石除去後（南東から）



3. 石室羨門（北西から）

PL.32 小畠6号墳



1. 石室玄門（南東から）



2. 石室奥壁（北西から）



1. 玄道 右側壁（東から）



2. 玄道 左側壁（南から）



3. 玄室 左側壁（西から）



4. 玄室 右側壁（北から）

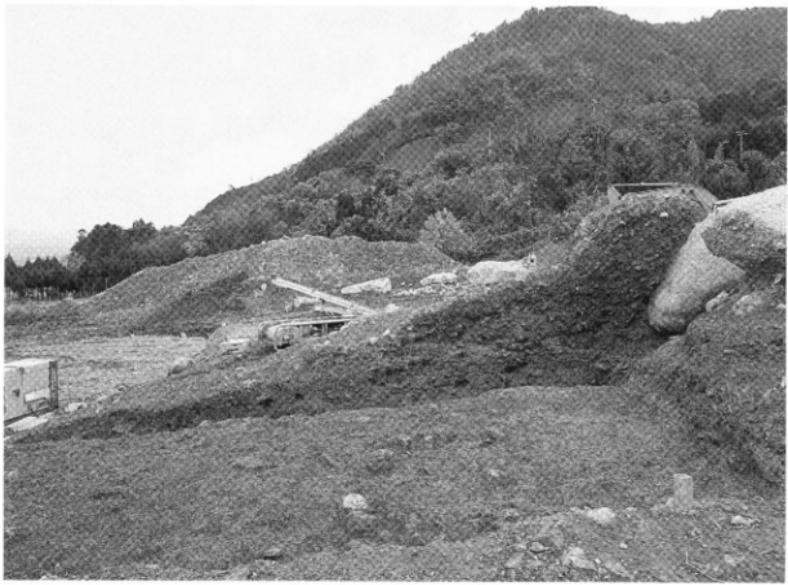


5. 石室奥壁の背部（南から）

PL.34 小畠 6号墳



1. 南西側盛土断面（北西から）



2. 北東側盛土断面（北西から）

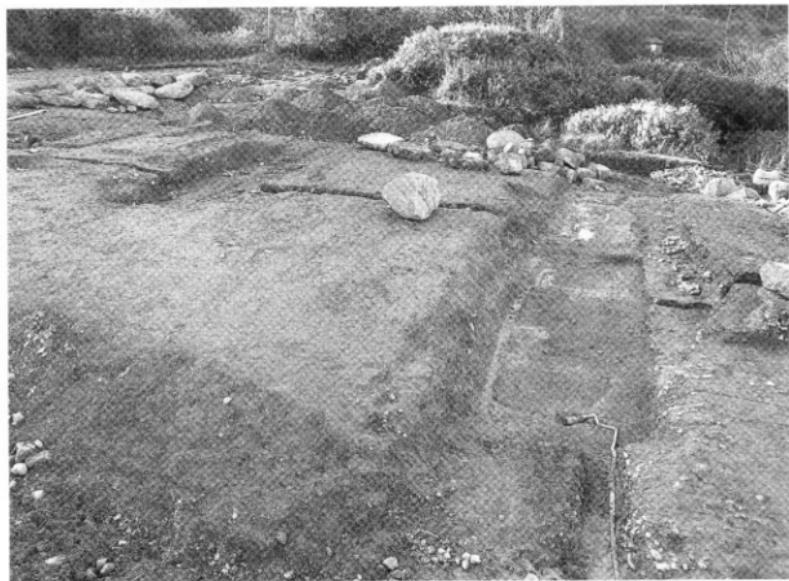


1. 石室掘形（南東から）



2. 石室掘形（北西から）

3. 石室掘形（南東から）



4. 4号墳・6号墳 石室掘形（東から）

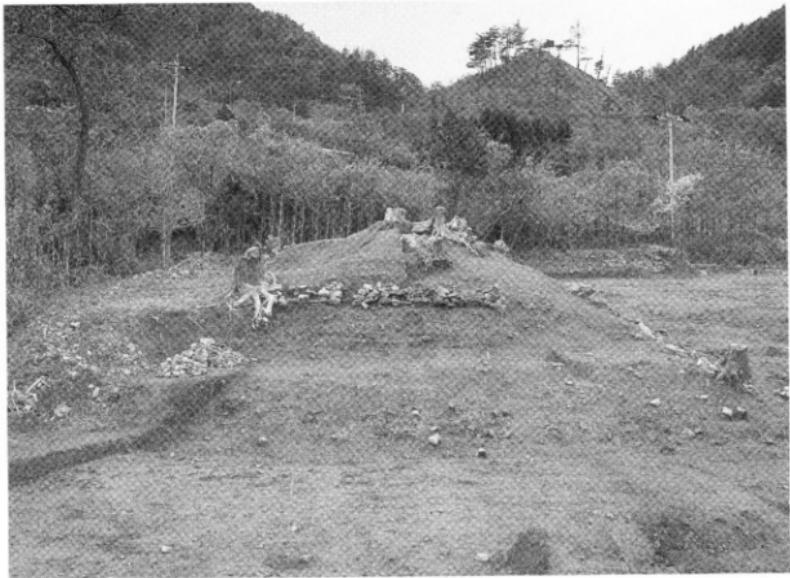
PL.36 小畠5号墳



1. 調査前（北西から）



2. 墓丘全景（北西から）



1. 墳丘全景（北東から）



2. 墳丘全景（南西から）

PL.38 小畠5号墳



1. 南西侧外護石転落状況（西から）



2. 南西侧周溝内縁出土状況（北西から）



1. 玄室 調査前（北西から）



2. 塞道 閉塞状況（南東から）

PL.40 小畠5号墳



家形石棺出土状況（北西から）



1. 羨道 閉塞状況（北西から）



2. 家形石棺出土状況（東から）



3. 家形石棺出土状況（南東から）



4. 天井石除去後（南から）

PL.42 小畠 5 号墳



1. 石室奥壁（北西から）



2. 石室玄門（南東から）



1. 玄室 左側壁（西から）



2. 玄室 右側壁（北から）



3. 羨道 右側壁（東から）



4. 羨道 左側壁（南から）



5. 羨道 左側壁（西から）



6. 羨道 右側壁（北から）

PL.44 小畠5号墳



1. 墓丘除去後（北西から）



2. 墓丘内石検出状況（北から）



1. 墳丘内列石（北西から）



2. 石室壁面加工痕（北東から）

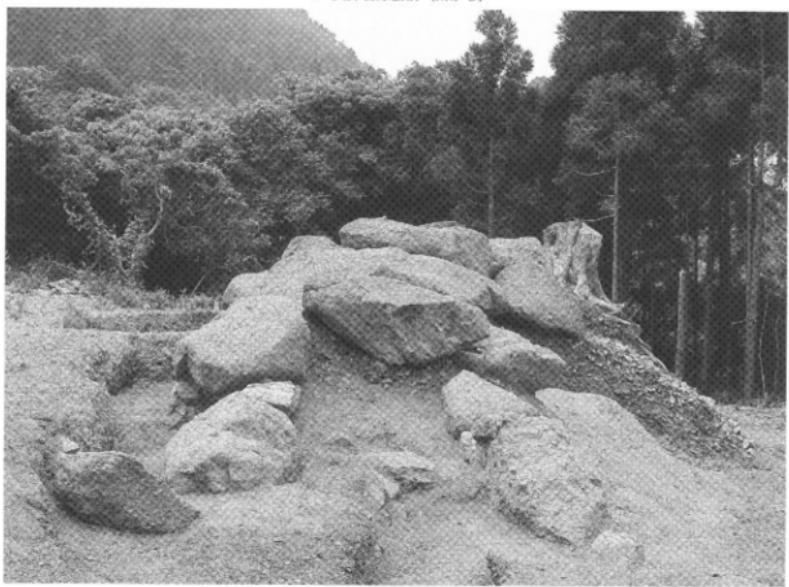


3. 石室掘形

PL.46 小畠 7号墳



1. 天井石除去前（南から）



2. 天井石除去前（南東から）



1. 家形石棺出土状況（東から）



2. 家形石棺出土状況（西から）

PL.48 小畠7号墳



石室内 遺物出土状況（北西から）



1. 左側壁際 須恵器出土状況（南東から）



2. 左側壁際 遺物出土状況（北西から）

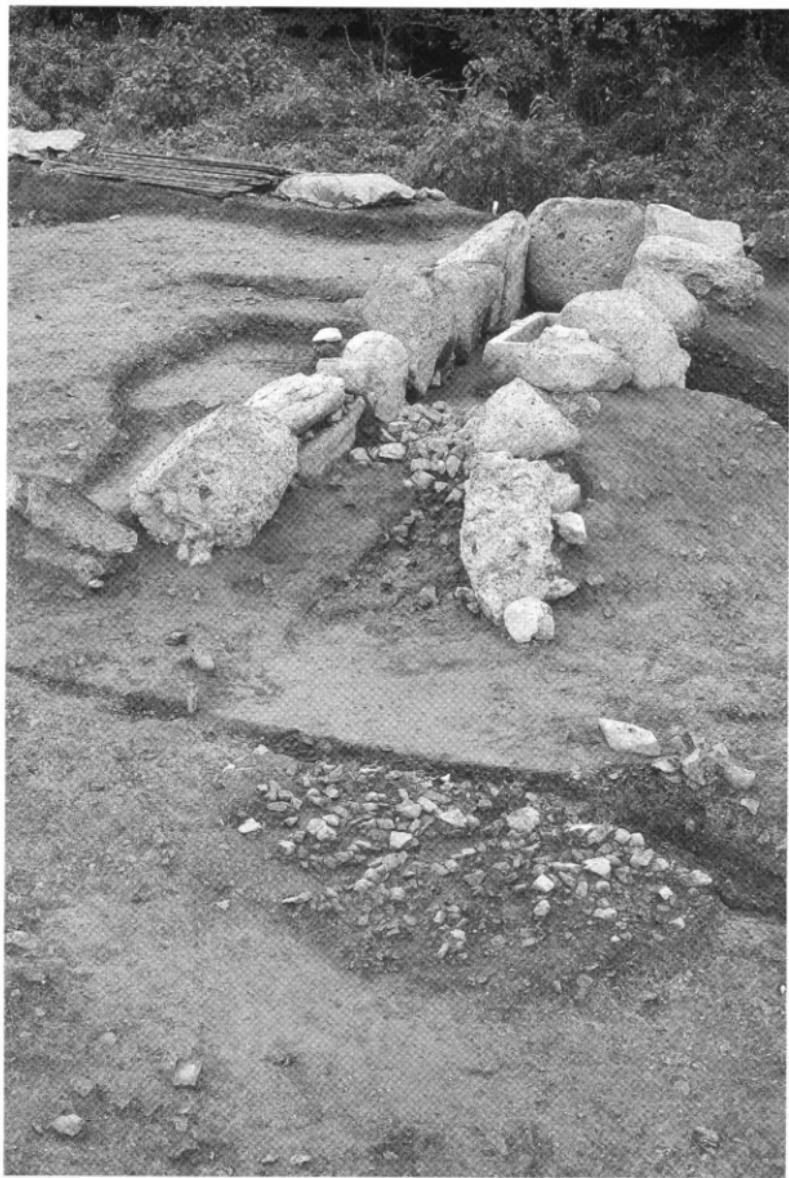


3. 右側壁際 馬具出土状況（南東から）

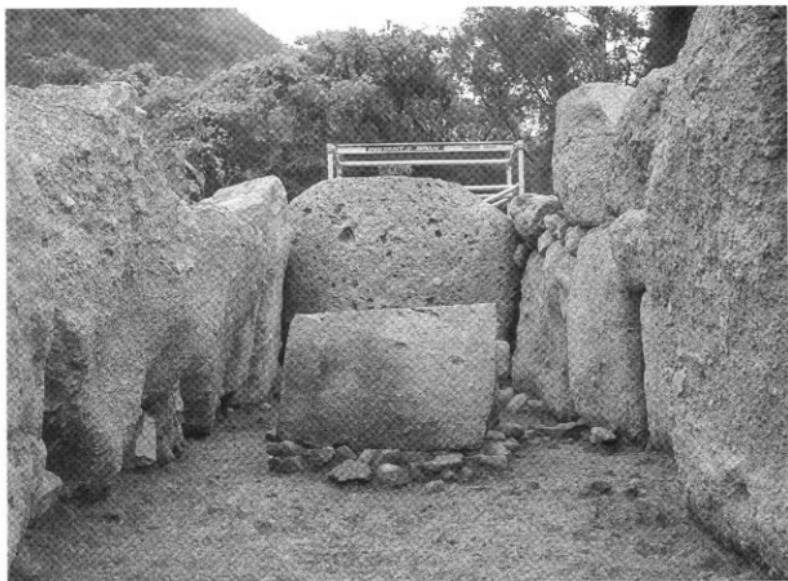


4. 右袖部 馬具出土状況（南から）

PL.50 小畠 7号墳



前庭部（東から）



1. 家形石棺（南東から）



2. 棺身縄掛突起（右側・北西から）



3. 棺身縄掛突起（左側・北西から）

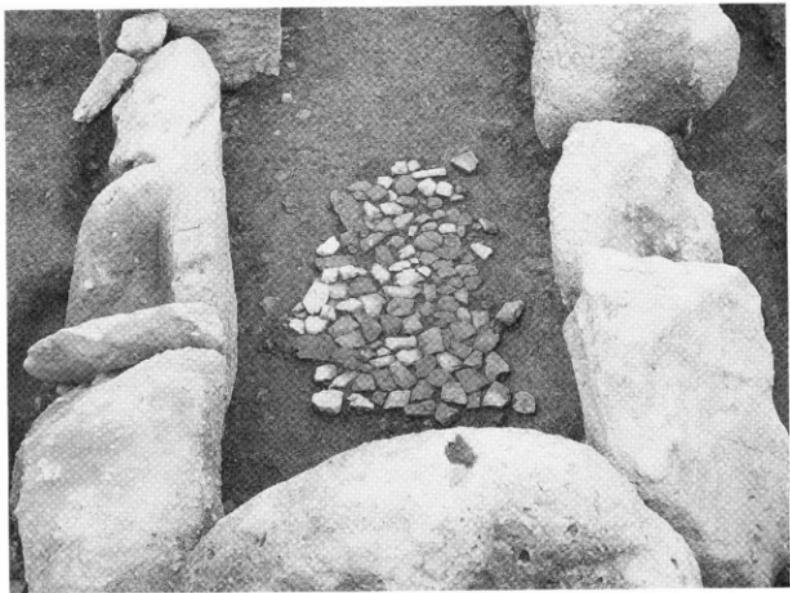
PL.52 小畠 7号墳



家形石棺 配置状況（南東から）

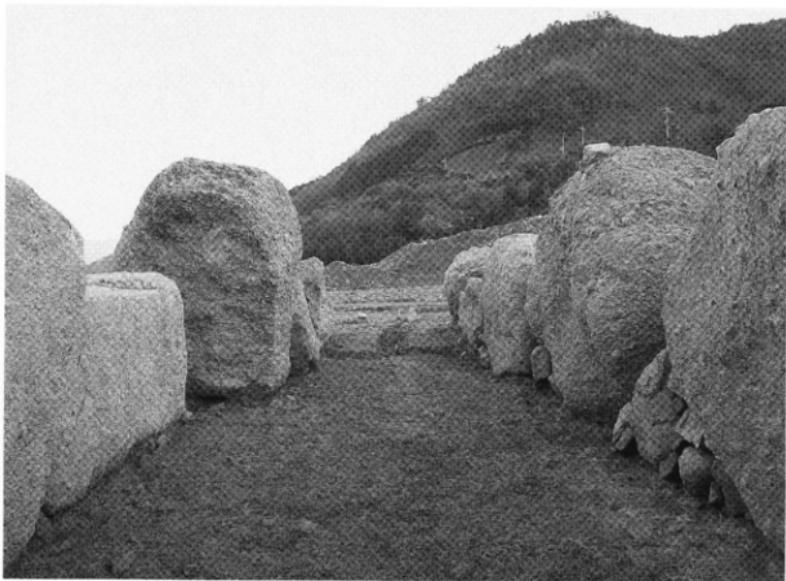


1. 石棺下櫛床 検出状況（北西から）

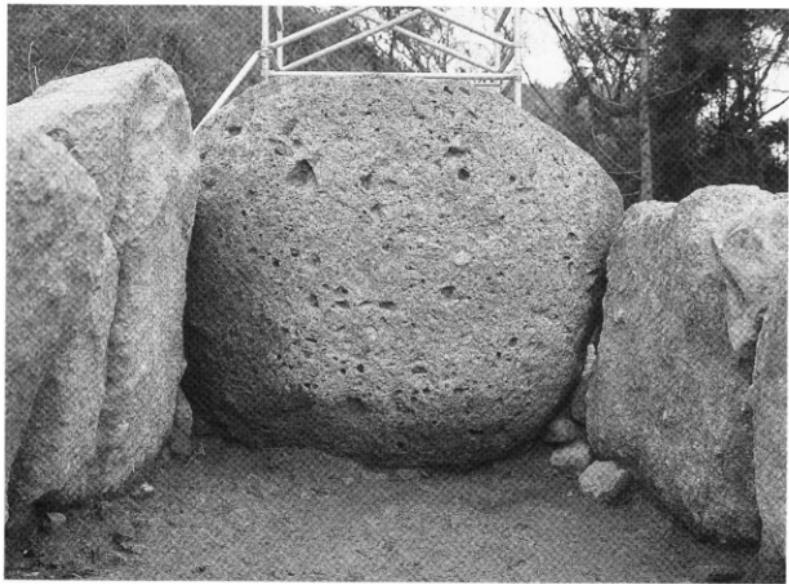


2. 石棺下櫛床（北西から）

PL.54 小畠 7号墳



1. 石室玄門（北西から）



2. 石室奥壁（南東から）



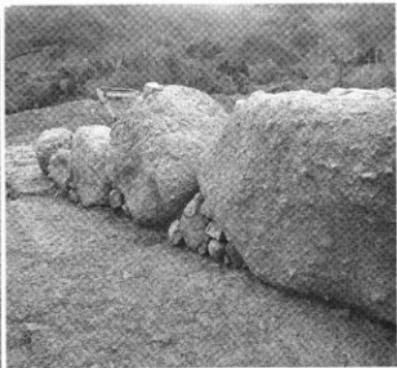
1. 羨道 左側壁（東から）



2. 羨道 右側壁（南から）



3. 玄室 右側壁（西から）



4. 玄室 左側壁（北から）



5. 玄室左奥（東から）



6. 玄室右奥（南から）

PL.56 小畠 7号墳



1. 石室と周溝（南東から）



2. 石室掘形（南東から）



7号墳丘下検出 SK3・4・5・6（南から）

PL.58 小畠古墳群



1. SK 1 遺物出土状況（北東から）



2. 5号墳北東側 ピット群（東から）



1. SX 1 土層断面（南東から）



2. SX 1 切石検出（北西から）

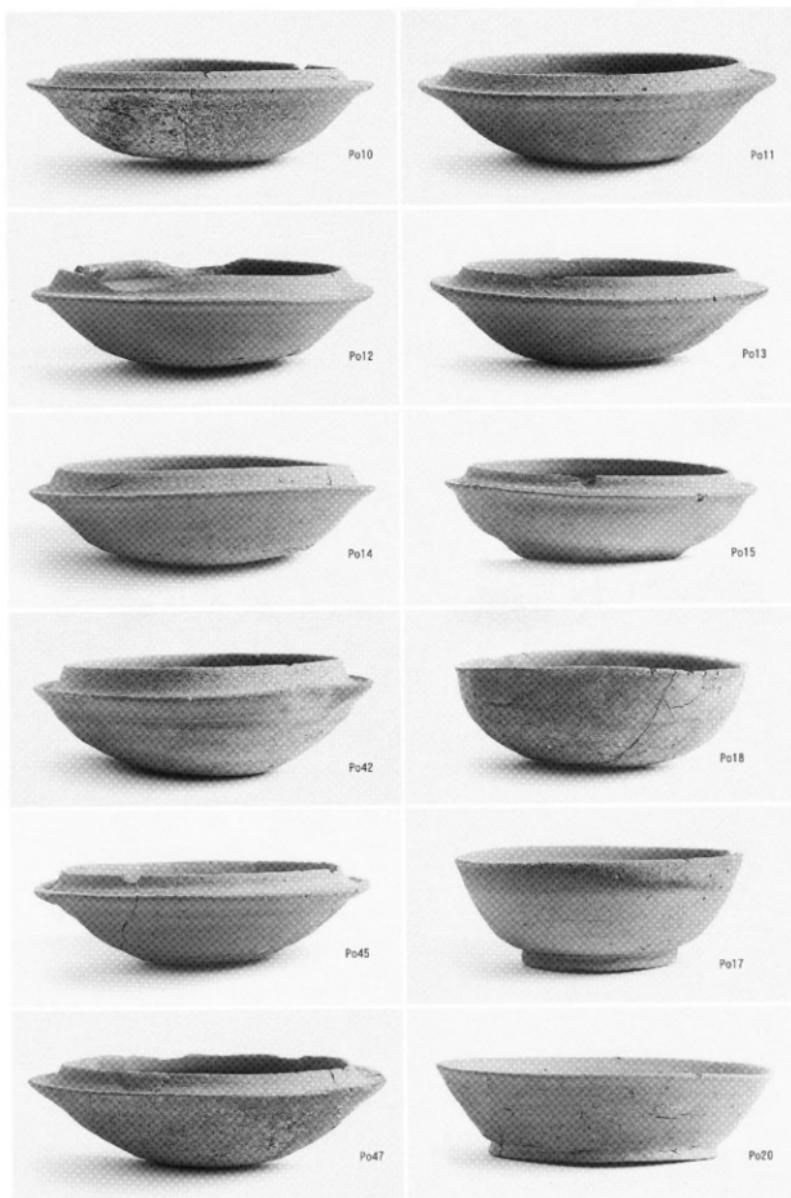
## 図版（遺物篇）



PL.60 小烟3号填

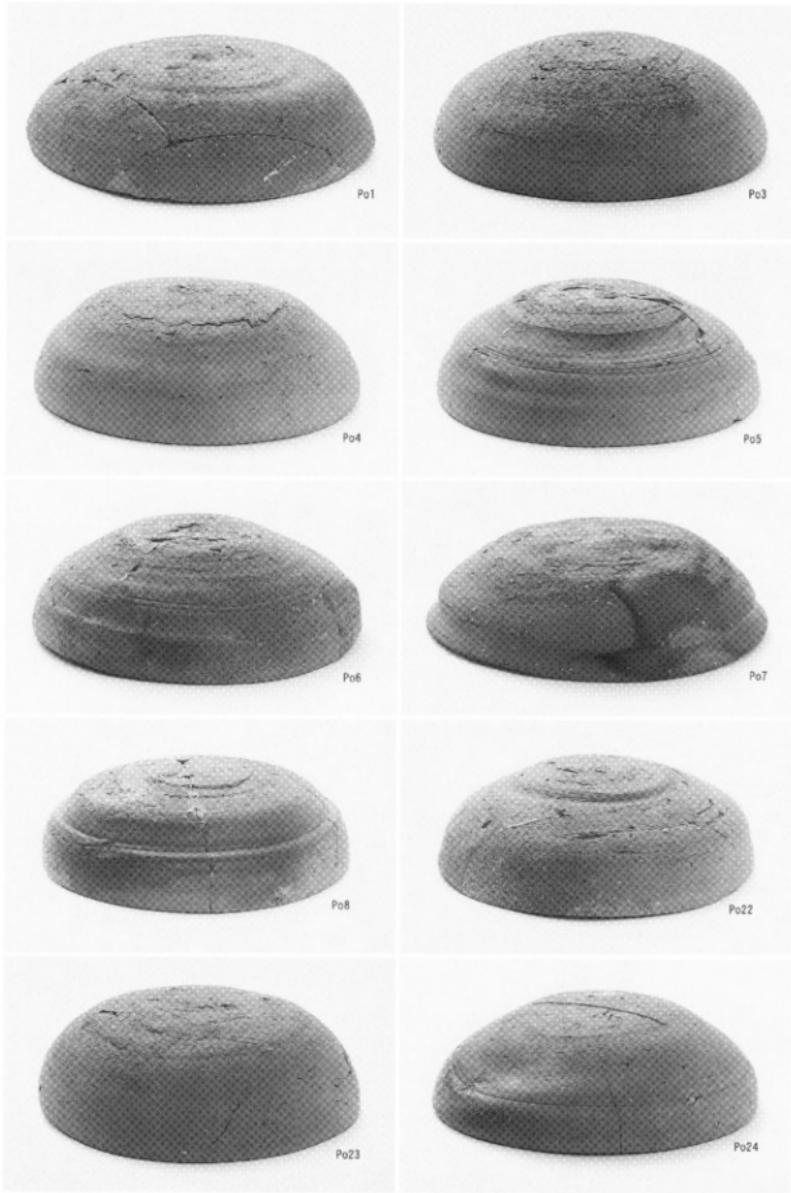


3号填玄室内出土土器



3号填出土土器

PL.62 小畠 3号墳



3号墳出土土器



3号填出土土器

PL.64 小烟 3号填



3号填出土土器

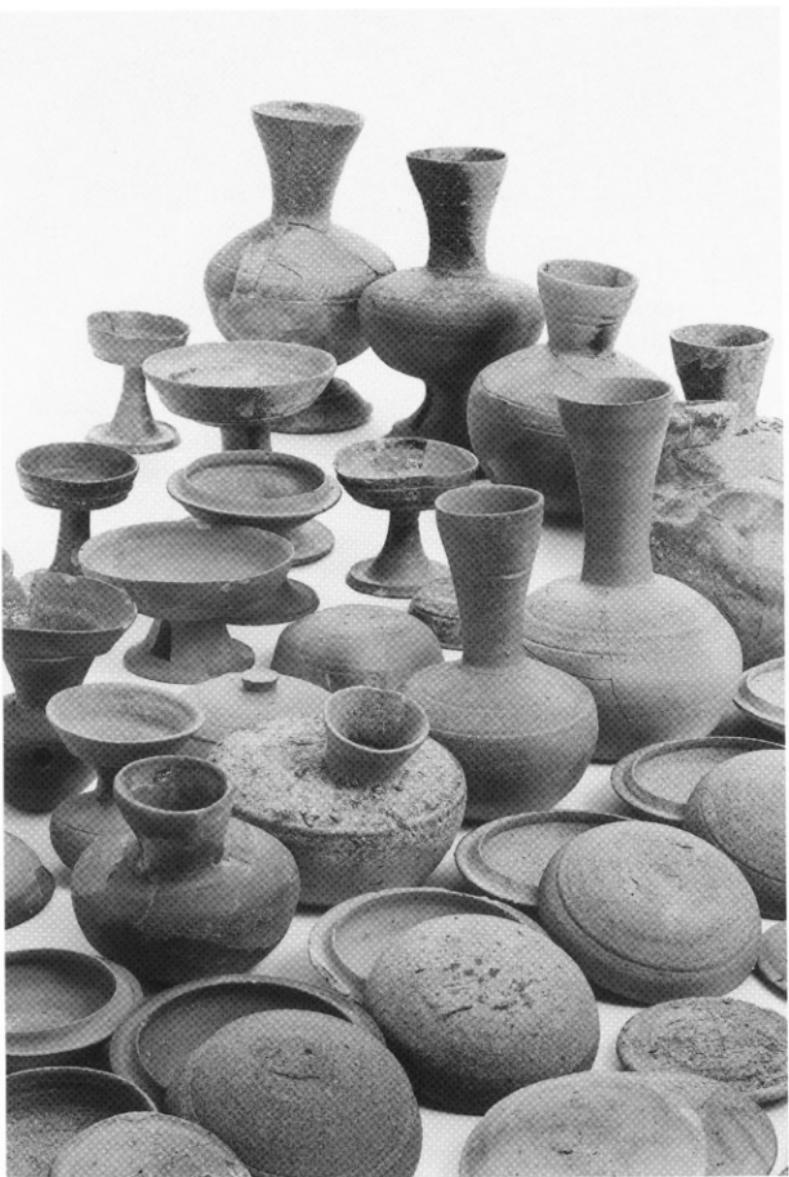


3号墳羨道部出土土器

PL.66 小烟 3号填

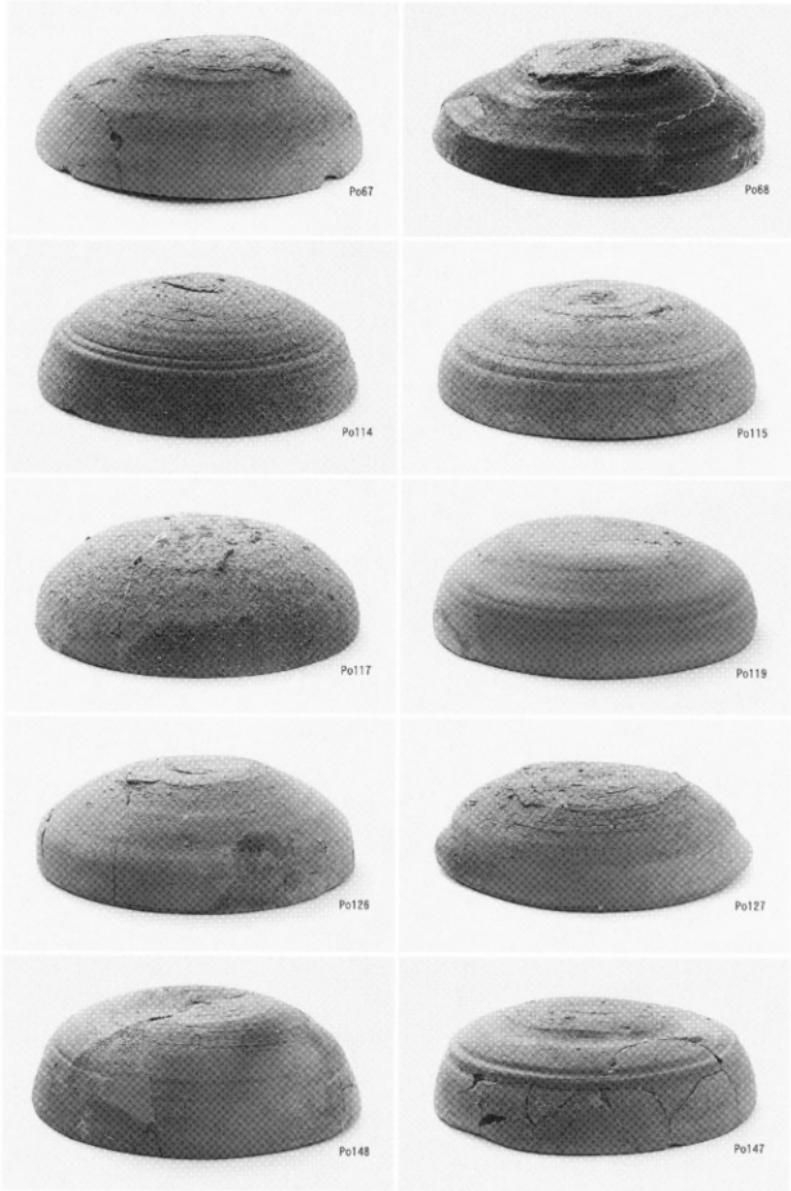


3号填出土土器



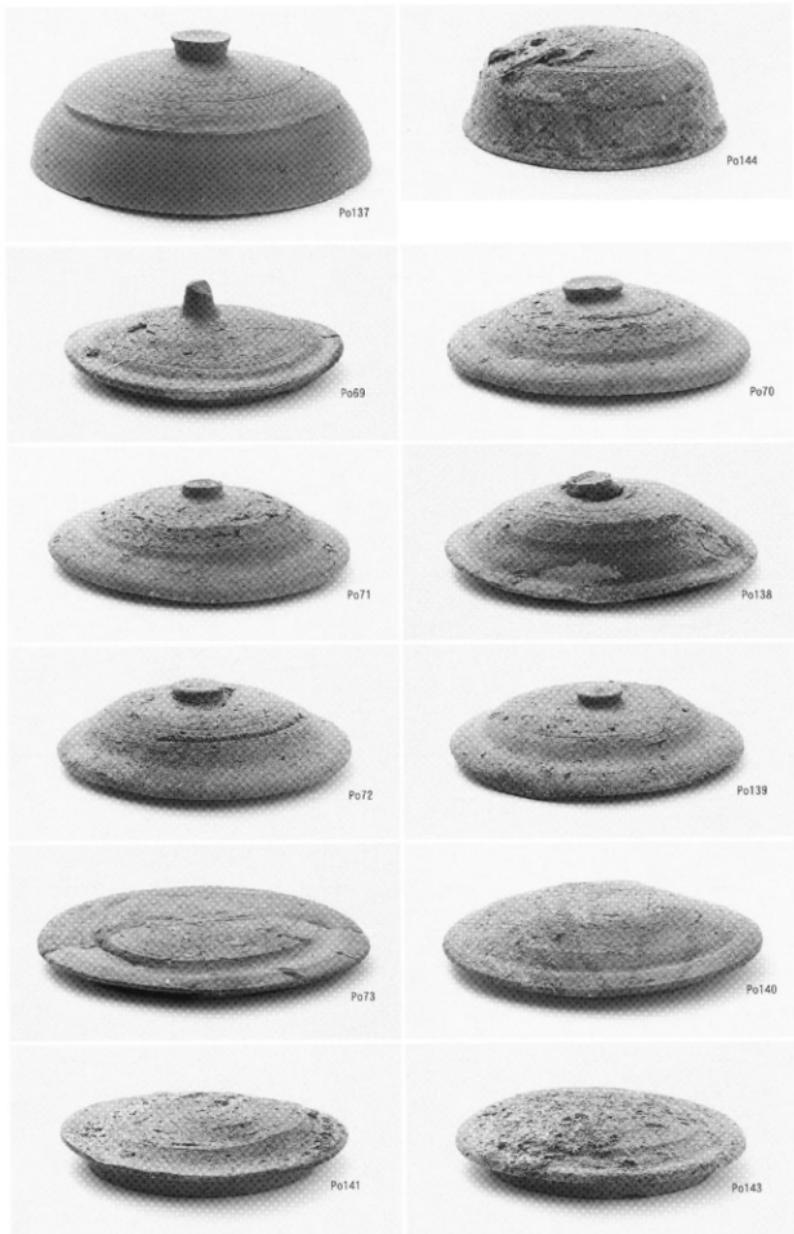
4号填出土土器

PL.68 小烟4号填



4号填出土土器

小烟4号填 PL.69

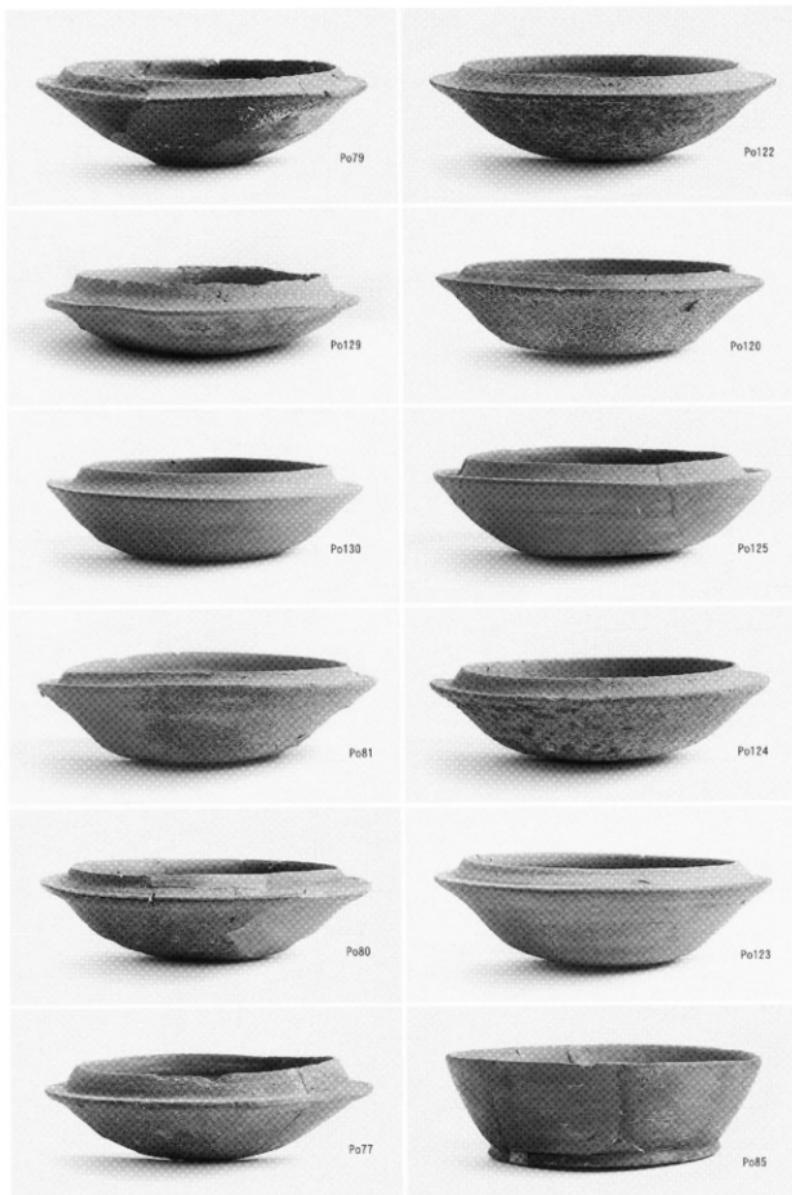


4号填石室内出土土器

PL.70 小烟 4 号填



4号填盖道部出土土器



4 号填出土土器

PL.72 小烟 4 号填



4号填出土土器



Po82



Po133



Po89



Po134



Po132

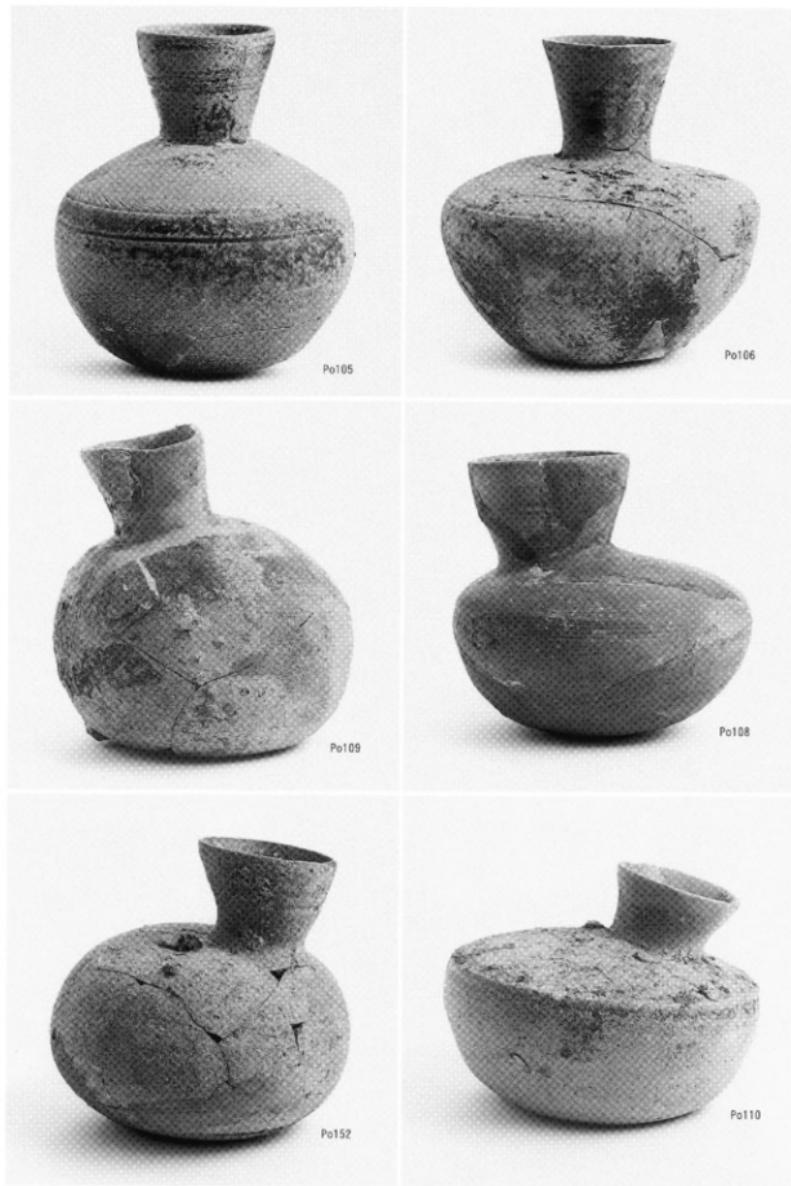


Po131



Po91

PL.74 小烟 4 号填



4号填出土土器



4号墳玄門部出土土器

PL.76 小烟4号填

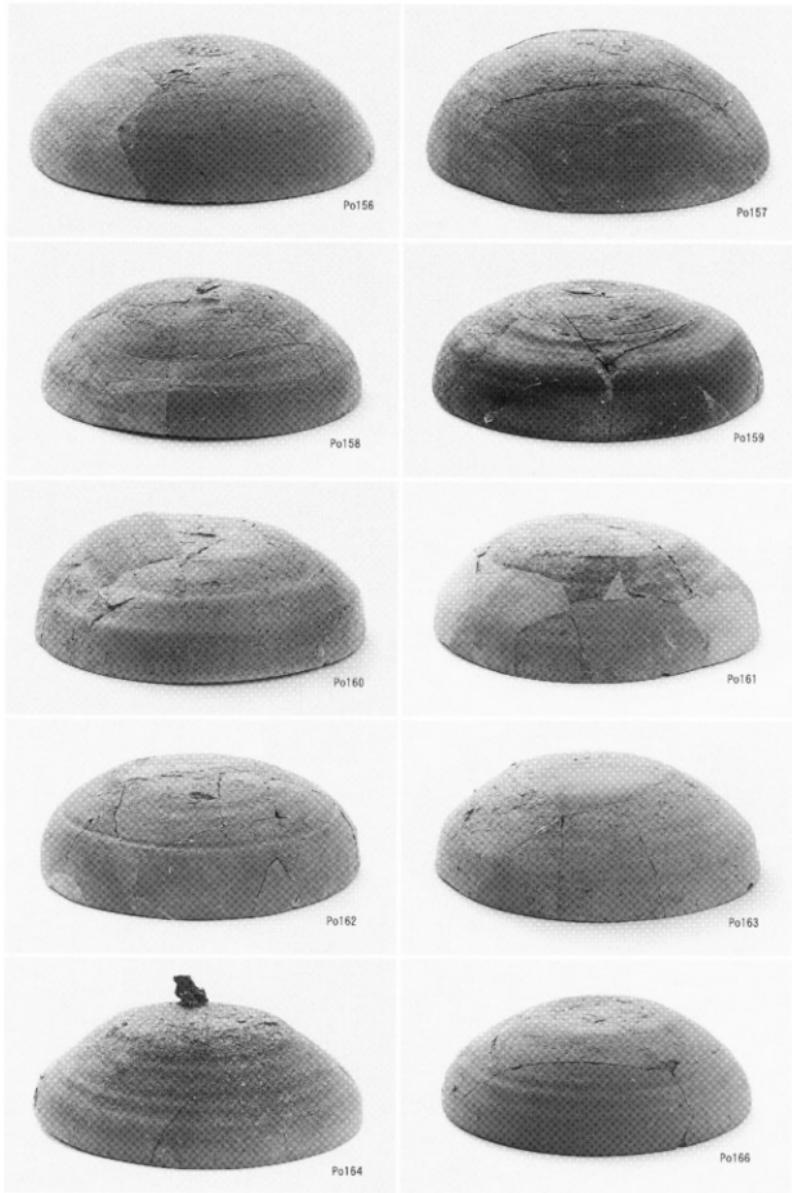


4号填石室内出土土器



4号填石室内出土土器

PL.78 小烟 6 号填

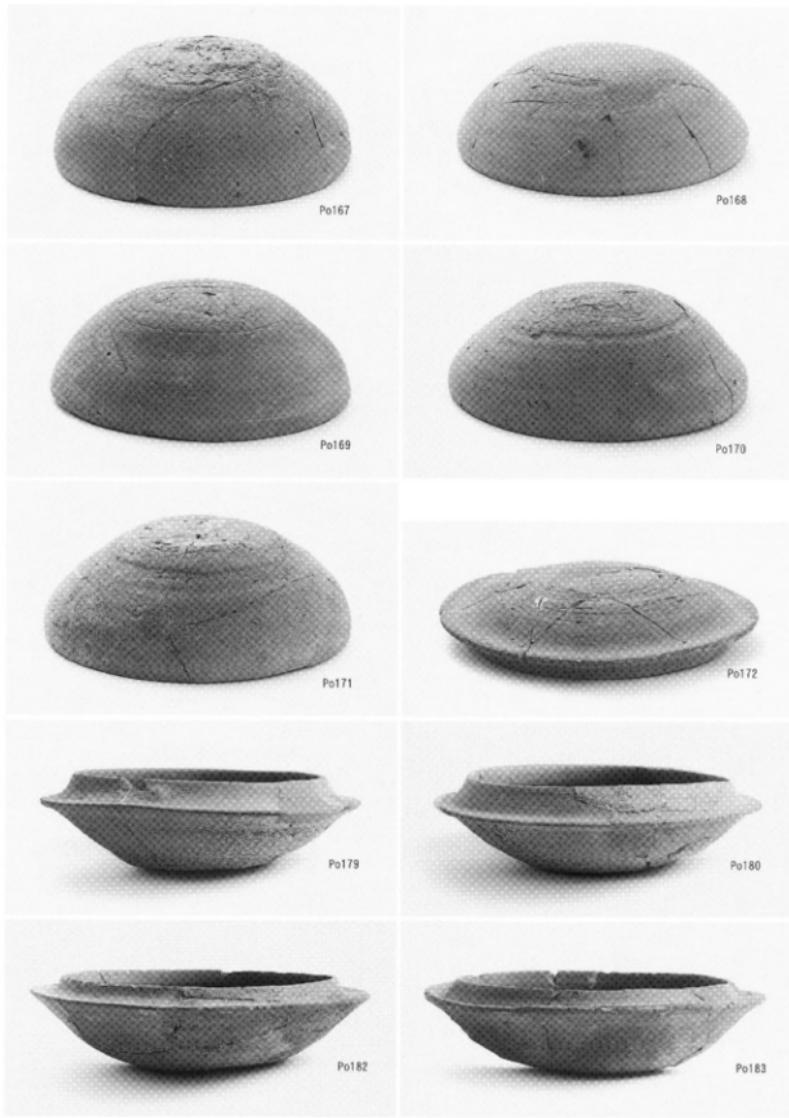


6号填石室内出土土器



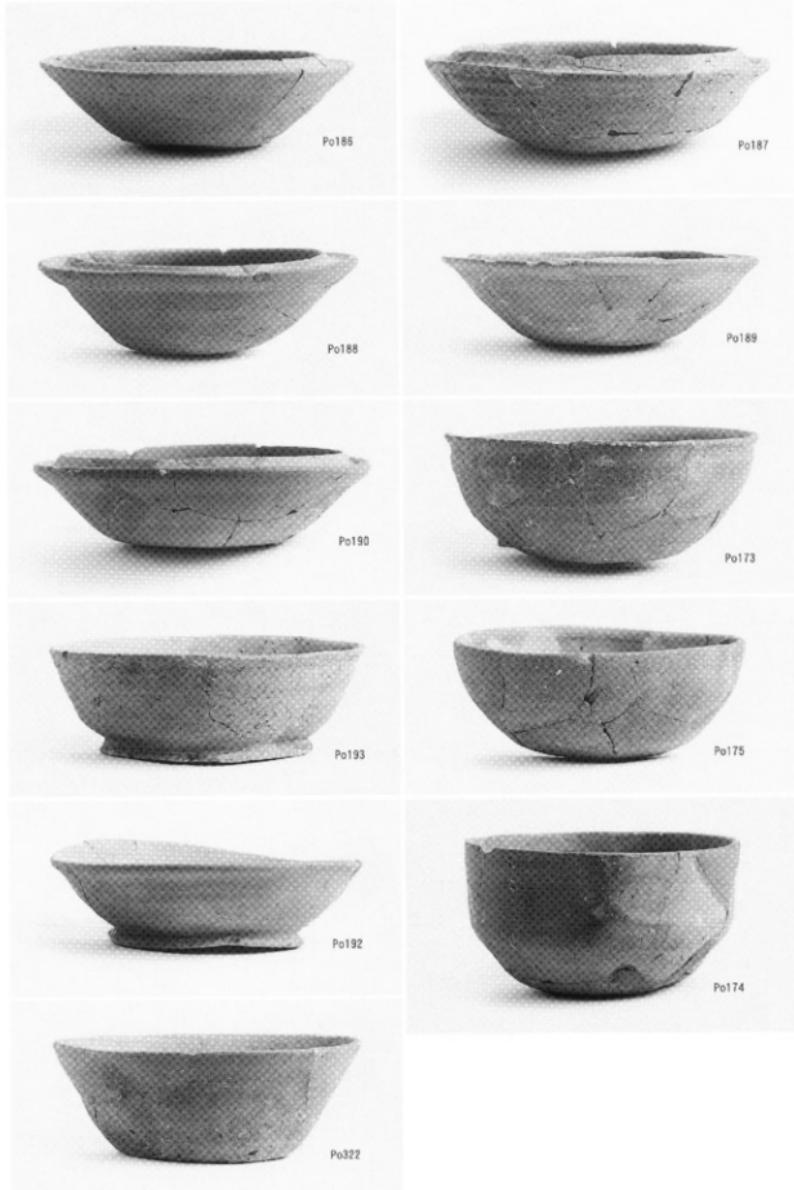
6号填出土土器

PL.80 小烟 6 号填



6号填石室内出土土器

小烟 6 号填 PL.81



6 号填石室内出土土器

PL.82 小烟 6 号填

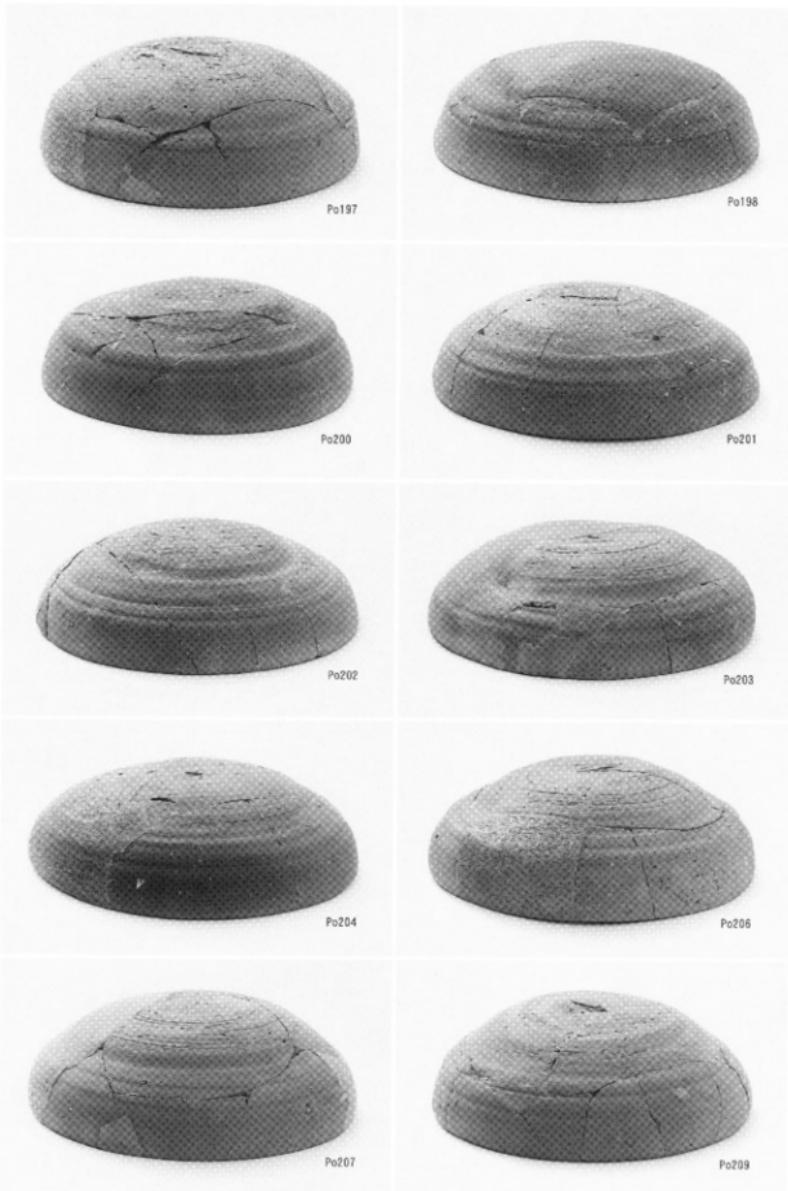


6号填出土土器



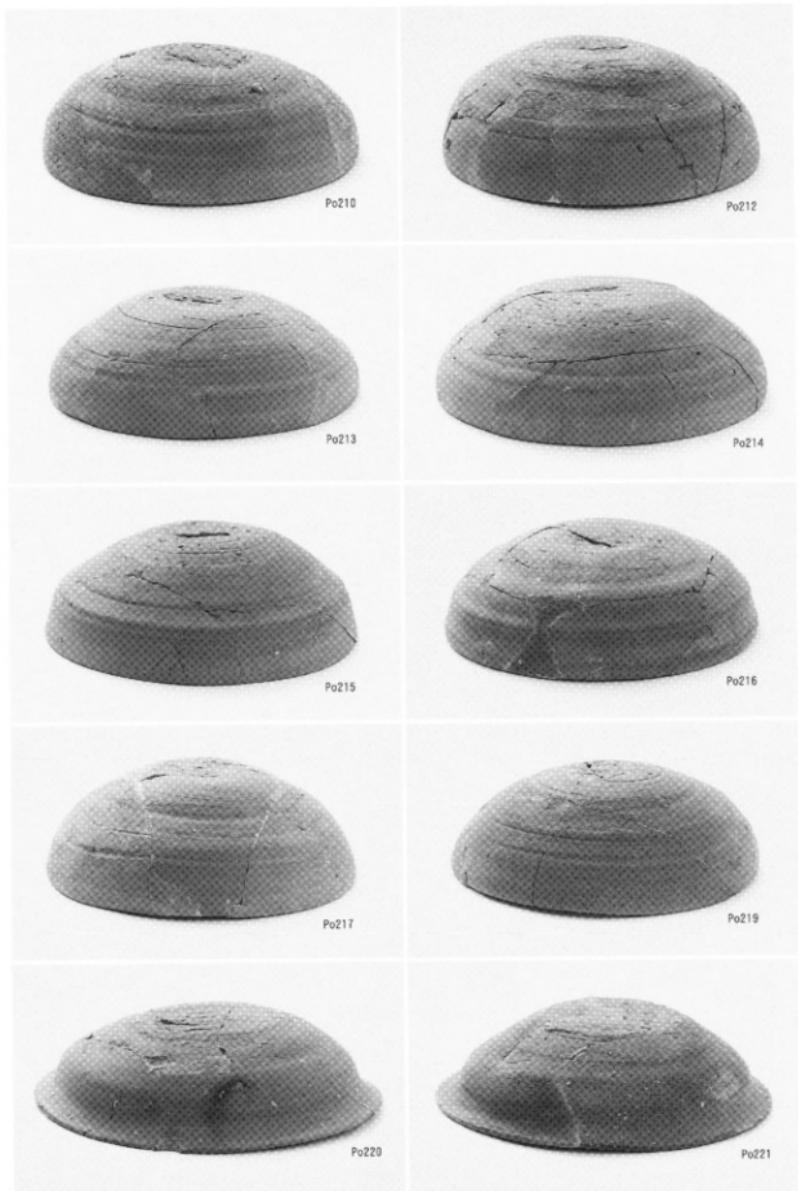
5号填出土土器

PL.84 小烟5号填



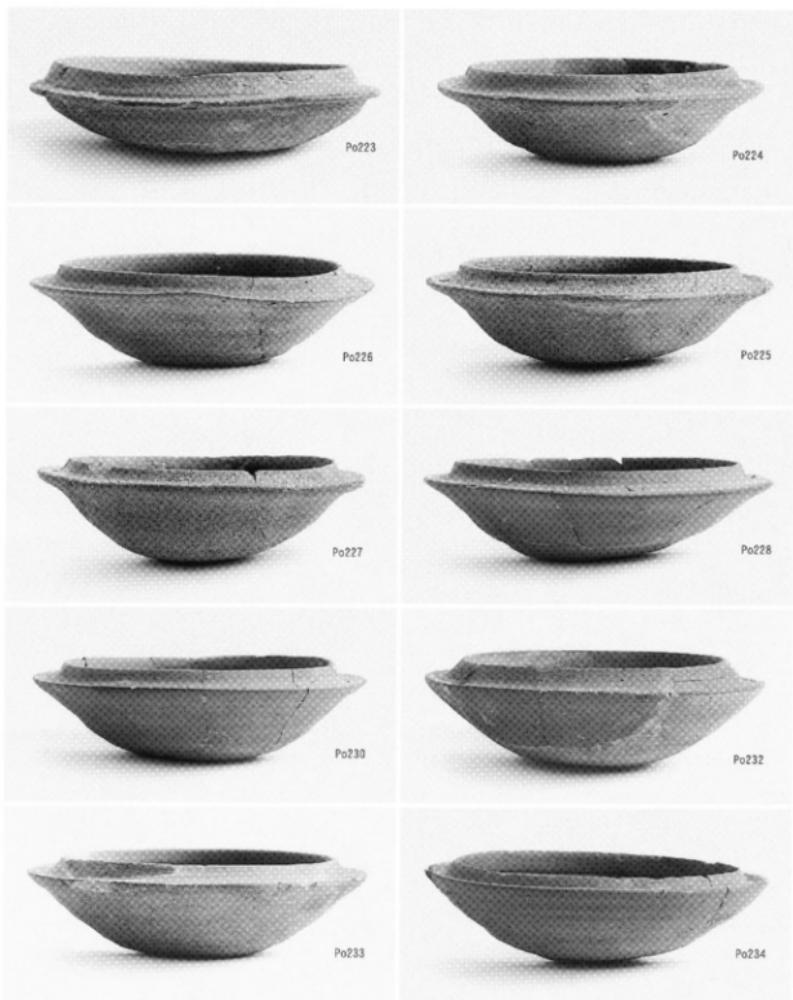
5号填石室内出土土器

小烟 5 号填 PL.85



5号填石室内出土土器

PL.86 小烟5号填



5号填石室内出土土器

小烟 5 号填 PL.87



5 号填出土土器

PL.88 小烟 7号填



7号填出土土器



Po257



Po258



Po259



Po260



Po261



Po262



Po263



Po274



Po275



Po276



Po277

PL.90 小烟7号填



7号填出土土器

小烟 7 号墳 PL.91



Po264



Po265



Po266



Po279



Po268



Po269

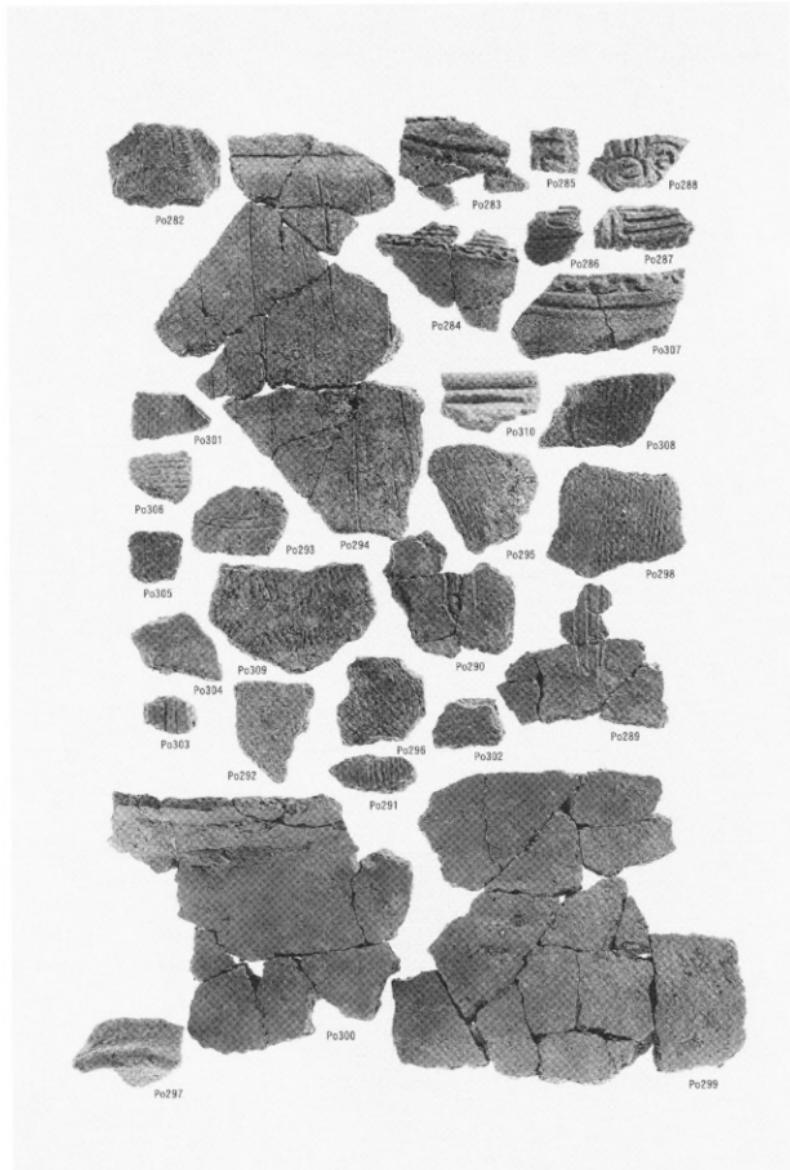
7 号墳出土土器

PL.92 小烟 7号填



7号填出土土器



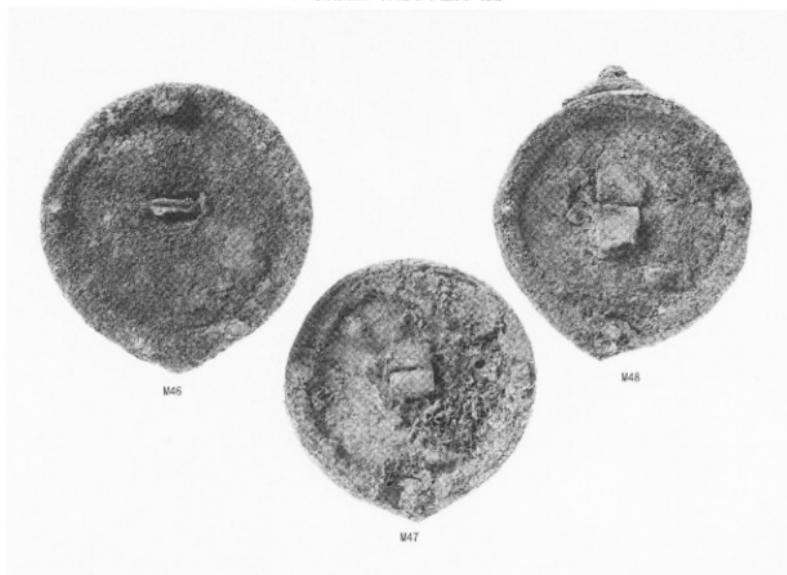


绳文土器

PL.94 小畠 4号墳



4号墳出土 障泥吊り金具（表）



4号墳出土 障泥吊り金具（裏）

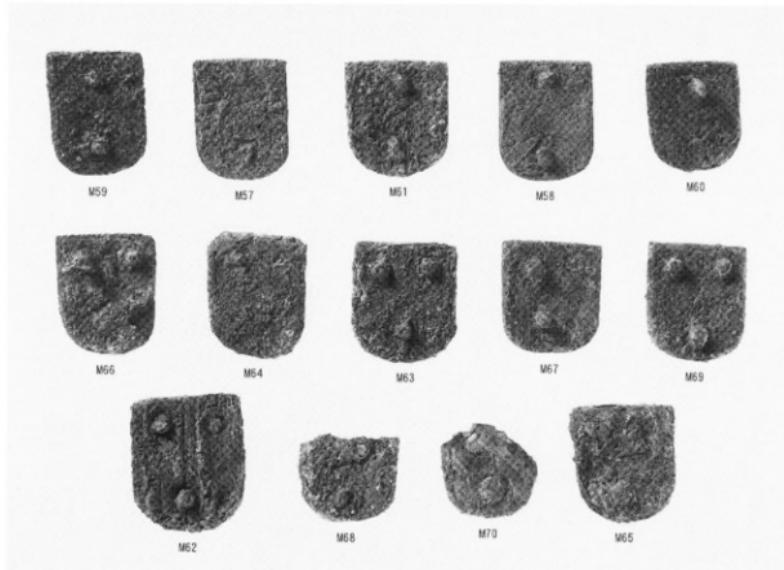


3号填出土 瓷（表）

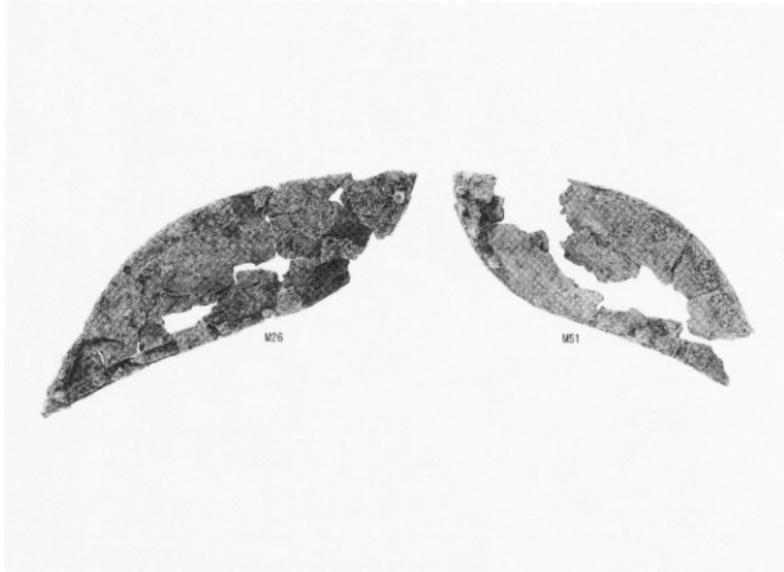


3号填出土 瓷（裏）

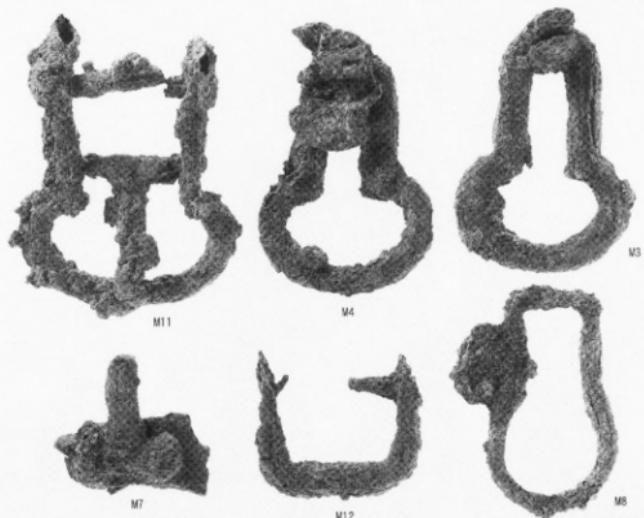
PL.96 小烟 4·6 号墳



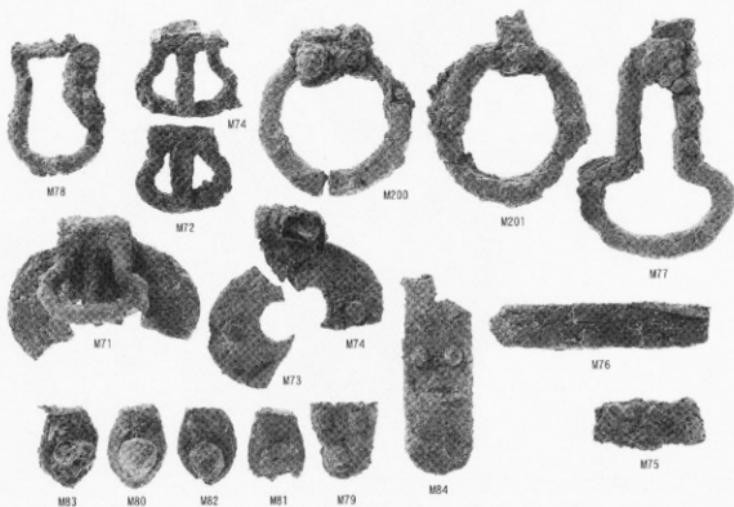
6号墳出土 革金具（裏）



4号墳出土 銅金具（裏）



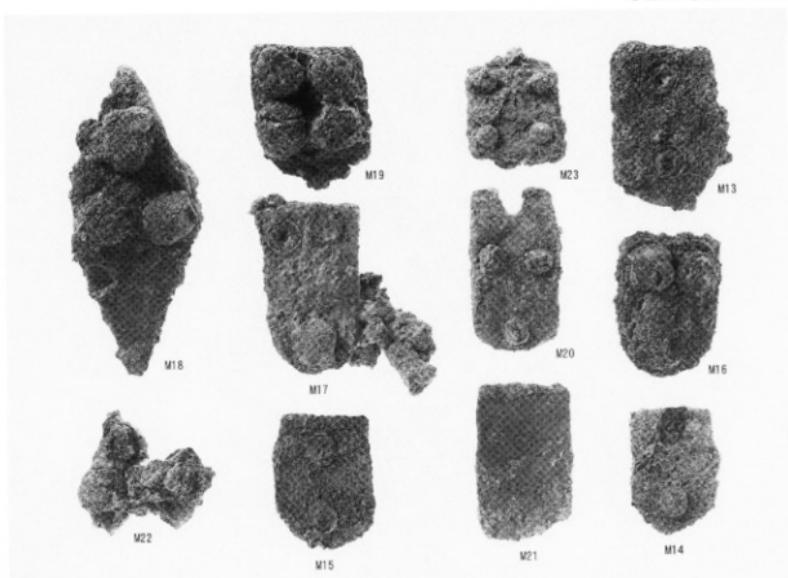
3号墳出土 錫金具・鉸具類



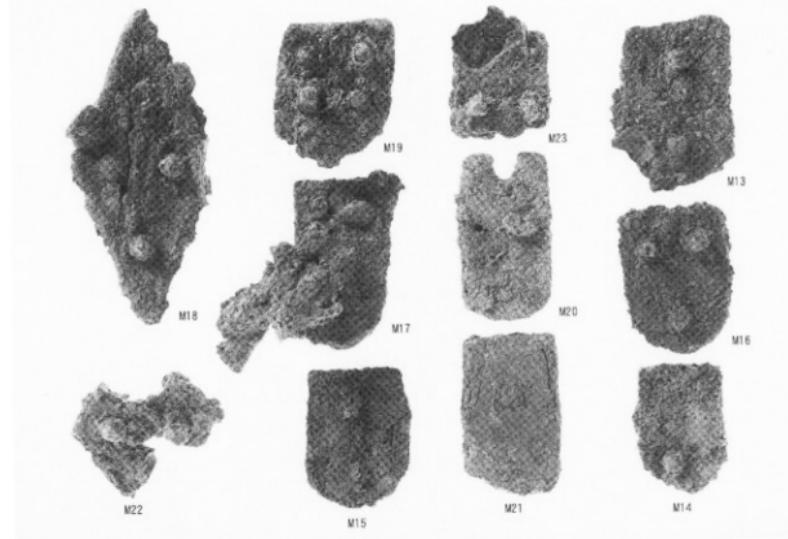
5号墳出土 馬具・棺金具



3号填出土 带、纹具，棺金具

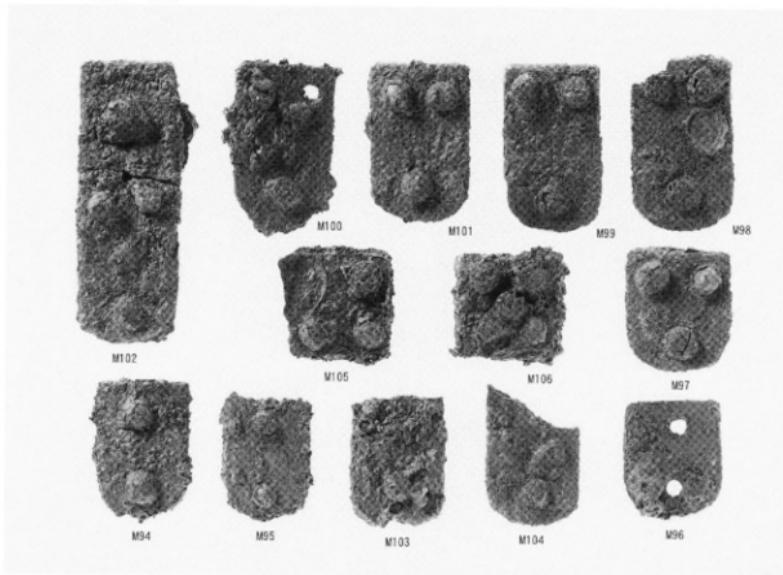


3号填出土 革金具 (表)

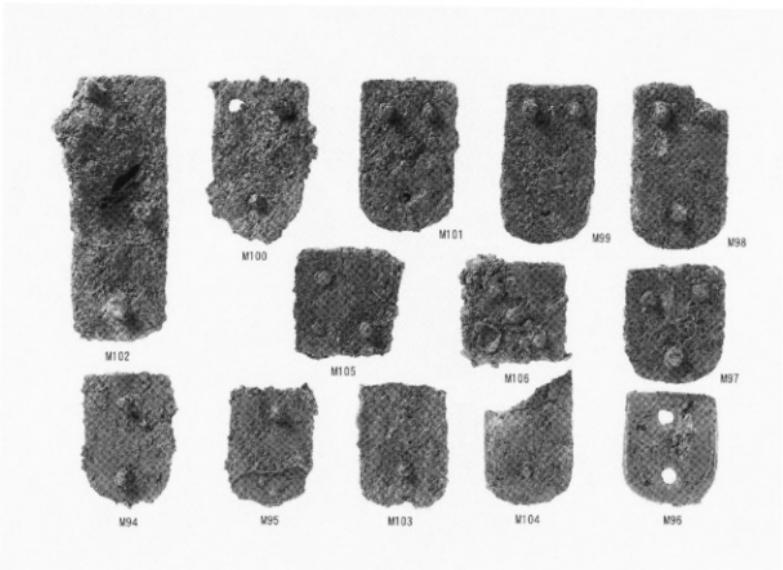


3号填出土 革金具 (裏)

PL.100 小烟 7号填



7号填出土 革金具 (表)

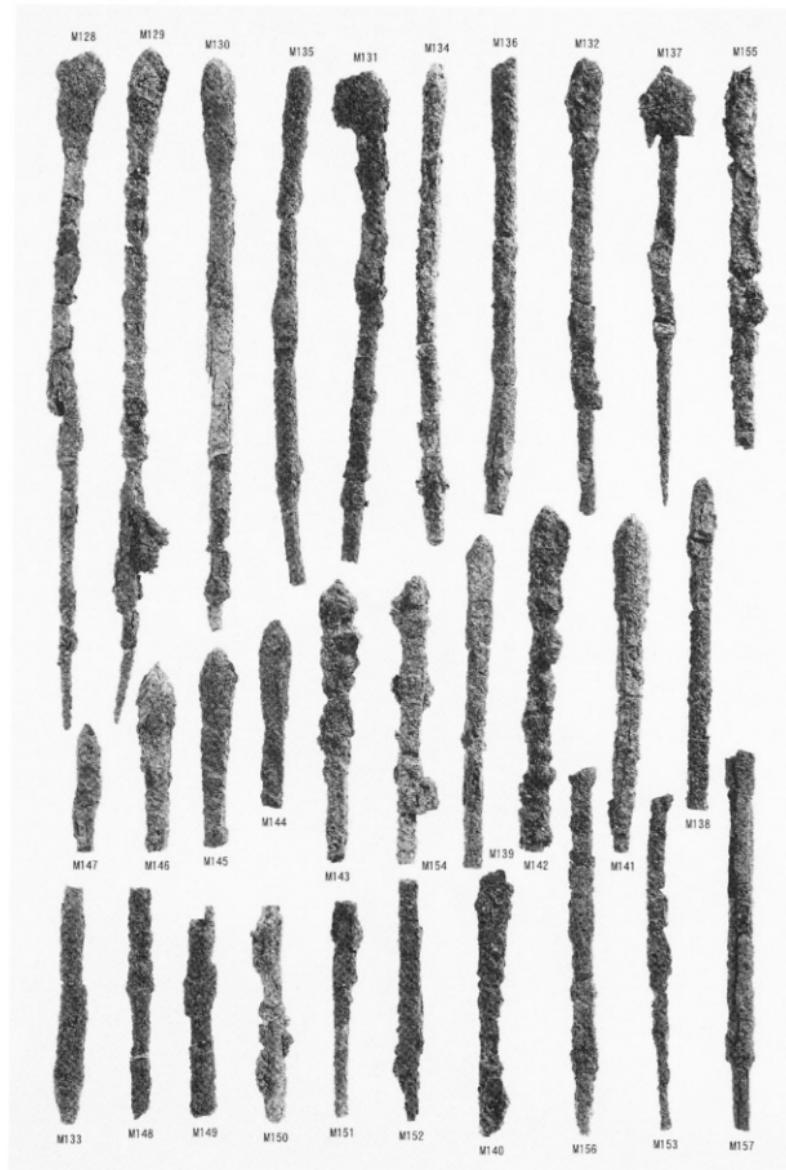


7号填出土 革金具 (裏)

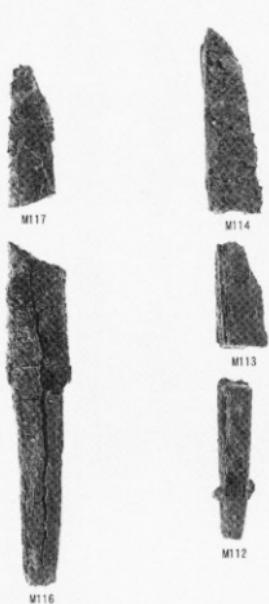


7 号墳出土 馬具

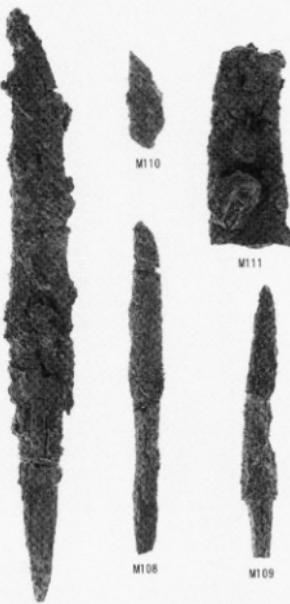
PL.102 小畠 3号墳



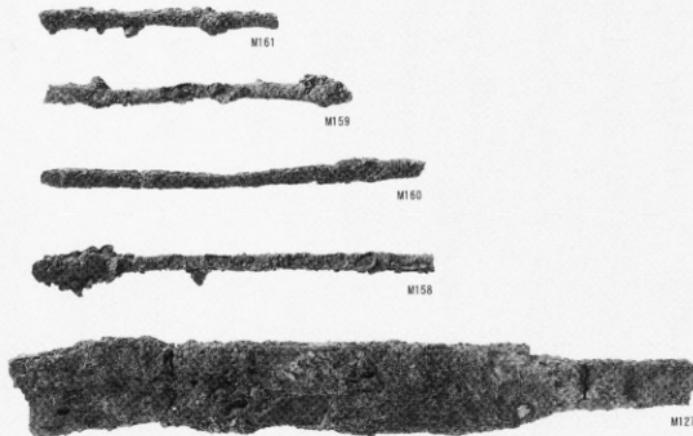
3号墳出土 鉄鎗



4号墳出土 刀子

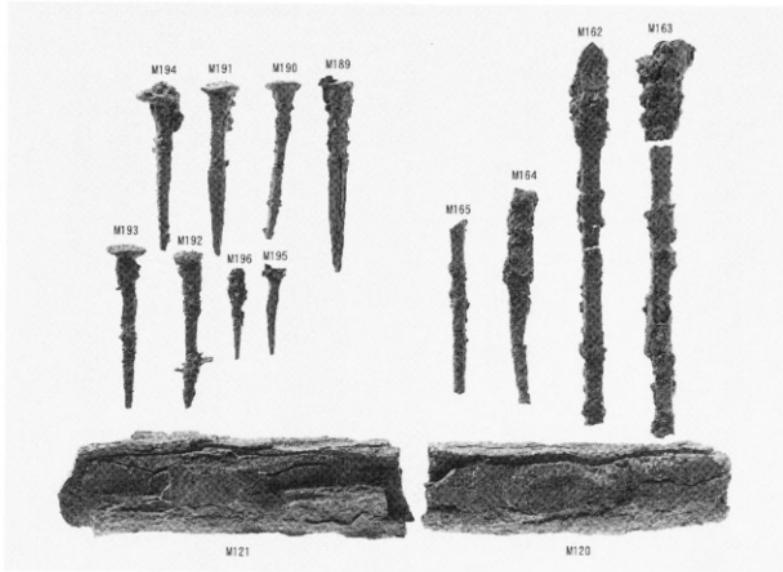


3号墳出土 刀子その他

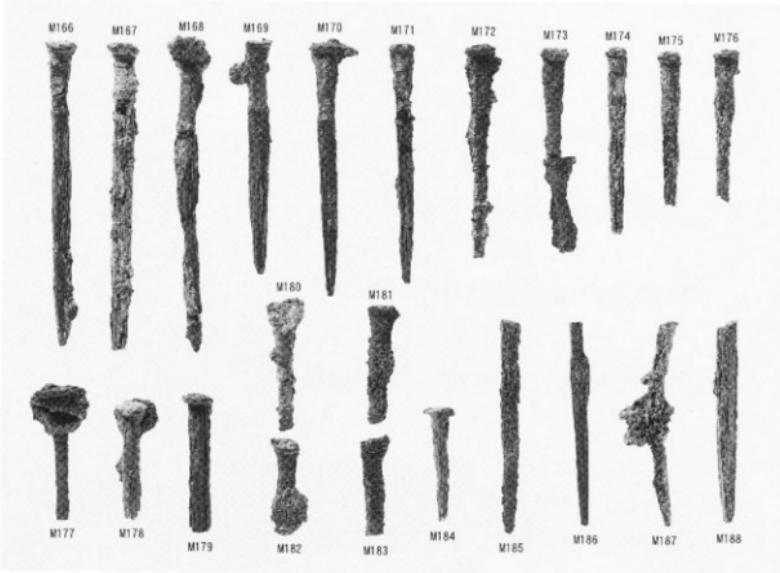


6号墳出土 鉄鎌・大刀

PL.104 小烟 3・7号墳



7号墳出土 鉄釘・鉄鎖・大刀



3号墳出土 鉄釘

## 報告書抄録

|        |  |
|--------|--|
| ふりがな   | こばたけこふんぐん                                      |
| 書名     | 小畠古墳群  |
| 副書名    | 一般国道9号改築工事(駿馳山バイパス)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書             |
| 巻次     |  |
| シリーズ名  | 鳥取県教育文化財団調査報告書                                 |
| シリーズ番号 | 75   |
| 編集者名   | 家原英詞 中村康子 佐藤謙 松本美佐子                            |
| 編集機関   | 財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター                     |
| 所在地    | 〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260番地 TEL (0857) 27-6711 |
| 発行年月日  | 西暦2002(平成14)年3月29日                             |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地         | コード        |           | 北緯                               | 東経                 | 調査期間                      | 調査面積                | 調査原因            |
|---------------|---------------------|------------|-----------|----------------------------------|--------------------|---------------------------|---------------------|-----------------|
|               |                     | 市町村        | 遺跡番号      |                                  |                    |                           |                     |                 |
| 小畠古墳群         | 鳥取県岩美郡<br>岩美町大谷字小平野 | 31302      | 1-4 (3号墳) | 35度<br>33分<br>54秒                | 134度<br>17分<br>45秒 | 20000605<br>~<br>20020115 | 8,204m <sup>2</sup> | 道路改築工事に<br>伴う調査 |
|               |                     |            | 1-5 (4号墳) |                                  |                    |                           |                     |                 |
|               |                     |            | 1-6 (5号墳) |                                  |                    |                           |                     |                 |
|               |                     |            | 1-7 (6号墳) |                                  |                    |                           |                     |                 |
|               |                     |            | 1-8 (7号墳) |                                  |                    |                           |                     |                 |
| 所収遺跡名         | 種別                  | 主な時代       | 主な遺構      |                                  |                    | 主な遺物                      |                     | 特記事項            |
| 小畠古墳群         | 古墳<br>集落跡           | 古墳時代<br>後期 | 横穴式石室 5   | 家形石棺、須恵器、土師器、馬具、鐵刀、鐵鎌、刀子、耳環、玉類、釘 |                    | 外護列石を伴う<br>方墳             |                     |                 |
|               |                     | 縄文時代<br>中期 | 上坑 9      | 縄文土器、石器                          |                    | 3基の家形石棺<br>金銅装・銀装の<br>馬具  |                     |                 |
|               |                     | 中・近世       | ピット 198   | 鏡、白磁、陶磁器、銅錢                      |                    | 石室を近世墓に<br>使用             |                     |                 |

鳥取県教育文化財団調査報告書 75

一般国道9号改築工事（駒馳山バイパス）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書  
鳥取県岩美郡岩美町

**小畠古墳群**

発行 2002年3月29日

編集 財団法人鳥取県教育文化財団

鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 岩美郡国府町宮下1260

電話 (0857) 27-6711

発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団

印刷 総合印刷出版株式会社